T2R2 東京工業大学リサーチリポジトリ
Tokyo Tech Research Repository

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	現代日本の住宅作品における構成の修辞に関する研究
Title(English)	
著者(和文)	塚本由晴
Author(English)	YOSHIHARU TSUKAMOTO
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第3220号, 授与年月日:1996年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:
Citation(English)	Degree:Doctor of Engineering, Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第3220号, Conferred date:1996/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:
学位種別(和文)	博士論文
Type(English)	Doctoral Thesis

Powered by T2R2 (Tokyo Institute Research Repository)

論文題目：

現代日本の住宅作品における構成の修辞に関する研究

指導教官：坂本一成　教授
提出者　：塚本由晴

まえがき

坂本研究室で建築の意匠について勉強するうちに、「建築の形式」という言葉が気になりはじめたのですが、それが何を指すのかはいつも漠然としていて自分でも良くわかりませんでした。そこでとにかくその言葉の意味を確かめるように、色々な人に何度も建築の形式議論を吹っかけていました。議論は建築に限らず、時には映画や音楽や美術などにも広がりましたが、どのジャンルにおいても形式から自由になるということが、非常に現代的な表現であるという実感だけはありました。従って住宅作品における建築の形式を実体の構成の水準で位置付けた修士論文は、自分の意に反して建築を特定の形式に押し込める作業であるように思えました。しかし、この修士論文をまとめることによって、漠然と形式と呼んでいたものは表現の形式であり、特に建築の空間の表現においては実体の構成上の修辞がその方法を規定すると考えるようになりました。それ以来空間の表現方法を構造的に把握することによって、建築の構成形式の面白さや可能性を引き出せないかという思いで、研究においても方法的な改良を加え、構成単位を設定することによって捉えられる範囲を一つの区切りとしてまとめたのがこの論文です。従ってこの論文は、建築の空間の表現において構成単位を設定するという近代主義的な方法の可能性と限界を同時に示すものでありますが、ここでの成果がこれからの建築の空間に対する探究のヒントや出発点を与えるものになれば幸いです。

論文をまとめるにあたり多くの方々の御指導、御助力、御協力をいただきました。これらの方々に心から感謝の意を表します。
本論文をまとめるようお勧めくださった恩師坂本一成先生には、研究テーマの構想から本論の展開に至るまで多くの御助言と御指導をいただきました。本論文の前提となる建築の「構成」や「形式」あるいは「修辞」という概念は、先生が建築家として発表される建築作品や、

発言の多くに立脚しているものです。また坂本研究室で実際の建築の設計に携わることで得られた経験は、実体的な空間に即した建築の構成論を進める上で重要な判断基準を与えるものでありました。同先生の多大な御力添えに心から感謝いたします。

さらに坂本研究室の多くの諸先輩後輩の方々にもご協力をいただきました。特に岩岡竜夫氏と奥山信一氏には、論文の内容だけでなく、そのまとめ方から書類の書き方といったところまで、先輩として幾度となく貴重な御意見、御助言をいただきました。また本論での具体的な内容は、坂本研究室の卒業生であられる木島千嘉、蜂屋景二、奥矢恵、繁昌朗の各氏による修士論文あるいは卒業論文に多くを負うものです。これらの方々に深く感謝の意を表します。

最後になりましたが、公私にわたり惜しみない御意見、御助力および励ましの言葉を下さった貝島桃代氏に、心から感謝いたします。

平成8年3月　　塚本由晴

論文目次

第１章	序論	1
第１節	本論の目的と主旨	2
第２節	従来の研究との比較	4
第３節	研究の方法と資料	6
第４節	論文の構成及び概要	8
第２章	空間の分節と接続	14
第１節	本章の目的と概要	15
第２節	「室」の設定と分析方法	16
第３節	「室」の組合せと接続	19
第４節	「室」の分節と接続による住宅作品の構成類型と構成的修辞	21
第５節	構成的修辞の重なりによる構成形式の構造	24
第６節	小結	26
第３章	外部空間の分節と統合	34
第１節	本章の目的と概要	35
第２節	「建築化された外部」の設定と分析方法	36
２－１	「建築化された外部」	36
２－２	「建築化された外部」の分節による構成的性格	37
２－３	「建築化された外部」の統合による構成的性格	39
第３節	「建築化された外部」の分節と統合	41
第４節	「建築化された外部」による住宅作品の構成類型	43
４－１	『緩衝型』と『延長型』	43
４－２	『緩衝型』と『延長型』の強調・複合・融合	44
４－３	「建築化された外部」における《対比性》と《同質性》	46
第５節	小結	48
第４章	空間の分割	56
第１節	本章の目的と概要	57
第２節	架構表現と空間の分割	59
２－１	架構表現の種類	60
２－２	空間の分割：パタンとその性格	60
２－３	分割の階層	62
第３節	空間の分割による住宅作品の構成類型	63
３－１	構成類型の抽出	63
３－２	空間の分割による構成的修辞	64
第４節	小結	66

第5章　架構表現による構成単位の分節　72
第1節　本章の目的と概要　73
第2節　架構表現による構成単位　75
2－1　架構表現の種類　76
2－2　架構表現の組み合わせによる差異と類似　77
第3節　架構表現による住宅作品の構成形式　80
3－1　構成類型の抽出　80
3－2　架構表現による住宅作品の構成的修辞　82
第4節　小結　86

第6章　架構表現による構成単位の位相関係　93
第1節　本章の目的と概要　94
第2節　構成単位の位相関係　96
2－1　位相関係による構成単位の統合　96
2－2　位相関係の統合パタン　98
第3節　構成単位の位相関係による住宅作品の構成形式　99
3－1　構成類型の抽出　99
3－2　構成単位の位相関係による住宅作品の構成的修辞　100
第4節　小結　104

第7章　構成単位の包含による入れ子の構成　110
第1節　本章の目的と概要　111
第2節　「架構表現による構成単位」の水準における総括的な構成形式　113
2－1　範列的修辞と統辞的修辞の関係による統合の秩序　113
2－2　「入れ子による構成」　117
第3節　「入れ子による構成」の特徴　120
3－1　「架構表現による構成単位」と入れ子　120
3－2　「空間の分割」と入れ子　121
3－3　「室」と入れ子　122
3－4　「建築化された外部」と入れ子　123
3－5　「入れ子による構成」における構成的修辞の重層　124
第4節　小結　125

第8章　結論　133

第１章　序論

第１節　　本論の目的と主旨

第２節　　従来の研究との比較

第３節　　研究の方法と資料

第４節　　論文の構成及び概要

第１節　本論の目的と主旨

本論文は、現代日本の建築家によって設計された戸建ての住宅作品について、その建築としての意匠を空間構成の側面から論じたものである。従来建築の意匠は、建物の内部や外部における部位の様式的な表現に重きを置くものが多かったが、近代主義建築以降は空間構成にその重点を移行させてきたといえる。そのような空間構成についてのこれまでの研究は、主に用途や使用の水準に注目した機能との対応に関する平面構成を中心としたものであった。しかし建築の空間構成は、建築の実体が成立させる何らかの空間単位の立体的な関係であり、規範が失われたといわれる現代の建築においては、この水準での意匠を検討することが重要であると考えられる。空間単位が多様で、その立体的な構成による全体を統合する秩序が表現されやすく、多くの建築家によって多様な意匠を与えられている戸建ての住宅作品は、そのような建築の意匠を捉えるに最も適した領域である。特に第２次世界大戦後の日本においては、急速な経済成長にともない各種用途の建築とともに個人の戸建て住宅も広く建設された。このような住宅作品には、伝統を踏襲したものだけでなく、新たな生活様式や美学的な側面に対応すると見做されるものも数多く見られ、そこでの実験的な試みは日本の現代建築の文化的水準の獲得に大きく寄与している。この住宅作品に見られる空間構成の試みを、生活様式や使われ方との関係や、日本の伝統や風土との関係からではなく、空間構成の内在的な問題に対する提案として位置付けることは、それらの試みに相対的な評価を与えるものと考えられる。本論文はこの点を課題として、住宅作品を実体として成立させる空間単位を「室」、「建築化された外部」、「架構表現による構成単位」の３水準で捉え、各水準において住宅全体の統合に関する構成類型を抽出し、それらを成立させる構成の修辞[1]を明らかにするとともに、現代の住宅作品に見られる構成表現の体系化を目的としている。

このように住宅作品の構成類型を導き、それらを成立させる構成的修辞を明らかにすることは、和風、モダニズム、ポストモダニズム、地域主義、デコンストラクティヴィズムなど、異なるスタイルを持った建築が作られ、現代の建築には規範がないと言われる状況の中で、現代建築の意匠的表現が成立する水準が、要素の属性による表現の水準だけでなく、何らかの属性を持った要素の関係を表現する水準においても成立しているという仮説を検証するものであり、新たな規範を描きうる水準を示すものであると考えられる。

第２節　従来の研究との比較

従来建築の意匠は、建物の内部や外部における部位の様式的な表現に重きを置くものが多かったが、近代主義建築以降は空間構成にその重点を移行させてきたといえる。そのような空間構成についてのこれまでの研究は、外部形態の構成であったり、主に用途や使用の水準に注目した機能との対応に関する平面構成を中心としたものであった。しかし建築の空間構成は、建築の実体が成立させる何らかの空間単位の立体的な関係であり、規範が失われたといわれる現代の建築においては、この水準での意匠を検討することが重要であると考えられる。

住宅の構成的な特徴を捉えるにあたっては、何らかの美学的規範に対応する特定の文化的な意味を持つ建築の形態や、透明性や連続性や均質性といった空間の性格を問題にする場合がある。しかしそれらは必ずしも住宅の全体に関わる表現ではなく、部分的な表現であることが多く、建物実体としては全体に与えられた何らかの秩序の下に成立しているといえる。ここではそうした主たる空間や特定の部位に限定された表現ではなく、それらを成立させている住宅全体を統合する秩序の表現を問題にする。そのために、何らかの空間の単位によって捉えられた住宅の部分と、それが集合した住宅全体との関係から、住宅作品の構成形式を検討する。そのような実体に即した構成単位として、「室」、「建築化された外部」、「架構表現による構成単位」を設定し、各水準において分解された単位を一つの住宅として統合する単位間の関係を定めている。

また、建築作品の構成形式を問題にする場合には、複数の建築家の作家性の違いや特定の建築家の設計思想の変化が問題にされることが多いが、本研究では特定の建築家の作品を分析するのではなく、ほぼ同時代の複数の建築家による多数の住宅作品を並列し、そこに生起する構成形式の差異と類似から構成類型を抽出することによって、空間構成による建築の意匠表現のメカニズムを問題にしている。

本研究ではこれらを課題として、複数の建築家によって設計されたさまざまなスタイルを持った住宅作品を資料とし、建築実体が成立させる何らかの空間を単位として、住宅全体を統合する秩序の表現を問題にする。

これまでになされてきた住宅の空間構成に関する研究のうち、本研究のように複数の異なる建築家による住宅作品を対象とするものは、筆者らの研究[2)]の他には80年代の鉄筋コンクリート造住宅に限った研究[3)]があるが、その他は特定の建築家による住宅作品や国内外の特定の地域の現代的・伝統的な住宅を対象としたものである[4、5、6、7、8)]。これら既往の研究では、平面の動線的な隣接関係や平面・立面を含めた幾何学的な面の比例関係[4)]、外観上分節される形態の配置[3)]、視線の限定による面の分節と連続による領域展開[6)]、などを分析の手段として、構成分析の方法自体の提案や建築の構成の体系化を目的とした構成類型の抽出[4、5、6、9)]あるいは構成分析の結果を生活様式の変化等の社会的な背景と結び付けた論証[7、8)]などがなされている。

第３節　研究の方法と資料

先にも述べたように、本研究では複数の建築家によって設計されたさまざまなスタイルを持った住宅作品を資料とし、建築実体が成立させる何らかの空間を単位として、住宅全体を統合する秩序の表現を問題にしている。

こうした空間単位として、まず居間、個室、廊下、台所といった内部空間の部屋に対応する「室」を空間の単位とする住宅作品の構成形式を検討している。これらの部屋は一般的には使われ方によって区別されるものであるが、ここではそれを大きさの違いや、動線としての機能の違いから建築の空間として定義しなおしている。この住宅の内部空間に限定した検討を行った「室」の水準に続いて、外部の「室」といえる「建築化された外部」を含めた住宅作品の構成形式を検討している。「建築化された外部」とは、建築単体としての住宅の一部として構成材によって規定されているが、外気に接する場所である。それは内部空間にも庭にも属さないあいまいな領域である。しかし、住宅作品の中には、住宅全体を単独の架構システムによって成立させ、その内部に内部空間や外部空間といった区別を作り出すものもあり、内部／外部という具体的な空間の区別とは無関係に成立する抽象的な構成単位が成立する。これらを捉えるために、構成材の表現によってひとつにまとめられた空間のヴォリュームである「架構表現による構成単位」に基づく住宅作品の構成形式を検討している。１つの「架構表現による構成単位」が住宅全体に対応するものの構成形式は、住宅の全体に対応する構成単位内部の床や壁による分割によって検討される。また複数の構成単位による住宅作品の構成形式は、架構表現によって性格が規定された構成単位の組み合わせの水準と、構成単位間の位相関係の水準とで検討される。本論文ではこれらの構成の各水準における構成形式の検討が、各章に対応しており、それらは互いに内容を補うことによって、全体として住宅作品の構成形式を体系化するものである。また「架構表現によ

る構成単位」の位相関係の検討から導かれた「入れ子による構成」と各水準における構成形式の対応を見ることによって、住宅作品の構成形式の体系を横断的に検討している。

そして、多様なスタイルが成立する状況において建築の構成形式を体系化し、建築家による新しい空間的な試みに相対的な評価を与えるという本研究の主旨に即したものとして、戸建ての住宅作品を資料としている。これは、各種建築のなかでは最も小規模のものであり、空間単位の多様性やそれらが一つの住宅として統合される秩序が表現されやすいことや、公共建築などに比べてより多くの建築家によって設計され、実験的な試みがなされてきた領域であるといった特徴が、本研究の主旨に最も適していると考えられるからである。また、その選定にあたっては、現代の建築ジャーナリズムのなかで代表的なものの一つと思われる「新建築」誌において、建築家によって高く評価された[10]住宅作品を分析対象として選んでいる。分析は、雑誌に掲載された写真と各種の説明のための図面によって行った。用途としては先にも述べたように個人の専用住宅[11]を基本にしているが、別荘や一部にアトリエや店舗を有するもので個人の専用住宅と言える程度のものは、若干ではあるが資料に含めた。

第４節　論文の構成及び概要

本論は以下の８章から構成されている。

第１章「序論」では、研究の目的と主旨、従来の研究、研究の資料と方法、および論文の概要について述べている。

第２章「空間の分節と接続」では、内部空間の部屋に対応する「室」の性格を、住宅全体に対する大きさや動線としての機能によって建築的に規定し、これらを単位とする住宅作品の構成形式を検討している。その結果、「室」の組み合わせと動線による「室」の接続から構成類型を導き、それらを成立させる主な構成的修辞として、対比的に大きな「室」、あるいは動線が集中する特定の「室」によって住宅全体を代表させる修辞を明らかにしている。

第３章「外部空間の分節と統合」では、外部の「室」といえる「建築化された外部」を含む住宅作品の構成形式を、「建築化された外部」を規定する構成材の表現や内部空間との位相関係、および「建築化された外部」を介した動線・視線による内外の連続から検討している。その結果、これら諸特徴の共有度を示す作品間の類似比を用いて住宅作品の構成類型を導き、それらを成立させる構成的修辞として、「建築化された外部」に見られる領域の階層の捉え方に関する、内外の＜対比性＞と＜同質性＞を明らかにしている。

第４章「空間の分割」では、内部、外部の区別に関わらず、構成材の表現によって分節される空間単位である「架構表現による構成単位」に注目し、その１単位が住宅の全体に対応する住宅作品を資料に、構成単位内部の壁による平面方向の分割と床による断面方向の分割、およびそれらによる内部空間の分割と内部／外部の分割による構成形式を検討している。その結果、構成単位の全体に対する分割や、

分割された部分の再分割によって生じる分割の階層と順列から構成類型を抽出し、それらを成立させる、完結した全体の中に空間的な対比を作り出す構成的修辞を明らかにしている。
第５章「架構表現による構成単位の分節」では、架構表現の種類を構成単位の外形と構成材の表現によって捉え、複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品を資料に、架構表現の組み合わせによる構成形式を検討している。その結果、架構表現の外形と構成材の２水準で生じる構成単位間の差異と類似の関係から構成類型を抽出し、架構表現の水準の組み合わせと構成単位のグループ化による複数要素の表現に関する構成的修辞を明らかにしている。

第６章「架構表現による構成単位の位相関係」では、前章に続いて複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品を資料に、複数の構成単位を一つの住宅として統合する、構成単位の位相関係による構成形式を検討している。その結果、軸の一致や壁面の共有などによる構成単位の部分的なまとまりがもたらす位相関係の優先度や構成単位の統合における階層と、この階層内での最大単位の位置から構成類型を抽出し、構成単位間の階層化された統合の秩序に関する構成的修辞を明らかにしている。

第７章「構成単位の包含による入れ子の構成」では、第５章の架構表現の組合せによる構成形式と、第６章の構成単位の位相関係による構成形式の関係から、「架構表現による構成単位」の水準における住宅作品の総括的な構成的修辞を検討している。さらに、第２章における「室」、第３章における「建築化された外部」、第４章における「構成単位の分割」の各水準では捉えることができないが、複数の「架構表現による構成単位」を前提とする水準で捉えることができる構成形式として、構成単位の立体的な包含関係によって得られる「入れ子による構成」を抽出している。そして本論各章で検討した構成形式との対応をみることによってその特徴を明らかにし、「入れ子に

よる構成」が、特定の「室」によって住宅全体を代表させる修辞、「建築化された外部」における領域の階層に関する修辞、「空間の分割」における完結した全体の中に空間的な対比を作り出す修辞などの、各章で見い出した構成的修辞が重層したものであることを指摘している。

第8章「結論」は2章から7章までの各章で得られた結果を総括した本論文の結論である。

第１章の注

1)広辞苑によれば【修辞】とは、「1ことばを有効適切に用い、もしくは修辞的な語句を巧みに用いて、表現すること。また、その技術、レトリック。2ことばを飾り立てること。または言葉の上だけで言うこと。」とある。本研究における構成的修辞とは、何らかの空間単位を前提にした空間構成の体系のなかで(それは基本的には均質な差異の場である)、どこに重心を置くのか、どの側面を強調、隠蔽するのか、ということによって、空間構成に特徴を与えるものである。

2)塚本由晴、坂本一成：現代日本の住宅作品における空間の分節と接続、－住宅建築の構成形式に関する研究－、日本建築学会計画系論文集　第465号、85-93、1994年11月

塚本由晴、繁昌朗、坂本一成：現代日本の住宅作品における外部空間の分節と統辞、－住宅建築の構成形式に関する研究－、日本建築学会計画系論文集　第470号、95-104、1995年4月

塚本由晴、坂本一成：現代日本の住宅作品における空間の分割、－住宅建築の構成形式に関する研究－日本建築学会計画系論文集　第478号、99-106、1995年12月

坂本一成、佐々木斉、高橋寛：室の構成関係から見た住宅平面：日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)P979~980,1988,10

塚本由晴、坂本一成、前田哲男、奥山信一：建築の構成における形式(１)(２)：日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)
P1089-1092,1990,10

坂本一成、蜂屋景二、前田哲男、岩岡竜夫、奥山信一：構成材の分節とその統辞：日本建築学会大会学術講演梗概集(東北)P1275~1276,1991,9

塚本由晴、木島千嘉、坂本一成：建築の構成図式に関する研究(1)(2)
：日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)P1371~1374,1992,8

坂本一成、渡瀬正記、前田哲男、岩岡竜夫、奥山信一、塚本由晴：現代住宅作品における内部意匠に関する研究－構成材とその修辞－：日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)P1361～1362,1992,8

3)川北健雄、東孝光：鉄筋コンクリート造独立住宅の構成類型に関する考察：1980年代「住宅建築」誌掲載作品の分析,日本建築学会計画系論文報告集,第450号,P63～74,1993.8

4)加藤道夫,広部達也：ル・コルビュジェの形式的解釈－第Ⅱ部　形式的体系による,ル・コルビュジェ解釈－,日本建築学会計画系論文報告集,第342号,P132～145,1984.8

5)黒沢和隆：動線条件から平面構成パターンを導く図法を用いた住宅平面型のパターン分析手法,日本建築学会計画系論文報告集,第392号,P41～51,1988.10

6)金光鉉：住宅『演慶堂』の形態分析－建築形態の重層的展開についての研究その

1－,日本建築学会計画系論文報告集,第323号,P142～149,1983.1

7)塩谷寿翁,月形秀和：都市近郊における農村住宅の建築的構成と住生活の変容に関する研究(奈良県磯城郡田原本町薬王寺の場合)－その1　建築的構成の変化－：日本建築学会計画系論文報告集,第326号,P135～146,1983.4

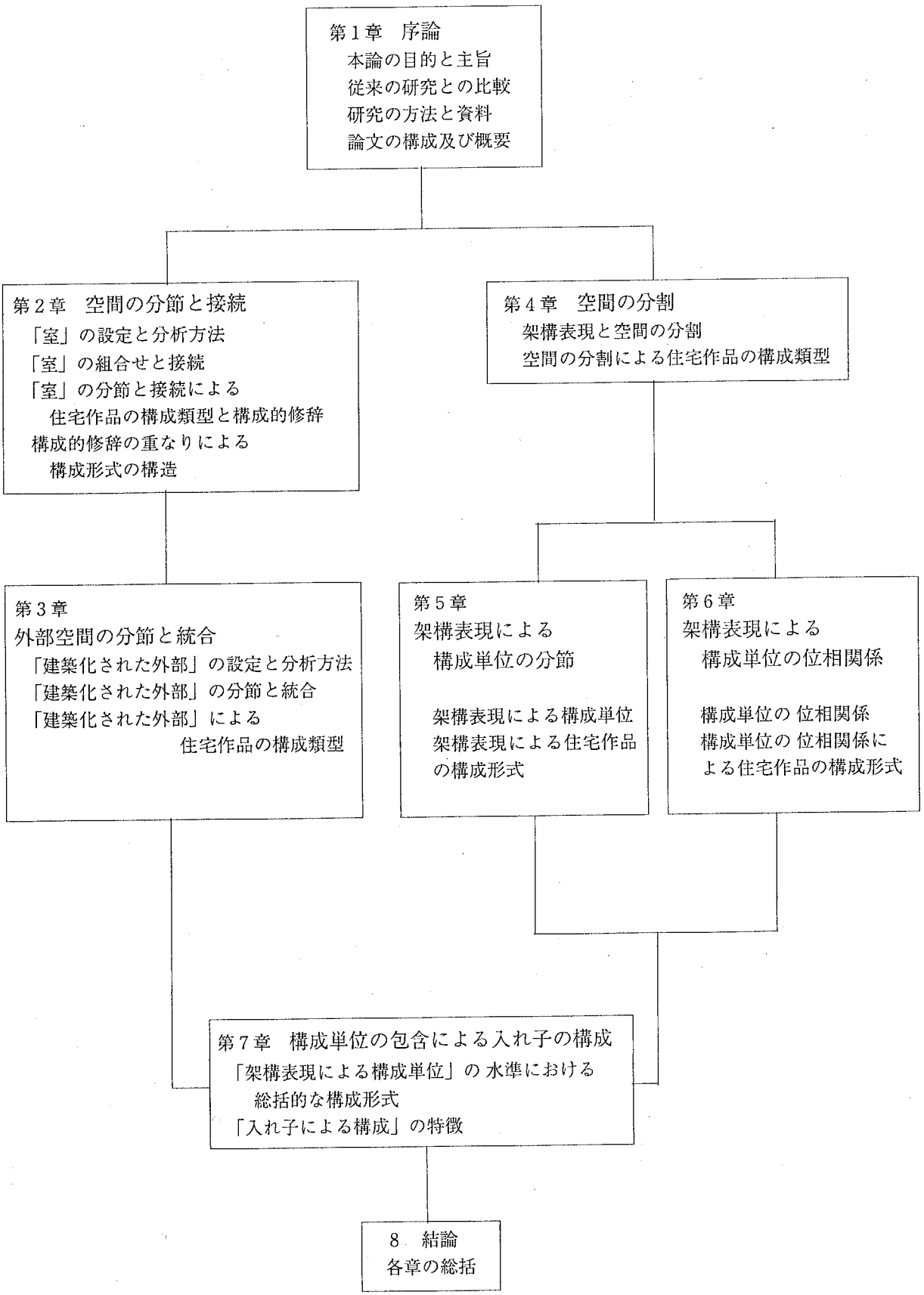
8)　貞植,川崎清,小林正美：韓国・河回における伝統住宅の空間構成に関する研究－住宅の類型化と空間分離の特性,日本建築学会計画系論文報告集,第417号,P51～60,1990.10

9)寺田秀夫：室空間の隣接関係により定義された長方形分割図を求める方法について－室空間の配置計画のための分析と総合の方法に関する研究(その1)－,日本建築学会計画系論文報告集,第414号,P69～80,1990.8

10)1946年に再開された「新建築」誌では、1994年までに約2800の戸建ての住宅作品が発表されている。本研究ではそのなかから建築家によって高い評価を与えられたものを抽出する指標として、1951年から開始された年末アンケートを参考にして、222の住宅作品を分析資料としている。

11)日本の戦後の住宅供給は、「住宅金融公庫法」(1950)、「公営住宅法」(1951)、「日本住宅公団法」(1955)の3法によって主に進められた。このうち住宅金融公庫法は「国民大衆が健康で文化的な生活を営むるに足る住宅の建設に必要な資金で、銀行その他一般の金融期間が融通することを困難にするものを融通することを目的」としており(住宅金融公庫法第一条)、当時の政府の持ち家政策を具体化していた。

図 1-1　論文の構成


第１章　序論
本論の目的と主旨
従来の研究との比較
研究の方法と資料
論文の構成及び概要
第２章　空間の分節と接続
「室」の設定と分析方法
「室」の組合せと接続
「室」の分節と接続による
住宅作品の構成類型と構成的修辞
構成的修辞の重なりによる
構成形式の構造
第４章　空間の分割
架構表現と空間の分割
空間の分割による住宅作品の構成類型
第３章
外部空間の分節と統合
「建築化された外部」の設定と分析方法
「建築化された外部」の分節と統合
「建築化された外部」による
住宅作品の構成類型
第５章
架構表現による
構成単位の分節
架構表現による構成単位
架構表現による住宅作品
の構成形式
第６章
架構表現による
構成単位の位相関係
構成単位の 位相関係
構成単位の 位相関係に
よる住宅作品の構成形式
第７章　構成単位の包含による入れ子の構成
「架構表現による構成単位」の 水準における
総括的な構成形式
「入れ子による構成」の特徴
８　結論
各章の総括

第２章　空間の分節と接続

第１節　本章の目的と概要

第２節　「室」の設定と分析方法

第３節　「室」の組合せと接続

第４節　「室」の分節と接続による住宅作品の構成類型と構成的修辞

第５節　構成的修辞の重なりによる構成形式の構造

第６節　小結

第1節　本章の目的と概要

本研究は、建築の実体が成立させる何らかの空間単位の集合として住宅作品を捉え、これらの構成単位を前提にした住宅全体の統合に関する構成類型を抽出し、それらを成立させる構成的修辞を明らかにするとともに、現代の住宅作品に見られる構成表現の体系化を目的とするものである。

以上の主旨に基づき、まず本章では住宅作品[1)]における内部空間の分節と接続による構成形式を明らかにするために、一般的な部屋に対応する「室」を単位とする検討を行う。本章の内容を概略すると、まず第2節で、廊下、居間、個室などの部屋に対応する内部の連続した空間のヴォリュームである「室」の性格を、使用用途からではなく、住宅全体に対する大きさや他室との接続から建築的に規定し、各住宅作品をこれらの「室」の集合として捉えている。次に第3節で、各作品において分節される「室」数と最大の「室」(主室)の住宅全体に対する相対的な大きさ、住宅全体を統合する主室を中心とした動線、およびエントランスについて分析している。これをもとに第4節で、住宅作品の構成類型を抽出し、それらを成立させる構成的修辞を明らかにしている。さらに第5節でそれらの構成的修辞の重なりによって「室」の水準での構成形式を構造化している。第6節は本章の内容を概略した、本章の小結である。

第２節　「室」の設定と分析方法

住宅の内部空間の分節は、居間、寝室、廊下、風呂、台所などと一般によばれる部屋名にほぼ対応していると考えられるが、同じ空間内でも床の仕上げだけで玄関と廊下を、家具の配置だけで居間と食堂を呼び分けることも多く、部屋名は空間の分節というよりは住宅内部の使用用途に対応していると言える。従って、部屋の名称によって空間の分節を定義するのは必ずしも適当とはいえない。そこでここでは住宅の空間構成を実体に即して捉えるために、部屋を立体的に構成している床、壁、天井によって切り取られる内部のヴォリュームを「室」と呼び、これを単位として部屋名が示す使用用途とは独立した体系において内部空間を検討している[2)]。住宅の全体はこの「室」の大きさによる対比や、動線による接続によって統合されると考えられることから、「室」の性格は相対的な大きさや、動線としての機能によって定義される。（表2-1）

まず動線的な性格として、出入り口が１つしかなく動線の末端に位置する単室(R)と、２箇所以上の出入り口によって２以上の異なる空間どうしをつなぐ間室(C)がある。間室のこの動線としての機能は、単室との間に接続する／されるという関係を生じ、統合的な性格を帯びる。また、大きさに関する性格として、住宅を構成する複数の「室」のなかで最大の「室」を主室と呼ぶ。主室にも動線となるもの(Mc)と動線の行き止まりに位置するもの(Mr)がある。分析にあたっては主室を中心としてこれらの「室」に従って住宅作品の内部空間を分節するが、主室以外の複数の「室」が部分的なまとまりを作り、階層化して全体を構成している場合には、この明確な輪郭[3)]によって一体化された複数の「室」のまとまりを室群として分節し、「室」のひとつとして位置付ける。住宅内部の部分的な統合ともいえるこの室群には、動線としての性格に影響を与える間室数によって、間室を含まないもの(nR)、１つ間室を含むもの(CR, CnR)、複数の間室を含むもの(nC, nCR, nCnR)がある。

こうした設定に基づき、住宅の内部空間全体を分節された「室」の組み合わせとして捉えると、例えば図2-1に示すNo.4は、主室(Mc)とこれに接続する2単室(R)と室群(CR)の4つの「室」に分節することができ、Mc. R: R: CR[4]と表記することができる。

これらの「室」の組み合わせをひとつにまとめる住宅作品の統合的性格は、先にも述べたように「室」の大きさによる対比などが成立する水準と、動線による「室」の接続に関する水準で成立する。「室」の組み合わせと統合的性格の関係は、同じ「室」の組合せが異なる統合的性格を持つこともあれば、異なる「室」の組み合わせが同じ統合的性格を持つこともあり、基本的には独立している。

主室が住宅全体に占める割合が大きければ、主室と他の「室」の大きさの対比による統合的性格が生じるが、それは住宅全体と主室の大きさが一致し、主室以外の「室」が少ないほど強くなる。このことから「室」の大きさによる統合的性格は、分節される「室」の数(以下、分節数)と住宅全体に対する主室の相対的な大きさの関係として捉えられる。住宅全体に占める主室の相対的な大きさには(図2-2)、主室が2層以上の天井高を持ちその他の「室」が1層の複層強調、主室が住宅全体の過半を平面的に占める強調、主室とその他の「室」が住宅を2分する同等、主室が住宅の半分より小さい従属、という内部空間の分節に関するパタン(以下、分節パタン)を見ることができる。分節数については、分節された「室」の数に対応して2分節、3分節、4分節などとする。

また、先に述べたように、動線となる「室」は動線の末端に位置する「室」どうしをつなぐことによって、住宅の内部空間を統合する。またエントランスとなる「室」は、内部空間と外部空間をつなぐことによって、外部に対する住宅の内部の代表として内部空間の統合に影響を与える。このことから「室」の接続による統合的性格は、住宅内部における「室」の接続と、住宅の内部空間が外部に接続されるエントランス[5]にあたる「室」を検討することによって捉えられる。住宅内部における「室」の接続においては、特に主室とその他の「室」の

関係が重要であると考えられることから、主室から見た住宅全体の動線の在り方として(図2-2)、主室に他の全ての「室」が接続する完結、主室に接続する他の「室」にさらに他の「室」が接続する連合、複数の主室を持つことによって完結や連合が組み合わされる複合、という基本的な接続のパタン(以下、接続パタン)[6]を見ることができる。住宅の内部空間が外部に接続されるエントランスにあたる「室」の検討では、主室がエントランスになるものを主室入、間室あるいはそれを含む室群がエントランスになるものを間室入としている。

この「室」の組合せ、「室」の大きさによる統合的性格、「室」の接続による統合的性格、について住宅作品を検討すると(図2-3)、例えばNo.174は動線になる主室と、間室１、単室４、室群１の組合せであり、主室と他の部分の大きさは同等で、全ての「室」の接続が主室で完結し、外部との接続は間室入と見ることができる。またNo.115は動線になる主室と、間室２、単室１、室群２の組合せであり、主室の大きさは他の部分に対して従属し、主室を含めて間室が鎖状に接続される連合で、外部との接続は間室入と見ることができる。さらにNo.130は動線になる主室と、室群２の組合せであり、主室の大きさは他の部分に対して複層強調で、主室を含めて間室が鎖状に接続される連合で、外部との接続は間室入と見ることができる。

第３節　「室」の組合せと接続

前節で述べた「室」の分節と接続に関して、住宅作品を分析した結果を「室」の組合せによってまとめた(表2-2)。本節ではこれより、「室」の組合せ、「室」の大きさによる統合的性格、「室」の接続による統合的性格、それぞれの傾向を見る。

まずほとんどの作品が、主室１つとその他の「室」の組み合わせによるものであり、主室は動線となる主室(Mc)が多い。「室」の組合せとしては動線となる主室(Mc)と室群の組み合わせが主流であり、室群CnRとの組合せ(Mc. CnR)、室群nRとの組合せ(Mc. nR)、１単室と室群CnRあるいは室群nCnRとの組合せ(Mc. R: CnR)(Mc. R: nCnR)、２室群nCnRとの組合せ(Mc. nCnR: nCnR)などが多く見られる。また動線とならない主室Mrを持つ「室」の組合せは少ないが、その中では室群CnRとの組合せ(Mr. CnR)を多く見ることができた。さらに全資料の約5%ではあるが、２つの主室を持つ「室」の組合せ、即ち構成的には２つの住宅の複合と捉えられるものが見られた。

次に「室」の大きさによる統合的性格は、先にも述べたように分節される「室」の数と住宅全体に対する主室の相対的な大きさの関係として捉えられることから、分節数と分節パタンの関係(表2-3)を見る。分節数としては３分節が最も多く、資料全体の40%強を占める。分節パタンに関しては、主室が２層以上の天井高を持ちその他の「室」が１層の複層強調が全体の40%弱を占め、とくに３分節、４分節を中心に多く見られる。また主室が住宅全体の過半を平面的に占める強調は、分節数が少ない２分節、３分節で多く見られるのに対して、逆に従属は４分節、５分節以上など比較的分節数が多い場合に見られる。これらのことから、３分節を境として分節数が大きくなると主室は全体に対して相対的に小さくなる傾向にあるといえる(図2-4)。これら分節パタンのうち、複層強調、あるいは強調となるものでは、主室と他の「室」の間に大きさの対比が生じ、内部の空間全体を統合する性格を帯びる。このように主室が住宅の全体を代表する空間と

なることは、＜内部の獲得＞と呼びうる「室」の大きさによる統合的性格と言える。

さらに「室」の接続による統合的性格は、先にも述べたように住宅内部における「室」の接続と、住宅の内部空間が外部に接続されるエントランスの検討によって捉えられることから、接続パタンとエントランスの関係(表2-4)を見る。接続パタンでは主室にその他の「室」が全て接続する完結が資料全体の60%弱を占め、エントランスに関しては主室入が全体の半数弱で見られる。両者の関係としては、主室が内部を接続しエントランスにもなる完結・主室入、主室が内部を接続し間室を１つ含む室群(CR,CnR)がエントランスになる完結・間室入、主室以外が内部を接続し間室を一つ(C, CnR)あるいは複数(nC,nCnR)含む室群がエントランスとなる連合・間室入などが多く見られる。これより、「室」どうしをつなぐ主室は同時にエントランスにもなりやすく、連合では間室や間室を含む室群がエントランスになりやすいという対照的な傾向があることがわかる(図2-5)。このように分節された「室」どうしをつなぐことや、エントランスとなって外部と内部をつなぐことは、それぞれ＜内部の接続＞、および＜内外の接続＞と呼びうる「室」の接続による統合的性格と見ることができる。

第4節　「室」の分節と接続による住宅作品の構成類型と構成的修辞

前節ではで住宅の内部空間の構成形式を、「室」の組合せ、「室」の大きさによる統合的性格、「室」の接続による統合的性格、という3水準から検討した。本節ではこのうち主に「室」の大きさによる統合的性格と「室」の接続による統合的性格の重ね合わせから「室」を単位とする住宅作品の構成類型を抽出する。そのために分節数と分節パタンの組み合わせを縦軸に、接続パタンとエントランスの組み合わせを横軸とするマトリクスに、作品を「室」の組合せとともにプロットし(表2-5)、構成的性格を共有する作品のまとまりとして8つの構成類型を抽出した。以下、各類型の特徴とそこに見られる修辞について述べる。各類型の構成的性格は「分節数・分節パタン／接続パタン・エントランス」の順に羅列して示す(図2-6)。

■類型Ⅰ：2分節の接続パタンは必ず完結となるが、そのなかで主室がエントランスとなるもので、「室」の接続による統合的性格である＜内部の接続＞＜内外の接続＞と、「室」の大きさによる統合的性格である＜内部の獲得＞が主室に重なって見られるものである。従ってこの類型は、主室が外部から内部までをつなぐ唯一の動線となる《主室での動線の集中》と呼べる構成的修辞によって成立すると見ることができる。また、この修辞と絡んで全体を2分節することは、主室とその他の「室」の間の、大／小、接続する／されるという対比を強調することから《対比分節》と呼べる構成的修辞と見ることができる。

■類型Ⅱ：1主室(Mc)と他2「室」によるこの類型は、＜内部の獲得＞と＜内部の接続＞と＜内外の接続＞が主室に集中するものであり、類型Ⅰ同様《主室での動線の集中》によって成立する。

■類型Ⅱ'：類型Ⅱの主室(Mc)にさらに他1「室」が接続し、類型Ⅱと同様《主室での動線の集中》によって成立する。

■類型Ⅲ：1主室(Mc)と4以上のその他の「室」に分節され、＜内部

の獲得＞と＜内部の連続＞と＜内外の連続＞の統合的性格が主室に集中する《主室での動線の集中》によるものである。「室」の組合せを見ると、単室(R)が２～４と多く分節され、それぞれが主室(Mc)と接続する。これは第３節で導いた「分節数」が多くなると主室は相対的に小さくなるといった大枠での傾向と異なり、分節される「室」が多くても主室による＜内部の獲得＞の統合的性格を成立させている。このように＜内部の獲得＞に絡んで単室を多く分節することは、《独立多分節》といえる構成的修辞と見ることができる。そのことによって構成の複雑さと主室を中心とした統合を両立させた構成類型である。

■類型Ⅳ：１主室(Mc)と他の２「室」に３分節され、＜内部の獲得＞と＜内部の接続＞による統合的性格が主室に見られ、＜内外の連続＞が間室を含む室群に見られるものである。これらの室群はnCnRのように複数の単室や間室をまとめたものであり、部分的な統合によって全体を３分節の比較的単純な構成とすることによって＜内部の獲得＞と＜内部の接続＞の統合的性格を作り出す、《室群分節》と呼びうる構成的修辞と見ることができる。

■類型Ⅴ：全体は１主室と他の２「室」に３分節され、主室で＜内部の獲得＞による統合的性格が見られ、間室を含む室群で＜内部の接続＞と＜内外の接続＞による統合的性格が見られることから、これは間室を含む室群が外部から内部までをつなぐ唯一の動線となる《間室を含む室群での動線の集中》と呼びうる構成的修辞によって成立するものである。「室」の組合せにはnCnRのように複数の間室を含む室群が多く、類型Ⅳと同じく《室群分節》によるものと言える。

■類型Ⅵ：類型Ⅴと同様、全体は１主室(Mc)と２室群に３分節され、間室を含む室群で＜内部の接続＞と＜内外の接続＞による統合的性格が見られるものである。これは《間室を含む室群での動線の集中》と《室群分節》によるものであるが、主室は住宅全体に従属する大きさであり、＜内部の獲得＞による統合的性格が見られないことが、類型Ⅴとの差異となっている。

■類型Ⅶ・Ⅶ'：この類型では全体に対して従属的な主室と、複数の関室を含む室群が2あるいは3以上分節され、それらが全て動線となるために＜内部の接続＞による統合を特定の「室」に限定できない。このことは動線を複数の「室」に分散させることに積極性を見い出す《動線の分散》と呼べる構成的修辞によるものと言える。特に類型Ⅶで動線にならない主室(Mr)が見られることは、その一つの表われといえる。全体は主室と、室群を中心に単室・間室おり混ぜた4分節以上になるものが多く、比較的複雑な構成となるこの類型は、《室群多分節》と呼びうる構成的修辞によって成立するものと言える。

■類型Ⅷ：これまで挙げた1つの主室を中心とした「室」の組合せを前提にする各類型に対し、類型Ⅷは、主室を2つもつ複合の接続パタンによるもので、「室」の組合せの水準だけでも類型として見い出せるものである。これはその中でも、2つの主室それぞれに＜内部の接続＞と＜内外の接続＞による統合的性格が重なり2つの中心が形成され、これを部分の(下位の)統合とする全体の(上位の)統合が成立するものである。ただしこの2つの中心は、必ずしも内部で接続するとは限らない。

第５節　構成的修辞の重なりによる構成形式の構造

本節では前節で抽出した各類型と、それを成立させる構成的修辞を整理し(図2-6)、それらの関係を見ることによって、「室」による住宅作品の構成形式を構造化するとともに、「室」の水準における構成的修辞の主題について考察する。

類型Ⅰ、Ⅱ、Ⅱ'、Ⅲでは＜内部の獲得＞＜内部の連続＞＜内外の連続＞という統合的性格が全て主室に集中し、この主室が内部に対しても、外部に対してもその住宅の内部空間を代表する中心の空間となることで共通しており、まとめて『主室型』と呼べるものである。これは《主室での動線の集中》という接続の修辞で共通する一方、類型Ⅰは《対比分節》、類型Ⅲは《独立多分節》、という異なる分節の修辞によって差異化されている。これらは、基本的に少ない「分節数」で成立し、「分節数」が増えると成立しにくい傾向にある主室を中心にした統合を、強調したり室数が多くなっても成立させる修辞と考えられる。またこれとは対照的に類型Ⅵ、Ⅶ、Ⅶ'では、主室が大きさにおいても接続においても従属的で、全体を統合する構成的性格を持たない一方、複数の間室を含む室群において＜内部の接続＞が見られ、さらに主室を含めた動線の回遊性が成立することが多いことから、まとめて『間室型』と呼べるものである。これらは類型Ⅵでは住宅内部での動線の分離が明確に行なわれる《間室を含む室群での動線の集中》、類型Ⅶ、Ⅶ'では続き間など日本の伝統的な住宅にも見られ、複数の間室を動線が通過する《動線の分散》という接続の修辞によって差異化されている。さらに『主室型』や『間室型』を前提に類型Ⅳ、Ⅴを見ると、類型Ⅳでは主室での＜内部の獲得＞と＜内部の連続＞、間室を含む室群での＜内外の連続＞による統合が成立し、類型Ⅴでは主室での＜内部の獲得＞、間室を含む室群での＜内部の連続＞と＜内外の連続＞による《間室を含む室群での動線の集中》が見られることから、これらは『主室型』と『間室型』の性格をあわせもつ『融合型』と呼べるものの、２つのあり方と見ること

ができる。これらはともに《室群分節》という分節の修辞によっており、室群による部分の(下位の)統合によって、全体の(上位の)統合を単純にする階層性に特徴がある。ここで、下位の統合は『間室型』の特徴を、上位の統合は『主室型』の特徴を、それぞれこの『融合型』にもたらしていると考えられる。そして類型Ⅷは『複数主室型』と呼びうるもので、これらの類型から「室」の組合せにおいて差異化されるものである。

ここで明らかにされた<内部の獲得>と《主室での動線の集中》《間室を含む室群での動線の集中》は、多くの類型にまたがっており、「室」を構成単位とする水準での主要な構成的修辞と言える。これらに共通するのは、特定の「室」に対比的な大きさを与えたり、動線を集中させることによって、特定の「室」によって住宅の全体を代表させるということであり、このことが「室」を構成単位とする水準での構成的修辞における最も重要な主題であると考えることができる。この視点に立てば《動線の分散》は、特定の「室」によって住宅の全体を代表させるというこの水準での構成的主題に対する否定の積極的な表現として位置付けることができる。また《対比分節》《独立多分節》という内部空間の分節に関する構成的修辞は、これらの「室」の大きさや接続に関する構成的修辞を強調し、《室群分節》《室群多分節》という内部空間の分節に関する構成的修辞は、部分的な「室」の統合による階層性によって部屋数の多い住宅を単純な構成に置き換えるものであると考えられる。

第6節　小結

以上、現代日本の住宅作品の構成形式を、空間の分節と接続という視点から「室」を構成単位とする水準で捉え、「室」の組合せ、「室」の大きさによる統合的性格、「室」の接続による統合的性格の3水準から分析した。その結果、「室」の大きさによる統合的性格として＜内部の獲得＞、「室」の接続による統合的性格として＜内部の接続＞、＜内外の接続＞を導くとともに、これらの性格が見られる「室」の違いなどから8つの構成類型を抽出した。それらは「室」の大きさによる統合的性格として＜内部の獲得＞、「室」の接続に関する構成的修辞である《主室での動線の集中》《間室を含む室群での動線の集中》《動線の分散》、「室」の分節に関する修辞である《対比分節》《室群分節》《独立多分節》《室群多分節》の重なりとして位置付けられるとともに、それらの修辞の重なり方から『主室型』『間室型』『融合型』『複数主室型』と呼びうる4つの大きな構造的なあり方を見ることができた。また「室」の接続による主要な構成的修辞においては、特定の「室」によって住宅全体を代表させることが最も重要な主題とされていることを指摘した。

これらを概括すると、建築家による住宅作品の構成形式は、主室という最大規模の空間を中心に、そこにより小規模に分節された空間を接続することによって内部空間を組織する、住宅を一続きの空間と捉える傾向と、動線の空間である間室やこの間室を含む室群の連鎖の一部に主室が吸収される、住宅を複数の分節された室の組み合わせとして捉える傾向を2つの対照的なあり方として、その他の構成もこの2つの傾向の融合として読み取ることができる。そのなかでも主室を中心とするものが多く見られたことは、食寝分離や、動線の分離といった各室の機能による分節に対して、建築家による住宅作品は、より緩やかな分節と統合による内部空間を提案していたことを示していると考えられる。それは内部空間の分節数を少なくすることにもつながり、明確に分節化された空間に機能を定める

のではなく、より連続した空間の中に機能を確保する立体的な構成による空間の組織化が、様々な修辞を通して追求されたことが推察される。このことについては、本章の「室」の接続では捉え切れない内容であり、これとは別の水準で構成単位の位相関係を検討することによって明らかにしうると考えられる。

第2章の注

1)資料となる住宅作品は、「新建築」誌において1951年から1989年までに掲載されたもののうち、毎年の同誌での年末アンケートの中で評価の高かったものを中心に、他誌に掲載された重要だと思われる作品を加えた203作品である。

2)資料には様々な構造形式や、いわゆる最小限住宅から豪邸まで含めた様々な規模による住宅作品がみられるが、ここで設定した「室」はこうした構造形式や規模に関係なく必ず見いだすことができる。この「室」という単位も、床、壁、天井という構成材の水準でさらに分節されることから、建築の構成は2重の分節によって成立しているといえるが、ここでは「室」による分節だけを扱う。また、ここで扱う「室」には、法令上居住室と呼ばれるものだけでなく、玄関、台所、廊下などの居住室ではないものも含まれる。ただし単独に設けられたトイレや収納などは省略した。

3)凹型の輪郭を持つ場合も、欠きとられる前の輪郭が明確に判別できる場合にはひとまとまりの室群とした。

4)「室」の組合せの記号表記は以下に従う。

＜主室．主室に接続する「室」：主室に接続する「室」，主室に接続しない「室」＞

主室に接続する「室」が複数の場合は「：」で区切って並べ、主室に接続しない「室」が複数の場合は「，」で区切って並べる。

5)エントランスとは基本的には主要な住宅への導入路等に連続した住宅の主出入り口であり、外部の庭などに出ることができるテラス窓などはエントランスとは見做さない。「室」のなかでエントランスになりうるのは、動線となる主室(Mc)、間室(C)、および間室を含む室群(CR,CnR,nCR,nCnR)である。

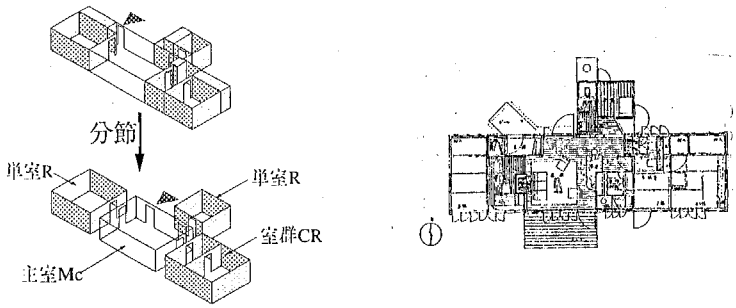
6)ここでは、主室を含む「室」の組合せに対して外部空間を介して分離された「室」が見られる場合を接続パタンのヴァリエーションとして捉えている。主室を含む組合せが「完結」ならば連合α、「連合」ならば連合βとし、分離された「室」の組合せにも主室が含まれる(つまり主室が2つある)場合を複合αとした。

表2-1　「室」の性格

「室」	性格	記号
主室	最大で動線となる	Mc
	最大で動線にならない	Mr
間室	各室の交通のための動線になる	C
単室	動線にならない	R
室群	単室のまとまり	nR
	間室を１つ含むのまとまり	CR,CnR
	複数の間室を含むまとまり	nC,nCR,nCnR

注）脱衣、洗面、浴室、便所等がまとめられた水まわりは、１つの「室」として扱う。また納戸、便所等で押し入れ程度の大きさのものや、ポーチ、バルコニーなどの外部は「室」と見做さない。

図2-1　分析例



No.4 西京風の家／広瀬鎌二（Mc. R: R: CR）

図2-2　統合的性格

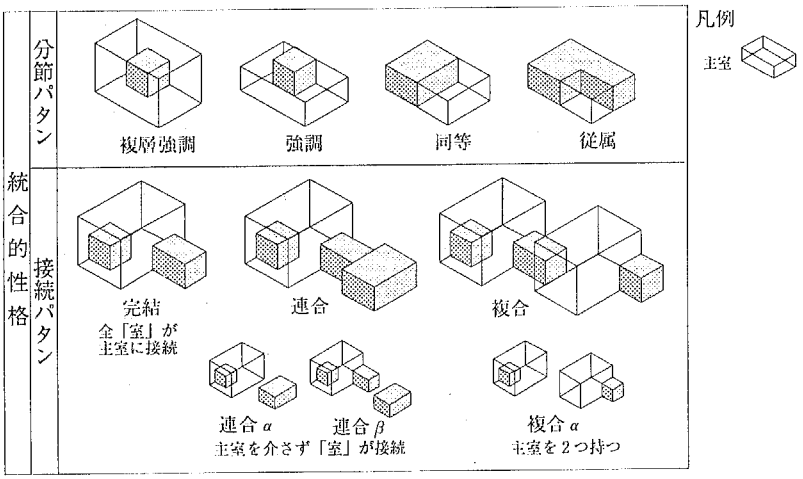
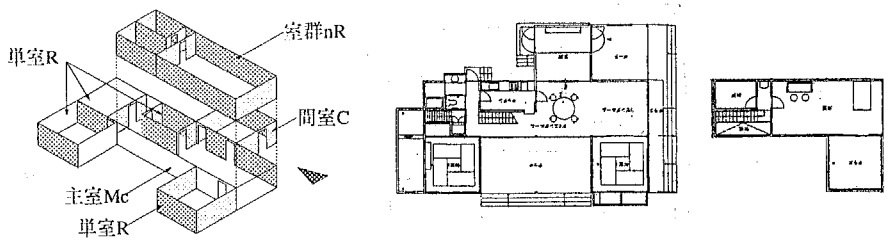
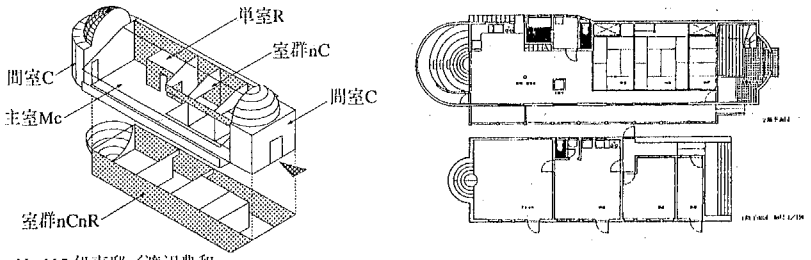


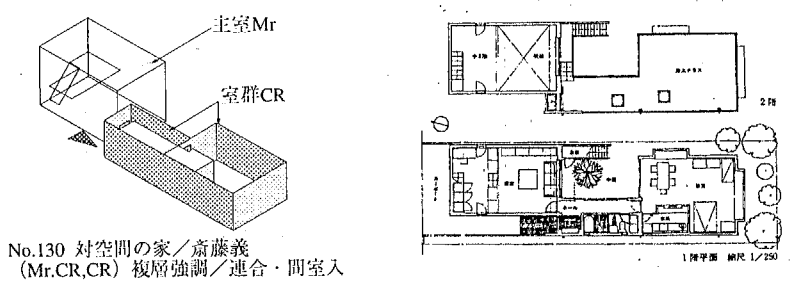
図2-3　分析例



No.174浦崎の家／石田敏明
（Mc.C:R:R:R:R:nR）同等／完結・間室入

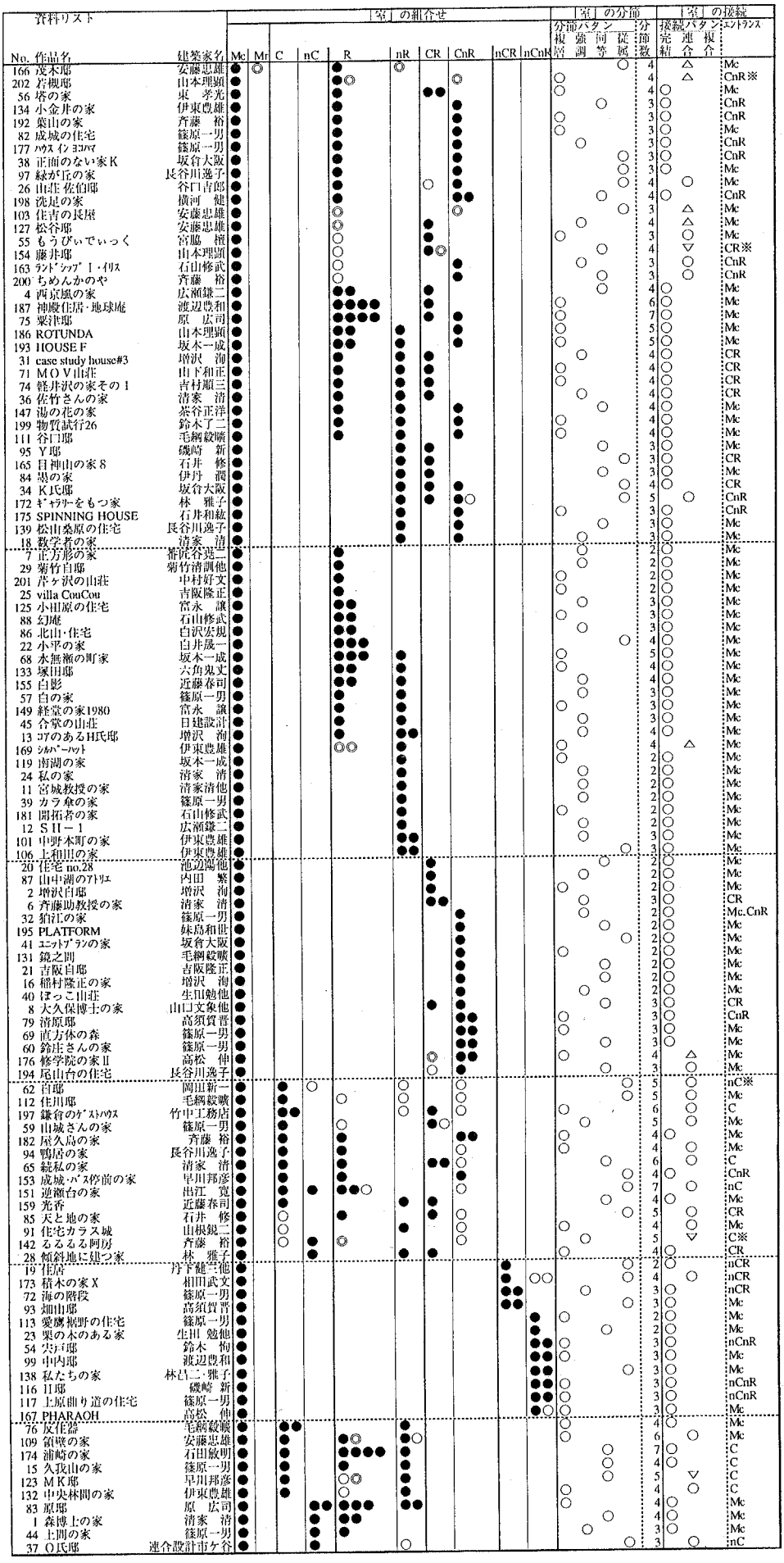


No.115 伊東邸／渡辺豊和
（Mc.C:C:nC:R,nCnR）従属／連合・間室入



No.130 対空間の家／斎藤義
（Mr.CR,CR）複層強調／連合・間室入

表2-2　分析結果


資料リスト
No.
作品名
建築家名
「室」の組合せ
Mc
Mr
C
nC
R
nR
CR
CnR
nCR
nCnR
「室」の分節
分節板
パタン
強調
同等
従属
分節数
「室」の接続
接続完結
パタン
連合
板状
エントランス
166 淺木邸 安藤忠雄
202 岩槻邸 山本理顕
56 塔の家 東 孝光
134 小金井の家 伊東豊雄
192 葉山の家 斉藤 裕
82 成城の住宅 篠原一男
177 ハウス イン ヨコハマ 篠原一男
38 正面のない家K 坂倉大阪
97 緑が丘の家 長谷川逸子
26 山荘 佐伯邸 谷口吉郎
198 洗足の家 横河 健
103 住吉の長屋 安藤忠雄
127 松谷邸 安藤忠雄
55 もうびぃでぃっく 宮脇 檀
154 藤井邸 山本理顕
163 ランドシップ I・イリス 石山修武
200 ちめんかのや 斉藤 裕
4 西京風の家 広瀬鎌二
187 神殿住居・地球庵 渡辺豊和
75 粟津邸 原 広司
186 ROTUNDA 山本理顕
193 HOUSE F 坂本一成
31 case study house#3 増沢 洵
71 MOV山荘 山下和正
74 軽井沢の家その 1 吉村順三
36 佐竹さんの家 清家 清
147 湯の花の家 茶谷正洋
199 物質試行26 鈴木了二
111 谷口邸 毛綱毅曠
95 Y邸 磯崎 新
165 目神山の家 8 石井 修
84 黒の家 伊丹 潤
34 KJ氏邸 坂倉大阪
172 ギャラリーをもつ家 林 雅子
175 SPINNING HOUSE 石井和紘
139 松山桑原の住宅 長谷川逸子
18 数学者の家 清家 清
7 正方形の家 雨宮谷莞二
29 菊竹自邸 菊竹清訓他
201 芦ヶ沢の山荘 中村好文
25 villa CouCou 吉阪隆正
125 小田原の住宅 宮永 譲
88 幻庵 石山修武
86 北山・住宅 白沢宏規
22 小平の家 白井晟一
68 水無瀬の町家 坂本一成
133 塚田邸 六角鬼丈
155 白影 近藤春司
57 白の家 篠原一男
149 経堂の家1980 宮永 譲
45 合掌の山荘 日建設計
13 コアのあるH氏邸 増沢 洵
169 シルバーハット 伊東豊雄
119 南湖の家 坂本一成
24 私の家 清家 清
11 宮城教授の家 清家清他
39 カラ傘の家 篠原一男
181 開拓者の家 石山修武
12 S II－1 広瀬鎌二
101 中野本町の家 伊東豊雄
106 上和田の家 伊東豊雄
20 住宅 no.28 池辺陽他
87 山中湖のアトリエ 内田 繁
2 増沢自邸 増沢 洵
6 斉藤助教授の家 清家 清
32 狛江の家 篠原一男
195 PLATFORM 妹島和世
41 ユニットプランの家 坂倉大阪
131 鏡之間 毛綱毅曠
21 吉阪自邸 吉阪隆正
16 稲村隆正の家 増沢 洵
40 ぼっこ山荘 生田勉他
8 大久保博士の家 山口文象他
79 清原邸 高須賀晋
69 直方体の森 篠原一男
60 鈴庄さんの家 篠原一男
176 修学院の家 II 高松 伸
194 尾山台の住宅 長谷川逸子
62 百邸 岡田新一
112 住川邸 毛綱毅曠
197 鎌倉のゲストハウス 竹中工務店
59 山城さんの家 篠原一男
182 屋久島の家 斉藤 裕
94 鴨居の家 長谷川逸子
65 続私の家 清家 清
153 成城・バス停前の家 早川邦彦
151 逆瀬台の家 出江 寛
159 光香 近藤春司
85 天と地の家 石井 修
91 住宅カラス城 山根鎮二
142 るるるる阿房 斉藤 裕
28 傾斜地に建つ家 林 雅子
19 住居 芦下健三他
173 積木の家 X 相田武文
72 海の階段 篠原一男
93 畑山邸 高須賀晋
113 愛鷹裾野の住宅 篠原一男
23 栗の木のある家 生田 勉他
54 宍戸邸 鈴木 恂
99 中内邸 渡辺豊和
138 私たちの家 林昌二・雅子
116 II邸 磯崎 新
117 上原曲り道の住宅 篠原一男
167 PHARAOH 高松 伸
76 友住邸 毛綱毅曠
109 領壁の家 安藤忠雄
174 油崎の家 石田敏明
15 久我山の家 篠原一男
123 MK邸 早川邦彦
132 中央林間の家 伊東豊雄
83 原邸 原 広司
1 森博士の家 清家 清
44 上間の家 篠原一男
37 O氏邸 連合設計事務所

資料リスト		「室」の組合せ										「室」の分節					「室」の接続			
NO. 作品名	建築家名	Mc	Mr	C	nC	R	nR	CR	CnR	nCR	nCnR	分節パタン 複層	強調	同等	従属	分節数	接続パタン 完結	連合	複合	エントランス
3 竹田教授の家	清家 清	●				●				●			○			3	○			Mc
96 雪ヶ谷の住宅	谷口吉生他	●				●					●	○				3	○			nCnR
148 高圧線下の住宅	篠原一男	●				●					●				○	3	○			Mc
203 千葉の住宅	入江経一	●				●					●	○				3	○			nCnR
64 大田邸	東 孝光	●				◎					●	○				3		△		nCnR
73 まつかわ・ぼっくす	宮脇 檀	●				◎					●	○				3		△		nCnR
100 代田の町家	坂本 一成	●				○					●	○				3		○		nCnR
66 未完の家	篠原一男	●					●				●	○				3	○			Mc
121 个箱の家	坂本 一成	●					●				●	○				3	○			Mc
162 十谷滝の山荘	香山壽夫	●							●	●					○	3	○			nCR
178 A型vsB型邸	出江 寛	●							●○	●					○	4		○		nCR
27 岩波邸	堀口捨己	●							●		●	○				3	○			nCnR
9 C・レーモンド邸	A・レーモンド	●							●		●				○	3	○			nCnR
104 回帰草庵	石井 修	●							●		●	○				3	○			CnR
110 伊豆多賀の家	吉村順三	●							○		●●				○	4		○		nCnR
137 西沢邸	西沢文隆	●							○		●				○	3		○		nCnR
144 高松郊外の家	吉村順三	●						○		●	○	○				5		○		nCR
49 浜田山の家	吉村・長橋	●						○			●				○	3		○		CR※
190 軽井沢の別荘	アモルフ		●						◎◎				○			3		△		Mr, CnR
130 対雲閣の家	斉藤 義		●					●○				○				3		○		CR
61 金子邸	高須賀晋		●					●					○			2	○			CR
126 銀舎	白澤宏規		●						●			○				2	○			CnR
188 秋想のｱﾄﾘｴ	中村好文		●						●			○				2	○			CnR
135 生駒学舎	高須賀晋		●						●○			○				3		○		CnR
160 肆木の家	広瀬鎌二		●						●○○						○	4		○		CnR※
141 武蔵新城の住宅	富永 譲		●						●					○		2	○			CnR
120 坂田山附の家	坂本一成		●						●					○		2	○			CnR
157 雛壺の山荘	西本圭敦		●						●						○	2	○			CnR
170 雲洋居	吉井滋一	●		●						●			○			3	○			C
80 ｻﾞﾎﾜｲﾄﾊｳｽ	本島安史	●		●							●○				○	4		○		nCnR
89 54の窓・増谷医院	石井和紘他	●		●							●○				○	4		○		C
184 福井・勝山の家	伊東 孝	●		●							●	○				3	○			C
51 松岡邸	吉田五十八	●			●						●				○	3		○		nC
77 昨雪軒	白井晟一	●			●						○				○	3		○		nCnR※
10 ｻﾛﾓﾝ邸	A・レーモンド	●			●						○				○	3	○			nC
78 ｸﾞﾘｰﾝﾎﾞｯｸｽ#1	宮脇 檀	●			●						●			○		3	○			nC
107 棟生の家	長谷川逸子	●		○							●				○	3		○		nCnR
63 閉じんの家－IS邸	RIA	●		●				●	●	○○					○	6		○		Mc
42 阿佐ヶ谷の家	石野事務所	●		●					●	●			○			4	○			C
43 大屋根の家	篠原一男	●		●					●	●				○		4	○			Mc
58 石亀邸	鈴木 恂	●		●					●		●				○	4	○			nCnR
129 北祇の家	出江 寛	●		●					●○		●				○	5		○		nCnR
35 西田博士の家	清家 清	●		●					○○	●				○		5		○		C,nCR
108 丸亀の家	出江 寛	●			●				●○○		●				○	6		○		CnR
185 練馬の家	斉藤 裕	●			●				○		●	○				4		○		Mc
46 すまい	藤木忠善	●				●			●	●					○	4	○			nCR
189 慶十公園林ﾌｫﾘｽﾄﾊｳｽ	原 広司	●				●			●		●	○				4	○			Mc
161 花小金井の家	伊東豊雄	●				●			●		●				○	4	○			nCnR
30 50坪の木造住宅	吉村順三	●				●			○	●					○	4		○		nCR
52 赤泉邸	吉阪隆正	●				●			○		●		○			4		○		CnR※
145 祖師ヶ谷の家	坂本一成	●				●			○		●	○				4		○		nCnR
53 もみの木の家	A・レーモンド他	●				○		○			●				○	4		○		nCnR
47 沢田画箱の家	清家 清	●		●○	○						●				○	5		○		C
5 名取邸	清水 一	●		●					●					○		3	○			CnR
90 谷川さんの住宅	篠原一男	●		●					●			○				3	○			Mc
152 積木の家	相田武文	●		●				●	○					○		4		○		CR
143 小篠邸	安藤忠雄	●			●				○			○				3		○		nC
98 船橋ボックス	宮脇 檀	●			●				●					○		3	○			CnR
171 影刻家の好アパート	伊丹 潤		●	●					○					○		3		○		C
136 花山第４の住宅	篠原一男		●	●○					○						○	4		○		C※
168 ﾗﾝﾄﾞｼｯﾌﾟⅡひまわり	石山修武		●	●					○○					○		4		○		C
156 イエロー・テンションの家	石山修武他		●	○					●○						○	4		○		C※
67 雪下邸	山下和正		●				○		●						○	3		○		CnR
124 上田の住宅	富永 譲		●				○				●	○				3		○		nCnR
122 石原邸	安藤忠雄		●					●	○		●				○	4		○		nCnR※
81 宮島邸	藤井博巳		●						○		●◎				○	4		▽		nCnR
70 岡君の谷	篠原一男	●			●	●					○				○	5		○		nC
48 八幡野の週末住宅	吉村順三	●			●	○					●		○			4		○		nC
115 伊東邸	渡辺豊和	●		●●	●	●					○					6		○		C
146 積木の家Ⅲ	相田武文	●			●			●			○				○	4		○		nC
191 雪中居	斉藤 裕	●			●	●●●		●		●			○			7	○			nC
50 池田山の家	吉村順三	●			●	●			○	●					○	5		○		nC
114 田川田荘	山本理顕		●			◎◎								○		3		△		Mr, R
180 馬込沢の家	伊東豊雄		●			◎◎								○		3		△		Mr, R
33 銀杏を囲む家	清家 清		●	●			○						○			3		○		C
158 梅宮邸	安藤忠雄		●								●			○		2	○			nCnR
183 清沢の家	池原義郎		●	○	●	◎	○○								○	6		▽		nC
14 住宅no20	池辺 陽		●	●●										○		3	○			Mc
17-1 住宅no.17	池辺 陽	●		●			●							○		3	○		◇	Mc
17-2 住宅no.17	池辺 陽	●		●		●	●							○		4	○		◇	Mc
102-1 上原通りの住宅	篠原一男	●				●	●							○		3	○		◇	Mc
102-2 上原通りの住宅	篠原一男	●					●						○			2	○		◇	Mc
105-1 GEH7511	鈴木 恂	●		●		●							○	○		3	○		○	Mc
105-2 GEH7511	鈴木 恂	●						●					○			2	○		○	Mc
118-1 糸島の住宅	篠原一男	●						●				○				2	○		○	Mc
118-2 糸島の住宅	篠原一男	●									●			○		2	○		○	Mc
128-1 上田邸	安藤忠雄	●						●				○				2	○		○	Mc
128-2 上田邸	安藤忠雄	●						●				○				2	○		○	Mc
150-1 笠間の家	伊東豊雄	●					●		●						○	3	○		○	
150-2 笠間の家	伊東豊雄	●				●							○			2	○		○	Mc
92-1 段象の家	相田武文		●	○					●					○		3		○	○	C
92-2 段象の家	相田武文		●	○					●					○		3		○	○	C
140-1 光格子の家	葉 祥栄	●		●		●							○			3	○		○	C
140-2 光格子の家	葉 祥栄	●		●				●						○		3	○		○	C
164-1 成城・交差点の家	早川邦彦	●		●		●			●						○	4	○		○	C
164-2 成城・交差点の家	早川邦彦		●	●									○			2	○		○	C
179-1 練馬の住宅	長谷川逸子	●		●							●○				○	4		○	◇	C
179-2 練馬の住宅	長谷川逸子		●						●○						○	3		○	◇	CR
196-1 ﾊﾈｵﾞｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ	篠原一男	●							○		●				○	3		○	◇	Mc
196-2 ﾊﾈｵﾞｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ	篠原一男		●					●					○			2	○		◇	CR

凡例）

「間室、単室、室群」の接続先　●…主室に接続
○…他の間室に接続
◎…外部を介して他から分離

「接続ﾊﾟﾀﾝ」における連合　○…連合　△…連合α　▽…連合β

「接続ﾊﾟﾀﾝ」における複合　○…複合　◇…複合α

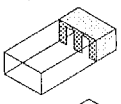
注）複数の主室を持つ作品についてここでは、２つの主室部分に分けて分析し、それぞれ作品番号の後ろに-1、-2という数字を付した。（例：17-1, 17-2）
また、主室と接続しないエントランスに※を付した。

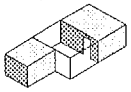
表2-3
分節パタンと分節数

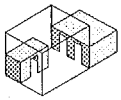
分節パタン		分節数 2	3	4	5
	複層強調	12 (3)	28	19	11
	強調	15 (5)	15 (1)	8	2
	同等	9 (1)	22 (6)	10 (1)	3
	従属	3	22 (3)	22 (2)	13

注）主室を２つ持つ11作品については、それぞれの主室部分について分析し、構成的性格が異なる場合は独立に記入した。（）内の数字はその作品数を示す。従ってここでの総数は203+11=214である。

図2-4
分節パタンと分節数の組合せ例


2分節・強調


3分節・複層強調


3分節・同等

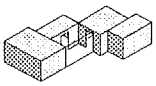
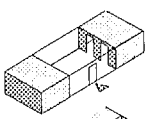

5分節・従属

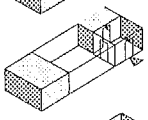
表2-4
接続パタンとエントランス

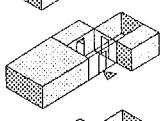
	主室入	エントランス 間室入					
		間室1			間室複数		
	Mc	C	CR	CnR	nC	nCR	nCnR
完結	70	32			17		
		5	10	17	3	4	10
連合	12	24			25		
		12 (2)	4 (1)	8 (2)	9 (1)	5	11 (2)
	8	4			4		
連合α	8	0	0	1 (1)	0	0	2
連合β	0	2 (1)	1 (1)	0	1	0	1
	12	6			0		
複合	7	3	0	0	0	0	0
複合β	5	1	2	0	0	0	0

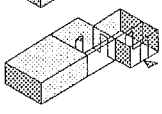
注）主室に直接接続しないエントランスを持つ作品数を（）内に示す。ここでの総数は214。

図2-5　室の接続パタンとエントランスの組合せ例


連合・主室入


連合・間室入


完結・主室入


完結・間室入

注）図では、動線となる室の天井をはずして表現した。

表2-5　室の分節と接続による構成類型

室の分節パタンと分節数

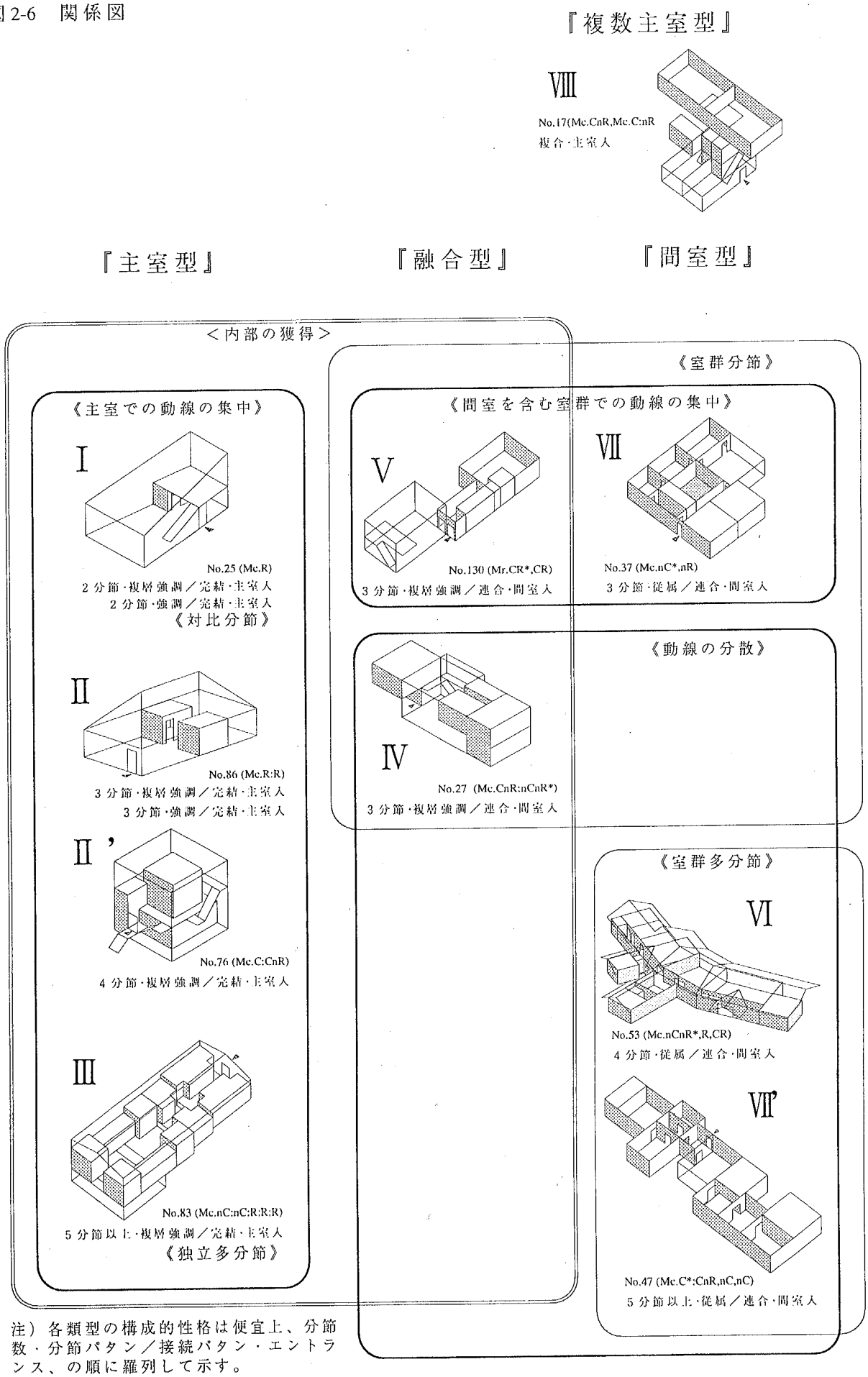
		室の接続パタンとエントランス 完結・主室入	完結・間室入	連合・主室入	連合する「室」	連合・間室入	連合する「室」
2分節	複層強調	2:Mc.CR 131:Mc.CnR 113:Mc.nCnR 25:Mc.R 201:Mc.R 181:Mc.nR 119:Mc.nR	126:Mr.CnR* 188:Mr.CnR*				
	強調	I 87:Mc.CR 40:Mc.CnR 32:Mc.CnR 29:Mc.R 7:Mc.R 12:Mc.nR 24:Mc.nR 39:Mc.nR 11:Mc.nR	61:Mr.CR* (32:Mc.CnR*)				
	同等	20:Mc.CR 21:Mc.CnR 16:Mc.CnR 195:Mc.CnR 23:Mc.nCnR	141:Mr.CnR* 120:Mr.CnR* 158:Mr.nCnR*				
	従属	41:Mc.CnR	19:Mc.nCR* 157:Mr.CnR*				
3分節	複層強調	90:Mc.C:CnR 69:Mc.CnRR:CnR 82:Mc.R:CnR 66:Mc.nR:nCnR 121:Mc.nR:nCnR 99:Mc.nCnR:nCnR 88:Mc.R:R 149:Mc.R:nR	184:Mc.C*:nCnR 79:Mc.CnR*:CnR 104:Mc.CnR*:nCnR 27:Mc.CnR:nCnR* 54:Mc.nCnR*:nCnR 117:Mc.nCnR*:nCnR 116:Mc.nCnR*:nCnR 96:Mc.R:nCnR* 203:Mc.R:nCnR* 192:Mc.R:CnR* IV 175:Mc.nR:CnR*	55:Mc.CR 167:Mc.nCnR	R nCnR	143:Mc.nC* 100:Mc.nCnR* 135:Mr.CnR* 124:Mr.nCnR* 73:Mc.nCnR* 64:Mc.nCnR* 130:Mr.CR* V	CnR R CnR nR -R -R CR
	強調	II 44:Mc.nC:R 18:Mc.nR:CnR 3:Mc.R:nCR 86:Mc.R:R 125:Mc.R:R 45:McR:nR 57:Mc.R:nR 101:Mc.nR:nR	170:Mc.C*:nCR 6:Mc.CR*:CR 72:Mc.nCR*:nCR 177:Mc.R:CnR*			163:Mc.CnR* 33:Mr.C*	R nR
	同等	14:Mc.C:C 60:Mc.CnR:CnR 84:Mc.nR:CR 95:Mc.nR:CR 139:Mc.nR:CnR	5:Mc.C:CnR* 8:Mc.CR*:CnR 98:Mc.nC:CnR* 78:Mc.nC*:nCnR 134:Mc.R:CnR*	194:Mc.CnR 114:Mr 180:Mr 190:Mr	CR -R*,-R* -R*,-R* -CnR*,-CnR*	200:Mc.CnR* 171:Mr.C*	R CnR
	従属	138:Mc.nCnR:nCnR 93:Mc.nCR:nCR 97:Mc.R:CnR 148:Mc.R:nCnR 106:Mc.nR:nR	162:Mc.CnR:nCR* 9:Mc.CnR:nCnR* 10:Mc.nC*:nCnR 165:Mc.nR:CR* 38:Mc.R:CnR*	103:Mc	-R,-CnR	37:Mc.nC* 77:Mc.nC 51:Mc.nC* 49:Mc.nCnR 107:Mc.nCnR* 137:Mc.nCnR* 67:Mr.CnR* VI 156:Mr.CnR	nR nCnR* nCnR CR* C CnR nR nCR*
4分節	複層強調	182:Mc.C:CnRCnR 76:Mc.C:C:nR 56:Mc.R:CR:CR 189:Mc.R:CnR:nCnR 111:Mc.R:nR:CnR 199:McR:nR:CnR 133:Mc.R:R:nR II'	71:Mc.R:nR:CR* 74:Mc.R:nR:CR* 28:Mc.nC:nR:CR*	91:Mc.C:nR 94:Mc:C:R 185:Mc.nC:nCnR 176:Mc.CnR:CnR 169:Mc.nR	CnR CnR CnR -CR -R,-R	132:Mc.C*:nR 145:Mc.R:nCnR* 89:Mc.C*:nCnR 202:Mc.R	R CnR nCnR -R,-CnR*
	強調	13:Mc.R:nR:nR 155:Mc.R:R:nR	42:Mc.C*:CnR:nCR 31:Mc.R:nR:CR* 36:Mc.R:nR:CR*	127:Mc.CR	-R	52:Mc.R:nCnR 48:Mc.nC*:nCnR	CnR* R
	同等	43:Mc.C:CnR:nCR 159:Mc.CnR:CR 4:Mc.R:R:CR 147:Mc.R:nR:CnR 1:Mc.nC:R:R	15:Mc.C*:R:nR 198:Mc.R:CnR*:CnR			168:Mr.C* 154:Mc.CR	CnR,CnR R,-CR*
	従属	22:Mc.R:R:R	58:Mc.C:CnR:nCnR* 153:Mc.C:R:CnR* 46:Mc.R:CnR:nCR* 161:Mc.R:CnR:nCnR* 34:Mc.nR:CR*:CnR	26:Mc.R:CnR 166:Mc.R	CR -nR,-Mr	80:Mc.C:nCnR* 178:Mc.CnR:nCR* 152:Mc.C:CR* 30:Mc.R:nCR* 146:Mc.nC*:CR 173:Mc.nCR* 53:Mc.nCnR* 110:Mc.nCnR*:nCnR 136:Mr.C 122:Mr.CR 160:Mr.CnR 81:Mr.nCnR* VII	nCnR CnR CnR CnR nCnR nCR,nCR R,CR CnR C*,CnR CnR,nCnR* CnR*,CnR CnR,-CnR
5分節 6 7	複層強調	III 68:Mc.R:R:R:nR 83:Mc.nCnC:R:R:R 186:Mc.R:R:nR:CnR 193:Mc.R:R:nR:CnR 187:Mc.R:R:R:R:CR 75:Mc.R:R:R:R:CR:Cn	174:Mc.C*:R:R:R:nR 191:Mc.nC*:R:R:R:CR:nCR	109:Mc.C:R:nR	nR,-R	144:Mc.nCR*:nCnR 197:Mc.C*:C:CR	CR,nCnR nR,CnR
5 6	強同等			59:Mc.C:CR	R,CR	142:Mc.nC 35:Mc.C*:nCR* 123:Mc.C*:nR 65:Mc.C*:R:CR:CR	C*,CnR,-R CnR,CnR R,-R CnR
5 6 7	従属			112:Mc.C 63:Mc.C:CR:CnR	R,nR,CnR nCR,nCR	62:Mc.C VII 47:Mc.C*:CnR 85:Mc.R:CR* 70:Mc.nC*:R:nR 50:Mc.nC*:R:nCR 172:Mc.nR:CR:CnR* 129:Mc.C:CnR:nCnR* 115:Mc.C*:C:nC:R 108:Mc.nC:CnR*:nCnR 151:Mc.CnC*:R:R 183:Mr.nC*	nC*,nR,CnR nC,nC C,CnR nCnR CnR CnR CnR nCnR CnR,CnR R,CnR C,nR,nR,-R

室の接続パタンとエントランス

		複合・主室入			複合・間室入		
2	複	128-1	Mc.CR		4 従	164-1	Mc.C*:R:CnR	
2	複	128-2	Mc.CR		2 強	164-2	Mr.C*	
3	同	102-1	Mc.R:nR		3 強	140-1	Mc.C*:R	
2	強	102-2	Mc.nR		3 同	140-2	Mc.C*:CR	
3	同	105-1	Mc.C:R	VIII	3 同	92-1	Mr.CnR	C*
2	強	105-2	Mc.CR		3 同	92-2	Mr.CnR	C*
2	強	118-1	Mc.CR		4 従	179-1	Mc.C*:nCnR	nCnR
2	同	118-2	Mc.nCnR		3 従	179-2	Mr.CR*	CR
3	同	17-1	Mc.C:nR					
4	同	17-2	Mc.C:R:nR					
3	従	196-1	Mc.nCnR	CnR	2 複	196-2	Mr.CR*	
2	強	150-2	Mc.R		3 従	150-1	Mc.nR:CnR*	

注）「接続パタン」において連合α・連合βは連合に含めた。複合と複合αはまとめて別表に示した。主室以外でエントランスになる「室」に＊を付した。

図2-6　関係図



注）各類型の構成的性格は便宜上、分節数・分節パタン／接続パタン・エントランス、の順に羅列して示す。

第３章　外部空間の分節と統合

第１節　　本章の目的と概要

第２節　　「建築化された外部」の設定と分析方法

2-1　「建築化された外部」

2-2　「建築化された外部」の分節による構成的性格

2-3　「建築化された外部」の統合による構成的性格

第３節　　「建築化された外部」の分節と統合

第４節　　「建築化された外部」による住宅作品の構成類型

4-1　『緩衝型』と『延長型』

4-2　『緩衝型』と『延長型』の強調・複合・融合

4-3　「建築化された外部」における《対比性》と《同質性》

第５節　　小結

第１節　本章の目的と概要

前章では一般的な部屋に対応する「室」を空間単位とする水準で、住宅作品における内部空間の分節と接続による構成形式を検討した。これは内部空間に限定して住宅の構成形式を捉えるものであった。しかし住宅作品の中には、パティオやテラスなどの外部の「室」といえる空間を住宅の全体を構成する上で重要な空間として位置付けることによって、内部空間に限定した構成では見られない空間的特徴を獲得しているものがある。そこで本章ではそれらの庭でもなく住宅の内部空間でもない、内部化された外部のようなあいまいな空間を捉えるために、建築単体の構成材によって規定された外部の空間である「建築化された外部」を設定し、これを含む住宅作品[1)]において「建築化された外部」と内部空間の関係を検討する。このことから、外部空間の分節と統合による構成類型を抽出し、それを成立させる構成的修辞を明らかにすることを通して、住宅作品の空間構成を相対的に評価する視点を確立すると共に、住宅の空間構成における内在的な構造の一端を示すことを目的としている。

本章の内容を概略すると、まず第２節において建築単体の構成材の分節がおよぶ範囲（建築の領域）の中で外部空間にならない部分を「建築化された外部」として定義し、これと内部空間との組合せ、内部空間との位相関係、「建築化された外部」を介した視線・動線の連続、「建築化された外部」を規定する構成材などから住宅作品を検討する本章の分析方法について説明し、第３節で具体的な分析結果について述べている。この結果から第４節で、これらの諸特徴の共有度を示す作品間の類似比を用いて住宅作品の構成類型を導き、それらを成立させる構成的修辞を明らかにしている。続く第５節は本章の内容を概略した本章の小結である。

第2節　「建築化された外部」の設定と分析方法

壁に囲まれた中庭、屋根やパーゴラに覆われたテラス、ピロティといった構成材の分節によって規定された外部の「室」とも言える空間は、家事や趣味のための場所として住宅の使用用途に組み込まれているだけでなく、内部空間と併存されることによって内／外の関係に基づく住宅全体の空間的な秩序形成に関わることから、空間構成による建築の意匠的観点からも重要な空間であるといえる。本章では、このような庭でもなく住宅の内部空間でもない、内部化された外部のようなあいまいな空間を「建築化された外部」として建築的に定義し、住宅全体に対するこの「建築化された外部」の分節と統合について検討する。

2-1　「建築化された外部」

まず本項では「建築化された外部」を内部空間及び住宅全体との関係において位置づける。この内部空間は前章で検討した「室」の集合である。

住宅に限らず建築の空間単位どうしの関係を捉える図式の一つに2以上の空間単位の包含関係による「内／外」の関係がある[2)]。住宅の空間の構成的性格は、住宅を構成する様々な実体の水準に偏在化するこの「内／外」の関係の重ね合わせとして捉えることができる。

一般に環境的に制御された場所は、その周囲にある環境的に制御されない場所に包含されているので、両者の間に「内／外」の関係が成立する。また、壁・屋根・柱・梁などの構成材によって物的に境界付けられ建築としての識別性を備えた領域を「建築の領域」とすれば[3)]、「建築の領域」は構成材の分節が及ばない領域に必ず包含されることから、この両者の間にも、環境制御による内部、外部の区別とは別の水準での「内／外」の関係が成立する。従って「内／外」の関係が成立する構成の水準としては、外気に接するか否かで内部空間と外部空間が分節される環境制御による水準と、「建築の領域」を規

定する構成材の分節による水準が考えられる。外気に連続する壁に囲まれた中庭、屋根やパーゴラに覆われたテラスそしてピロティなどは、この「建築の領域」の中が全て環境的に制御された内部空間になるとは限らないことを示しており、これらの場所がこの研究の主題となる「建築化された外部」である。

このことを整理すると(図3-1)内部空間は「建築の領域」に包含されるので、「建築の領域」の中で内部空間に属さない部分(ヴェン図における内部空間の補集合)が「建築化された外部」である。一つの閉じられた内部空間だけの建物では内部空間と「建築の領域」が一致して「建築化された外部」は見いだせないが、コートハウスのように内部空間と「建築の領域」が一致しないものにおいては、必ず「建築の領域」に内部空間以外の「建築化された外部」が見いだせる。つまり「建築化された外部」は、環境制御による「内/外」の関係では「外」に、構成材の分節による「内/外」の関係では「内」に属する、両義的な空間と言える。従ってこの「建築化された外部」から住宅作品を検討することによって、複数の水準に偏在化する「内/外」の関係の重なりとしての住宅の空間構成の一端を捉えることができる。

2-2 「建築化された外部」の分節による構成的性格

前項で示したように、「建築の領域」において内部空間と「建築化された外部」は、相互に図と地をなすように分節されている。また、「建築化された外部」を規定する柱や梁、壁などの構成材の違いは、そこで形成される空間や境界自体の性格に影響を与えると考えられる。このことから「建築化された外部」の分節による住宅作品の構成的性格は、「建築化された外部」と内部空間がそれぞれいくつ見られ、それらが平面的にどのような配置されるか、そしていかなる構成材によって規定されているかを検討することによって捉えることができる。

そこでまず「建築化された外部」と内部空間の数(分節数)の組合せを<分節パタン>(図3-2)として検討した。分析例(図3-4)のNo.71は

「建築化された外部」(以下「外部」と適宜簡略化する)と内部空間(以下「内部」と適宜簡略化する)に建築の領域が2分されるものであり(これを、内部1外部1と記す)、No.59は「内部」が「外部」を2分するもの(内部1外部2)、No.11は「内部」が「外部」を3分するもの(内部1外部3)である。これに対しNo.27は「外部」が「内部」を2分するもの(内部2外部1)、No.74は「外部」が「内部」を3分するもの(内部3外部1)である。またNo78は「外部」と「内部」が互いに2分されるもの(内部2外部2)である。一つながりの「外部」によって「内部」が複数に分節される住宅では、住宅内部の動線は「外部」を通ることになるが、これは「建築化された外部」を持つ住宅の特徴の1つであり、次節で「外部」の動線による統合的性格として詳述する。

次に「建築化された外部」と内部空間の平面的な配置を、「外部」による「内部」の包含、「内部」による「外部」の包含、あるいは隣接、という3つの基本的な<位相関係>によって検討する。この関係は「外部」と「内部」の接触から捉えれば、最低2辺での接触が包含、1辺での接触が隣接と見ることができるから、<位相関係>は「外部」を主とした被包含、包含、隣接と、「内部」と接する辺数によって捉えられる(図3-3)[4]。分析例(図3-4)のNo.71は「外部」が「内部」に包含され4辺で接するもの(4辺被包含)であり、またNo.59とNo.11は「外部」が「内部」に包含され、それぞれ3辺、2辺で接するもの(3辺被包含、2辺被包含)である。さらにNo.27、No.74、No78は「外部」と「内部」が隣接するものである。

さらに「建築化された外部」がいかなる構成材によって規定されるものであるかを検討する。パーゴラに覆われたテラスは、梁によって垂直方向が限定されることによって成立しており、中庭は壁やヴォリュームによって水平方向の広がりを限定されることによって成立している。このように構成材の種類とそれが限定する空間の方向性を<構成材>として、「建築化された外部」の境界の性格を捉えることができる(図3-5)。例えばNo.79は柱やフレームの強調(水平限定・線)、No.10は梁の強調(垂直限定・線)、No.55は壁の強調(水平限定・

面)、No.40は屋根の強調(垂直限定・面)によるものである。また、No.60の中庭は内部空間のヴォリュームによる水平方向の限定(水平限定・ヴォリューム)、No.80のピロティは内部空間のヴォリュームによる垂直方向の限定(垂直限定・ヴォリューム)である。

2-3 「建築化された外部」の統合による構成的性格

前項では「建築化された外部」と内部空間がどのように分節されているかについての検討を行った。それを受けて本項では、それらの分節化された空間どうしを一つの住宅としてまとめる上で重要な、視線や動線の連続による統合について検討する。

例えば「壁」によって限定された「外部」から、「内部」あるいは「建築の領域外」への視線は、その壁が透明なガラスであれば連続、コンクリートならば遮断されていると言える。このような「外部」を中心とした「内部」と「建築の領域外」それぞれに対する視線の連続、遮断の検討によって、住宅全体の<視覚的統合>を位置づけることができる[5](図3-6)。分析例(図3-7)No.26のピロティからの視線は「建築の領域外」へ連続し「内部」に対して遮断される(連続遮断)。逆にNo.37の中庭からの視線は「建築の領域外」に対して遮断され「内部」へ連続する(遮断連続)。またNo.64のフレームと屋根による「外部」からの視線は「建築の領域外」、「内部」どちらに対しても連続する(連続連続)。これとは逆にNo.35はどちらに対しても壁で遮断される(遮断遮断)。

また<分節パタン>の説明において「外部」によって複数の「内部」が動線的に結ばれる例に触れたが、この「外部」を中心とした「内部」と「建築の領域外」それぞれに対する動線によって接続される場所の検討によって、住宅全体の<動線的統合>を位置づけることができる[6](表3-1)。接続される場所については、街路や敷地内の庭園である「建築の領域外」(a)、玄関・勝手口などの出入口(e)、居間・広間・家族室などに対応し、最大の「室」である主室(m)、寝室・子供部屋・書斎などに対応する室(r)として整理した。分析例(図3-7)No.26のピロティは、「建築の領域外」と出入口を接続し(aeと表す)、No.37の

中庭は１階で主室と室、２階で室どうしが接続され、この１・２階が外部階段で接続される（mr / rr）[7]。またNo.64は「建築の領域外」と主室に加え、外部階段によって室を接続し（am/r）、No.35は主室のみと接続する（m）。

第３節　「建築化された外部」の分節と統合

前節で述べた、「建築化された外部」と内部空間による＜分節パタン＞と＜位相関係＞、「建築化された外部」を規定する壁、屋根、柱、梁、ヴォリュームなどの＜構成材＞、「建築化された外部」を介した視線や動線の連続による＜視覚的統合＞と＜動線的統合＞についての検討結果(表3-2)から、本節ではこれらの構成的性格の傾向について述べる。

まず＜分節パタン＞(総数87)を見ると、内部１外部１(47、数字は資料においてそのパタンが認められた回数を示す)をはじめ「内部」が１つのものがほとんどであるが、「外部」が１つで「内部」が複数みられる内部２外部１(10)、内部３以上外部１(5)も見られた。
＜位相関係＞では、隣接(37)が最も多く見られ、次いで２辺被包含(25)、３辺被包含(15)や４辺包含(13)などが多く見られた。
これら「建築化された外部」の分節による構成的性格では、年代的な傾向は見られない。

次に＜視覚的統合＞を見ると、「外部」からの視線が「内部」か「建築の領域外」の一方にだけ連続する、連続遮断(42)あるいは遮断連続(37)や、「外部」を介して「内部」から「建築の領域外」まで視線が連続する連続連続(25)が、多く見られた。特にこの連続連続は60年代と80年代に比較的多く見られた。

＜動線的統合＞では、建築の領域外と出入り口を接続するアプローチとしての性格を持つ「外部」(ae：51)や、主室と室を接続する私的な性格を持つ外部(mr：34)が全体を通して多く見られた。２以上の「外部」を持つ住宅作品においては、各「外部」にこの２つの動線的性格が使い分けられることが多く、それらは60年代に見られる傾向である。70年代にはこのような固定的な関係よりも、様々な機能を接続する「外部」(aer , am , amr) が見られ、80年代にはそのなかでも建築の領域外と主室または室を接続する「外部」(amr)が、複数の出入り口(e)の接続や動線の立体化などと共に多く見られた。これはアプ

ローチと私的な性格の双方を併せ持つ公／私の分節が曖昧な「建築化された外部」と考えられる。

これらを整理すると大まかな流れとして、敷地外と玄関、居間と個室といった機能的に結び付きやすい場所を視覚的に連続し、動線的に接続する「建築化された外部」が60年代に、視覚的には遮断されながらも、動線的には様々な機能を接続する「建築化された外部」が70年代に、さらに視覚的には連続し、動線的には様々な場所を接続する「建築化された外部」が80年代に、それぞれ多く見られるという傾向があることがわかる。

第４節　「建築化された外部」による住宅作品の構成類型

4-1　『緩衝型』と『延長型』

序章でも述べたように、住宅作品の構成形式として本研究が問題にするのは、特定の建築家に固有の形式というよりは、複数の作品が構成的特徴を共有することによって形成される類型的な形式である。それらは相反するものではなく、特定の建築家に固有の構成形式は類型的な構成形式の形成に関わる一方で、それとの距離によって何らかの意味を獲得していると考えられる。本論文は構成形式それぞれの意味を問題にするのではなく、それが意味を獲得するための地の成立を、類型的な構成形式とそれを成立させる構成的修辞を捉えることによって問題にするものである。この主旨に基づき本節では「建築化された外部」の分節や接続による構成的性格を総合的に検討し、この水準での住宅作品の構成類型を抽出する。前節の分析結果をもとに、構成的性格の共有度を示す作品間の類似比[8)]から住宅作品の関係図(図3-8)を作成すると、Ａ～Ｇまでの７つの作品のまとまりが得られた。本項ではこれらの作品群に共有された構成的性格の検討から、「建築化された外部」の構成類型の特徴について述べる。

まず類型Ａと類型Ｂ(図3-9)は、１つの「建築化された外部」によって成立するものであり(＜分節パタン＞が内部１外部１)作品数も多いことから基本的な構成類型であると見ることができるが、その特徴は対照的である。＜位相関係＞については、Ａは２辺被包含、隣接、４辺包含を中心に様々な＜位相関係＞によるのに対し、Ｂはほとんどが隣接と３辺被包含によるものであることから、類型Ａでは＜位相関係＞はあまり重要な特徴ではないが、類型Ｂでは「外部」が「内部」に隣接あるいは包含されることが類型の成立に重要であるといえる。＜構成材＞については、Ａが垂直限定・ヴォリュームによるピロティであるのに対し、Ｂは水平限定・面による壁に囲われた外部である。＜視覚的統合＞については、Ａが「建築の領域外」に対

して視線が連続する連続遮断であるのに対し、Bは「内部」に対して視線が連続する遮断連続である。また＜動線的統合＞については、Aが「建築の領域外」と出入口をつなぐアプローチとなるのに対し、Bは主室と室をつなぐ私的な外部になる。

つまりAの「建築化された外部」は、内に対して閉鎖的で外に対して開放的なピロティに代表されるものであり、住宅のアプローチとして「建築の領域外」と内部空間の緩衝帯となることから、『緩衝型』と言えるものである。これに対してBの「建築化された外部」は、外にたいして閉鎖的で内に対して開放的な、壁によって囲われたコートに代表されるものであり、「建築の領域外」から閉ざされることによって、内部空間を延長したような空間となることから、『延長型』と言えるものである。

4-2 『緩衝型』と『延長型』の強調、複合、融合

類型Cと類型D(図3-9)は、視線が内部空間に対してだけ連続し(遮断連続)、類型Bと類似した構成的性格を持つ。Cの「建築化された外部」は2つの向かい合う内部空間に挟まれるとともに壁(水平限定・面)によって規定され、主室と室をつなぐものである。また、Dの「建築化された外部」は内部空間を含むヴォリュームによって4方を規定されているが「建築の領域外」と動線的に接続する場合も見られるものである。しかし両者とも互いに向き合う内部空間が、「建築化された外部」を介して視覚的に連続し動線的につながれているという点で、類型Bの「内部」的な性格が強調されていると考えられることから、『延長型』の強調として位置付けられる。

類型Eと類型F(図3-9)は一続きの「内部」によって、「建築化された外部」が2あるいは3以上に分節されるものである。これらの「建築化された外部」は、Eでは内部空間に隣接あるいは2辺で接して包含され、Fでは内部空間に2辺あるいは3辺で接して包含されている。これらの類型には複数の「建築化された外部」が見られ、それぞれ先に述べた「建築の領域外」に対してだけ視線が連続する(連続

遮断)性格と、内部空間に対してだけ視線が連続する(遮断連続)性格に対応するとともに、アプローチとしての性格を持つもの(ac)と、主室と室をつなぐ私的な性格を持つもの(mr)に対応する。このことから類型Eと類型Fは、『緩衝型』と『延長型』の複合として位置付けることができる。但し、Eでは複合される「建築化された外部」がピロティ(垂直限定・壁)と壁に囲われたコート(水平限定・面)という異なる構成材で規定されており、正に組合されたものとして成立しているのに対して、Fでは壁とパーゴラ(水平限定・面+垂直限定・線)という同じ構成材の表現によって統一された「建築の領域」の中に位置付けられているという違いがある。

類型G(図3-8)では「内部」に隣接する「建築化された外部」は、フレームと屋根(水平限定・線+垂直限定・面)によって規定され、「建築の領域外」と内部空間の両方へ視線が連続し、出入口と主室・室を外部階段などの立体化した動線によってつなぐものである。従って内から外へ住宅全体を横断するように視線が連続し、公/私の区別があいまいな「建築化された外部」による構成類型であるといえる。この類型の特徴は先に述べた類型Fと同じく、内部空間と「建築化された外部」を含めた「建築の領域」全体が、統一された構成材の表現によって規定されていることであり、しかもFでは異なる「建築化された外部」によって成立していた『緩衝型』と『延長型』の性格が、Gでは一つの「建築化された外部」に融合されているということである。このことから類型Gは『緩衝型』と『延長型』の融合として位置付けられる。

通時的に見ると(表3-2)、Fは60年代に、Gは80年代以降に多く見ることができる。またAの中でも内部空間を包含し4辺で接するピロティ状の「建築化された外部」は70年代前半以前に、「建築の領域外」に対する閉鎖性が強いCは70年代以降にそれぞれ見られる。これらは第3節でまとめた構成的性格の年代的な傾向に対応する類型である。

4-3 「建築化された外部」における《対比性》と《同質性》

第2節1項で述べたように「建築化された外部」は、「建築の領域」とそれに包含される内部空間がずれることで生じる。また、「建築の領域」と「建築の領域外」における上位の内／外の分割を前提に、内部空間と「建築化された外部」における下位の内／外の分割が成立することによって、「建築化された外部」のもつ「内部のような外部空間」というあいまいな性格が生じる。しかし、全ての住宅作品に「建築化された外部」が見られるわけではないので、むしろ相対的に見れば「建築化された外部」を作るということ自体が、「建築の領域」と内部空間という２つの領域の包含関係と内／外の分割の階層化を、構成上の主題として浮上させていると見ることができる。そこで本項では「建築の領域」に内部空間が包含された図式(図3-10)を用いてこれらの構成類型を比較し、２領域の包含や内／外の分割の階層化の捉え方の違いから、構成類型を成立させる構成的修辞を明らかにする。

『緩衝型』の類型Aは、領域の包含に従って内部空間と「建築化された外部」における下位の内／外の分割に、対比的性格が与えられる一般的な在り方である。このＡ以外の類型では、内部空間と「建築化された外部」は視線も動線も連続する関係にある。

そのうち『延長型』の類型Ｂとその強調である類型Ｃ，Ｄは、「建築化された外部」が「建築の領域外」に対して視覚的・動線的に遮断されることを前提として、内部空間と「建築化された外部」の連続が図られていることに特徴がある。つまりこれらの類型では「建築の領域」と「建築の領域外」による上位の内／外の分割に強い対比的性格を持たせることによって、内／外の分割の階層を利用した、内部空間と「建築化された外部」の連続が成立している。このことからこれらの構成類型を成立させる構成的修辞は、内／外の《対比性》に基づいた修辞ということができる。

これに対し『緩衝型』と『延長型』の融合である類型Ｇは、「建築の領域外」と内部空間の双方に対して視覚的に連続し、動線的に接続

する。つまり「建築の領域」と「建築の領域外」による上位の内／外の分割と、「建築化された外部」による下位の内／外の分割のどちらにも強い対比的性格を与えることなく、同じ連続的な関係が繰り返されていると言える。従って、「建築の領域外」から内部空間までのひとつづきの連続性に対して、「建築化された外部」が差し込まれるように加えられたものと捉えることができる。このことからこの構成類型を成立させる構成的修辞は、内／外の《同質性》に基づいた修辞ということができる。先ほどの《対比性》との比較から言えば、《同質性》に基づく構成的修辞は、「建築の領域外」から内部空間までのひとつづきの空間的連続性によって、領域の包含関係による内／外の分割の階層性を打ち消そうとするものであると考えられる。

また《対比性》による類型は主に壁によって、《同質性》による類型は主に屋根＋フレームによって規定された「建築化された外部」によるものであることから、この水準の構成形式においては構成材による表現が重要な役割を果たすと言うことができる。

通時的には《対比性》に基づいた修辞は70年代を中心に、《同質性》に基づいた修辞は80年代を中心に見られ、しかも《同質性》は、《対比性》と対立する内容を持つことから、《同質性》は先行して形成された《対比性》に対する批評を含みながら形成された構成的修辞であると推察される。こうした修辞の変化は、建築家による構成形式の批評的展開ともいえるものであり、そこには建築家の内／外の分割に対する認識の変化が示されていると見ることができる。

第５節　小結

本章では、庭でもなく住宅の内部空間でもない内部化された外部のようなあいまいな空間を「建築化された外部」として建築的に定義し、現代日本の住宅作品の「建築化された外部」の分節と統合による構成的性格を検討した。そこで得られた結果から、周囲の環境に対して開き内部空間に対して閉じた性格を持つ『緩衝型』と、周囲の環境に対して閉じられた領域の中で「建築化された外部」と内部空間を連続させる『延長型』を基本的な構成形式とし、それらを強調、複合、融合するものとして位置付けられる構成類型を見ることができた。

さらにこれらの構成類型を成立させる構成的修辞として、「建築化された外部」によって構成上の主題として浮上する、「建築の領域」と内部空間という２つの領域の包含関係と内／外の分割の階層化の捉え方の違いから、内／外の分割の階層を利用した内／外の《対比性》に基づいた修辞と、内／外の分割の階層を空間の連続性によって打ち消そうとする内／外の《同質性》に基づいた修辞を明らかにした。また《対比性》による類型は主に壁によって、《同質性》による類型は主に屋根＋フレームによって規定された「建築化された外部」によるものであることから、この水準の構成形式においては構成材による表現が重要な役割を果たすことを指摘した。

また70年代の《対比性》から80年代の《同質性》への変化は、建築家による構成形式の批評的展開ともいえるものであり、そこには建築家の内／外の分割に対する認識の変化が示されていると見ることができることを指摘した。

ここで得られた結果は、「建築化された外部」を作ることが領域の包含関係と内／外の分割の階層化という構成上の主題を浮上させ、その捉え方によってこの水準での構成的修辞が成立するという、住宅の空間構成の構造的側面の一端を明らかにするとともに、住宅の設計において、既成の構成形式に対する分析と批評に立脚した構造論的なアプローチを確立するための指針を示すものと考える。

第3章注

1)本章では現代のジャーナリズムの中で代表的なものの一つと思われる「新建築」誌において、1951年から開始された年末アンケートをもとに1992年までの42年間に掲載され(なお1985年以降は住宅のみ別冊として「住宅特集」に掲載されている)、アンケートの上位に挙げられた224の住宅作品の中で「建築化された外部」を持つ80作品を分析対象として選んだ。

2)この視点に立てば、建物の内部においても2以上の空間の包含関係が見いだせれば、そこには「内/外」の関係が成立していると言うことができる。このことについては第6章で検討している。

3)本論文では、領域という概念を建築的な要素(構成材)の分節によって物的に境界付けられ、建築としての識別性を備えた場所に限定するために、これを「建築の領域」と呼ぶ。この「領域」という概念の厳密な定義をすることは、本論文が目的とするところではないが、ここでこれまでの建築計画研究で使用されてきた「領域」という概念との関係を明確にしておく。計画学の論文において「領域」という概念は、「行為のカテゴリーに対応する空間領域」[a]というように使われ、それは青木義次によれば「『自分の場所』と思える領域が存在する」という領域論の主張としてまとめられる[b]。また鈴木成文は、「領域は個人の心の中に形成されるものであるが、外界の状況に著しく規制され」、「個人の意識の中に把握され領有された空間を、その個人の「生活領域」(または単に「領域」)と呼ぶ」としている。そして「識別性」「定位性」「領有性」を生活領域の意味の3側面として掲げ、「領域の内部について考えると、それを一様のものと考えるのでなく、何らかの構造をもったものとしてとらえることができる。」と仮定し、いくつかの部分を設定することによる領域の構造化を試みている[c]。また国内外の関連文献の比較検討によって「領域」という概念の整理を行なった志水英樹は、「<場所>とは、中心をもち内部として体験される面的な広がりのある空間であり、「有限の広がりと中心性」をその特性とする<基本的構成要素>である。」とした上で、「<周域>とは、<場所>の外側にある面的な広がりのある空間、「無限の広がりと曖昧性」を特性としている。」「場所が中心を持つコスモスだとすれば、周域は曖昧なカオスであり、前者を「図」とすれば後者は「地」といえる。」「観察者、あるいは計画者の意識の志向性により伸縮することになる。」という「領域」に替わる「周域」という概念を定義し、その構造化をおこなっている[d]。「領域」という概念を構造化しようというこれらの試みは、「領域」が基本的には行為者や観察者などの主体の心理に発生するものであり、境界などの物的な環境要素がそれに影響を与えるという認識のもとに、様々な構成要素が設定される点で共通していると思われる。この主体を完全に排除して「領域」という概念を問題にすることは難しく、厳密には本論においても分析者による建築的な分節の識別性が問題にされていると言える。しかし、少なくとも境界によって規制された

心理的な意味での領域を問題にするのではなく、物的な境界そのものを問題にしているという点で、ここでの「領域」は建築の構成に即したものと言える。

4)建物の平面形状に関しては、細かな壁面の凹凸は考慮せず、矩形またはその組み合わせによる抽象化を行なった。

5)＜視覚的統合＞における連続とは、基本的には構成材の分節が垂直限定であること、水平限定であってもその素材が透明であること、部分的にでも開放されていることであり、これ以外を遮断とする。連続と遮断の間には、連続とも遮断ともとれる透視性のある素材で作られた境界における関係が考えられるが、本論ではそのようなものは遮断とした。また内部空間に完全に包含された「建築化された外部」と「建築の領域外」の関係も遮断とした。

6)接続される場所とその数から、その「建築化された外部」の使用用途が、１室に面する光庭などの限定されたものか、或いは多くの動線を収束・発散させる曖昧なものかが検討できる。

7)外部階段による立体的な動線の接続を『／』で表した。

8)類似比とは２つの作品の「建築化された外部」の分節と統合において、少なくともどちらかで見られる構成的性格の数と、共通してみられる構成的性格の数の比であり、具体的には次式で示される。類似比：r＝a/(a+b+c)

		作品B	
		○印有	無印
作品A	○印有	a	b
	無印	c	d

但し、式中の文字数a,b,cは左のクロス集計表における頻度(ここでは構成的性格の数)である。

下表の２作品を例にとると、若槻邸を作品A、シルバーハットを作品Bとした場合、作品A,Bに共通して見られる構成的性格が８、作品Aのみに見られる構成的性格が１、作品Bのみに見られる構成的な性格が２である。

従ってa=8,b=1,c=2となるので　　類似比：r＝8/(8+1+2)=0.727

類似比が１に近いほどその２つの作品間の相関関係が大きく、共通して見られる構成的性格が多いことを示す。この類似比を全ての２作品の組合わせに対して求めた相関行列から、図3-8の相関関係図を作成し、これより「建築化された外部」の構成形式を導いた。

作品番号	資料	分節パタン	位相関係							構成材		視覚的統合				動線的統合							
			被包含			隣接	包含			水平限定	垂直限定	遮—遮	連—遮	遮—連	連—連	ae	ee	am	ar	mr	rr	m	r	／
			4辺	3辺	2辺		2辺	3辺	4辺															
58	シルバーハット	□				○	○			l	p				○			○	○	○	○			
74	若槻邸	□				○	○			l	p				○					○	○			○

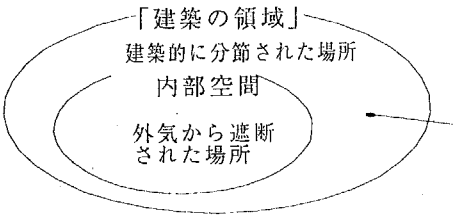
参考文献

a)金安直子、小林直人、丹治智、杉浦進：領域構成から見た積雪地域の住宅平面の比較研究,日本建築学会計画系論文報告集,第405号,P77～83,1989.11

b)青木義次、湯浅義晴：開放的路地空間での領域化としてのあふれ出し―路地空間へのあふれ出し調査からみた計画概念の仮説と検証　その１,日本建築学会計画系

論文報告集,第449号,P47～55,1993.7
c) 鈴木成文：生活領域の理念,(『建築計画』・５) 丸善 1974,P200～210
d) 志水英樹、福井通：外部空間の構成要素とその構造特性に関する研究—外部空間の空間構造　その１—,日本建築学会計画系論文報告集,第372号,P86～99,1987.2

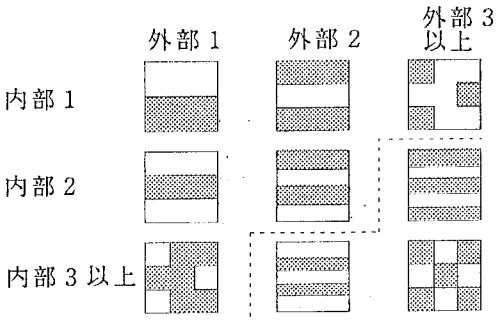
図3-1「建築化された外部」と
「建築の領域」・内部空間



「建築の領域外」
建築的な分節がない場所

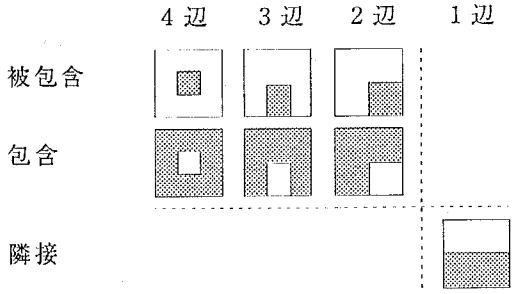
「建築化された外部」
外気に接する建築的に
分節された場所

図3-2 ＜分節パタン＞



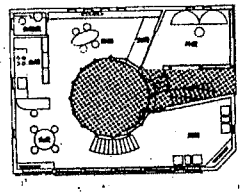
注）図は内部（白）と外部（網かけ）の数による組み合わせのパタンを示している。本文中では内部と外部の数を列記し「内部１外部１」のように記した。
なお、資料中には点線左上のパタンだけが見られた。

図3-3 ＜位相関係＞

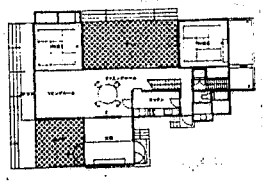


注）図は内部（白）と外部（網かけ）に２次元における位相関係と、接する辺数を示している。本文中では相接する辺数と位相関係を列記し「４辺被包含」
のように記した。

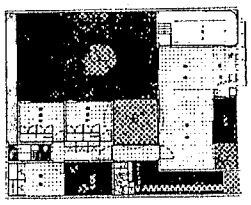
図3-4 分析例



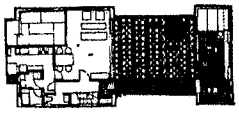
No.71 尾山台の住宅
内部１外部１
４辺被包含



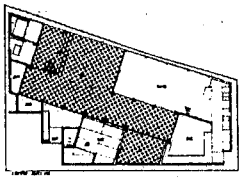
No.59 浦崎の家
内部１外部２
３辺・２辺被包含



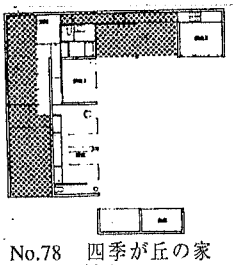
No.11 銀杏を囲む家
内部１外部３以上
３辺・２辺被包含



No.27 まつかわぼっくす
内部２外部１
隣接

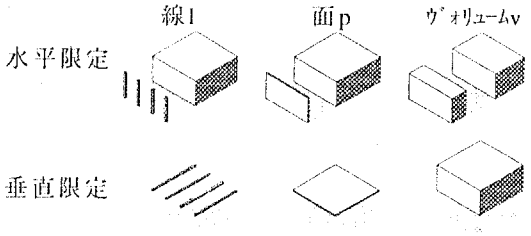


No.74 若槻邸
内部３以上外部１
隣接・２辺包含

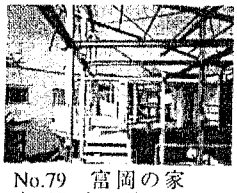


No.78 四季が丘の家
内部２外部２
隣接

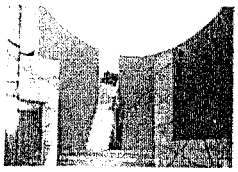
図3-5　＜構成材＞

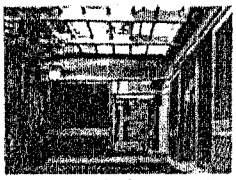


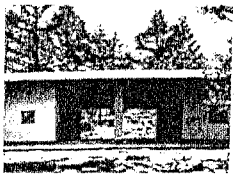
注）本文中では限定の方向と構成材を列記し「水平限定・面」のように記した。


No.79　富岡の家
水平限定・線

No.55　成城・交差点の家
水平限定・面


No.60　境界線の家
水平限定・ヴォリューム


No.10　正面のない家
垂直・線、限定・面


No.40　山川山荘
垂直限定・面

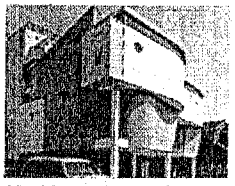
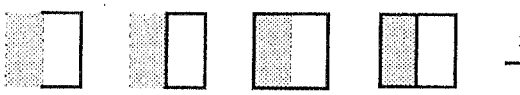

No.80　BEAN HOUSE
垂直限定・ヴォリューム

図3-6　＜視覚的統合＞



連続連続　連続遮断　遮断連続　遮断遮断

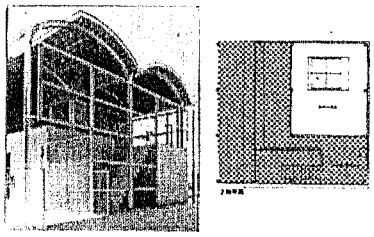
注）「建築化された外部」と「建築の領域外」及び内部空間それぞれとの＜視覚的統合＞を列記した。

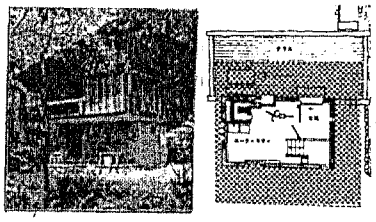
表3-1　＜動線的統合＞

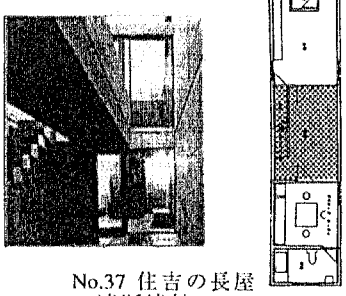
接続される場所	機能的対応・性格	記号
建築の領域外	敷地内の庭園など建築的に分節されない場所または敷地外	a
出入口	玄関、勝手口	e
主室	居間、広間、家族室	m
室	個室、主室以外の室	r

注）＜動線的統合＞は「建築化された外部」において接続される場所の記号の組合せで表記した。例えば敷地外から玄関へ至るアプローチはae、主室と個室を結ぶ中庭はmrとなる。

図3-7　分析例


No.64 馬込沢の家
連続連続・am/r


No26 軽井沢の家その1
連続遮断・ae


No.37 住吉の長屋
遮断連続・mr/rr

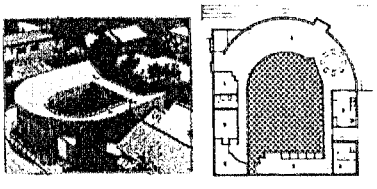

No.35　中野本町の家
遮断遮断・m

表3-2「建築化された外部」の分節と統合

作品番号	発表年月	作品名	分節パタン 内1外1	内1外2	内1外3	内2外1	内2外2	内3外1	位相関係 接包含 4辺	3辺	2辺	隣接	包含 2辺	3辺	4辺	構成材 水平限定 線	面	ﾌﾞﾚｰﾘｭｰﾑ	垂直限定 線	面	ﾌﾞﾚｰﾘｭｰﾑ	視覚的統合 遮−遮	遮−連	連−遮	連−連	動線的統合 a e	e e	a m	a r	m r	r r	m m	r r	/		類型
01	5411	住宅 NO.20		○							○								○				○		○									ae.ae	E
02	5411	久我山の家	○												○						○			○				○						ar	A'
03	5411	住宅 NO.17	○									○									○			○										ae	A'
04	5501	住居	○												○						○		○										○	a/e	A
05	5511	住宅 NO.28		○							○								○		○		○							○				ae.m	E
06A	5511	住宅試作 A	○												○						○		○										○	a/c	A
06B	5511	住宅試作 B	○									○					○							○						○				m	B
07A	5901	菊竹自邸 A	○												○						○		○										○	a/e	A
07B	5901	菊竹自邸 B	○												○				○					○						○				m	
08	6004	case study house 3	○											○							○		○											ae	A
09	6004	狛江の家	○									○									○			○							○			r	A'
10	6101	正面のない住宅			○					○	○						○		○				○	○				○	○					ae.mrr.mr.rr	F
11	6201	銀杏を囲む家			○					○	○						○		○				○	○				○	○					ae.ae.mrr.r	F
12	6201	K氏邸			○					○	○						○		○				○	○				○	○					ae.ae.mr.r	F
13	6201	西田博士の家				○					○						○		○				○	○				○	○					mrrrrr	B,C
14	6201	佐竹さんの家	○								○									○				○						○				m	
15	6203	O氏邸		○					○		○							○		○				○	○					○				m.m	E'
16	6210	正面のない家K			○				○		○						○		○				○	○			○			○				ae.rrrr.m.r	F
17	6210	ぱっこ由荘			○						○									○			○				○		○					am.ae.r	E'
18	6306	ユニットプランの家	○							○									○					○						○				m	
19	6501	沢田画伯の家			○					○							○			○				○					○	○				m.rr.r	
20	6506	塔状住居		○								○					○				○		○										○	ae.a/e	E
21	6605	浜田由の家	○												○						○		○											ae	A
22	6807	山城さんの家	○							○								○		○				○				○						am	D
23A	6901	金子邸 A	○												○						○		○											ae	A
23B	6901	金子邸 B	○							○								○						○				○	○					mrrr	D
24	6908	団らんの家ーIs邸	○							○								○						○			○	○	○					aemrrrr	D
25	7104	水無瀬の町家		○								○					○			○				○						○				ae.m	E
26	7208	軽井沢の家その1	○												○						○		○											ae	A
27	7208	まつかわぼっくす				○						○					○							○					○					mr	C
28	7307	宮島邸	○									○					○				○						○							aer	A
29A	7502	天と地の家 A		○							○						○				○			○				○						ae.mr	E'
29B	7502	天と地の家 B	○									○					○							○					○					rr	B
30	7502	5 4 の窓	○									○									○						○							aeer	A
31	7602	鴨居の家		○								○					○							○				○						am.ar	B,C
32	7606	雪が谷の住宅	○								○						○							○					○					mr	B
33	7609	船橋ボックス	○								○										○					○	○							aee	A
34	7611	代田の町家		○						○							○			○				○							○			ae.m	E,F
35	7611	中野本町の家	○						○									○				○								○				m	
36	7701	上原通りの住宅	○								○										○					○		○						aer	A
37	7702	住吉の長屋				○					○						○							○					○	○			○	mr/rr	C
38	7704	GEH7511		○					○			○						○		○				○				○	○					aer.mrr	E'
39	7802	額壁の家				○					○						○		○					○				○	○					mr	C
40	7808	山川由荘						○							○					○				○				○	○					amrrr	G'
41	7902	南湖の家	○									○					○							○				○						am	B
42	7905	石原邸	○							○							○				○													なし	B'
43	7910	MK邸				○						○	○				○							○					○					mr	C
44	8002	松谷邸				○							○				○							○				○	○					amr	C'
45	8008	対空間の家	○							○								○						○					○					mr	D
46A	8008	Yコートハウス A	○												○		○				○					○	○					○		a/ee	A
46B	8008	Yコートハウス B	○									○					○		○					○				○	○					mmrrr	B
47	8102	私たちの家		○							○	○								○				○		○				○				ae.m	E
48	8103	松山桑原の住宅			○						○	○					○			○				○			○			○				am.ae.m	E,F
49	8104	るるるる阿房			○				○		○	○									○			○		○								aer.aer.er	A'
50	8108	積木の家3		○							○	○					○				○					○				○				ae.m	E
51	8108	積木の家4	○								○						○				○					○	○							aee	A'
52	8202	経堂の住宅1980	○										○								○					○						○		a/e	A
53	8211	成城バス停前の家		○							○	○					○									○	○				○	○		ae/e.m	E
54	8211	藤井邸						○					○		○		○				○									○	○			mrr	
55	8402	成城・交差点の家	○								○						○						○			○								ae	A'
56	8404	茂木邸	○									○					○				○						○	○	○			○		ar/m/r/r	B
57	8407	ランドシップ 2 ひまわ	○													○				○				○				○	○					aer	
58	8501	シルバーハット						○			○		○			○				○								○	○	○				amrr	G
59	85春	浦崎の家		○						○	○							○	○					○				○	○					ae.mrr	E
60	85秋	境界線の家	○						○								○							○	○	○					○			aee/m	D'
61	85秋	修学院の家2			○							○					○				○				○	○		○						aemr	C
62	85冬	ギャラリーを持つ家		○								○								○					○	○					○			ae.r	
63	8609	練馬の住宅				○						○								○					○	○		○				○		a/ee.m/r	
64	8609	馬込沢の家	○									○				○				○					○		○	○				○		am/r	G
65	8702	福井・勝山の家		○							○	○					○				○				○	○					○			ae.m	E
66	8710	K邸			○					○		○						○						○	○	○				○	○	○		ace/ee.m.r	F
67	8808	ROTUNDA	○									○					○				○				○	○		○				○		aem/rrrr	G
68	8808	HAMLET						○				○		○	○		○				○				○	○					○			ace/errr/er	G
69	8809	HOUSE F 1988	○									○				○				○					○		○	○				○		ae/me	G
70	8810	糸島の住宅				○						○							○					○			○	○						amr	C'
71	8810	尾山台の住宅	○							○								○						○			○	○				○		arr/em	D
72	8902	洗足の家	○									○								○				○										ae	A
73	8905	物質試行 2 6	○								○									○				○										ae	A
74	8909	若槻邸						○					○	○		○				○									○	○			○	mrr/rr	G
75	9001	ECHO CHAMBER	○								○						○		○					○					○					mr	B
76	9008	阿品の家	○								○						○							○					○					mr	B
77	9010	織田邸	○									○					○				○						○	○						aer.mr	
78A	9110	四季が丘の家 A					○					○					○						○					○						ae.er	E'
78B	9110	四季が丘の家 B				○						○					○											○						mr	C
79	9206	富岡の住宅	○									○				○				○							○						○		a/m	G
80A	9208	BEAN HOUSE A	○												○						○				○									ae	A
80B	9208	BEAN HOUSE B	○							○								○						○					○	○					mrrr	B
			47:	15:	9 :	10:	1 :	5	11:	15:	25:	37:	6:	2:	13	8:	39:	9	13:	23:	28	2:	42:	37:	25	51:	8:	18:	20:	34:	20:	17:	8:	19		

表注）
地上階と上部階の各階に独立して「建築化された外部」があるときは、地上階を「A」上部階を「B」とした。
また複数の異なる＜位相関係＞が見られる場合は、それらを全て表記した。但し複数の「建築化された外部」を持ち、それぞれが同じ＜位相関係＞である場合には、単数の場合と同じように表した。
＜分節パタン＞においては内部を内、外部を外と略した。また内3外1は内部3以上外部1を示す。
＜動線的統合＞では図3-6で示した場所が「建築化された外部」を介して接続していることを示し、「／」は外部階段による接続を示す。各記号はa：建築の領域外、e：出入口、m：主室、r：室を示す。

図3-8　相関関係図

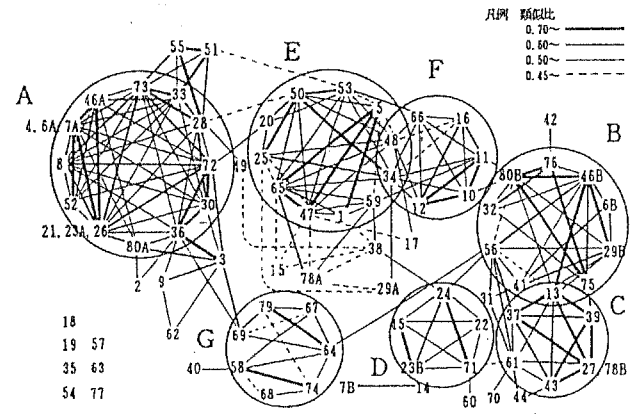
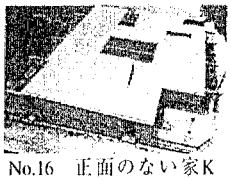


図3-9　「建築化された外部」の類型例

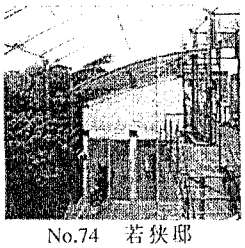
No.50　積み木の家Ⅲ

＜分節パタン＞内部１外部２
＜位相関係＞２辺被包含、隣接
＜構成材＞　水平限定・面
　　垂直限定・ヴォリューム
＜視覚的統合＞連続遮断
　　遮断連続
＜動線的統合＞ａｅ，ｍ



No.16　正面のない家K

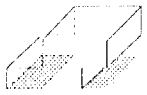
＜分節パタン＞内部１外部３以上
＜位相関係＞３辺・３辺被包含
＜構成材＞水平限定・面
　　垂直限定・線
＜視覚的統合＞連続遮断
　　遮断連続
＜動線的統合＞ａｃ，ｍｒ，ｒｒ，ｒ



No.74　若狭邸

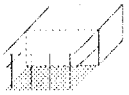
＜分節パタン＞内部１外部１
　　内部３以上外部１
＜位相関係＞隣接
＜構成材＞　水平限定・線
　　垂直限定・面
＜視覚的統合＞連続連続
＜動線的統合＞ａｍ，／（外部階段）

E



F

G



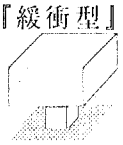
『緩衝型』と『延長型』の複合

『緩衝型』と『延長型』の融合

No.26　軽井沢の別荘

『緩衝型』

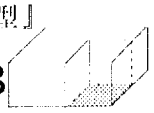
A



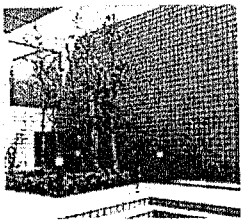
＜分節パタン＞内部１外部１
＜構成材＞垂直限定・ヴォリューム
＜視覚的統合＞連続遮断
＜動線的統合＞ａｅ

『延長型』

B

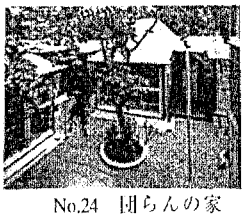


＜分節パタン＞内部１外部１
＜位相関係＞３辺被包含、隣接
＜構成材＞水平限定・面
＜視覚的統合＞遮断連続
＜動線的統合＞ｍｒ



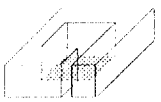
No.32　雪谷の住宅

『延長型』の強調



No.24　団らんの家

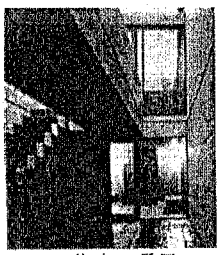
D



＜分節パタン＞内部１外部１
＜位相関係＞４辺被包含
＜構成材＞水平限定・ヴォリューム
＜視覚的統合＞遮断連続
＜動線的統合＞ｍｒ

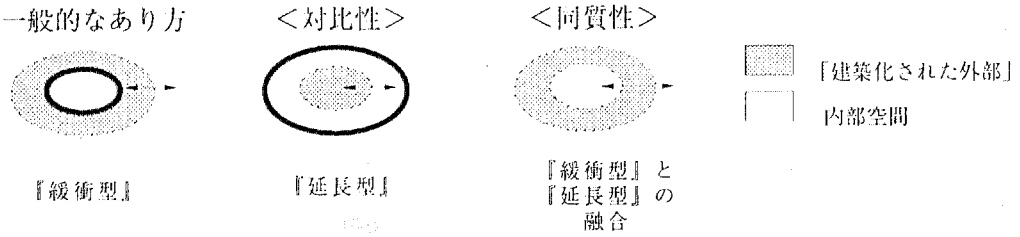
C

＜分節パタン＞内部２外部１
＜位相関係＞隣接
＜構成材＞水平限定・面
＜視覚的統合＞遮断連続
＜動線的統合＞ｍｒ



No.37　住吉の長屋

図3-10　「建築化された外部」の構成的修辞



第4章　空間の分割

第1節　本章の目的と概要

第2節　架構表現と空間の分割

2-1　架構表現の種類

2-2　空間の分割：パタンとその性格

2-3　分割の階層

第3節　空間の分割による住宅作品の構成類型

3-1　構成類型の抽出

3-2　空間の分割による構成的修辞

第4節　小結

第１節　本章の目的と概要

これまで第２章「空間の分節と接続」において具体的な内部空間の部屋に対応する「室」による構成形式を検討し、第３章「外部空間の分節と統合」において外部の部屋として建築単体の一部に設けられる「建築化された外部」による構成形式を検討してきた。これらは基本的に、内部空間と外部空間の区別を前提にした構成形式の体系である。しかし第３章において見ることができた、内部空間と「建築化された外部」が統一された架構表現のなかで成立する住宅作品においては、こうした内部／外部の区別とは異なる水準で構成単位が成立していると言える。そこで本章とこれに続く第５章、第６章では、こうした内部／外部の区別とは無関係に成立する「架構表現による構成単位」の水準での住宅作品の構成形式を検討する。まず本章「空間の分割」では、一つの「架構表現による構成単位」がその全体に対応する住宅作品について検討し、第５章「架構表現による構成単位の分節」では複数の構成単位の分節による構成形式、第６章「架構表現による構成単位の位相関係」では複数の構成単位の位相関係による構成形式を検討する。

本章では、一つの完結した「架構表現による構成単位」からなる住宅作品において、その内部の分割による構成的性格を検討することから構成類型を抽出し、それらの類型を成立させる構成的修辞を明らかにすることを目的としている。

本章の内容を概略すると、まず第２節で「架構表現による構成単位」を定義するとともに、本章における分析方法を述べている。第３節では、「架構表現による構成単位」内部の分割による構成的性格を、壁による平面方向の分割と床による断面方向の分割、内部空間の分割と内部／外部の分割によって捉え、さらに構成単位の内部そのものに対する分割と、一度分割された部分をさらに細分化する分割の違いによって生じる分割の階層と順列について検討している。この分析結果から第４節では、構成単位の分割による構成類型を導

き、それらを成立させる構成的修辞を明らかにしている。第５節は本章の内容を概略した本章の小結である。

第２節　架構表現と空間の分割

これまで住宅作品の構成形式を捉えるにあたって、第２節で「室」の分節と接続、第３節で「建築化された外部」の分節と統合について検討してきた。「室」は、一般的には居間、寝室、廊下、台所などの使用用途による部屋名を与えられている住宅内部の空間の単位であり、「建築化された外部」は外部の部屋として建築単体の一部に設けられた、いわゆる内部のような外部空間であった。しかし建築の構成形式の検討においては、こうした内部／外部の分節の水準だけでなく、それらを構成する床、壁、天井、柱、梁といった構成材の水準も重要である。この構成材の水準は、「建築化された外部」の水準でその境界を規定するものとして部分的に検討されているが、それは内部／外部の区別を前提としたものであった。しかし、この構成材が組合さった架構表現によって分節される空間のまとまりは、こうした内部／外部の区別とは無関係に成立し、その両者を一つの架構表現によるまとまりのなかに共存させることも可能である。

この空間の単位を「架構表現による構成単位」として設定した住宅作品の構成形式の検討においてまず問題になるのは、各住宅作品を構成する「架構表現による構成単位」の数である（図4-1）。複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品では、架構表現の組合せや、構成単位間の位相関係が生じる。また、各構成単位の内部は、さらに床や壁によって分割される。しかし「架構表現による構成単位」が一つしか見い出せない住宅作品では、その内部の分割そのものが住宅全体の構成形式となる[1)]。

そこで本章では「架構表現による構成単位」による住宅作品の構成形式の検討の手始めとして、単独の構成単位からなる住宅作品を資料に、構成単位の分割による構成形式を明らかにする。単独の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品は、資料全体[2)]の約４分の１を占める61作品であり、そこには50年代、60年代を代表する住宅作品が多く含まれている。このことから、この構成単位の分割によ

る構成形式は、住宅建築の構成形式に関する基本的な視点を形成するものと言える。

2-1　架構表現の種類

「架構表現による構成単位」の分割を検討する前に、構成材の組合せによる架構表現の種類を検討する(図4-2)。住宅作品における架構表現は、箱型、家型[4]という構成単位の外形と、構成材の表現が見られない「無分節」を含めた柱梁、屋根、壁、床といった構成材の表現[3]によって捉えることができる。例えば分析例(図4-3)の構成単位の外形はフラットルーフなので箱型であり、その中庭における表現から構成材は壁と見ることができる。全資料をこの架構表現について分析した結果、構成材の分節が見られない箱型の架構表現が最も多く(13作品、以下かっこ内の数字は作品数を示す)、次いで家型で屋根(7)あるいは屋根と柱梁の分節が強調される架構表現(11)、家型で構成材の分節が見られない架構表現(6)などが多く見られた。

2-2　空間の分割：パタンとその性格

次に、これらの架構表現によって分節された空間単位内の分割を検討する。構成単位を２つに分割するにしても、その分割を成立させる構成材が床なのか壁なのか、またそれが直線的な分割か、かぎ型の分割かによって異なる空間が生じる。このことを、壁と床および分割線となる辺の数と分割で生じる空間の数の組合せによる分割パタン[5]として捉える(図4-5)。このとき壁の素材、高さ、可動性、形態などについては、図4-4で示すように抽象化して捉えることとする。さらにこれらの分割が、内部空間に対するもの(内部分割)なのか、内部空間と外部空間の分割(内外分割)であるかを、分割の性格として捉える。

また、構成単位そのものに対する分割と、それによって生じた部分に対する細分割の違いから、構成単位の分割に階層が生じる。構成単位そのものに対する分割を１次分割、それによって生じた部分

に対する細分割を２次分割、さらに２次分割によって生じた部分に対する細分割を３次分割と呼ぶことにすると、１次から３次までの分割の階層によって分割パタンや分割の性格の順列が成立する。例えば分析例(図4-3)は、全体がまず中央の中庭とその両側の内部空間に壁によって分割され(１次分割：W11、内外分割)、この内部空間がおのおの床によって上下２層に分割され(２次分割：S1、内部分割)、さらにこの内１つの下層部分が壁によって分割されている(３次分割：W1、内部分割)と見ることができる。

この分割パタンや分割の性格、および分割の階層について資料を分析した(表4-2)。１次分割だけで全体が構成されるものは５作品、２次分割だけが６作品見られ、ほとんどの作品が３次まで分割されている。しかし３次分割においては床による分割は５作品に見られるだけで、他は全て壁による分割である。従って３次以上の分割パタンにはあまり特色がないと判断されることから、2次分割までを問題にすることで分割パタンの順列の特徴を検討する。

まず分割パタンの順列について見ると、１次、２次共に壁によって分割されるもの(以下１次、２次の順に壁－壁と記す)が最も多く見られるが(20作品)、これらはNo.165を除いてすべての作品が平屋である。また２層以上の住宅作品における分割パタンの順列として、床で分割された空間をさらに壁で分割する床－壁(17作品)、壁で分割された空間をさらに床で分割する壁－床(13作品)が、２つの大きなあり方として見られた。

次に分割の性格の順列を見ると、１次、２次共に内部分割であるもの(以下１次、２次の順に内－内と記す。なお内部分割を内、内外分割を外と略す。)が最も多く見られ(35作品)、そのほか外－内(10作品)、内－内・外(4作品)、外－外(3作品)、外－内・外(3作品)、内－外(１作品)が見られた。このように１次分割が内部分割である場合に２次分割も内部分割になる場合が多いことから、１次の分割の性格は住宅作品の構成形式の成立において特に重要であると考えられる。

2-3　分割の階層

前項で述べた１次から３次までの空間の分割は、樹形図を用いることによって分割の階層として表すことができる。分析例(図4-6)のように、壁による１次分割によって生じた２つの内部空間と１つの外部空間は、内部空間だけが床によって２次分割されるが、外部空間は２次分割されないまま残される分割の階層は、１次分割で３つに分岐した枝の１つに、２次分割による分岐が生じないことによって表記できる。すべての作品について分割の階層(以下、階層型)を図示し(表4-3)、その２次分割までの特徴を検討すると、１次分割だけで全体が構成されるもの(ア：５作品)、１次の２分割で生じた片方の空間が２次分割されないもの(イ：20作品)、１次の３分割で生じた空間のうち少なくとも１つが２次分割されないもの(ウ：14作品)、１次の２分割で生じた空間の両方がさらに２次、３次分割されるもの(エ：15作品)、１次の３分割で生じた空間がすべて２次、３次分割されるもの(オ：7作品)という５種類の階層型を見ることができた。このなかで、エとオでは、１次分割で生じた各空間がさらに２次分割され、分割の階層型が対称になるのに対し、イとウでは１次分割のまま残された空間と、２次、３次と細分化される空間が対比されて分割の階層型が非対称になる。この分割の階層型の非対称は、分割によって生じた空間どうしの非対象な関係として捉え直すことができ、１次分割のまま残された空間は、全体の構成を規定する１次分割を表象するものと考えられる。

第３節　空間の分割による住宅作品の構成類型

3-1　構成類型の抽出

前節では、架構表現、分割のパタン、分割の性格、分割の階層の各側面における分析を行った。本節ではこれらの各側面の重なりから、住宅作品の統合的な性格について検討することによって、空間の分割による住宅作品の構成類型を抽出する。そのために前節で導いた、１次、２次共に壁による分割(壁－壁)、１次が壁で２次に床による分割を含むもの(壁－床、壁－床・壁)、１次が床で２次が壁による分割(床－壁)(床－床２作品を含む)という分割パタンの順列と、ア～オまでの分割の階層型を２軸とするマトリクスに、各作品を分割の性格と架構表現とともにプロットし(表4-4)、Ａ～Ｊの作品群を構成類型として抽出した。以下に、これらの作品群に共通する構成的性格から各類型の特徴を見る。

類型Ａは屋根の分節が強調された家型の平屋の内部が壁によって１次分割されただけのものである。類型Ｂは壁と柱・梁の分節が強調された箱型の平屋の全体が、１次で壁によって内部と外部に二分割され、さらにこの内部空間が壁で２次分割されることで、分割の階層型が非対称になるものである。１次において類型Ｃは二分割、類型Ｄは三分割されるが、共に屋根の分節が強調された家型の平屋の内部が１次２次ともに壁で分割される、階層型が対称になる構成である。１次分割において類型Ｅは二分割、類型Ｆは三分割されるが、共に構成材の分節がない箱型の構成単位に対する壁の１次分割で生じた空間のうちのいくつかが、さらに床によって２次分割されて階層型が非対称になる構成である。類型Ｇは、主に箱型の構成単位が壁の１次分割で内部と外部に分割され、この内部空間がさらに床で２次分割されることで、分割の階層型が非対称になるものである。類型Ｈは家型の構成単位が１次で内部分割されるのに対し、類型Ｉは箱型の構成単位が内外分割されるが、共に床の１次分割で生じた２つの空間の片方が、主に壁によって２次分割されることで階

層型が非対称になるものである。類型Ｊは箱型の構成単位に対する床の１次分割で生じる２つの空間が、ともに２次で壁によって分割され階層型が対称になるものである。

3-2　空間の分割における構成的修辞

次に前項で抽出した構成類型を比較し、複数の類型に共通する修辞的傾向を見ることで、構成類型を成立させる構成的修辞を明らかにする(表4-7)。

まず類型Ｂ，Ｅ，Ｆ，Ｇ，Ｈ，Ｉなどの階層型が非対称になる類型では、第２節３項でも述べたように、１次分割で生じた空間のうち２次以降分割されない空間と２次３次と細分割される空間が対比されることで、空間どうしに強いヒエラルキーがもたらされる。従ってこれらの類型を成立させる構成的修辞は＜ヒエラルキー分割＞といえるものである。これに対して階層型が対称になる類型Ｃ，Ｄ，Ｊでは、１次分割で生じた空間がすべて２次以降も分割され、空間どうしにヒエラルキーが生じない。従って１次分割しか見られない類型Aも含めてこれらの類型を成立させる構成的修辞は＜均衡分割＞といえるものである。

また構成単位が２層以上のヴォリュームを持つ場合には、１次と２次の分割のパタンの順列が、全体の構成を大きく左右する。まず、１次が壁、２次が床による分割である類型Ｅ，Ｆ，Ｇでは、架構表現による構成単位をまず壁で分割し、さらに分割された部分の空間を上下の層に分割するものであり、１次の壁による分割が結果的に２層にまたがる。従ってこれらの類型を成立させる構成的修辞は＜複層分割＞といえるものである。これに対し１次が床、２次が壁による分割である類型Ｈ，Ｉ，Ｊでは、架構表現による構成単位がまず床で上下の層に分割され、さらに各層が別々に壁で分割されることから、これらの類型を成立させる構成的修辞は＜上下分割＞といえるものである。

さらにほとんどの作品が内部分割だけで構成されている中で、１

次で内外部、２次で内部を分割する類型Ｂ，Ｇ，Ｉにおける分割の順序は注目に価する。これらの類型には箱型の架構表現など他にも共通した特徴があるが、この類型を成立させる最も重要な構成的修辞は＜１次内外分割＞といえるものである。

さらに、分割の階層における＜ヒエラルキー分割＞・＜均衡分割＞、分割パタンにおける＜複層分割＞・＜上下分割＞、分割の性格における＜１次内外分割＞という５つの構成的修辞の重なりによって、空間の分割による住宅作品の構成類型を位置付けると(図4-7)、＜ヒエラルキー分割＞と＜複層分割＞の重なりである類型Ｅ，Ｆは、いわゆる『吹き抜け型』の構成であり、＜ヒエラルキー分割＞と＜上下分割＞の重なりである類型Ｈは、２階部分が２次以降分割されない内部空間になる、いわゆる『ピアノノビレ型』の構成となっている。また＜ヒエラルキー分割＞と＜上下分割＞に加えてさらに＜１次内外分割＞が重なる類型Ｉは、１階部分が外部空間になる、いわゆる『ピロティ型』の構成となる。さらに＜ヒエラルキー分割＞と＜１次内外分割＞が重なり、さらに壁によって１次分割される、あるいは＜複層分割＞が重なる類型Ｂ，Ｇは、２次以降分割されない壁が強調された外部空間を持つ、いわゆる『コートハウス型』の構成となる。

このような特徴的な構成類型は、＜ヒエラルキー分割＞と分割パタンによる様々な構成的修辞が重なって成立している。このことは、１次分割によって生じる上／下、複層／単層、内部／外部といった空間的な対比が、分割の階層化によって完結した全体の内部に作り出されたヒエラルキーによって強調され、結果として強い空間的な対比が作られることによって、これらの類型が成立していると見ることができる。従ってこの完結した全体において強い空間的な対比を作り出すことは、空間の分割による構成形式における一つの重要な構成上の主題と言うことができる。

第4節　小結

本章では、単独の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品を資料に、構成単位内の分割による構成的性格や、分割の階層性についての検討を行い、空間の分割による構成類型として、『吹き抜け型』、『ピアノノビレ型』、『ピロティ型』、『コートハウス型』などを導いた。そしてこれらの類型は、構成単位自体の分割に関する＜複層分割＞、＜上下分割＞、＜1次内外分割＞などの構成的修辞による空間的対比が、分割の階層性に関する＜ヒエラルキー分割＞という構成的修辞によって強調されることによって成立するという、構成形式の構造の一端を明らかにした。またこれらの構成的修辞による完結した全体において強い空間的な対比を作り出すことが、空間の分割という水準における一つの重要な構成上の主題として見い出せることを指摘した。このことを踏まえて次章以降では、複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品の構成形式を検討する。

第4章の注

1)「架構表現による構成単位」そのものは「室」や「建築化された外部」に必ずしも対応するものではないが、構成単位内の分割によって得られる空間はそれらに対応すると考えられることから、本章で問題にする分割の在り方が、「室」のヒエラルキーを生じさせると考えることもできる。

2)現代の建築ジャーナリズムのなかで代表的なものの一つと思われる「新建築」誌において、1951年から開始された年末アンケートをもとに1994年までの44年間に掲載され(なお1985年以降は住宅のみ「住宅特集」に掲載されている)、アンケートの上位に挙げられた222の住宅作品を資料として選定している。

3)建築の構成として表現されているということは、例えば柱と梁の分節に関して言えばそれが視覚的にも表現されているということであり、壁の中に隠された柱と梁は表現されているとは言えない。

4)ここでいう家型とは、屋根面が傾斜したものであり、必ずしも構成材としての屋根の分節を前提としたものではない。

5)断面方向に対する分割のパタンが分割線の辺数を問題にしないのは、壁とその上の床を2辺とする分割線が形成される場合は、そこに壁と床の架構表現によるひとまとまりの空間が分節化され、それをもう一つの架構表現による構成単位と見るためである。

図4-1
架構表現による構成単位

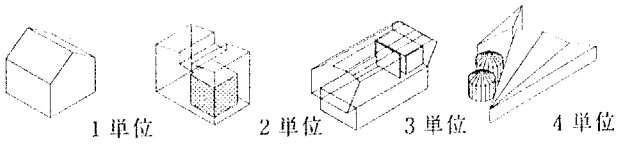


図4-2　架構表現

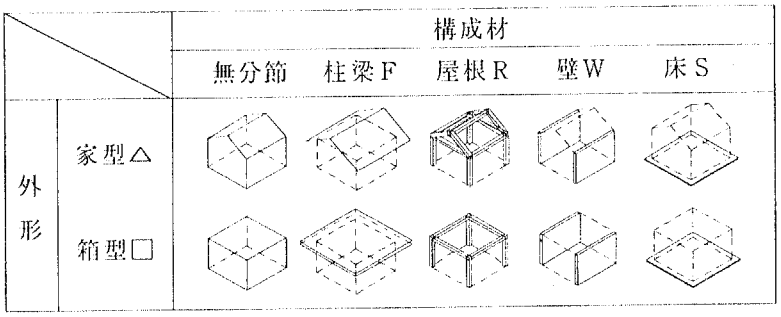
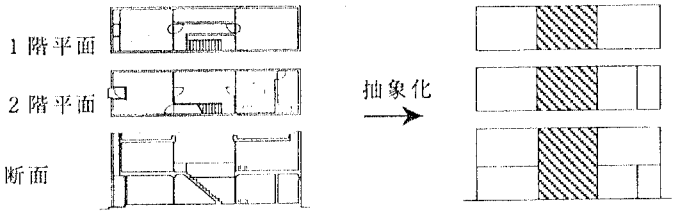


図4-3　分析例

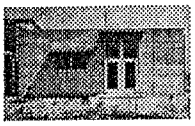


No.99　住吉の長屋　架構の形：箱型□　構成材：壁W

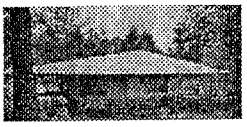
注）ハッチングは外部空間を示す。

表4-1　架構表現の集計

架構の形	構成材	作品番号（表3による）
□		45,64,65,68,70,81,84,93,102,123,137,196,203
□	F	21,127,168,205,213
□	F,W	125
□	R	163
□	R,F,W	37
□	R,W	11
□	S	27,54,69
□	W	99,101
□	W,F	32,34
△		76,80,106,112,174,189
△	F	16,118
△	R	3,7,22,26,42,58,77
△	R,F	10,15,19,31,35,39,43,150,182,188
△	R,F,S	191
△	R,W	6,18,24,46,87
△	R,W,F	33

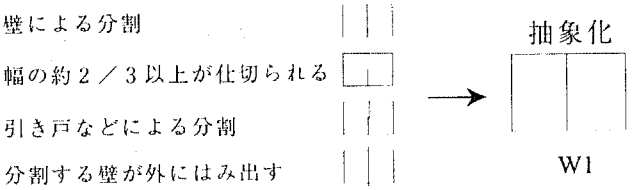


No. 102 上和田の家
□：箱型、無分節



No. 39　ぼっこ山荘
△RF：家型、屋根柱梁

図4-4
空間の分割の抽象化
（平面方向）



注）平面方向では、可動間仕切りや、引き戸による分割が考えられるが、それらも壁による分割と見なす。断面方向では床以外の要素による分割は考慮しない。

図4-5　分割パタンと分割の性格

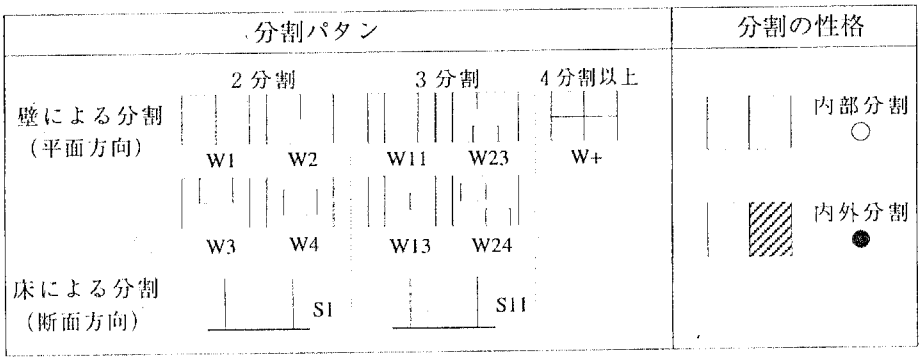


図4-6　分割の階層

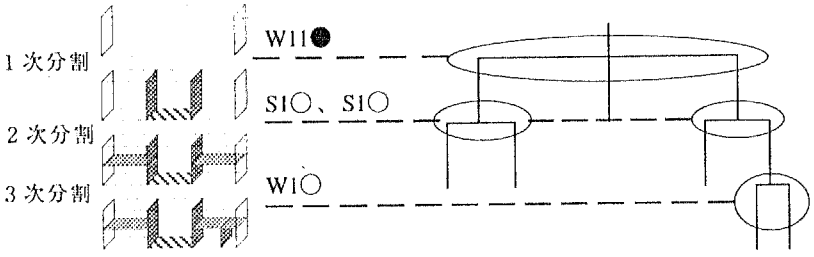
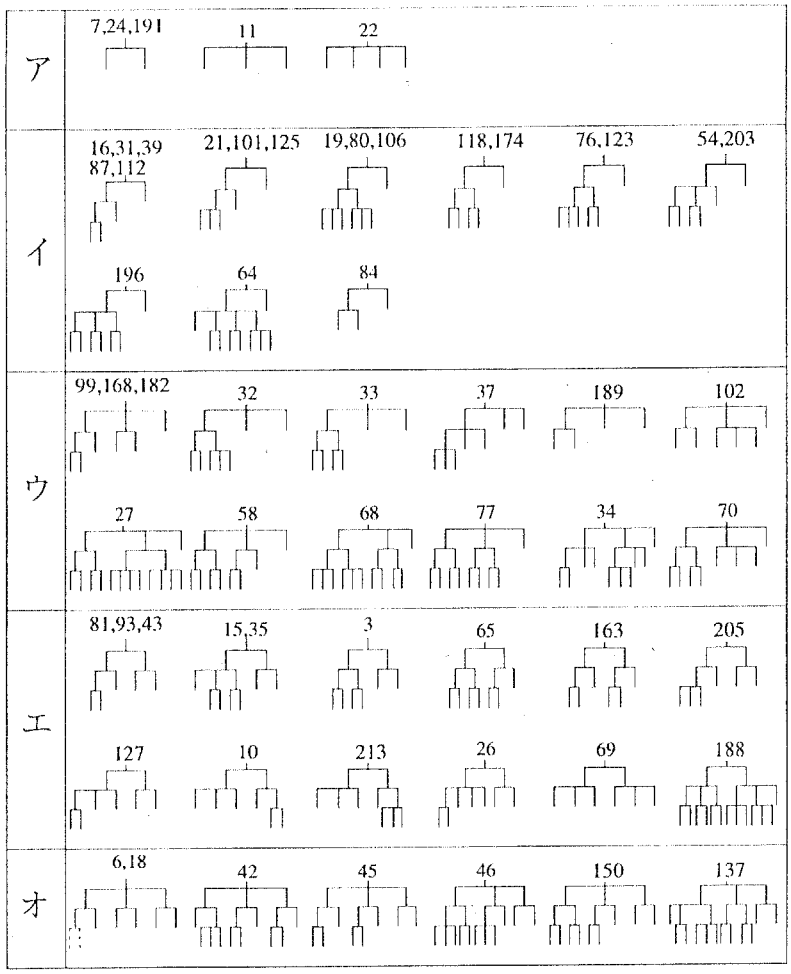


表4-2　架構表現と分割パタン・性格

No.	竣表年月	作品名	建築家名	形	構成材	分割パタン	階層
7	195305	正方形の家	番匠屋堯二	△	R	W3○	ア
11	195311	宮城教授の家	清家　清	□	R,W	W23○	ア
22	195609	小平の家	白井晟一	△	R	W223○	ア
24	195703	私の家	清家　清	△	R,W	W1○	ア
191	199007	PLATFORM2	妹島和世	△	R,F,S	W1●	ア
43	196404	土間の家	篠原　一男	△	R,F	W1○ W1○　W2○	エ
69	197205	MOV山荘	山下和正	□	S	W1○ S11○　S11○	エ
84	197504	山中湖の別荘	内田　繁	□		W1○ W2○	イ
6	195302	斎藤助教授の家	清家　清	△	R,W	W13○ W1○　W1○　W1○	オ
102	197706	土和田の家	伊東豊雄	□		W11○ W11○　W1○	ウ
189	199003	緑ヶ丘の住宅	内藤　廣	△		S11○ W1○	ウ
16	195411	稲村隆正の家	増沢　洵	△	F	S1○ W1○ W1○　W11○	イ
19	195501	住居	片下健三他	△	R,F,	S1● W4○ W11○　W11○	イ
21	195511	吉阪自邸	吉阪隆正	□	F	S1● S1○ W4○	イ
31	196004	狐江の家	篠原　一男	△	R,F,	S1○ W1● W1○	イ
39	196010	ばっこ山荘	生田勉他	△	R,F	W4● W1○ W2○	イ
76	197302	ダリーオフィス1	宮脇　檀	△		S1○ W1○ W1○　W11○	イ
80	197402	成城の住宅	篠原　一男	△		S1○ W1○ W11○　W11○	イ
87	197510	谷川さんの住宅	篠原　一男	△	R,W	W1○ S1○ W1○	イ
101	197704	GEH7511	鈴木　恂	□	W	W4● W2● W22○	イ
106	197807	愛鷹裾野の住宅	篠原　一男	△		W1○ S1○ W4○　W4○	イ
112	197902	坂田山附の家	坂本　一成	△		S1○ W3○ W1○	イ
118	197912	銀舎	白澤宏規	△	F	W1○ S1○ W1○　W1○	イ
123	198008	鏡之間	仁嶋毅職	□		W1○ S1○ W2○　W23○	イ
125	198008	Y-ハウス	葉　祥栄	□	F,W	S1● W1● W11○	イ
174	198810	尾山台の住宅	長谷川逸子	△		W3● S1○ W1●　W1○	イ
3	195205	竹田教授の家	清家　清	△	R	W3○ S1○　W1○ W1○　W1○	イ
10	195309	神代邸	A・レーモンド	△	R,F	W1○ W2●　W11○ W2○	エ
81	197502	黒の家	伊丹　潤	□		S1○ W1○　W1○ W1○	エ
93	197609	緑が丘の家	長谷川逸子	□		S1○ W1○　W1○ W1○	エ
205	199206	日本橋の家	岸　和郎	□	F	S1○ W1●　W1● S11○　S11●	エ
213	199301	星雲庵	元倉真琴他	□	F	W2○ S1●　S11○ S1○	エ
54	196506	塔の家	東　孝光	□	S	S1● S1○ S1○　W1●	イ
196	199102	上京の家	岸　和郎	□		W1● S11○ W1○　W2○　W2○	イ
203	199202	好日居	斎藤　裕	□		W2○ S11○ W2○　W2○	イ
32	196001	銀杏を囲む家	清家　清	□	W,F	W22● W1○ W12●　W2●	ウ
33	196001	K氏邸	坂倉大阪	△	R,W,F	W22● W1○ W1●　W1○	ウ
70	197207	海の階段	篠原　一男	□		W11 S1　W11 W1　W2	ウ
99	197702	住吉の長屋	安藤忠雄	□	(W)	W11● S1○　S1○ W1○	ウ
168	198710	KIM HOUSE	岸　和郎	□	F	W11● S1○　S1○ W11○	ウ
182	198908	Transit	石田敏明	△	R,F	S1○ W1○　W1○ W1○	ウ
15	195411	久我山の家	篠原　一男	△	R,F	S1● W11○　W2● W1○　W1○	エ
35	196001	笹竹さんの家	清家　清	△	R,F	W1○ W11○　W1○ W1○　W1○	エ
65	197102	豊口邸	山下和正	□		S1○ W1○　W1○ W1○　W1○　W1○	エ
127	198008	小金井の家	伊東豊雄	□	F	S1○ W12○　W2○ W1○	エ
163	198702	福井・勝山の家	伊東　孝	□	R	W1○ W1○　W1● W1●　S1○	エ
18	195411	数学者の家	清家　清	△	R,W	W11○ W1○　W2○　W3○ W1○	オ
64	197101	未定の家	篠原　一男	□		W4○ S1W1○ W1○　W11○　W2●	イ
27	195801	岩渡邸	堀口捨己	□	S	W11○ S1○　S1○ W4○　W4○　W1○　W1●	ウ
37	196210	正面のない家K	坂倉大阪	□	R,F,W	W11● W34● W4○	ウ
58	196807	鈴庄さんの家	篠原　一男	△	R	W11○ W1○　W1　○ W1○　W1○　W2○	ウ
68	197202	同相の谷	篠原　一男	□		W11○ W2○　S1○ S1○　S1○　W11○　W11○	ウ
77	197305	清原邸	高須賀晋	△	R	W11○ S1○　S1○ W1○　W1○　W1○　W1○	ウ
26	195801	山荘 佐伯邸	谷口吉郎	△	R	W1● W111○　W2● W1○	エ
188	199001	U氏邸	高須賀晋	△	R,F,	W1○ W1○　W11○ W2○　W2○　W11○	エ
45	196501	すまい	藤本忠雄	□		S11○ W1○　W1○　W1○ W1○　W1○	オ
46	196501	沢田両館の家	清家　清	△	R,W	W11○ W1○　W1○　W1● W11○　W1○　W11○	オ
150	198502	雲伴居	白井晟一	△	R,F	W11○ W1○　W2●　W1○ W2○　W2○　W2○	オ
34	196001	西田博士の家	清家　清	□	W,F	W11● W22●　W11○ W23○　W1○	ウ
42	196404	大屋根の家	篠原　一男	△	R	W11○ W1○　W3○　W2○ W1○　W11○　W1○	オ
137	198109	高圧線下の住宅	篠原　一男	□		S11○ W11○　W1○　W3○ W1○　W1○　W1○　W1○	オ

注）　複数の構成材の分節の強調は、「R,W(屋根と壁)」と列記した。また各作品の行は分割の次数を、列は分割数を示し、／は分割されない空間を示す。架構表現の記号は表１、分割パタンの記号は表２、階層の記号は表４による。

表4-3　分割の階層



表注）表中の数字は作品番号を示す。

表4-4　分割パタンの順列と階層

順列 階層	W-W (W)	W-S (W-S,W)	S-W (S-S)
		凡例）分割の性格：○内部分割、●内外分割、◎内部分割と内外分割が共に見られる 架構の形　：△家型、□箱型 構成材　：F柱梁、R屋根、W壁、S床	
ア	7 ○ △ R 11 ○ □ R,W 22 ○ △ R 24 ○ △ R,W 191 ● △ R,F,S A		
イ	84 ○○ □ 39 ●○ △ R,F 101 ●● □ W	87 ○○ △ R,W 106 ○○ △ 118 ○○ △ F 123 ○○ □ 64 ○○ □ 203 ○○ □ E 174 ●○ △ 196 ●○ □ G	16 ○○ △ F 31 ○◎ △ R,F 76 ○○ △ 80 ○○ △ 112 ○○ △ I 125 ●● □ W,F 19 ●○ △ R,F 21 ●○ □ F 54 ●○ □ (S) H
ウ	58 ○○ △ R 102 ○○ □ 32 ●○ □ W,F 33 ●○ △ R,W,F 34 ●◎ □ W,F 37 ●● □ R,W,F B	27 ○○ □ S 77 ○○ △ R 70* ○○ □ 68* ○○ □ F 99 ●○ □ W 168 ●○ □ W,F G	182 ○○ △ R,F 189 ○○ △
エ	43 ○○ △ R,F 35 ○○ △ R,F 163 ○◎ □ R 10 ○◎ △ R,F 188 ○○ △ R,F 26 ●○ △ R C	3* ○○ △ R 69 ○○ □ (S) 213 ○◎ □ F	65 ○○ □ 81 ○○ □ 93 ○○ □ J 127 ○○ □ F 205 ○● □ F 15 ●◎ △ R,F
オ	6 ○○ △ R,W 18 ○○ △ R,W 42 ○○ △ R 150 ○◎ △ R,F 46 ○◎ △ R,W D		45 ○○ □ 137 ○○ □

注）表中の数字は作品番号を示し、作品番号に付した＊は、W-S,W（２次分割において床による分割と壁による分割が共に見られる）であることを示す。また作品番号の後に、１次分割と２次分割の分割の性格と、構成単位の架構表現を列記する。２以上の空間に２次分割が見られる階層ウ、エ、オにおいては、２次分割の性格は、それらの組み合わせとしての表現となっている。

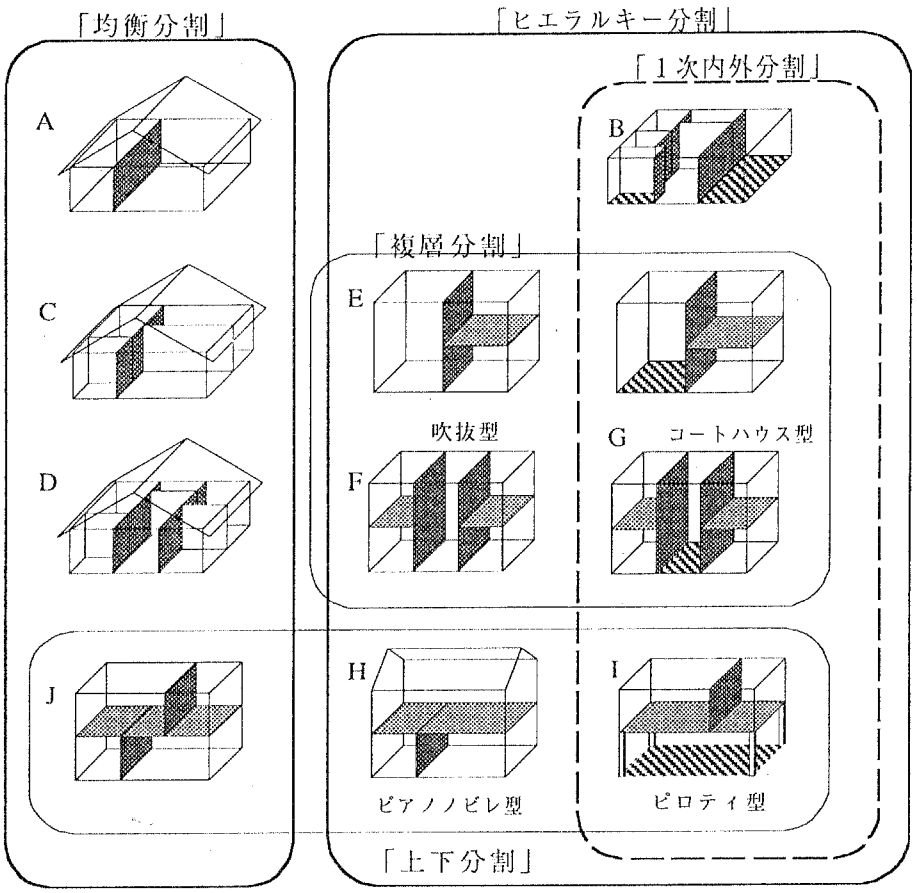


図4-7
空間の分割における構成的修辞

第５章　架構表現による構成単位の分節

第１節　　本章の目的と概要

第２節　　架構表現による構成単位

2-1　架構表現の種類

2-2　架構表現の組み合わせによる差異と類似

第３節　　架構表現による住宅作品の構成形式

3-1　構成類型の抽出

3-2　架構表現による住宅作品の構成的修辞

第４節　　小結

第1節　本章の目的と概要

単独の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品を資料に、構成単位内部の分割による構成形式を検討した第4章に続き、本章では複数の構成単位からなる住宅作品の構成形式を検討する。前章でも述べたように、複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品の構成形式は、架構表現の組み合わせによる範列的水準と構成単位の位相関係による統辞的水準で捉えることができる。本章ではこのうち架構表現の組合せによる構成形式を検討している。

「架構表現による構成単位」の集合として住宅作品を捉えると、各構成単位は同じ架構表現によって分節されていることもあれば、異なる架構表現によって分節されていることもある。この架構表現の組合せによってもたらされる統一感や対比的性格は、住宅全体を統合する秩序の形成に関わっていると考えられる。また異なる架構表現を組合せることによって構成単位間に差異を作ることは、住宅全体に対する各構成単位の位置付けを示すことにもなると考えられる。例えば4単位からなる住宅作品で、1単位だけ異なる架構表現を与えられるならば、その単位は他から別格であると見ることができる。また2単位づつ同じ架構表現を与えられているならば、住宅全体は均衡する2つの構成単位のグループによって構成されていると見ることができる。架構表現によるこのような構成単位のグループ化や住宅全体の統合は、構成単位の組合せによる範列的な水準での構成形式を成立させると考えられる。この範列的な水準での構成形式は、架構表現という視覚的な表現を前提とするために、これまで検討した「室」や「建築化された外部」や「空間の分割」のどの水準における構成形式よりも、いわゆる建築の「スタイル」の問題に呼応すると考えられる。しかし、本研究においては個々のスタイルを問題にするのではなく、そうしたスタイルを超えて成立する範列的な関係を住宅全体を統合する秩序として問題にしている。この主旨に基づき、本章では架構表現の組合せを構成単位の外形(平面形、断面形)と構成

材の表現の２水準における差異と類似によって捉えることから構成類型を導き、それらを成立させる構成的修辞を明らかにするとともに、複数要素の表現の問題から住宅作品の構成形式の構造の一端を示すことを目的としている。

本章の内容を概略すると、まず第２節で架構表現の種類を再度設定し、架構表現の組合せを検討する本章の分析方法について述べ、第３章では分析の結果から構成類型を抽出し、これらを成立させる構成的修辞を明らかにしている。

第２節　住宅作品における架構表現による構成単位

本研究は何らかの空間単位の分節と統合のされ方から住宅作品の構成形式を捉えようとするものである。本章で扱う「架構表現による構成単位」は、機能的な対応とは無関係に成立する空間の単位を捉えるために設定されるもので、構成材の組み合わせによる架構表現によって分節された空間を単位とするものである。例えば、いわゆるインターナショナルスタイル[1]のように構成単位を形態的に白い直方体に統一すること、庇の深い伝統的な和風部分と近代的な箱型の部分を対比させること、様々な形の屋根を寄せ集めて集落のように見せることなどは、この架構表現の組合せによる表現といえる。

前章での構成単位内の床や壁による分割の検討は、単独の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品において最も明確に見い出すことができる構成形式を問題にするものであった。本章では「架構表現による構成単位」による構成形式の次の水準として、複数の構成単位からなる住宅作品の構成形式を検討する。複数の構成単位からなる住宅作品の構成形式は、架構表現の組合せによる範列的な水準と、構成単位どうしの位相関係(図5-1)による統辞的な水準、および修辞の重ね合わせによる上位の水準が成立すると考えられる。本章はこの中の架構表現の組合せによる構成形式について具体的な分析を行う。

架構表現の組合せによる構成形式は、構成単位の特徴とそれらを組み合わせることによって単位間に生じる関係を検討することによって捉えることができる。従って一つの住宅の成立にあたっては、構成単位をどの架構表現によって分節するかという水準と、構成単位間にどのような関係を持たせるかという水準での２重の選択がなされることになる。本章が問題にする範列的な水準での構成的修辞とは、この２重の選択に関わる修辞である。

資料となる住宅作品の選定にあたっては多様な構成形式が含まれるように、現代の建築ジャーナリズムのなかで代表的なものの一つ

と思われる「新建築」誌において、年末アンケートが開始された1951年から1994年までの44年間に掲載され(なお1985年以降は住宅のみ「住宅特集」に掲載されている)、アンケートの上位に挙げられた222の住宅作品を選んだ。本論文ではそのうち、複数の構成単位によるものの全てである160作品を扱っている。

2-1　架構表現の種類

架構表現については前章でも、構成単位の外形とそこで表現された構成材の種類によって検討したが[2)]、その組合せを分析するにあたってはより詳細な検討が必要である。そこで本章では、構成単位の外形を断面形と平面形に分け、それぞれのシルエットから特徴を捉える。断面形はシルエット上端が直線か曲線か、直線ならば水平かGLに対して傾いているかを分類の基準として、曲線によるヴォールト・ドーム形(○、以下括弧内は対応する記号)、GLに対して傾いた直線による切妻・片流れ形(△)、水平な直線によるフラット形(□)を設定している。平面形は曲線による曲面形(●)、直線による三角形(▲)矩形(■)欠けた矩形(▼)を設定している(表5-1、図5-2)。これらの断面形と平面形による外形とは別の水準で、架構表現として強調される壁や柱梁などの構成材[3)]による構成単位の特徴が成立する。このような構成材として、線材である柱・梁(f)、面材である屋根(R)壁(W)床(S)などの慣習的なビルディングエレメントを設定している。構成材の水準での架構表現は、これらの基本的な構成材が単独あるいは複数組合わされ、強調されるものとして捉えられる。またそれらの構成材を全く分節しない無分節(ー)なものも、相対的には構成材の水準での表現と見ることができる。

これに従えば、分析例(図5-3)の構成単位は、柱梁が分節されたヴォールト状の単位○■f(断面形、平面形、構成材を列記した)、切妻の単位△■、3つの大きさの異なる箱型の単位□■の3種類5単位に分節される。このように全資料を分析した結果を(表5-2)構成単位数と架構表現の種類数から見ると(表5-3)、住宅全体は3単位(50

作品、以下括弧内の数字は作品数を示す)、2単位(50)に分節されることが多く、次いで4単位(25)、5単位(25)に分節されることが多い。また種類数では半数以上で2種類(87)の架構表現によるものが見られるほかは、3種類(38)、1種類(22)などが多く見られ、それらに比べると4種類以上はわずかである(13)。さらに単位数と種類数の組合せとしては両者が一致するものは、2単位2種類(40)、3単位3種類(16)など比較的多く見られ、一致しないものでは3つの構成単位に2種類の架構表現をもつ3単位2種類(29)が最も多く、4単位3種類(12)、2単位1種類(10)、5単位2種類(9)なども比較的多い。このように分節される構成単位数と架構表現の種類数が対応するものの他に、架構表現の種類によるグループが構成単位間に形成されて種類数が単位数を下回る組合せも見ることができる。

2-2　架構表現の組合せによる差異と類似

次に架構表現の組合せによって構成単位間に生じる関係について、各単位の架構表現が同じことを類似、異なることを差異とすれば、図5-4に示された○■と△■の組合せや△■Rと△■の組合せにおける単位間の関係は差異である。これをもう少し詳細に見ると、○■と△■の組合せにおける差異は平面形を矩形で類似[4]させた上での断面形における曲面と直線的な勾配の組合せによる(ヴォールトと切妻など)差異であり、△■Rと△■の組合せにおける差異は断面形・平面形を類似させた上での構成材における屋根(R)の分節の有無によるものであることがわかる。このことから構成単位どうしの関係は断面形、平面形、構成材のそれぞれにおける差異と類似が重ねられたものと考えることができる。そこで各作品において架構表現の組合せを断面形、平面形、構成材のそれぞれについて整理する(表5-2「差異と類似」の欄)と、分析例(図5-3)の△■,○■f,□■,□■,□■という組合せは、断面形<○,△,□>、平面形<■>、構成材<f,ー(無分節)>によって成立している(これらを順に○,△,□／■／f,ー(無分節)と列記する)。単位間の関係は断面形と構成材における差

異と、平面形における類似が重ねられていると見ることができる。この重ね合せを一つの行列と見なせば、断面3種類と平面1種類と構成材2種類のかけ合わせからは、○■,○■f,△■,△■f,□■,□■fの6通りの架構表現が可能である。その意味では分析例はすべての可能性を含むものではない。このように架構表現の組み合わせを断面形、平面形、構成材それぞれについて整理した行列に置き換えることによって、単位数にかかわらず構成単位間の関係を捉えることができる。この行列は構成単位間の関係において、各水準が差異と類似のどちらに寄与するのかを示すものであり、そのあり方(パタン)は架構表現の組合せによる住宅作品の構成形式の骨格となる。

この架構表現の行列について、まず外形の水準での差異と類似を検討すると(表5-4)平面形では矩形による類似<■>が特に多く(112)、次いで<●,■>(21)、<■,▼>(14)などによる差異が見られる。断面形では<△,□>(60)による差異が最も多く、次いで<□>(33)、<△>(27)による類似や<○,□>(23)による差異が多く見られる。つまり平面形においては資料の約3/4が類似し、断面形では半数弱が類似、半数強が差異となる。この平面形と断面形それぞれにおける差異と類似の組み合わせのパタンは断面形が類似で平面形も類似(類/類:44)、断面形が差異で平面形が類似(差/類:69)、断面形が類似で平面形が差異(類/差:18)、平面形が差異で断面形も差異(差/差:29)の4パタンである。具体的には断面だけで差異が見られるパタンの△,□/■、○,□/■の組合せや、架構表現の差異がみられないパタンの△/■、□/■の組合せが多く見られる。

次に構成材の水準での差異と類似を検討する(表5-5)。この水準での類似には無分節どうしによるもの(あ:39)と同じ構成材の分節によるもの(い:15)がある。またこの水準での差異には分析例<f,ー>のように分節の有無によるもの(う:62)、<R,f>のように異なる種類によるもの(お:11)、さらに<RW,W><fW,f>のように共通の構成材による類似を含んだ差異(え:8)がある。さらに3単位以上の組合せで構成材の分節の有無による差異が見られる上に、構成材が

分節された単位間にも構成材の種類による差異が見られるもの(か：25)がある。このように構成材の水準での類似と差異の在り方には、構成材の分節の有無および構成材の種類による以上の６パタンを見ることができる。その中では構成材の分節の有無による差異として＜f,－＞＜Rf,－＞＜R,－＞、構成単位の類似として＜R＞などが多く見られた。

第３節　架構表現による住宅作品の構成形式

3-1　構成類型の抽出

前節では構成単位の外形(断面形、平面形)の水準と、構成材の水準における構成単位間の差異と類似のパタンを検討した。架構表現の組み合わせによる住宅作品の構成形式は、この２水準における構成単位間の差異と類似の重なりによって成立している。本節ではこの２水準の重なりから住宅作品の類型的な構成形式(構成類型)を抽出する。そこで前節で導いた外形による差異と類似の４パタン(類／類、類／差、差／類、差／差)と、構成材による差異と類似の６パタン(あ～か)を２軸とするマトリクスに各作品をプロットし(表5-6)、構成的な特徴を共有するa～kの作品群を得ることができた。これらを構成類型として抽出し[5]、以下にその特徴を述べる(図5-6)。

類型a(類／類／類あ)[6]は同じ架構表現によって分節された構成単位の組合せで、平面形・断面形ともに矩形で構成材が分節されない、いわゆる箱型の構成単位だけで全体が構成されるものが多い。

類型b(類／類／類い)も同じ架構表現によって分節された構成単位による組合せで、構成材として屋根が分節された切妻や片流れの架構表現だけで全体が構成されるものが多い。

類型c(類／類／差う)は断面形と平面形を揃え構成材の分節の有無によって３～５単位に対して２種類の架構表現を成立させる。そのうちc1はともに外形が箱型で柱梁が分節された単位と無分節な単位の組合せによるものであり、c2は矩形の平面で構成材として屋根を含む組が分節される単位と無分節の単位の組合せによるものである。

類型d(類／類／差え)も外形を揃えて構成材だけで差異を作るものである。この構成材の水準での差異は、共通の構成材として屋根の分節が強調された各構成単位の中で、それに加えて強調される構成材の違いによって２～３単位に対して２種類の架構表現を成立させる。

類型e(類／差／類あ)は断面形の表現と構成材の無分節を揃え、平

面形の表現で２～３単位に対して２種類の架構表現を成立させる。

類型f(差／類／類あ)は逆に平面形の表現(矩形)と構成材の無分節を揃え、断面形の表現で３～５単位に対して２種類の架構表現を成立させる。この断面形の表現としては、類型f1のヴォールトとフラット＜○,□＞、類型f2の切妻とフラット＜△,□＞などが多く見られる。

類型g(差／差／類あ)は構成材を分節せずに断面形と平面形によって単位間の差異を作るものである。この類型には２種類の断面形と２種類の平面形のかけ合わせによる最低４種類の架構表現の可能性があるが、平面形が変われば断面形も変わる(断面形と平面形の差異が必ず重ねられる)ので、実際には３～５単位に対して２種類の架構表現しか与えないものが多い。

類型h(類／差／差う)は断面形を揃え平面形の表現と構成材の分節の有無によって単位間の差異を作るものである。分節が強調される構成材としては柱・梁が多く見られる。この類型には２種類の平面形と２種類の構成材のかけ合わせによる４種類以上の架構表現の可能性があるが、構成材の分節の有無が平面形の違いに対応するので、実際には４以上の単位に対して２～３種類の架構表現を与えるものが多い。

類型i(差／類／差う)は最も多くの作品が属する類型で、平面形を揃え断面形の表現と構成材の分節の有無によって差異を作るものである。断面形の差異は切妻とフラットの組合せ＜△,□＞によるものが多く、構成材の水準での差異はi1の柱梁と無分節＜f,－＞、i2の屋根と無分節＜R,－＞、i3の屋根+柱梁と無分節＜Rf,－＞などの組合せが多く見られる。この類型にも２種類の断面形と２種類の構成材のかけ合わせによる４種類の架構表現の可能性があるが、構成材が分節される単位が切妻・片流れ形に対応し、構成材の分節の有無によって断面形が変わるので、実際には２単位に対して２種類の架構表現をあてることが多い。

類型j(差／差／差う)は断面形、平面形、構成材の全ての水準での差異が重なるものである。そこでは様々な外形が見られ、構成材の

水準では屋根を含む分節が比較的多く見られる。この類型には断面形２種類、平面形２種類、構成材２種類のかけ合わせによる８種類の架構表現の可能性があるが、実際には２～４種類の架構表現を持つものが多い。

類型k(差／類／差か)は平面形を揃え断面形の表現と構成材の分節の有無および構成材の種類によって差異を作るものである。この類型には断面形２種類と構成材３種類のかけ合わせによる６種類の架構表現の可能性があるが、構成材が無分節の単位とフラット形の断面形が対応し、残り２種類の構成材は切妻・片流れ形またはヴォールト・ドーム形に対応し、実際には３～７単位に対して３種類の架構表現を与えるものが多い。

3-2　架構表現による住宅作品の構成的修辞

前項で抽出した各類型における断面形、平面形、構成材のそれぞれの架構表現による行列を見ると、類型aとbは１種類、類型cとdおよび類型eとfは２種類、類型gとhとiは４種類、類型kは最低６種類、類型jは最低８種類の架構表現の可能性を持つ。このような架構表現の可能性のなかで実際には種類数を限定することによって、各類型は複数の構成単位が一つの住宅の中で同時に成立する様々なあり方を示している。ここで各類型の差異を成立させているのが、構成単位の選択に関する構成的修辞である。そこで各類型における分節の水準の選択と、複数単位のグループ化から、架構表現の組み合わせによる構成的修辞[7]を明らかにする(図5-6、表5-7)。

まず各類型を架構表現の組合せにおける構成材の分節の有無によって整理すると、分節の水準の選択に関しては、類型a,e,f,gは構成材が分節されない＜ヴォリューム分節＞、類型b,dは構成材を分節する＜構成材分節＞と呼べる構成的修辞によって成立していると言える。またこれより、構成材が分節されない単位と分節される単位の組合せによる類型c,h,i,j,kは＜ヴォリューム分節＞と＜構成材分節＞が合

わさった＜複合分節＞と呼べる構成的修辞によって成立していると言える。

次に、架構表現の種類と構成単位数の関係から、複数単位のグループ化を見る。架構表現が１種類の類型aとbにおける複数の構成単位は、同じ架構表現によってまとめられ＜統一＞されている。ここで類型bは＜ヴォリューム分節＞の類型aより多くの構成単位を同じ架構表現にまとめることから、外形の類似と構成材の類似が重なる類型bの方が＜統一＞が強調されていると見ることができる。従って類型aはこれらの修辞の重なりによって『構成材の無分節による統一』、bは『同じ構成材の分節による統一の強調』として位置づけられる。

これに対して２種類の架構表現が見られる類型cとdおよび類型eとfでは、複数の構成単位は２つのグループに分けられ＜対比＞されている。そのうち＜ヴォリューム分節＞による類型eの差異は平面形によるものであり、同じく＜ヴォリューム分節＞による類型fの差異は断面形によるものなので、類型eは『平面形による対比』、類型fは『断面形による対比』として位置づけられる。また＜複合分節＞による類型cの差異は構成材の分節の有無によることから、類型cは『構成材の分節の有無による対比』として位置づけられる。また＜構成材分節＞である類型dの差異は構成材によるものであるが、ここでは屋根が共通して分節される部分的な類似も成立している。構成材の水準での差異は屋根以外に分節される構成材の違いによることから、類型dは『構成材の付加による対比』として位置づけられる。

類型g,h,iも類型c,d,e,f同様、２種類の架構表現による構成単位のグループに複数の構成単位をまとめるものである。このうち類型g,h,iでは２水準における２種類の架構表現のかけ合わせによる４種類の架構表現が可能だが、実際には２種類の架構表現しか持たない。このことから可能性としても２種類の架構表現しか持たない類型c,d,e,fに比べると、類型g,h,iでは＜対比＞が強調されているといえる。従って＜ヴォリューム分節＞で平面形と断面形の差異が重なる類型gは『平面形と断面形による対比の強調』、＜複合分節＞で構成材の分節の

有無が平面形の差異に対応する類型hは『平面形と構成材による対比の強調』、同じく＜複合分節＞で構成材の分節の有無が断面形の差異に対応する類型iは『断面形と構成材による対比の強調』として位置づけられる。

また＜複合分節＞による類型kは最低6種類の架構表現の可能性を実際には構成材の表現に対応した3種類に限定するものであり、同じく＜複合分節＞による類型jは8種類の架構表現の可能性を実際には3,4種類の架構表現に限定するものである。これらは構成単位数の多さに対応して3種類以上の＜複数多様＞な架構表現を同時に持つものである。このうち類型kは、分節の有無によるグループの中にさらに構成材による差異とそれに追従した断面形の差異が見られることから『構成材の階層による複数多様』として位置づけられる。また平面形、断面形、構成材の3水準における差異が重ねられている類型jは、『3水準の差異を重ねた複数多様』として位置づけられる。

これまでに述べた＜統一＞、＜統一＞の強調、＜対比＞、＜対比＞の強調、＜複数多様＞は、複数単位のグループ化に関する構成的修辞と見ることができる。これらと先に述べた＜ヴォリューム分節＞、＜構成材分節＞、＜複合分節＞という分節の水準の選択に関する構成的修辞の重なりとして、架構表現の組み合わせによる構成形式は構造化される。この構造のなかで＜統一＞、＜統一＞の強調は＜複合分節＞では成立しないが、＜対比＞、＜対比＞の強調、＜複数多様＞は＜ヴォリューム分節＞、＜構成材分節＞、＜複合分節＞の全てで成立する。しかし＜複数多様＞による構成類型は＜複合分節＞においてだけ実際に抽出されるという傾向も見られた。また、同じ架構表現の単位の集合による主部分に異なる構成材による単位が付加される＜統一＞を基盤とした＜対比＞(類型d)、構成材による差異と外形の差異が対応する＜対比の強調＞(類型h,i)、構成材の分節の有無によるグループ内に、さらに構成材の水準での差異が見られ、差異が階層化する＜複数多様＞(類型k)などから、構成材の水準が複数単位のグループ化に柔軟性と複雑性を与える上で重要で

あると指摘することができる。

第4節　小結

本章では、複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品の構成形式として、架構表現の組合せによる構成形式を検討した。架構表現の外形(平面形、断面形)と構成材の各水準における差異と類似についての分析から構成類型を抽出し、それらを成立させる構成的修辞として、分節水準の選択に関する＜ヴォリューム分節＞、＜構成材分節＞、＜複合分節＞と、複数単位のグループ化に関する＜統一＞、＜統一＞の強調、＜対比＞、＜対比＞の強調、＜複数多様＞を明らかにした。そして架構表現の組合せによる構成形式を、これら構成的修辞の重なりとして構造化した。またこの構造の中で、構成材の表現が構成単位間により複雑な関係を与えることを指摘した。

これら架構表現の組合せによる構成的修辞は、次章で検討する構成単位間の位相関係による構成的修辞と重なることによって、上位の修辞的水準を形成すると考えられる。また本章の結論は住宅の空間構成における内在的な構造の一端を示すものであり、新たな住宅の構成形式の探求に有効な指針を与えるものと考える。

第５章の注

1)インターナショナルスタイルにおける機能分節に対応する白い立方体のヴォリュームは、こうした空間単位の一つであると言える。この白い立方体による表現は、歴史性や地域性などに結びつきやすい装飾を排除することで、機能だけが形態を決定する要因であることを強調していたといえる。

2)ここでは構成単位がどのように組み立てられているかということから外形と構成材の２水準による架構表現を問題にしているので、外観／内観の特別な区別はない。

3)「構成材」は「屋根の構成材」とか「壁の構成材」のように、ビルディング・エレメントの各部を構成する部材や素材を意味することが多いが、この論文では床・壁・屋根・柱・梁という慣習的なビルディング・エレメントを構成単位の境界を構成する「構成材」として設定した。

4)大きさや、縦横比の違いを含めれば、様々な矩形というものが成立し、そこに差異を読み取ることもできるが、ここでは、あくまでも円や、三角形などの他の平面形との比較において、矩形の平面をもつ構成単位どうしは類似しているということである。

5)ここでは５作品以上のまとまりがみられ、具体的な表現の内容にも共通性が認められるものを類型として抽出した。従って(差／差)と(カ)の亜なる部分は６作品が見られるが、具体的な表現内容の共通性に乏しいため類型としていない。

6)()内は断面形／平面形／構成材のそれぞれにおける差異と類似を列記したものである。なお差異を"差"、類似を"類"と略した。

7)例えば、３つの構成単位による住宅での架構表現の組合せは、

一、すべて同じ種類。(３単位１種類)

二、２単位が同じで、残りの１単位が異なる。(３単位２種類)

三、３つの構成単位がそれぞれ異なる。(３単位３種類)

の３通りがある。さらに架構表現は、外形(平面形と断面形)と構成材の２水準によって捉えることができるので、異なるということにも

ア、平面形だけが異なる(断面形と構成材は同じ)

イ、断面形だけが異なる(平面形と構成材は同じ)

ウ、構成材だけが異なる(平面形と断面形は同じ)

エ、平面形と断面形が異なる(構成材は同じ)

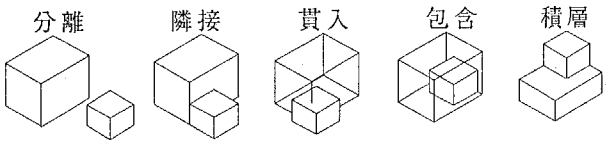
オ、平面形と構成材が異なる(断面形は同じ)

カ、断面形と構成材が異なる(平面形は同じ)

キ、平面形と断面形と構成材が異なる

という７通りがありうる。従って上の二の場合にはさらに７通り、三の場合にはさらに29通りの方法がある。構成単位の選択に関わる修辞は、こうした組み合わせの可能性の中から何を選びとるかというである。

図5-1　位相関係



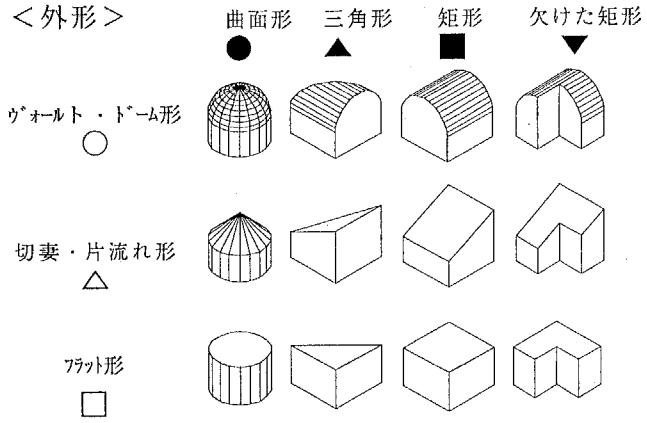
注）構成単位どうしの軸の一致やずれなどは、位相関係の優先度を判断するためには問題にするが、2単位間の位相関係の設定においては問題にしない。

表5-1
架構表現の分類

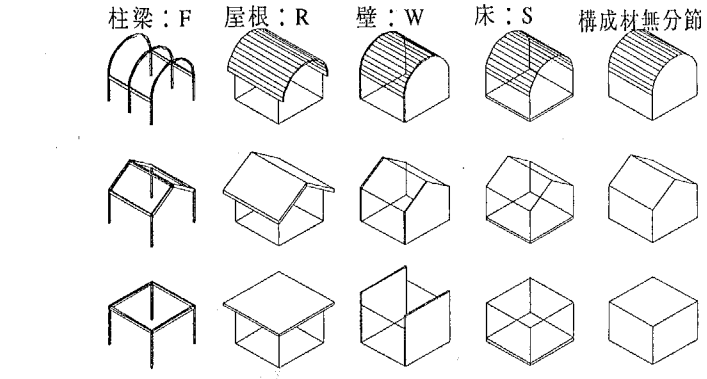
架構表現	外形	断面形	曲線	ヴォールト・ドーム形	○
			直線（GLに対して傾斜）	切妻・片流れ形	△
			（水平）	フラット形	□
		平面形	曲線	曲面形	●
			直線	三角形	▲
				矩形	■
				欠けた矩形	▼
	構成材		線材	柱・梁	F
			面材	屋根	R
				壁	W
				床	S
			無分節		-

注）ここでは構成単位の境界を構成する慣習的なビルディング・エレメントの中で、分節が強調されたものだけを構成材の表現として見た。

図5-2　架構表現

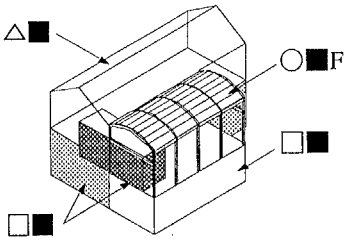


注）＜外形＞において横軸は平面形、縦軸は断面形を示す。



＜構成材＞の水準では隣接する構成材の間に分節があるかどうかではなく、構成単位がどのような構成材の強調によって表現されているかを問題にしている。

図5-3
構成単位の分析例



No.	発表号	作品名	架構表現 1	2	3	4	5	種類数	単位数
146	8312	花小金井の家	△■	□■	○■F	□■	□■	3	5

注）架構表現は断面形、平面形、構成材の順に図3に定義する記号を列記して表現する。表では左から構成単位の大きさの順に架構表現を記入し、同等の大きさと見なされる単位間は同じ枠内とした。

表5-2　分析結果と資料リスト

構成単位2

No.	発表号	作品名	架構表現 1	架構表現 2	種類数	単位数	差異と類似 断面	差異と類似 平面	差異と類似 構成材	パタン 外形	パタン 構成材	分節類型
120	8002	上田邸	L■	L■	1	2	L	■		☆☆	あ	a
160	8610	開拓者の家	○■	○■	1	2	○	■		☆☆	あ	a'
179	8902	洗足の家	I■	I■	1	2	I	■		☆☆	あ	a
209	9208	富士裾野の山荘	T■	L■	1	2	L	■		☆☆	あ	a
4	5205	西京風の家	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b
8	5306	大久保博士の家	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b
9	5307	ｸﾞﾚｰﾄｳｴｰﾄ邸	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b
23	5702	栗の木のある家	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b
126	8008	塚田邸	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b
193	9008	狐ヶ城の家	○■RF	○■RF	1	2	○	■	RF	☆☆	い	b'
59	6901	金子邸	L■RW	L■	2	2	L	■	RW,-	☆☆	う	c2
104	7802	鎌壁の家	L■RWF	L■	2	2	L	■	RFW,-	☆☆	う	c2
119	8002	松谷邸	L■WS	L■	2	2	L	■	WS,-	☆☆	う	c2
1	5109	森博士の家	△■RW	△■R	2	2	△	■	RW,R	☆☆	え	d
28	5809	傾斜地に建つ家	△■RFS	△■R	2	2	△	■	RFS,R	☆☆	え	d
36	6203	O氏邸	△▼RF	△▼R	2	2	△	▼	RF,R	☆☆	え	d
20	5511	住宅No.28	L■RF	L■W	2	2	L	■	RF,W	☆☆	お	d'
194	9010	桜丘の家	△■W	△■F	2	2	L	■	F,W	☆☆	お	d'
202	9202	もうひとつのｶﾞﾗｽの	L■S	L■W	2	2	L	■	W,S	☆☆	お	d'
129	8102	私たちの家	△■	△▲	2	2	△	▲,■		☆★	あ	e
139	8204	笠間の家	△●	△■	2	2	△	●,■		☆★	あ	e
177	8810	ﾗﾝﾀﾝﾊｳｽ	△▲	△●	2	2	△	●,▲		☆★	あ	e
103	7708	恒生の家	△■	L■	2	2	△,L	■		★☆	あ	f2
113	7902	今治の家	△■	L■	2	2	△,L	■		★☆	あ	f2
124	8008	中央林間の家	△■	○■	2	2	○,△	■		★☆	あ	f
128	8101	花山第4の住宅	L■	○■	2	2	○,L	■		★☆	あ	f
176	8810	ﾊｲｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ	○■	△■	2	2	○,△	■		★☆	あ	f
187	9001	馬組の住宅	△■	L■	2	2	△,L	■		★☆	あ	f2
2	5202	増沢百邸	△■RF	L■	2	2	△,L	■	RF,-	★☆	う	i3
12	5311	S 日 - 1	△■RF	L■	2	2	△,L	■	RF,-	★☆	う	i3
29	5901	菊竹百邸	△■RWS	L■	2	2	△,L	■	RWS,-	★☆	う	i
38	6210	から傘の家	△■RF	L■	2	2	△,L	■	RF,-	★☆	う	i
44	6404	合掌の山荘	△■R	L■	2	2	△,L	■	R,-	★☆	う	i2
48	6605	浜田山の家	△■R	L■	2	2	△,L	■	R,-	★☆	う	i2
55	6707	白の家	△■R	L■	2	2	△,L	■	R,-	★☆	う	i2
72	7208	軽井沢の家その 1	△■R	L■	2	2	△,L	■	R,-	★☆	う	i2
98	7701	上原通りの住宅	L■F	○■	2	2	○,L	■	F,-	★☆	う	i1
135	8108	湯の花の家	△■RFS	○■	2	2	△,L	■	RFS,-	★☆	う	i
152	8509	茅ヶ崎の家	△■RF	L■	2	2	△,L	■	RF,-	★☆	う	i3
154	85冬	SPINNING HOUSE	△■F	L■	2	2	△,L	■	F,-	★☆	う	i1
166	8709	秋穂の ｱﾄﾘｴ	△■F	L■	2	2	△,L	■	F,-	★☆	う	i1
175	8810	PLATFORM	△■RFS	L■	2	2	△,L	■	RFS,-	★☆	う	i
181	8908	もめんかのや	○■R	L■	2	2	○,L	■	R,-	★☆	う	i2
13	5409	ｺｲのあるH氏の住い	△■R	L■W	2	2	△,L	■	R,W	★☆	お	対比強調
14	5411	住宅No.20	△■RF	L■W	2	2	△,L	■	RF,W	★☆	お	対比強調
91	7604	Y 邸	L●■	○■	2	2	○,L	●,■		★★	あ	g
97	7611	中野木町の家	△●	L■	2	2	△,L	●,▼		★★	あ	g
110	7810	上原曲り道の住宅	△▼	L●■	2	2	△,L	●,▼		★★	あ	g
172	8806	栗山の家	△●	L■	2	2	△,L	●,▼		★★	あ	g
96	7611	代田の町家	△▼	L■FW	2	2	△,L	■,▼	FW,-	★★	う	対比強調

構成単位3

No.	発表号	作品名	架構表現 1	架構表現 2	架構表現 3	種類数	単位数	差異と類似 断面	差異と類似 平面	差異と類似 構成材	パタン 外形	パタン 構成材	分節類型
79	7307	宮島邸	L■	L■	L■	1	3	L	■		☆☆	あ	a
95	7609	中内邸	△■	△■	△■	1	3	△	■		☆☆	あ	a
122	8008	好空間の家	L■	L■	L■	1	3	L	■		☆☆	あ	a
5	5207	名取邸	△■R	△■R	△■R	1	3	△	■	R	☆☆	い	b
201	9110	唐松林の家	△■RF	△■RF	△■RF	1	3	△	■	RF	☆☆	い	b'
17	5411	住宅No.17	L■F	L■F	L■	2	3	L	■	F,-	☆☆	う	c1
71	7208	まつかわ・ぼっくす	L■	L■F	L■	2	3	L	■	F,-	☆☆	う	c1
74	7211	反住器	L■F	L■F	L■	2	3	L	■	F,-	☆☆	う	c1
206	9206	富潟の住宅	△■RF	△■RF	△■	2	3	△	■	RF,-	☆☆	う	c2
222	9405	Y-HOUSE	L■WS	L■	L■	2	3	L	■	WS,-	☆☆	う	c2
164	8705	練馬の家	△■RF	△■R	△■R	2	3	L	■	RF,R	☆☆	え	d
49	6605	池田山の家	L■S	L■S	L■W	2	3	L	■	S,W	☆☆	お	d'
165	8705	SHIP1987	L■W	L■F	L■F	2	3	L	■	F,W	☆☆	お	d'
130	8103	松山桑原の住宅	△■	△■FW	△■RF	3	3	△	■	RF,FW,-	☆☆	か	複数多様
67	7202	直方休の森	L■	L▼	L▼	2	3	L	■▼		★☆	あ	e
78	7307	ｷﾞｽﾄﾊｳｽ	△▼	△■	△■	2	3	△	■▼		★☆	あ	e
132	8104	るるるる阿房	L■	L▼	L●	3	3	L	■▼		★☆	あ	e
94	7609	船橋ﾎﾞｯｸｽ	L■	L▼F	L■	2	3	L	■▼	F,-	★☆	う	h
117	7910	小田原の住宅1978	L■F	L●	L●	2	3	L	■	F,-	★☆	う	h
131	8104	光橋子の家	L▼F	L▼F	L■	2	3	L	■▼	F,-	★☆	う	h
52	6701	宍戸邸	L▼F	L■F	L■W	3	3	L	■▼	F,W	★★	お	複数多様
25	5712	villa CouCou	△■	L■	L■	2	3	△,L	■		★☆	あ	f2
60	6905	白邸	L■	△■	L■	2	3	△,L	■		★☆	あ	f2
82	7502	北山・住宅	△■	L■	L■	2	3	△,L	■		★☆	あ	f2
83	7502	天と地の家	△■	△■	L■	2	3	△,L	■		★☆	あ	f2
85	7506	幻庵	○■	L■	L■	2	3	○,L	■		★☆	あ	f1
134	8106	祖師ヶ谷の家	○■	△■	○■	2	3	○,△	■		★☆	あ	f
153	8512	ｷﾞｬﾗﾘｰをもつ家	△■	L■	L■	2	3	△,L	■		★☆	あ	f2
157	8605	ﾊｳｽｲﾝｺｳﾊﾏ	○■	L■	○■	2	3	○,L	■		★☆	あ	f1
199	9109	鵺月夜の家	○■R	△■R	△■R	2	3	○,△	■	R	★☆	い	対比
88	75 夏	八千代	△■F	L■	L■F	2	3	△,L	■	F,-	★☆	う	i1
89	7602	筏象の家	△■	△■	L■F	2	3	△,L	■	F,-	★☆	う	i1
159	8609	馬込沢の家	○■RF	L■	L■	2	3	○,L	■	RF,-	★☆	う	i
184	8909	芦ヶ沢の山荘	△■R	L■	L■	2	3	△,L	■	R,-	★☆	う	i2
111	7902	雨調の家	△■	L■W	L■	3	3	△,L	■	W,-	★☆	う	i
138	8202	軽堂の家1980	L■F	△■F	L■	3	3	△,L	■	F,-	★☆	う	i1
190	9003	COSMOS	△■	L■	L■F	3	3	△,L	■	F,-	★☆	う	i1
216	9307	BLUE-SCREEN HOUSE	○■	L■	L■W	3	3	○,L	■	W,-	★☆	う	i
219	9310	ﾀﾌﾞﾙｰﾌｫの家	L■RFS	△■RF	L■FS	3	3	△,L	■	RFS,RF,FS	★☆	え	複数多様
220	9311	山中湖のｶﾞﾗｽの家	L■W	△■F	△■F	2	3	△,L	■	F,W	★☆	お	対比
41	6308	阿佐ヶ谷の家	△■R	L■RW	L■	3	3	△,L	■	RW,R,-	★☆	か	k
75	7302	昨雪軒	L■	△■RW	△■R	3	3	△,L	■	RW,R,-	★☆	か	k
141	8208	積木の家IV	L▽W	△■	L■	3	3	△,L	■,▼	W,-	★☆	う	j
215	9307	懐風荘	△■R	L●■	△●R	3	3	△,L	●,■	R,-	★☆	う	j
192	9008	岡品の家	L■W	○▽RW	○▽RW	2	3	○,L	■,▼	RW,W	★★	え	対強
198	9104	VILLA TORII	△■RW	L●W	L●W	2	3	△,L	●,■	RW,W	★★	え	対強
162	8701	熊本の住宅	△■R	△■R	L▲F	2	3	△,L	▲,■	R,F	★★	お	対強
148	8407	ﾗﾝﾄﾞｼｯﾌﾟII・ひまわり	△▽W	△●R	○■F	3	3	○,△	●,■,▼	W,R,F	★★	お	複数多様
53	6701	もうびぃでぃっく	△●W	L■	L■	3	3	△,L	●,■	RW,F,-	★★	か	複数多様
156	8605	ｳﾞｲﾗ森井	△●RF	△■R	L■	3	3	△,L	●,■	RF,R,-	★★	か	複数多様
185	8911	千葉の住宅	△▼R	L▲SF	L■	3	3	△,L	▲,■,▼	R,SF,-	★★	か	複数多様

構成単位4以上

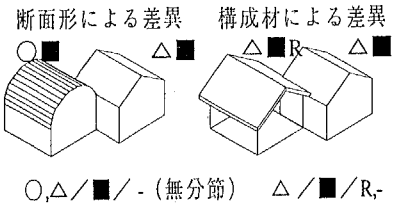
No.	発表号	作品名	架構表現 1	2	3	4	5	6	7	種類数	単位数	差異と類似 断面	差異と類似 平面	差異と類似 構成材	パタン 外形	パタン 構成材	分節類型
90	7602	鷗居の家	L■	L■	L■	L■				1	4	L	■		☆☆	あ	a
40	6306	ﾕﾆｯﾄﾌﾟﾗﾝの家	L■W	L■W	L■W	L■W	L■W			1	5	L	■	W	☆☆	い	b'
47	6507	八幡野の週末住宅	△■R	△■R	△■R	△■R				1	4	△	■	R	☆☆	い	b
51	6609	もみの木の家	△■RF	△■RF	△■RF	△■RF	△■RF	△■RF		1	6	△	■	RF	☆☆	い	b'
121	8006	北摂の家	△■R	△■R	△■R	△■R				1	4	△	■	R	☆☆	い	b
140	8205	逆瀬台の家	△■R	△■R	△■R	△■R				1	4	△	■	R	☆☆	い	b
204	9203	週末住宅(暗箱と鳥	L■W	L■W	L■W	L■W				1	4	L	■	W	☆☆	い	b'
50	6605	赤尾邸	L■S	L■S	L■	L■				2	5	L	■	S,-	☆☆	う	c2
56	6804	行亀邸	L■	L■F	L■F	L■F				2	4	L	■	F,-	☆☆	う	c1
57	6807	山城さんの家	△■R	△■R	△■	△■				2	4	△	■	R,-	☆☆	う	c2
107	7808	山田山荘	△■RS	△■	△■	△■	△■			2	5	△	■	RS,-	☆☆	う	c2
116	7910	上田の住宅1977	L■F	L■F	L■F	L●				2	4	L	■	F,-	★☆	う	h
92	7606	雪ヶ谷の住宅	L■W	L▽W	L■	L■				3	4	L	■▼	W,-	★☆	う	h
114	7905	石原邸	L■W	L▽	L▽	L▽	L●W			3	5	L	■▼	W,-	★☆	う	h
143	8211	蔵井邸	L▽	L■F	L■F	L■F	L■			3	5	L	■▼	F,-	★☆	う	h
167	8710	INSCRIPTION	△▲F	△▲	△●	△●				3	4	△	●▲	F,-	★☆	う	h
195	9012	都山荘	△■	△■F	△■F	△●				3	4	△	●■	F,-	★☆	う	h
115	7910	M 氏邸	L■W	L●FW	L■	L■	L■			3	5	L	●■	FW,W,-	★☆	か	複数多様
142	8211	成城ﾊﾟｽ停前の家	L■	L■W	L■F	L■				4	4	L	●■	F,W,-	★☆	か	複数多様
73	7209	峯沢邸	○■	L■	L■	L■	L■			2	5	○,□	■		★☆	あ	f1
86	7509	原邸	△■	○■	○■	○■	○■			2	5	○,△	■		★☆	あ	f
109	7810	H 邸	L■	○■	L■	○■	○■	○■		2	6	○,□	■		★☆	あ	f1
144	8302	白影	L■	○■	○■	○■	○■			2	5	○,□	■		★☆	あ	f1
173	8809	HOUSE F	△■RF	L■	○■	L■	○■			2	5	△,□	■	RF,-	★☆	う	i3
210	9209	好住山荘	○■	○■	○■	○■	○■F			2	5	○,L	■	F,-	★☆	う	i
217	9309	甲 SHELL koura	○■RF	L■	○■	L■	L■	L■		2	6	○,□	■	RF,-	★☆	う	i
66	7104	水無瀬の町家	△■	L■W	L■	L■				3	4	△,L	■	W,-	★☆	う	i
133	8106	小篠邸	L■W	L■	L■	△■				3	4	△,L	■	W,-	★☆	う	i
146	8312	花小金井の家	△■	L■	○■F	L■	L■			3	5	○,△,L	■	F,-	★☆	う	i
161	8612	屋久島の家	△■RF	△■	△■	L■				3	4	△,L	■	RF,-	★☆	う	i3
171	8803	雪中居	○■	△■F	△■	△■				3	4	○,△	■	F,-	★☆	う	i
183	8909	若槻邸	L■F	○■RF	○■RF	○■RF	○■RF	○■RF		2	6	○,L	■	RF,F,-	★☆	か	k
30	6004	Case Study House#3	△■RW	L■W	L■	L■				3	4	△,L	■	RW,W,-	★☆	か	k
149	8501	ｼﾙﾊﾞｰﾊｯﾄ	○■F	○■RF	○■RF	○■RF	○■RF	L■	L■	3	7	○,L	■	RF,F,-	★☆	か	k
151	85春	淵崎の家	△■RF	△■RF	L■F	△■RF	△■RF	L■		3	6	△,L	■	RF,F,-	★☆	か	k
170	8801	軽井沢の別荘	○■RF	○■RF	L■F	△■	△■			3	5	○,△,L	■	RF,F,-	★☆	か	k
180	8905	物質試行26	△■F	○■R	L■	L■				3	4	○,△,L	■	R,F,-	★☆	か	k
186	9001	ECHO CHAMBER	L■W	△■R	△■R	△■				3	4	△,L	■	R,W,-	★☆	か	k
63	7101	粒私の家	L■WS	△■R	L■	L■	L■FW	○■RF	L■	4	4	△,L	■	R,WS,-	★☆	か	k
178	8811	御名町の住宅	△■	○■RF	L■	△■R				4	4	○,△,L	■	RF,R,-	★☆	か	k
200	9110	四季が丘の家	L■W	○■RF	L■	L■FW	○■RF	○■RF	○■RF	4	6	○,L	■	RF,FW,W,-	★☆	か	k
211	9301	岡山の住宅	L■W	△■RF	△■RF	○■RF	○■RF	○■RF	△■	4	7	○,△,L	■	RF,W,-	★☆	か	k
212	9301	葛飾の住宅	○■RW	L■	○■RF	L■	L■F			4	5	○,L	■	RF,RW,F,-	★☆	か	k
105	7803	住川邸	△■	△■	L●	L●	L●			2	5	△,L	●,■		★★	あ	g
136	8108	積木の家III	L▽	△■	△■	△■	L▽			2	5	△,L	■,▼		★★	あ	g
145	8308	光彦	○●	L■	L■	L■				2	4	○,L	●,■		★★	あ	g
221	9405	森の別荘	△●W	△●W	L■	L■				2	4	△,L	●,■	W,-	★★	う	対強
62	7009	大山邸	△▲RF	△■	L■	L■	△■	L■		3	6	△,L	▲,■	RF,-	★★	う	j
147	8312	ﾗﾝﾄﾞｼｯﾌﾟII・伊久	△▲	△■	○■R	△■				3	4	○,△	▲,■	R,-	★★	う	j
169	8711	慶下公園林ﾌｫﾘｽﾄﾊｳｽ	○■F	L▽F	L■	L■	L■			3	5	○,L	■,▼	F,-	★★	う	j
197	9103	villa kuru	△■RWS	L■	L■	L●				3	4	△,L	●,■	RWS,-	★★	う	j
108	7808	伊東邸	△■R	L■	○●	○■	L■			4	5	○,△,L	●,■	R,-	★★	う	j
214	9301	角地の木箱	△■F	△■	L●	L■	L●			4	5	△,L	●,■	F,-	★★	う	j
61	6908	団らんの家 - IS 邸	L▽W	△■RW	△■RW	△■RW				4	4	△,L	■,▼	RW,W	★★	え	対強
100	7702	回燈堂庵	△■RF	△■	△■R	△■R	L▽			4	5	△,L	■	RF,R,-	★★	か	k
158	8609	練馬の住宅	○■R	○▽R	○■RF	L■	○■RF			5	5	○,L	■,▼	RF,R,-	★★	か	複数多様
155	85冬	椎学院の家II	○■	L●	△■	L■W	L■RF			5	5	○,L	●,■	RF,W,-	★★	か	複数多様
207	9208	BEAN HOUSE	L■F	○●RW	L●RW	L●				5	5	○,L	●,■	RW,F,-	★★	か	複数多様
208	9208	ｼﾙﾊﾞｰﾑｰﾝ	○■R	○■F	L■F	L■	L●	L●	L▲	6	7	○,L	●,▲,■	R,F,-	★★	か	複数多様

凡例

架構表現	パタン 外形	差異と類似 断面形	ヴォールト・ドーム形 ○
			切妻・片流れ形 △
			フラット形 □
		差異と類似 平面形	曲面形 ●
			三角形 ▲
			矩形 ■
			欠けた矩形 ▼
	構成材		柱・梁 F
			屋根 R
			壁 W
			床 S
			無分節 -

注）構成単位は大きさの順に並べているが、同等の大きさと見なされる単位間は線で区切っていない。

図5-4
構成単位の差異



注）断面形／平面形／構成材の順に、架構表現の性格を列記した。

表5-3
構成単位数と種類

種類数＼単位数	2	3	4	5	6以上	小計
1	10	5	5	1	1	22
2	40	29	6	9	3	87
3		16	12	7	3	38
4			2	6	2	10
5 以上				2	1	3
小計	50	50	25	25	10	160

表5-4
外形の差異と類似

平面＼断面		類似 ○	類似 △	類似 □	差異 ○,△	差異 ○,□	差異 △,□	差異 ○,△,□	小計
類似	■	2	20	21	6	16	42	5	112
	▼	0	1	0	0	0	0	0	1
差異	●,■	0	2	4	0	3	10	2	21
	■,▼	0	1	6	0	3	4	0	14
	▲,■	0	1	0	1	0	2	0	4
	●,▲	0	2	0	0	0	0	0	2
	●,▼	0	0	0	0	0	1	0	1
	●,▲,■	0	0	0	0	1	0	0	1
	●,■,▼	0	0	2	1	0	0	0	3
	▲,■,▼	0	0	0	0	0	1	0	1
小計		2	27	33	8	23	60	7	160

表3.4.5.注）表中の記号は表２の凡例による。表中の数字は全160作品中の資料数を示す。

表5-5
構成材による
差異と類似

	パタン		構成材	作品数		
類似	無分節 （あ）					39
	分節 （い）		R	10		
			RF	3		
			W	2		15
差異	分節 （う） ・無分節		F,-	23		
			R,-	10		
			RF,-	10		
			W,-	8		
			RFS,-	2		
			RWS,-	2		
			WS,-	2		
			FW,-	1		
			RFW,-	1		
			RS,-	1		
			RW,-	1		
			S,-	1		62
	分節・分節	部分類似 （え）	RW,W	3		
			RF,R	2		
			RFS,R	1		
			RW,R	1		
			RFS,RF,FS	1	8	
		（お）	F,W	4		
			RF,W	2		
			W,S	2		
			R,F	1		
			R,W	1		
			W,R,F	1	11	19
	分節・分節・無分節	（か）	RF,F,-	4		
			RF,R,-	4		
			R,F,-	2		
			RF,W,-	2		
			RW,F,-	2		
			RW,R,-	2		
			F,W,-	1		
			FW,W,-	1		
			R,SF,-	1		
			R,W,-	1		
			R,WS,-	1		
			RF,FW,-	1		
			RF,RW,F,-	1		
			RW,W-	1		
			RF,FW,W,-	1		25

表5-6　架構表現による構成類型

構成材における差異と類似	外形における差異と類似	類・類	類・差	差・類	差・差
	あ類似	a	e	f1, f2	g
	い類似	b			
	う差異	c1, c2, d	h	i1, i2, i3	j
	え差異				
	お差異				
	か差異		k		

注）各マスの記号及び数字は、左から順に、作品番号、断面形、平面形、構成材、種類数、単位数を示す。

凡例

架構表現	外形	断面形	ヴォールト・ドーム形 ○
			切妻・片流れ形 △
			フラット形 □
		平面形	曲面形 ●
			三角形 ▲
			矩形 ■
			欠けた矩形 ▼
	構成材		柱・梁 F
			屋根 R
			壁 W
			床 S
			無分節 −

図5-6　架構表現による構成的修辞

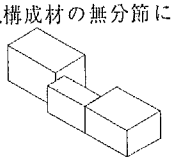
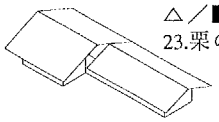
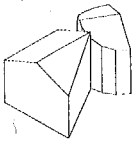
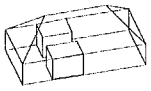
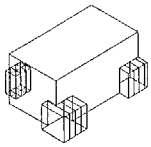
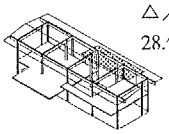
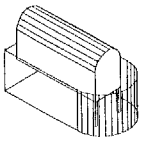
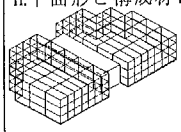
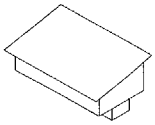
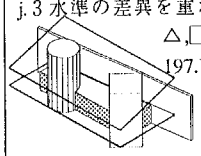
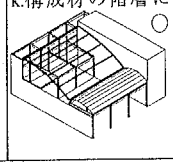
		分節水準の選択		
		ヴォリューム分節	複合分節	構成材分節
複数単位のグループ化	統一	a.構成材の無分節による統一  □／■／－ 122.対空間の家		
	統一の強調			b.同じ構成材の分節による統一の強調  △／■／R 23.栗の木のある家
	対比	e.平面形による対比  △／●,▲／－ No.176 ﾊﾈｷﾞｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ f.断面形による対比  △,□／■／－ 82.北山の住宅	c.構成材の分節の有無による対比  □／■／F,－ 56.石亀邸	d.構成材の付加による対比  △／■／RFS,R 28.傾斜地に建つ家
	対比の強調	g.平面形と断面形による対比の強調  ○,□／●,■／－ 91.Y邸	h.平面形と構成材による対比の強調  □／■,▼／F,－ 131.光格子の家 i.断面形と構成材による対比の強調  △,□／■／R,－ 48.浜田山の家	
	複数多様		j.3水準の差異を重ねた複数多様  △,□／●,■／RWS,－ 197.Villa Kuru k.構成材の階層による複数多様  ○,□／■／RF,RW,F,－ 212.葛飾の住宅	

表5-7　構成類型の特徴

注）☆を類似、★を差異とする。

差異と類似			類型	架構表現の傾向			可能性	種類数	単位数	複数単位のあり方
断	平	構		断面形	平面形	構成材				
☆	☆	☆	a	□	■	あ　無分節	1	1	2,3,(4)	統一
			b	△	■	い　分節（R）	1	1	2,(3),4	統一の強調
☆	☆	★	c1	□	■	う　分節（F），無分節	2	2	3,(4)	対比
			c2	△や□	■	う　分節（Rを含む），無分節	2	2	2,(3),4,5	
			d	△	■	え　分節（Rを含む）	2	2	2,3	
☆	★	☆	e	△や□	多様	あ　無分節	2	2	2,3	
★	☆	☆	f1	○,□	■	あ　無分節	2	2	(2),3,(4),5	
			f2	△,□	■	あ　無分節	2	2	2,3	
☆	★	★	h	□	●,■や■,▼	う　分節（F），無分節	4	2,3	3,4,(5)	対比の強調
			k	△,□や○,□	■	か　分節2種類，無分節	6	3	3,4,5,(7)	複数多様
★	☆	★	i1	△,□	■	う　分節（F），無分節	4	2（3）	2,3,(5)	対比の強調
			i2	△,□	■	う　分節（R），無分節	4	2	2,(3)	
			i3	△,□	■	う　分節（RF），無分節	4	2	2,(4,5)	
★	★	☆	g	△,□や○,□	●,■	あ　無分節	4	2	2,4,5	
★	★	★	j	△,□	●,■や■,▼	う　分節（Rを含む），無分節	8	2,3,4	2,3,4（5,6）	複数多様

第 6 章　架構表現による構成単位の位相関係

第 1 節　　本章の目的と概要

第 2 節　　構成単位の位相関係

2-1　位相関係による構成単位の統合

2-2　位相関係の統合パタン

第 3 節　　構成単位の位相関係による住宅作品の構成形式

3-1　構成類型の抽出

3-2　構成単位の位相関係による住宅作品の構成的修辞

第 4 節　　小結

第１節　本章の目的と概要

架構表現の組み合わせによる住宅作品の構成形式を検討した第５章に続き、本章でも複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品を資料に、構成単位の位相関係による構成形式を検討する。これは前章でも述べた、複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品の構成形式の統辞的な水準を問題にするものである。

複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品においては、各構成単位をいかに配置するかということが、住宅全体の空間を特徴付ける上で重要である。本研究ではすでに、第２章の「室」の検討において動線的接続によって、「建築化された外部」の検討において内部空間と外部空間の平面的な位相関係によって空間単位の配置を捉えてきたが、本章では空間単位のより立体的な表現を捉えることができる位相関係によって、住宅全体の統辞的性格を検討する。

複数の構成単位は、平面的に並べられることもあれば、一方が他方の上部に積まれたり、内部に取り込まれたり、側面を貫かれたりするように配置されることもある。こうした配置によってもたらされる隣接、積層、包含、貫入といった構成単位の位相関係は(図6-1)、住宅全体を統合する秩序の形成に関わっていると考えられる。またその中で、積層は上下の区別、包含は内外の区別という基本的な空間の認識にかかわるので、位相関係は住宅全体に対する各構成単位の位置付けを示すことにもなると考えられる。こうした構成単位の位置付けは、例えば住宅の様々な使用用途と重ねられることによって、いわゆる住宅の社会的な意味の水準を形成する。なぜなら、居間と個室に対応する２つの構成単位の関係が、居間を上にした積層か個室を上にした積層か、あるいは居間による個室の包含か個室による居間の包含か、あるいは両者の平面的な隣接か、といったことは生活様式にも強く結び付く事柄であると考えられるからである。しかし、序章でも述べたように本研究ではこうした生活様式やそれに付随する意味を問題にするのではなく、それらが前提とする空間

の構成形式が、どのような枠組みにおいて相対的に成立しているのかを問題にする。

この主旨に基づき本章では、複数の構成単位からなる住宅作品を資料に、位相関係の階層と最大単位の関係について検討することから構成類型を抽出し、それらを成立させる構成的修辞を明らかにするとともに、構成単位の階層化による住宅全体を統合する秩序の表現から、住宅作品の構成形式の構造の一端を示すことを目的としている。

本章の内容を概略すると、まず第2節で構成単位の位相関係を検討する本章の研究方法について述べ、第3節では分析結果から構成類型を抽出し、これらを成立させる構成的修辞を明らかにしている。第4節は本章の内容を概略した小結である。

第２節　住宅作品における構成単位の位相関係

本章では前章で各住宅作品に見い出された「架構表現による構成単位」を前提に、おもにこの位相関係の階層による構成形式について具体的な分析を行う。従って本章においても前章と同じく、「新建築」誌において建築家によって高く評価された222の住宅作品のうち、複数の「架構表現による構成単位」からなる160作品を分析対象として扱う。

まず前章でも検討した「架構表現による構成単位」について見ると(表6-1,6-4)、複数の構成単位からなる160の住宅作品に、52種類の架構表現による535の構成単位を見ることができた。このなかでは、構成材が分節されない箱型の表現□■(143作品、以下括弧内数字は作品数を示す)が最も多く、次いで△■(60),△■R(52),○■(33),□■F(31),□■W(31),△■RF(28),○■RF(24),なども多い。また、ほとんどの作品において相対的に最も大きい構成単位を１つ(142)、あるいは複数(18)決めることができ、これを最大単位と呼ぶことにする。この大きさごとに架構表現を見ると(表6-2)、最大単位としては△■(20),△■R(20),□■(17),△■RF(13),□■W(12)などが、２番目に大きい単位としては□■(48),△■R(18),△■(17)などが多く見られた。

2-1　構成単位の位相関係

構成単位の位相関係(図6-1)は、基本的には２単位間の関係であり、隣接、積層、包含、貫入に分離を加えたものとして設定される。従って２単位からなる住宅作品では、位相関係をそのまま住宅全体の統辞的性格とすることができる。資料の住宅作品の構成単位数を検討すると、２単位に分節されるものは50作品で、残りの２／３は３単位(51)、４単位(25)、５単位(25)などに分節される。これらの３単位以上からなる住宅作品では、２単位の組み合わせが複数成立するので、それに対応して複数の位相関係を見ることができる。しかし２単位の組合わせのなかで軸や壁面を共有するものは、他の組合わ

せよりも優先的に見い出され、複合単位と呼びうる部分的な構成単位のまとまりをつくる。同じ4単位からなる住宅作品にも、この複合単位の作られ方によって、3単位がまとめられた複合単位と残りの1単位による構成なのか、それとも2単位ずつまとめられた2つの複合単位の構成なのか、という統辞的な性格の違いが成立する。このような複合単位は、位相関係の優先順位による階層を見ることによって捉えることができる。この位相関係の階層は、住宅全体からの構成単位の分節によって検討することができる。分析例(図6-2)では、まずこの7単位による住宅全体をまとめる1次の位相関係は、△■+○■F+□■の3単位による複合単位と、□■+□■の2単位による複合単位が同じ平面外形をもつことから、それらの積層として見ることできる。次に各複合単位をまとまる2次の位相関係は、△■+○■Fと□■の包含と、長手の壁を共有する□■と□■の隣接として見ることができる。さらに△■+○■Fの複合単位をまとめる3次の位相関係は△■と○■Fの隣接と見ることができる。これより全体は3段階の位相関係によると見ることができる。

こうした位相関係の階層は、多くの構成単位による一見複雑な構成を、少ない構成単位による単純な構成に置き換えることができるとともに、各構成単位がどのように住宅全体としてまとめられているかを示すことから、これを樹状図によって表わし統合パタンと呼ぶ(図6-3)。左の例では複合単位が見られるので隣接を1次、包含を2次の位相関係とする階層が成立するのに対して、右の例では複合単位は見られず、互いに接しない構成単位2、3、4が、最大の構成単位1に対して別々に位相関係を持つ。このような場合、すべて1次の位相関係と見ることができるので、階層がない樹状図となるが、構成単位1が位相関係の中心となって全体を統合する性格が生じていると見ることができる。このように、複数の構成単位が部分的にまとめらて複合単位を形成することによる位相関係の階層と、複数の構成単位が一つの構成単位に集中して位相関係を持つことによる中心に注目することによって、3単位以上からなる住宅作品の

位相関係による統辞的性格を捉えることができる。この階層における位相関係を見ると(表6-3)、1次の位相関係(246)の約半数が隣接(121)で、次に包含(50)、貫入(48)、積層(27)の順に多く見られた。また2次の位相関係としては、隣接(45)、包含(26)、積層(22)貫入(17)の順に多く見られた。

2-2　位相関係の統合パタン

次に全作品の統合パタンを作成すると(表6-5)、全160作品中1次の位相関係だけが見られるものは86作品、2次までの位相関係を持つものは58作品、3次までの位相関係を持つものは16作品である。このように3次までの位相関係を持つものが少ないことから、2次までの統合パタンの特徴を、階層の有無、1次の位相関係における中心の有無、2次の位相関係における中心の有無なによって捉え(図6-4)、住宅作品の統辞的性格を検討する。

1次の位相関係だけの階層なしの統合パタンとしては、2構成単位によるイ(49)、3構成単位以上で中心を持つロ(33)、中心を持たないハ(4)を見ることができる。2次以上の位相関係を持つ、階層を持つ統合パタンとしては、1次、2次の位相関係の両者に中心があるニ(2)、1次の位相関係に中心があり2次の位相関係には中心がないホ(15)、1次の位相関係に中心はなく2次の位相関係に中心があるヘ(11)、1次、2次の位相関係ともに中心がないト(42)、さらに1次の位相関係が分離であるチ(4)などが見られた。

またこれらの統合パタンにおいては、1次と2次の位相関係は異なる傾向と、また1次、2次にかかわらず、同次元では同種の位相関係が繰り返される傾向が見られた。このことは、位相の階層の中で複合単位や中心となる構成単位の存在を明確に表現するものであると考えられる。

第３節　構成単位の位相関係による住宅作品の構成形式

3-1　構成類型の抽出

前節では複合単位による位相関係の階層や、特定の単位への位相関係の集中による中心による、統合パタンの特徴について検討した。これを受けて本節本項では複合単位と最大単位の統合パタン内での位置により統辞的性格に与えられるアクセントの検討から、構成単位の位相関係による住宅作品の構成類型を抽出し、その特徴について述べる。統合パタンにおける最大単位の位置は１次の位相関係における２つの最大単位による対称、１つの最大単位による非対称、および最大単位と中心の一致について検討する。それとともに、その最大単位が２次以下の位相関係による複合単位に含まれているか、それとも単独かについて検討する。また、複合単位が見られる場合には最大単位と同様、１次の位相関係における対称、非対称、中心との一致を検討する(図6-5)。これらの検討から以下に示す構成類型[1)]を導くことができた(図6-6)。

階層も中心もない２単位の住宅作品においては、一つの最大単位に対して他の単位が付加される類型A(44)と、２単位に大きさの違いがなく２つの最大単位を持つ類型B(5)が得られた。類型Aでは構成単位間の位相関係そのものが住宅全体の統辞的性格になるので、さらに隣接による類型A1(11)、貫入による類型A2(9)、包含による類型A3(16)、積層による類型A4(8)といった位相関係に対応する独立した構成類型を見ることができる。

３単位以上の住宅作品で、階層がなく中心があるロに属するものでは、最大単位が中心となる類型C(25)と、２つの最大単位が中心をはさんで対称になる類型D(4)および最大単位が中心に一致しない類型E(4)が得られた。これらでは１次の最大単位に対して同じ位相関係が繰り返され、類型Cでは包含、貫入が、類型D、Eでは隣接が多く見られるという特徴がある。

階層と１次の位相関係の中心によるニ、ホに属するものでは、最

大単位を含む複合単位が中心に一致する類型F(10)、最大単位を含む複合単位が非対称になる類型G(4)が得られた。類型F、Gともに1次の位相関係で特定の構成単位に複数の単位が隣接し、2次の位相関係は隣接以外になるものが多い。

4単位以上の住宅作品で、階層と複合単位における中心によるへに属するものでは、最大単位と位相関係の集中による複合単位が1次の位相関係で統合される類型H(5)と、最大単位を中心とする複合単位と、他の構成単位や複合単位が付加される類型I(4)が得られた。両類型においても複合単位を形成する2次の位相関係と1次の位相関係が異なる。1次の位相は様々であるが、2次で特定の構成単位に集中する位相関係として、隣接が多く見られた。

階層のなかに中心がないトに属するものでは、最大単位と複合単位が1次の位相関係でまとめられる類型J(13)、最大単位を含む複合単位に構成単位が付加される類型K(15)、最大単位を含む複合単位ともう一つ別の複合単位が1次の位相関係でまとめられる類型L(5)などが得られた。類型J、Kではその組み合わせは様々だが、1次の位相関係と2次の複合単位を形成する位相関係が異なる。類型Lでは2つの複合単位はそれぞれ異なる位相関係によってまとめられる。

さらに3単位以上の構成単位が1次の位相関係において循環、連鎖(ハとトの一部)するように隣接し、位相関係の中心が作られない類型M(10)が得られた。

3-2　構成単位の位相関係による住宅作品の構成的修辞

前項で得られた構成類型を比較すると、いくつかの共通する特徴を見ることができるが、これらが構成的修辞として重なりあうことによって、構成類型は成立していると考えられる。先にも述べたとおり、本研究では住宅全体を最終的にまとめる位相関係を1次の位相関係としている。この住宅全体の大まかな分節にともなって見い出される位相関係と構成単位の性格(単独の単位か、最大単位か、複合単位か)は、住宅作品の統合における主調的な統辞的性格を形

成するものと考えられる。従って複数の構成類型に共通する特徴を明らかにするには、まず１次の位相関係がまとめている構成単位数とその種類の検討が重要である。

２単位の位相関係がそのまま住宅全体を統合する類型A,Bと、特定の構成単位に位相関係が集中して３単位以上の全体が統合される類型C,D,E,は、ともに複合単位による階層を作らないので、１次の位相関係による基本的な統辞的性格と見ることができる。この２つの在り方を比較すると、類型A,Bは＜２項関係＞、類型C,D,Eは＜集中＞と呼びうる構成的修辞によって成立すると見ることができる。これに対して３以上の構成単位が、２項の関係や特定の中心によってまとめられない類型Mは、それに代わる＜連鎖・循環＞と呼びうる構成的修辞によって成立すると見ることができる。

これらの基本的な修辞は構成単位数が多い住宅作品においても、複合単位を形成し位相関係を階層化することによって成立する。例えば構成単位が３以上の類型H,I,J,K,Lは、複合単位を形成することによって１次の位相関係を２項の関係にまとめることから、類型A,B同様＜２項関係＞による類型と言える。また類型F,Gは、特定の構成単位を中心に複合単位や構成単位が集中して位相関係を持つことによってまとめられることから、類型C,D,E同様＜集中＞による類型と言える。さらに類型M'も複合単位が形成されることによって、＜連鎖・循環＞と呼びうる構成的修辞によって成立すると言える。

このように構成単位数が多い場合も複合単位を形成することによって、１次の位相関係を＜２項関係＞、＜集中＞、＜連鎖・循環＞のいずれかにまとめる操作が行われていると見ることができることから、これらを住宅全体の統合を大まかに規定する《統合の図式》に関する構成的修辞としてまとめることができる。各構成類型はこの《統合の図式》に対する最大単位や複合単位の関係によってさらに差異化される。

例えば２単位に大きさの対比が見られるか、２単位がほぼ同じ大きさであるか、という構成単位の大きさの組み合わせの違いによっ

て、＜２項関係＞の統合図式において類型A,Bが成立する。これより類型Aは大きさの違う２単位の＜主／従＞、類型Bは大きさの同じ２単位の＜均衡＞という構成的修辞によるものと見ることできる。また＜集中＞の統合の図式においては、最大単位と中心の一致、不一致などによって類型C,D,Eが成立する。類型Cでは最大単位を中心に１次の位相関係が成立するのに対し、類型Dでは中心となる構成単位を２つの最大単位ではさむような１次の位相関係が成立する。これより類型Cは中心となる構成単位が最大単位として強調される＜中心の強調＞、類型Dは最大単位の偏りが見られない＜対称＞という構成的修辞によるものと言える。またこれらとの相対的な関係から、中心と最大単位が一致しない類型Eは＜偏心＞という構成的修辞によるものと言える。

この＜主／従＞、＜均衡＞、＜中心の強調＞、＜対称＞、＜偏心＞という構成的修辞は、＜２項関係＞と＜集中＞による《統合の図式》を前提にした、《抑揚》に関する構成的修辞としてまとめることができるが、《統合の図式》と同じように、構成単位数が多い住宅作品においても、複合単位を形成し位相関係を階層化することによって成立する。例えば＜２項関係＞による類型Iと類型Kは、類型Aの最大単位が複合された最大単位に置き換えられたものと見ることができることから、これも類型A同様＜主／従＞による類型といえる。また＜集中＞による類型Fは、類型Cの中心となる最大単位が複合された最大単位に置き換えられたものと見ることができることから、これも＜中心の強調＞による類型といえる。また類型Gは、類型Eの中心と一致しない最大単位が複合された最大単位に置き換えられたものと見ることができることから、これも＜偏心＞による類型と言える。これら類型I、類型K、類型F、類型Cでは、位相関係を階層化する複合単位と、この階層にアクセントを与える最大単位が重ねられる最大単位の複合によって《統合の図式》および《抑揚》に関する修辞が成立するものである。

また＜２項関係＞による類型Hと類型Jは、最大単位と中心を持つ

複合単位による１次の位相関係が成立するものであるが、この複合単位は小さな単位がまとめられて最大単位に匹敵する大きさになるものが多いことから、これも＜均衡＞による類型といえる。さらに＜２項関係＞による類型Lは、２つの複合単位が１次の位相関係で統合され、位相関係の階層に対称性が見られるものである。

以上を整理することによって(図6-6)構成単位の位相関係による構成類型を、１次の位相関係における＜２項関係＞、＜集中＞、＜連鎖・循環＞という《統合の図式》に関する構成的修辞を骨格とし、この《統合の図式》と最大単位の関係によって＜主／従＞、＜均衡＞、＜中心の強調＞、＜対称＞、＜偏心＞という《抑揚》に関する構成的修辞が成立する構造のなかに位置付けることができる。そして、多くの構成単位をまとめるために、位相関係を階層化して複合単位を形成することに関連して、最大単位の複合や最大単位と複合単位の均衡などの操作を見ることができた。

第4節　小結

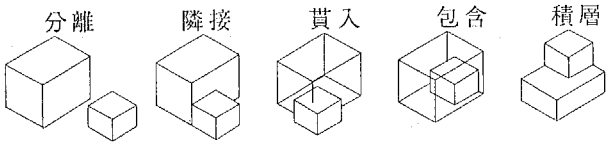
本章では、複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品の構成形式として、構成単位の位相関係による構成形式を検討した。構成単位の位相関係は住宅作品の統合における、統辞的な水準を形成するものであり、位相関係の階層、中心などの特徴と、最大単位、複合単位の関係などから構成類型を導いた。そしてこれらの類型を成立させる構成的修辞として、＜2項関係＞、＜集中＞、＜連鎖・循環＞という《統合の図式》に関する修辞と、＜主／従＞、＜均衡＞、＜中心の強調＞、＜対称＞、＜偏心＞という《抑揚》に関する修辞を明らかにするとともに、最大単位の複合や最大単位と複合単位の均衡などの操作を通した《統合の図式》と最大単位の関係によって《抑揚》に関する構成的修辞が成立する構造のなかに構成類型を位置付けた。

ここで得られた結果は、住宅の空間構成における内的な構造の一端を示すものであり、このことを踏まえることによって、既成の構成形式に対する分析と批評に立脚した住宅の設計が可能になると考える。また本章で明らかにされた構成単位の位相関係による構成的修辞と、前章で検討した架構表現の組合せによる構成的修辞は、それぞれ統辞的水準と範列的水準における統合として重ねられることによって、「架構表現による構成単位」に基づく住宅作品の総括的な構成形式を成立させている。そこで次章において、この2水準の関係を含めた住宅作品の構成形式の包括的な検討を行う。

第6章の注

1)ここでは基本的に、表6-5において同じ構成的特徴を持つ4作品以上のまとまりを類型として抽出している。これらの類型としては抽出されないものについては、類似した特徴を持つ類型の準類型として「'」を付して示すか(例、H')、複数の類型の特徴を併せもつものとして(D,G)のように示した。

図6-1　位相関係



注）構成単位どうしの軸の一致やずれなどは、位相関係の優先度を判断するためには問題にするが、２単位間の位相関係の設定においては問題にしない。

図6-2　分析例

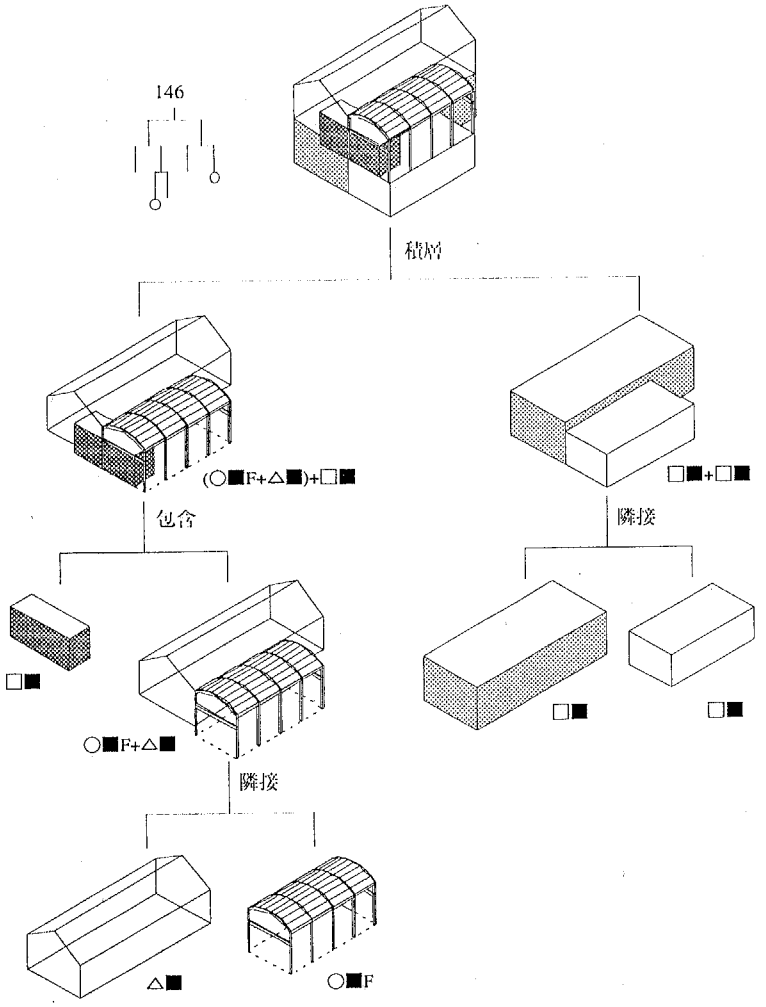
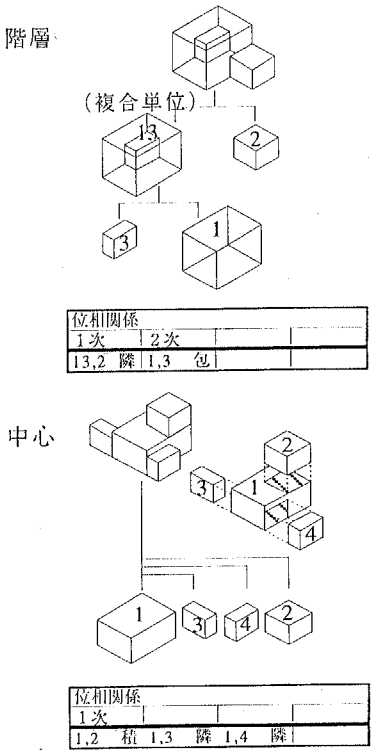


図6-3　階層と中心



注）資料の分析においては、構成単位には大きさ順の番号を、複合単位には１３５や２４のようにそれを連ねた番号を付し、単位の組合せとその位相関係を同じ枠内に表示している。また、次数が同じ位相関係には網を掛けた。
樹状図は統合ﾊﾟﾀﾝであり、最大単位のそのなかでの位置を○印によって表す。

表6-1　架構表現の集計

		断面形 ●	■	▲	▼
平面形	○	○● 2 ○●RW 1	○■ 33 ○■RF 24 ○■R 6 ○■F 5 ○■RW 1		○▼RW 2 ○▼R 1
	△	△● 7 △●R 2 △●W 2 △●RF 1 △●RW 1	△■ 60 △■R 52 △■RF 28 △■F 12 △■RW 7 △■RFS 3 △■RWS 2 △■FW 1 △■RS 1 △■W 1	△▲ 4 △▲F 1 △▲RF 1	△▼ 3 △▼R 2 △▼RF 1 △▼W 1
	□	□● 19 □●W 3 □●FW 1 □●RW 1	□■ 143 □■F 31 □■W 31 □■S 5 □■WS 3 □■FW 2 □■RW 2 □■FS 1 □■RF 2 □■RFS 1 □■RWF 1	□▲ 1 □▲F 1 □▲SF 1	□▼ 10 □▼F 5 □▼W 3

表6-2　大きさによる集計

構成単位の大きさ 1			2	
△■	20	△▼RF 1	□■ 48	○■R 1
△■R	20	△▼R 1	△■R 18	○●RW 1
□■	17	○■RW 1	△■ 17	○■F 1
△■RF	13	□● 1	○■ 9	○▼R 1
□■W	12	□■R 1	□■F 8	○▼RW 1
○■	10	□■RFS 1	□■W 10	□●FW 1
□■F	8	□■RW 1	△■RF 6	□●W 1
○■RF	5	□■RWF 1	○■RF 6	□■FW 1
△■F	5	△●RF 1	□● 5	□■RW 1
○■R	3	△●RW 1	△■F 5	□▲SF 1
□■S	3	△●W 1	□▼ 3	□▼W 1
□■WS	3	△■RS 1	□▼F 3	△● 1
△●	3	△■W 1	□■S 2	△●R 1
△■RFS	3	△▲F 1	△■RW 2	△●W 1
△■RW	3	△▲RF 1	△▲ 2	△■FW 1
△▼	3	△▼W 1		△▼R 1
○■F	2	○● 1		
□▼	2			
□▼F	2			
□▼W	2			
△■RWS	2			
△▲	2	計160		計160

表6-3　位相関係の集計

	貫入	積層	包含	隣接	分離	
1次	48	27	50	121	4	246
2次	17	22	26	45	0	110
3次	4	8	4	8	0	24
	69	57	80	174	4	380

表6-4　分析結果と資料リスト

構成単位 2

No.	発表号	作品名	架構表現 1	架構表現 2	位相関係 1			統合パタン	最大単位位置	位相類型
1	5109	森博士の家	△■RW	△■R	1,2	貫	イ	非対称		A2
2	5202	増沢口邸	△■RF	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
4	5205	西京風の家	△■R	△■R	1,2	隣	イ	非対称		A1
8	5306	大久保博士の家	△■R	△■R	1,2	隣	イ	非対称		A1
9	5307	C-レーゼ邸	△■R	△■R	1,2	隣	イ	非対称		A1
12	5311	S 口 1	△■RF	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
13	5409	コアのあるH氏の住い	△■R	□■W	1,2	包	イ	非対称		A3
14	5411	住宅No.20	△■RF	□■W	1,2	包	イ	非対称		A3
20	5511	住宅No.28	□■RF	□■W	1,2	包	イ	非対称		A3
23	5702	栗の木のある家	△■R	△■R	1,2	隣	イ	非対称		A1
28	5809	傾斜地に建つ家	△■RFS	△■R	1,2	隣	イ	非対称		A1
29	5901	菊竹口邸	△■RWS	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
36	6203	O氏邸	△▼RF	△▼R	1,2	隣	イ	非対称		A1
38	6210	から傘の家	△■RF	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
44	6404	合掌の山荘	△■R	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
48	6605	浜田山の家	△■R	□■	1,2	積	イ	非対称		A4
55	6707	白の家	△■R	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
59	6901	金子邸	□■RW	□■	1,2	積	イ	非対称		A4
72	7208	軽井沢の家その1	△■R	□■	1,2	積	イ	非対称		A4
91	7604	Y邸	□●	○■	1,2	貫	イ	非対称		A2
96	7611	代田の町家	△▼	□■FW	1,2	貫	イ	非対称		A2
97	7611	中野本町の家	△●	□■	1,2	隣	イ	非対称		A1
98	7701	上原通りの住宅	□■F	○■	1,2	積	イ	非対称		A4
103	7708	柚生の家	△■	○■	1,2	包	イ	非対称		A3
104	7802	箱建の家	□■RWF	○■	1,2	隣	イ	非対称		A1
110	7810	上原曲り道の住宅	△▼	□●	1,2	積	イ	非対称		A4
113	7902	个宿の家	△■	○■	1,2	包	イ	非対称		A3
120	8002	土田邸	□■	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
124	8008	中央林間の家	△■	○■	1,2	貫	イ	非対称		A2
126	8008	塚田邸	△■R	△■R	1,2	貫	イ	非対称		A2
128	8101	花山第4の住宅	□■	○■	1,2	積	イ	非対称		A4
129	8102	私たちの家	△■	△▲	1,2	隣	イ	非対称		A1
139	8204	筑間の家	△●	△■	1,2	隣	イ	非対称		A1
152	8509	茅ヶ崎の家	△■RF	□■	1,2	積	イ	非対称		A4
154	85冬	SPINNING HOUSE	△■F	□■	1,2	積	イ	非対称		A4
160	8610	開拓者の家	○■	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
166	8709	秋穂の アトリエ	△■F	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
172	8806	巣山の家	△●	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
176	8810	ハイコンプレックス	○■	△■	1,2	貫	イ	非対称		A2
181	8908	ちめんかのや	○■R	□■	1,2	隣	イ	非対称		A1
187	9001	馬都の住宅	△■	□■	1,2	包	イ	非対称		A3
193	9008	狐ヶ城の家	○■RF	○■RF	1,2	貫	イ	非対称		A2
194	9010	桜丘の家	△■W	△■F	1,2	貫	イ	非対称		A2
202	9202	もうひとつのガラスの	□■S	□■W	1,2	貫	イ	非対称		A2
135	8108	湯の花の家	△■RFS	□■	1,2	積	イ	対称		B
175	8810	PLATFORM	△■RFS	□■	1,2	貫	イ	対称		B
177	8810	テンパ・ハウス	△▲	△●	1,2	隣	イ	対称		B
179	8902	流足の家	□■	□■	1,2	隣	イ	対称		B
209	9208	富士箱野の山荘	□■	□■	1,2	積	イ	対称		B
119	8002	松谷邸	□■WS	□■	1,2	分	チ	非対称		N

構成単位 3

No.	発表号	作品名	架構表現 1	架構表現 2	架構表現 3	位相関係			統合パタン	最大単位位置	最大単位性格	摂単位位置	類型
83	7502	天と地の家	△■	△■	□■	1,3	隣	2,3 隣	ロ	対称	単		D
89	7602	陵象の家	△■	△■	□■F	1,3	隣	2,3 隣	ロ	対称	単		D
131	8104	光悟子の家	□▼F	□▼F	□■	1,3	隣	2,3 隣	ロ	対称	単		D
162	8701	熊本の住宅	△■R	△■R	□▲F	1,3	隣	2,3 隣	ロ	対称	単		D
41	6308	阿佐ヶ谷の家	△■R	□■RW	□■	1,2	隣	1,3 隣	ロ	中心	単		C
67	7202	直方体の森	□■	□▼	□▼	1,2	包	1,3 包	ロ	中心	単		C
78	7307	ザ・ガリバウス	△▼	△■	△■	1,2	隣	1,3 隣	ロ	中心	単		C
82	7502	北山・住宅	△■	□■	□■	1,2	包	1,3 包	ロ	中心	単		C
94	7609	船橋ビックス	□■	□▼F	□■	1,2	包	1,3 包	ロ	中心	単		C
95	7609	中内邸	△■	△■	△■	1,2	包	1,3 包	ロ	中心	単		C
117	7910	小田原の住宅1978	□■F	□●	□●	1,2	包	1,3 包	ロ	中心	単		C
130	8103	松山桑原の住宅	△■	△■FW	△■RF	1,2	隣	1,3 隣	ロ	中心	単		C
134	8106	祖師ヶ谷の家	○■	△■	○■	1,2	隣	1,3 隣	ロ	中心	単		C
153	8512	ギャラリーをもつ家	△■	□■	□■	1,2	積	1,3 積	ロ	中心	単		C
157	8605	ハウス イヨハマ	○■	□■	○■	1,2	隣	1,3 隣	ロ	中心	単		C
165	8705	SHIP1987	□■W	□■F	□■F	1,2	積	1,3 積	ロ	中心	単		C
199	9109	鰐月夜の家	○■R	△■R	△■R	1,2	隣	1,3 隣	ロ	中心	単		C
215	9307	懐風荘	△■R	□●	△●R	1,2	隣	1,3 隣	ロ	中心	単		C
220	9311	山中湖のガラスの家	□■W	△■F	△■F	1,2	貫	1,3 積	ロ	中心	単		C
122	8008	対空間の家	□■	□■	□■	1,3	隣	2,3 隣	ロ	非対称	単		E
156	8603	ヴィラ森井	△●RF	△■R	□■	1,3	隣	2,3 隣	ロ	非対称	単		E
164	8705	練馬の家	△■RF	△■R	△■R	1,2	貫	2,3 貫	ロ	非対称	単		E
201	9110	寒松林の家	△■RF	△■RF	△■RF	1,3	隣	2,3 隣	ロ	非対称	単		E
185	8911	千葉の住宅	△▼R	□▲SF	□■	1,2	隣	1,3 貫 2,3 隣	ハ	循環	単		M
192	9008	何晶の家	□■W	○▼RW	○▼RW	1,2	貫	1,3 貫 2,3 隣	ハ	循環	単		M
52	6701	共戸邸	□▼F	□■F	□■W	1,23	隣	2,3 積	ト	非対称	単	非対称	J
74	7211	反住器	□■F	□■F	□■	1,23	包	2,3 積	ト	非対称	単	非対称	J
79	7307	宮島邸	□■	□■	□■	1,23	積	2,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
85	7506	幻庵	○■	□■	□■	1,23	包	2,3 積	ト	非対称	単	非対称	J
88	75夏	八千代	△■F	□■	□■	1,23	積	2,3 包	ト	非対称	単	非対称	J
141	8208	積木の家IV	△■	□▼W	△■	1,23	積	2,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
148	8407	ランドシップII・ひまわり	△▼W	△●R	○■F	1,23	貫	2,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
159	8609	馬込沢の家	○■RF	□■	□■	1,23	包	2,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
190	9003	COSMOS	△■	□■	□■F	1,23	包	2,3 積	ト	非対称	単	非対称	J
222	9405	Y-HOUSE	□■WS	□■	□■	1,23	隣	1,2 包	ト	非対称	単	非対称	K
17	5411	住宅No.17	□■F	□■F	□■	12,3	貫	1,2 積	ト	非対称	複	非対称	K
25	5712	villa CouCou	△■	□■	□■	12,3	隣	1,2 包	ト	非対称	複	非対称	K
49	6605	池田山の家	□■S	□■S	□■W	12,3	隣	1,2 貫	ト	非対称	複	非対称	K
53	6701	もうびいでいっく	△●RW	□●	□■F	12,3	隣	1,2 包	ト	非対称	複	非対称	K
75	7302	昨雪軒	□■	△■RW	△■R	12,3	積	1,2 隣	ト	非対称	複	非対称	K
111	7902	南湖の家	△■	□■W	□■	13,2	隣	1,3 包	ト	非対称	複	非対称	K
132	8104	るるる阿房	□■	□▼	□●	12,3	貫	1,2 積	ト	非対称	複	非対称	K
138	8202	経堂の家1980	□■F	△■F	□■	12,3	包	1,2 隣	ト	非対称	複	非対称	K
184	8909	芦ヶ沢の山荘	△■R	□■	□■	12,3	隣	1,2 包	ト	非対称	複	非対称	K
198	9104	VILLA TORII	△■RW	□●W	□●W	12,3	貫	1,2 隣	ト	非対称	複	非対称	K
206	9206	富岡の住宅	△■RF	△■RF	△■	12,3	貫	1,2 隣	ト	非対称	複	非対称	K
216	9307	BLUE-SCREEN HOUSE	○■	□■	□■W	13,2	積	1,3 包	ト	非対称	複	非対称	K
219	9310	ダブルルーフの家	□■RFS	△■RF	□■FS	13,2	包	1,3 貫	ト	非対称	複	非対称	K
5	5207	名取邸	△■R	△■R	△■R	13,2	隣	1,3 貫	ト	非対称	単／複	非対称	J,K
60	6905	自邸	□■	△■	□■	13,2	隣	1,3 隣	ト	非対称	単／複	非対称	J,K
71	7208	まつかわ・ぼっくす	□■	□■F		12,3	分	1,2 包	チ	非対称	複		N

構成単位 4 以上

No.	発表号	作品名	架構表現 1	2	3	4	5	6	7	位相関係	統合パタン	最大単位位置	最大単位性格	複合単位位置	類型
47	6507	八幡野の週末住宅	△■R	△■R	△■R	△■R				1,2 貫 1,3 貫 1,4 隣	ロ	中心	単		C
56	6804	石亀邸	□■	□■F	□■F	□■F				1,2 貫 1,3 貫 1,4 隣	ロ	中心	単		C
61	6908	閑らんの家－IS邸	□▼W	△■RW	△■RW	△■RW				1,2 貫 1,3 貫 1,4 貫	ロ	中心	単		C
73	7209	栗津邸	○■	□■	□■	□■	□■			1,2 包 1,3 包 1,4 包 1,5 包	ロ	中心	単		C
86	7509	原邸	△■	○■	○■	○■	○■			1,2 包 1,3 包 1,4 包 1,5 包	ロ	中心	単		C
107	7808	山川山荘	△■RS	△■	△■	△■	△■			1,2 包 1,3 包 1,4 包 1,5 包	ロ	中心	単		C
140	8205	逗瀬台の家	△■R	△■R	△■R	△■R				1,2 貫 1,3 貫 1,4 貫	ロ	中心	単		C
145	8308	光香	○●	□■	□■	□■				1,2 貫 1,3 貫 1,4 貫	ロ	中心	単		C
171	8803	雪中居	○■	△■F	△■	△■				1,2 包 1,3 包 1,4 包	ロ	中心	単		C
183	8909	若槻邸	□■F	○■RF	○■RF	○■RF	○■RF	○■RF		1,2 隣 1,3 隣 1,4 隣 1,5 隣 1,6 隣	ロ	中心	単		C
57	6807	山城さんの家	△■R	△■R	△■	△■				1,3 隣 2,3 隣 2,4 隣 1,4 隣	ハ	循環	単		M
40	6306	エコトプランの家	□■W	□■W	□■W	□■W	□■W			1,2 隣 2,3 隣 3,4 隣 4,5 隣	ハ	連鎖	単		M
51	6609	もみの木の家	△■RF	△■RF	△■RF	△■RF	△■RF	△■RF		124,3 隣 124,5 隣 124,6 隣 1,2 隣 1,4 隣	ニ	中心	複	中心	F
149	8501	シルバーハット	○■F	○■RF	○■RF	○■RF	○■RF	□■	□■	12367,4 隣 12367,5 隣 1,27 隣 1,36 隣 27,36 隣 2,7 貫 3,6 包	ニ	中心	複	中心	F
143	8211	藤井邸	□▼	□■F	□■F	□■F				1,25 積 1,3 積 1,4 積 2,5 貫	ホ	中心	単	非対称	C'
204	9203	週末住宅(暗箱と鳥籠)	□■W	□■W	□■W	□■W				1,2 隣 1,34 隣 3,4 隣	ホ	中心	単	非対称	C'
108	7808	伊東邸	△■R	□■	○●	○■	□■			125,3 隣 125,4 隣 15,2 積 1,5 包	ホ	中心	複	中心	F
115	7910	M K邸	□■W	○●FW	□■	□■	□■			12,3 隣 12,4 隣 12,5 隣 1,2 貫	ホ	中心	複	中心	F
116	7910	上田の住宅1977	□■F	□■F	□■F	□●				14,2 隣 14,3 隣 1,4 包	ホ	中心	複	中心	F
121	8006	北祇の家	△■R	△■R	△■R	△■R				14,3 隣 14,2 隣 1,4 隣	ホ	中心	複	中心	F
144	8302	白影	□■	○■	○■	○■	○■			12,3 貫 12,4 貫 12,5 隣 1,2 貫	ホ	中心	複	中心	F
173	8809	HOUSE F	△■RF	□■	□■	□■	□■			125,3 隣 125,4 隣 15,2 積 1,5 包	ホ	中心	複	中心	F
197	9103	villa kuru	△■RWS	□■	□■	□●				12,3 貫 12,4 貫 1,2 積	ホ	中心	複	中心	F
221	9405	森の別荘	△●W	△●W	□■	□■				12,3 隣 12,4 隣 1,2 包	ホ	中心	複	中心	F
100	7702	同畑草庵	△■RF	△■	△■R	△■R	□▼			13,45 隣 2,45 隣 1,3 隣 4,5 隣	ホ	非対称	複	非対称	G
133	8106	小篠邸	□■W	□■	□■	△■				13,4 隣 2,4 隣 1,3 包	ホ	非対称	複	非対称	G
200	9110	四季が丘の家	□■W	○■RF	□■	□■FW	○■RF	□■		123,4 隣 4,56 隣 1,23 包 5,6 積 2,3 積	ホ	非対称	複	対称	G
214	9301	角地の木箱	△■F	△■	□●	□■	□●			13,4 貫 25,4 貫 1,3 貫 2,5 隣	ホ	非対称	複	対称	G
90	7602	鰐居の家	□■	□■	□■	□■				14,3 隣 2,3 隣 1,4 包	ホ	非対称	単／複	非対称	D,G
217	9309	甲 SHELL koura	○■RF	□■	□■	□■	□■	□■		1;23,4 56 貫 2,3 積 2,4 積 2,5 積 2,6 隣	ヘ	中心	単	非対称	H
136	8108	積木の家III	□▼	△■	△■	△■	□▼			1;2345 積 2,5 隣 3,5 隣 4,5 隣	ヘ	非対称	単	非対称	H
161	8612	屋久島の家	△■RF	△■	△■	□■				1234 貫 2,4 隣 3,4 隣	ヘ	非対称	単	非対称	H
167	8710	INSCRIPTION	△▲F	△▲	△●	△●				1234 隣 2,3 隣 3,4 隣	ヘ	非対称	単	非対称	H
186	9001	ECHO CHAMBER	□■W	△■R	△■R	△■				1234 積 2,4 隣 3,4 隣	ヘ	非対称	単	非対称	H
50	6605	赤星邸	□■S	□■S	□■	□■	□■			134,25 隣 1,3 隣 1,4 貫 2,5 隣	ヘ	非対称	複	対称	I
142	8211	成城・バス停前の家	□■	□■W	□■F	□●				123,4 隣 1,2 隣 1,3 隣	ヘ	非対称	複	非対称	I
195	9012	都山荘	△■	△■F	△■F	△●				123,4 隣 1,2 貫 1,3 積	ヘ	非対称	複	非対称	I
210	9209	好日山荘	○■	○■	○■	○■	□■F			15234 隣 1,5 積 2,3 貫 2,4 隣	ヘ	非対称	複	対称	I,L
211	9301	岡山の住宅	□■W	△■RF	△■RF	△■RF	○■RF	○■RF	△■	123456,7 隣 1,24 包 1,35 包 1,6 包 2,4 隣 3,5 隣	ヘ	非対称	複	非対称	I
180	8905	物質試行26	△■F	○■R	□■	□■				1234 隣 2,3 包 2,4 包	ヘ	非対称	単／複	非対称	I,H
66	7104	水無瀬の町家	△■	□■W	□■	□■				134,2 隣 1,34 包 3,4 積	ト	中心	単	非対称	K
92	7606	雪ヶ谷の住宅	□■W	□▼W	□■	□■				1234 包 2,34 包 3,4 積	ト	非対称	単	非対称	J
105	7803	住川邸	△■	△■	□●	□●	□●			1;2345 隣 2345 貫 3,4 積 4,5 積	ト	非対称	単	非対称	J
114	7905	石原邸	□■W	□▼	□▼	□▼	□●W			1;2345 包 234,5 隣 2,3 積 3,4 積	ト	非対称	単	非対称	J
207	9208	BEAN HOUSE	□■F	○●RW	□●RW	□●	□■			1;2345 貫 2,3 貫 2,4 貫 3,5 積 4,5 隣	ト	非対称	単	非対称	J
30	6004	Case Study House#3	△■RW	□■W	□■	□■				14,23 積 1,4 包 2,3 包	ト	非対称	複	対称	L
109	7810	日邸	□■	○■	□■	□■	○■	○■		1456,23 貫 2,3 積 1456 積 4,5 貫 4,6 貫	ト	非対称	複	対称	L
146	8312	花小金井の家	△■	□■	□■F	□■	□■			135,24 積 1,3 包 2,4 隣 1,3 隣	ト	非対称	複／複	非対称	B,L
147	8312	ランドシップトリス	△▲	△■	○■R	△■				12,34 隣 1,2 貫 3,4 包	ト	非対称	複	対称	L
169	8711	慶王公園林フォリストハウス	○■F	△▼F	□■	□■	□■			1345,2 隣 1345 包 3,4 積 3,5 積	ト	非対称	複	非対称	H'
208	9208	シルヴァー・ルーフ	○■R	○■F	□■F	□■	□●	□●	□▲	123467,5 隣 1;23467 包 2,3 隣 2,4 隣 2,6 隣 2,7 貫	ト	非対称	複	非対称	H'
151	85春	浦崎の家	△■RF	△■RF	□■F	△■RF	△■RF	□■		12346,5 隣 16,2 隣 2,34 隣 16,34 隣 3,4 隣 1,6 包	ト	非対称	複	非対称	M'
155	85冬	修学院の家II	○■	□●	△■	□■W	□■RF			1,3 貫 3,2 貫 2,45 貫 1,45 隣 4,5 積	ト	循環	単	非対称	M'
212	9301	碧篩の住宅	○■RW	□■	○■RF	□■	□■F			13,2 隣 13,45 隣 2,45 貫 1,3 隣 4,5 積	ト	循環	複	非対称	M'
62	7009	大山邸	△▲RF	△■	□■	△■	△■	□■		1,3 貫 1456 隣 2456 隣 45,6 隣 4,5 隣	ト	連鎖	単	非対称	M'
158	8609	練馬の住宅	○■R	○▼R	○■RF	□■	○■RF			1,34 隣 1,5 隣 2,34 隣 3,4 包	ト	連鎖	単	非対称	M'
63	7101	統私の家	□■WS	△■R	□■	□■	△■			13,4 隣 13,5 隣 5,2 隣 1,3 貫	ト	連鎖	複	非対称	M'
170	8801	軽井沢の別荘	○■RF	○■RF	□■F	△■	△■			123,45 分 1,3 貫 2,3 貫 4,5 隣	チ	対称	複	対称	N
178	8811	椎名町の住宅	△■	○■RF	□■	△■R				123,4 分 1,23 隣 2,3 積	チ	非対称	複	非対称	N

図6-4　統合パタンの特徴

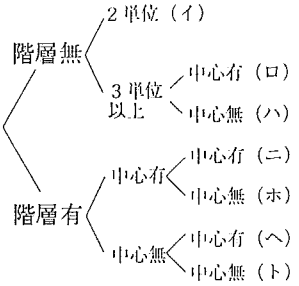


図6-5　最大単位と複合単位の位置

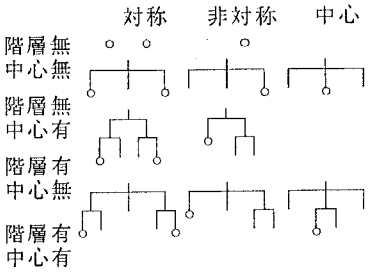
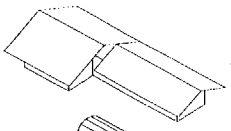
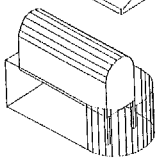
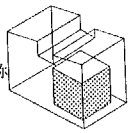
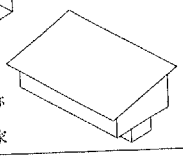
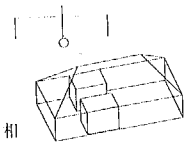
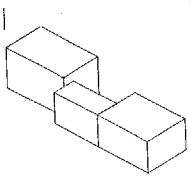


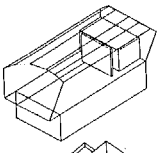
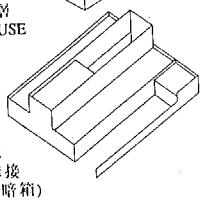
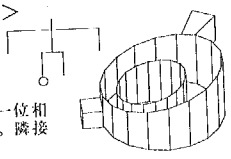
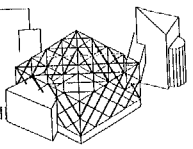
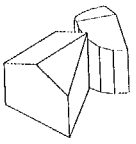
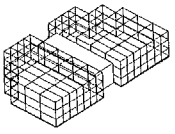
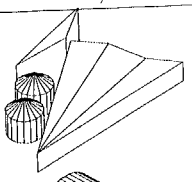
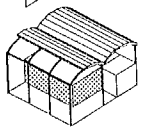
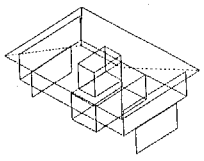
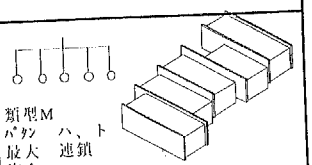
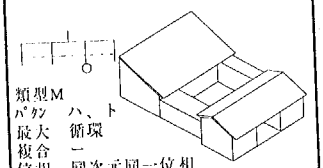
表6-5　位相関係の統合パタン

イ	1,2,4,8,9,12,13,14,20,23,28,29,36,38,44,48,55,59,72,91,96,97,98,103,104,110,113,120,124,126,128,129,139,152,154,160,166,172,176,181,187,193,194,202 A	135,175,177,179,209 B						
ロ	41,67,78,82,94,95,117,130,134,153,157,165,199,215,220	47,56,61,140,145,171	107,73,86	183 C	83,89,131,162 D	122,156,164,201 E		
ハ	57	185,192	40 M					
ニ	51	149 F						
ホ	204	143 C'	115,144	108,173	116,121,197,221 F	100	133	200	214 G	90 (D,G)
ヘ	161,167,186	136	217 H	195,142	50	211 I	210 (I,L)	180 (I,H)		
ト	52,74,79,85,88,141,148,159,190	92	207	105,114 J	208	169 H'	25,49,53,75,111,132,138,184,198,216,219,222	17,206	66 K	
	155	212	63	62	158	151 M'	30,147	109 L	5,60	146 (J,K) (B,L)		
チ	119	71	170	178 N						

注）○は最大単位における統合パタンの位置を示し、表中の数字は作品番号を示す。また、アルファベットで類型のまとまりを示す。

図6-6　構成単位の位相関係による構成類型と構成的修辞

<table>
<tr><th></th><th></th><th colspan="3">統合の図式</th></tr>
<tr><th></th><th></th><th>＜２項関係＞</th><th>＜集中＞</th><th>＜連鎖・循環＞</th></tr>
<tr><td rowspan="4">最大単位と複合単位・抑揚</td><td>最大単位とその他の対比</td><td>＜主／従＞
類型A1
ﾊﾟﾀﾝ　イ
最大　非対称
位相　隣接
23.栗の木のある家
 
類型A2
ﾊﾟﾀﾝ　イ
最大　非対称
位相　貫入
91.Y邸
 
類型A3
ﾊﾟﾀﾝ　イ
最大　非対称
位相　包含
187.馬組の家
 
類型A4
ﾊﾟﾀﾝ　イ
最大　非対称
位相　積層
48.浜田山の家
  </td><td>＜中心の強調＞
 
類型C
ﾊﾟﾀﾝ　ロ
最大　中心
位相　同次元同一位相
包含、隣接
82.北山の住宅
＜偏心＞
 
類型E
ﾊﾟﾀﾝ　ロ
最大　非対称
位相　同次元同一位相
隣接
122.対空間の家</td><td>＜凡例＞
ﾊﾟﾀﾝ　統合ﾊﾟﾀﾝ
最大　最大単位の位置
複合　複合単位の位置
位相　位相関係の類向
作品番号.作品名

図注）
「同次元同一位相」は一つの構成単位に対し複数の構成単位が同じ位相関係を持つことを、「階層変化」は１次と２次の位相関係が異なることを示す。</td></tr>
<tr><td>最大単位の複合</td><td>＜主／従＞
 
類型K
ﾊﾟﾀﾝ　ト
最大　非対称複
複合　非対称
位相　階層変化。積層
216.BLUE SCREEN HOUSE
 
類型I
ﾊﾟﾀﾝ　ヘ
最大　非対称複
複合　非対称・対称
位相　階層変化。隣接
204.週末住宅(鳥籠と暗箱)</td><td>＜中心の強調＞
 
類型F
ﾊﾟﾀﾝ　ホ(ニ)
最大　中心複
複合　中心
位相　同次元同一位相
階層変化。隣接
221.森の別荘
＜偏心＞
 
類型G
ﾊﾟﾀﾝ　ホ
最大　非対称複
複合　対称
位相　同次元同一位相
貫入
214.角地の本箱</td><td></td></tr>
<tr><td>最大単位2</td><td>＜均衡＞
 
類型B
ﾊﾟﾀﾝ　イ
最大　対称
位相　隣接
177.ﾃﾝﾒｲﾊｳｽ</td><td>＜対称＞
 
類型D
ﾊﾟﾀﾝ　ロ
最大　対称
位相　同次元同一位相
隣接
131.光格子の家</td><td></td></tr>
<tr><td>最大単位と複合単位</td><td>＜均衡＞
 
類型H
ﾊﾟﾀﾝ　ヘ
最大　非対称単
複合　非対称
位相　同次元同一位相
階層変化。隣接
167.INSCRIPTION
 
類型J
ﾊﾟﾀﾝ　ト
最大　非対称単
複合　非対称
位相　階層変化。包含
159.馬込沢の家</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>その他</td><td>階層の対称
 
類型L
ﾊﾟﾀﾝ　ト
最大　非対称複
複合　対称
位相　階層変化。積層
30.Case Study House #3</td><td></td><td> 
類型M
ﾊﾟﾀﾝ　ハ、ト
最大　連鎖
複合　一
位相　同次元同一位相
隣接
40.ｴｯﾄﾌﾟﾗﾝの家
 
類型M
ﾊﾟﾀﾝ　ハ、ト
最大　循環
複合　一
位相　同次元同一位相
隣接
57.山城さんの家</td></tr>
</table>

第7章　構成単位の包含による入れ子の構成

第1節　　本章の目的と概要

第2節　「架構表現による構成単位」の水準における総括的な構成形式

2-1　範列的修辞と統辞的修辞の関係による統合の秩序

2-2　「入れ子による構成」

第3節　　「入れ子による構成」の特徴

3-1　「架構表現による構成単位」と入れ子

3-2　「空間の分割」と入れ子

3-3　「室」と入れ子

3-4　「建築化された外部」と入れ子

3-5　「入れ子による構成」における構成的修辞の重層

第4節　　小結

第1節　本章の目的と概要

これまで第5章において架構表現の組合せによる構成的修辞を、第6章において構成単位の位相関係による構成的修辞を検討した。これらは「架構表現による構成単位」の水準において、複数の構成単位からなる住宅の全体を統合する秩序の範列的性格と統辞的性格[1]にそれぞれ対応するものである。これより住宅作品の空間構成による意匠表現として、範列的性格、統辞的性格のどちらか一方によるもの、あるいはその両者が互いに強め合うもの、打ち消し合うもの、といった構成的修辞の関係が成立する。従って「架構表現による構成単位」の水準における総括的な構成形式と、複数の構成単位からなる住宅の全体を統合する秩序を明らかにするためには、構成的修辞の関係を検討することが重要である。

また「架構表現による構成単位」の水準において明らかになる代表的な構成形式としては、「室」や「建築化された外部」や「空間の分割」の水準では捉えることができない、構成単位の立体的な包含関係による「入れ子による構成」を抽出することができる。この「入れ子による構成」と、各章で明らかにした構成形式との対応を検討することによって、「入れ子による構成形式」の特徴を明らかにすることができるが、このことは「入れ子による構成形式」を通した異なる水準における構成的修辞の関係を検討することになる。この構成的修辞の関係は、現代の建築の意匠的表現が成立する水準として本研究において検討されてきた何らかの空間単位の関係による構成形式よりも、さらに抽象的な水準を問題にするものといえる。しかしこの抽象的な水準の検討によって、「入れ子による表現」を構成的修辞の関係のなかに位置付けることができれば、基本的には異なる水準で問題にされる構成上の主題を同時に扱いうる抽象的な水準の探究が、現代的な建築の意匠表現を展開させる重要な契機になるのではないかという、新たな仮説を提出することになると考える。

こうした主旨に基づき、本章では架構表現の組合せによる構成的

修辞と位相関係による構成的修辞の関係を検討するとともに、この水準で明らかになる代表的な構成形式として「入れ子による構成」を抽出してその特徴を明らかにすることを通して、構成的修辞の重層という構造的かつ抽象的な水準における建築の意匠表現の一端を明らかにすることを目的としている。

本章の内容を概略すると、まず第2節において第5章における架構表現の組み合わせによる構成的修辞と、第6章における構成単位の位相関係による構成的修辞の関係を検討するとともに、「架構表現による構成単位」の水準で明確になる最も特徴的な構成形式として「入れ子による構成形式」を抽出している。次に、第3節において、前節で導いた「入れ子による構成」の特徴を各章で明らかにした構成形式との対応を検討することによって明らかにし、「入れ子による構成」が各章で見い出した構成的修辞が重層したものであることを指摘している。第4節は本章の内容を概略した本章の小結である。

第２節

「架構表現による構成単位」の水準における総括的な構成形式

2-1　範列的修辞と統辞的修辞の関係による統合の秩序

先にも述べたように、第５章において明らかにした架構表現の組合せによる構成的修辞と、第６章において明らかにした構成単位の位相関係による構成的修辞は、「架構表現による構成単位」の水準において、複数の構成単位からなる住宅の全体を統合する秩序の範列的性格と統辞的性格[1]にそれぞれ対応するものである。本節ではこれらの関係を検討することによって、「架構表現による構成単位」の水準における総括的な構成形式を導くとともに、住宅を統合する秩序形成における構造の一端を明らかにする。

範列的修辞としては、＜統一＞、＜統一の強調＞、＜対比＞、＜対比の強調＞、＜複数多様＞という複数単位のグループ化に関する構成的修辞と、＜ヴォリューム分節＞、＜構成材分節＞、＜複合分節＞という分節の水準の選択に関する構成的修辞が挙げられる（図5-6）。

また統辞的修辞としては、１次の位相関係における＜２項関係＞、＜集中＞、＜連鎖・循環＞という《統合の図式》に関する構成的修辞を骨格とし、この《統合の図式》と最大単位の関係により＜主／従＞、＜均衡＞、＜中心の強調＞、＜対称＞、＜偏心＞という《抑揚》に関する構成的修辞が挙げられる（図6-6）。

ここで範列的修辞における＜複数多様＞や、統辞的修辞における＜集中＞、＜連鎖・循環＞などは３単位以上の構成が前提となるように、構成的修辞は単位数によって大まかな枠組みを与えられていることから、本節では２単位による住宅作品と３単位以上による住宅作品に分けて、範列的修辞と統辞的修辞の関係を検討する。ここで架構表現の組合せにおける分節の水準の選択はグループ化の一つの手段と位置付けることができることから、範列的修辞はグループ化の修辞によって、統辞的修辞は《統合の図式》と《抑揚》を重ねて検

討する。そのために「架構表現による構成単位」の水準での全分析をまとめ(表7-1)、第５章で類型に属さなかった作品については、主に架構表現の種類数によって＜統一＞、＜統一＞の強調＞、＜対比＞、＜対比＞の強調、＜複数多様＞いずれかに分類した。なお、複数の構成単位からなる160の住宅作品[2]のうち、２単位によるものは50作品、３単位以上によるものは110作品である。

まず２単位による住宅作品においては、位相関係の階層性がないので、包含や隣接といった位相関係がそのまま統辞的性格となる。そこで先に述べた３単位以上を前提とする構成的修辞を除いた、＜統一＞＜対比＞という範列的修辞と位相関係を横軸、＜２項関係・主／従＞＜２項関係・均衡＞という統辞的修辞の関係を縦軸とするマトリクスを作成し、そこに２単位による作品をプロットした(表7-2)。そのなかで比較的多くの作品が見られた関係について以下に述べる。

■＜統一の強調＞＜２項関係・主／従＞(隣接)、例：No.23 栗の木のある家
大きさの異なる同じ種類の架構表現の２単位が隣接されるもの。架構表現が同じであるために、大きさの対比が強調されて表現の主調となる。
■＜対比＞＜２項関係・主／従＞(隣接)、例：No.104 領壁の家
■＜対比＞＜２項関係・主／従＞(貫入)、例：No.124 中央林間の家
架構表現も大きさも異なる２単位が隣接、貫入関係によるもの。架構表現の種類の対比と、構成単位の大きさの対比が重ねられている。
■＜対比強調＞＜２項関係・主／従＞(包含)、例：No.55 白の家
■＜対比強調＞＜２項関係・主／従＞(積層)、例：No.72 軽井沢の家その１
架構表現も大きさも異なる２単位の包含、積層関係によるもの。架構表現の外形、構成材および構成単位の大きさなどあらゆる水準で

差異が強調された２単位の対比が、前者では包含によって生じる内／外の対比に、後者では積層によって生じる上／下の対比に、それぞれ重ねられる。
なお、２単位の大きさが同じ作品による＜２項関係・均衡＞(例：No.177 テンメイハウス)と、特定の範列的修辞の結び付きは見られない。

また３単位以上による住宅作品においては、位相関係の階層性や中心が生じるとともに、範列的修辞における＜複数多様＞が成立する。そこで範列的修辞を横軸、統辞的修辞を縦軸とするマトリクスを作成し、そこに３単位以上による作品をプロットした(表7-3)。そのなかで比較的多くの作品が見られた関係について以下に述べる。

■＜対比＞＜２項関係・主／従＞　例：No.17 住宅No.17
■＜対比強調＞＜２項関係・均衡＞　例：No.159 馬込沢の住宅
これらは、１次の位相関係によってまとめられる、最大単位と単独の単位、最大単位とそれに匹敵する大きさを持つ複合単位、という２項の関係に、構成材の分節の有無や外形による架構表現の水準での対比が重ねられるものである。
■＜複数多様＞＜２項関係・主／従＞　例：No.219 ダブルルーフの家
■＜複数多様＞＜２項関係・均衡＞、例：No.186 ECHO CHAMBER
３種類以上の構成単位が、位相関係の階層によって前者では複合した最大単位とその他の小さな単位の２項関係に、後者では最大単位と複合単位の２項関係にまとめられる。これらは主に＜複合分節＞(i,h多など)による要素の多様性を位相関係の階層によってまとめるものである。
■＜統一強調＞＜中心の強調＞、例：No.140 逆瀬台の住宅
同じ架構表現による３以上の構成単位が最大単位を中心とする位相関係によってまとめられる。＜集中＞の明快な表現。

■＜対比＞＜中心の強調＞、例：No.82 北山の住宅、No.86 原邸

■＜対比強調＞＜中心の強調＞、例：No.117 小田原の住宅

3 以上の構成単位が最大単位を中心とする位相関係によってまとめられるという統辞的性格によって生じる中心／周縁の対比に、架構表現による構成単位の対比が重ねられる。

■＜複数多様＞＜中心の強調＞、例：No.108 伊東邸

3 種類以上の構成単位が、最大単位を中心とする位相関係によってまとめられる。要素の多様性を統辞的性格によってまとめる。

■＜複数多様＞＜連鎖・循環＞、例：No.212 葛飾の家

複数の多様な種類の構成単位が、中心や階層を持たない位相関係によってまとまめられるもの。

以上の検討より、住宅全体を統合する秩序の表現においては、様々な水準における構成単位の対比と、位相関係による統合の階層性が重要であることがわかる。そこで対比と統合の階層性の関係を整理すると、まず構成単位の対比には、大きさによる対比と、架構表現による対比があり、2 単位の構成では大きさだけの対比や、両者の重なりによる対比が全体を統合する秩序として見られる。さらに 2 単位の位相関係によって、包含による内／外、積層による上／下の分割に基づく空間的な対比がこれらの対比に重ねられ、より複雑な強い対比を生じる。また統合の階層性は 3 単位以上の構成で住宅全体の秩序を形成するものであるが、1 次の位相関係を 2 項の関係にまとめることによって、2 単位で見られた対比を 3 単位以上の構成で成立させることができる。さらに特定の構成単位に位相関係が集中することによって生じる中心／周縁の対比に、大きさや架構表現による対比が重ねられることによる強い対比も見られる。このように統合の階層性は、3 以上の単位を 2 項関係にまとめて、構成単位や大きさによる対比を生じさせるとともに、位相関係の集中によって中心／周縁という統辞的操作による対比を生じさせる。このことから、住宅作品を統合する秩序は、架構表現の種類、大／小による

対比、位相関係による内／外、上／下の対比、位相関係の集中による中心／周縁の対比、といった対比関係とそれを成立させる統合の階層性によって表現されることが多いといえる。またこれとは対照的に、明確な対比によらない＜複数多様＞や位相関係による階層、中心を持たない＜連鎖・循環＞などの構成的修辞は、対比や階層を作り出さずに住宅全体を統合する秩序を表現しようとするものであるといえる。

2-2 「入れ子による構成」

前項では「架構表現による構成単位」に基づく住宅作品の総括的な構成形式を、範列的修辞と統辞的修辞の関係によって検討し、住宅作品の全体を統合する秩序がどのように表現されるかを明らかにしたが、そこでは位相関係の階層によって、基本的には2単位を統合する秩序を3単位以上の構成でも形成する表現を見ることができた。このことから2単位どうしの隣接、貫入、包含、積層という構成形式は、「架構表現による構成単位」とその位相関係を検討することによって明らかになる構成形式の中で、相対的に原理的な構成形式として位置付けられる。これら2単位による構成形式においては、その位相関係が全体を統合する統辞的性格となるが、その位相関係のなかには、「室」において検討した接続と隣接のように、これまで各章で検討した構成形式と原理的には類似した性格を持つものがある。そこで本項では、2単位どうしの隣接、貫入、包含、積層という構成形式に対する、「室」、「建築化された外部」、「空間の分割」による構成形式との関係について考察する。

「室」の水準では、独立した単位の接続を検討したが、隣接や積層による構成形式も基本的には個々の単位が他の単位に干渉されることがなく独立性が強い。従って隣接や積層による構成形式も原理的には「接続による構成形式」と言えるものであり、その単位の設定に「室」や「架構表現による構成単位」という違いがあると考えられる。だから架構表現による構成単位の差異の表現や、接続が水平的か垂

直的かという表現を除けば、隣接や積層による構成形式は「室」の構成によってもある程度捉えることができる。これに対して包含、貫入による構成において、構成単位の内部がさらに領域的に分節されることや、内部空間で内／外の分割が生じるといった空間構成の骨格をなす特徴は、「室」の接続によって捉えることができないものである。これら包含、貫入による構成は、内部空間においても明確に表現されるものであるが、このうち貫入による構成は、貫入される構成単位の壁をガラスによって透明にしたり、スリット状の開口を設けるなどの細部の構成が重要となり、資料の内部空間においても明確に表現されることは少ない。さらに貫入による構成は特定の構成単位に対して包含される部分と隣接する部分が一体化されたものであると考えられることから、構成単位の位相関係による最も特徴的な構成形式として、包含による構成を位置付けることができる。しかし包含による構成であっても、平屋建てに見られる平面的な包含は、構成単位の差異が表現されていることを除けば「空間の分割」における平面方向のの分割によっても捉えることができる。また、包含する構成単位が屋根などによる垂直方向の限定がない「建築化された外部」に対応する場合には、その包含関係は「建築化された外部」の構成における平面上の領域的な位相関係によって捉えることができる。しかし、構成単位の包含関係によって生じる相対的な内／外の分割は、内部空間と外部空間の区別を前提とする「建築化された外部」の水準では捉えることができない。従って、「架構表現による構成単位」とその位相関係の検討で明確になる最も特徴的な住宅の構成形式を成立させるのは、垂直方向を限定された２層程度の高さを持つ構成単位に対する、立体的な包含であり、これまで見た接続による構成、内部と外部の構成、分割による構成としては捉えることができない、「入れ子による構成」[3]と呼びうる原理的な構成の一つと見ることができる。

「入れ子による構成」は、２単位からなる住宅作品だけでなく、３単位以上の構成においても住宅の全体あるいは部分に見いだすこと

ができる。そこで複数の構成単位からなる160の住宅作品から、まず構成単位の包含関係が見られる59作品を抽出し、さらにそこから平屋の平面的な包含関係による10作品を除いた49作品を「入れ子による構成」として抽出した(表7-4)。

第３節　「入れ子による構成」の特徴

前節では範列的修辞と統辞的修辞の関係を検討し、様々な水準における対比と、統合における階層性によって住宅全体を統合する主要な秩序が形成されることを明らかにした。またこの水準のなかで相対的に原理的な構成形式と考えられる２単位の位相関係による構成に注目し、接続による構成、内部と外部の構成、分割による構成としては捉えることができない、「入れ子による構成」と呼びうる原理的な構成の一つを抽出した。そこで本節では「入れ子による構成」に対応する住宅作品の特徴を、これまで明らかにした各水準における構成形式との対応から検討する。

3-1　「架構表現による構成単位」と入れ子

まず「入れ子による構成」が、住宅のどこに位置しているのかを把握するために、位相関係の階層のなかでの包含の位置を見る。そのために入れ子による構成による住宅作品の統合パタンに包含が見られる部分を記入すると(表7-5)、２単位の構成では住宅の全体に対応する「入れ子による構成」が、３単位以上になると部分的に見い出される場合もあることが分かる。そこで住宅全体において包含が成立する階層及び最大単位との関係から、以下に示すV～Zのパタンを得た。

住宅全体が「入れ子による構成」になるもの

■最大単位に他の全単位が包含されるV(20作品)。

２単位の作品は＜２項関係＞＜主／従＞、３単位以上の作品は＜集中＞＜中心の強調＞などの構成的修辞の関係による。

■最大単位に、小単位が隣接・積層した複合単位が包含されるW(5作品)。＜２項関係＞＜均衡＞という構成的修辞の関係による。

■複合した最大単位に小さい単位が包含されるX(2作品)。

＜２項関係＞＜主／従＞という構成的修辞の関係による。

住宅の部分が「入れ子による構成」になるもの

■「入れ子による構成」で複合化した最大単位に、他の単位が隣接・積層するY(16作品)。3単位の作品は＜2項関係＞＜主／従＞という構成的修辞の関係による。

■入れ子による複合単位が最大単位や複合した最大単位に隣接、積層するZ(6作品)。

また、「入れ子による構成」に関わる構成単位に限って架構表現の組合せを見ると(表7-4)、包含する単位と包含される単位は、外形や構成材の表現によって差異が与えられることがほとんどである。また住宅作品全体としては＜複数多様＞(20作品)、＜対比強調＞(13作品)、＜対比＞(12作品)、＜統一＞(4作品)といった範列的修辞が見られる。

3-2 「空間の分割」と入れ子

第4章の構成単位内部の分割のところでは検討していないが、「入れ子による構成」の構成単位のなかには、その内部が分割されるものがある。また前項で見たように、「入れ子による構成」に関わる構成単位が複合単位であることもある。そこで、包含する単位、包含される単位のそれぞれについて、それらの分割[4]と複合を検討する(表7-6)。

この表において明快な入れ子の表現といえるものは、包含する単位の内部が分割されない場合であり、それらには包含される単位も分割されないもの(8作品)、包含される単位だけが分割されるもの(8作品)、包含される単位が複合単位であるもの(8作品)がある。これに対して包含する構成単位が分割される「入れ子と分割の構成」といえるものは、包含する構成単位だけが分割されるもの(12作品)、包含する単位も包含される単位も分割されるもの(7作品)などがある。

さらに2次以降の位相関係において見られる「入れ子の構成」を見ると、包含する構成単位も包含される構成単位もともに分割されない明快な構成であるものが多い。これらは位相関係の階層によって、入れ子による構成を部分的にではあるが明快に表現するものといえる。また、2以上の構成単位を包含する作品でも、包含する単位の分割は見られない。

このことから、包含する単位内部の分割が無い明快な「入れ子による構成」は、

・包含される構成単位が分割される、あるいは複合される。
・複数の構成単位が包含される。
・位相関係の階層による部分的なまとまり(複合単位)を構成する。

という条件の下に成立しているということができる。このように入れ子による構成と分割は、一つの構成単位内部を分節化することにおいて共通した目的をもつものであるが、「入れ子による構成」は、「分割」では分断されてしまう視線、動線、機能などを含めた空間の連続を損ねずに、分節される以前の空間の広がりとそこから部分が分節されていることを表現する構成であると言うことができる。

またこのことから、高／低、上／下、内部／外部という強い空間的な対比を作る「空間の分割」の構成的修辞と比較すると、「入れ子による構成」においては包含関係による内／外の対比が作られていると見ることができる。従って、「入れ子による構成」は、完結した全体において強い空間的な対比を作るという、「空間の分割」による構成上の主題に共通する構成的修辞を成立させると言える。

3-3 「室」と入れ子

次に第2章の「室」の水準で明らかにした構成形式と「入れ子による構成」の対応を見ると(表7-4、図7-7)、住宅作品49作品のうち26作品が、「室」の構成としてはその住宅を代表する大きな「室」に、内部動線、エントランスが集中する『主室型』になる。それらの作品においては、＜主室での動線の集中＞、＜(主室による)内部の獲得＞と

いった修辞が成立する。これらは壁や床などによって明確に領域を分節化するのではなく、少ない要素の配置によって(包含された単位の裏側、上、下など)領域を緩やかに分節化する残余空間を作ることで、視覚的、動線的な連続性と空間の一体感を確保しながら、機能的な分節に対応することができる形式といえる。なお、これらは先に位相関係の階層から明らかにした統合パタンのV、W、Yなどに対応する。

『主室型』以外は『間室型』が3作品、『融合型』が4作品、『複数主室型』が1作品ある他、エントランスとなる2層分の高さを持つ主室が室群に連合型で接続されるものが5作品で見られるだけである。

3-4 「建築化された外部」と入れ子

第3章の「建築化された外部」の構成形式のところで検討されている「入れ子による構成形式」は13作品であり、それ以外で「建築化された外部」をもつものは5作品に過ぎない。従って、「入れ子による構成」と「建築化された外部」の構成形式の直接の対応から両者を比較することはできない。というのも実際には、入れ子による内部の構成に建築化された外部が付加されるもの(No.66　水無瀬の町屋)や、入れ子を構成する最大単位の部分が欠き取られたもの(No.94　船橋ボックス)などが多く、建築化された外部に対応する構成単位によって内部空間が立体的に包含されるもの(No.159　馬込沢の家)はあまり多く見られないからである。このなかでは最後に挙げたものだけが、「建築化された外部」を介して内部と外部の視覚的、動線的な連続が図られる『融合型』に対応する。

しかし直接の対応ではないが、建築の領域の内部に内部空間と外部空間が成立するように、「入れ子による構成」においても構成単位の包含によって内部空間において内／外の分割が成立する。従って、領域の包含による内／外の分割の階層性が見られるという点では共通している(図7-7)。内部化された外部というべきものである「建築化された外部」の構成的修辞では、この階層性を利用するのか、あ

るいは打ち消すのかによって《対比性》と《同質性》という修辞を見い出している。これと比較すると、包含する構成単位において内部の外部化が生じる「入れ子による構成」は、領域の包含による内／外の分割の《相同性》に基づいた修辞によって成立すると言うことができる。

3-5 「入れ子による構成」における構成的修辞の重層

ここまで「架構表現による構成単位」の水準で明確になる「入れ子による構成」と、各章で明らかにした構成形式との対応を検討した。その結果(図7-7)「入れ子による構成」は、架構表現の種類による対比だけでなく、大きさの対比や、中心／周縁の対比など、様々な水準での対比関係をともなって成立している。それは「室」との対応では＜内部の獲得＞＜主室での動線の集中＞による『主室型』の構成に対応するものが多い。また、「空間の分割」において見い出された構成上の主題である「完結した全体における強い空間的な対比」に対応して、包含する単位内に内／外の強い空間的な対比を作る。さらに「建築化された外部」の構成において見い出された構成上の主題である「領域の包含関係による内／外の分割の階層」に対応して、内／外の分割の《相同性》に基づく修辞を成立させる。

これらのことから「入れ子による構成」は、異なる水準において成立する構成的修辞や、構成上の主題を重層化して成立していると見ることができる。

第4節　小結

本章では、「架構表現による構成単位」の水準における総括的な構成形式を明らかにするために、架構表現の組合せによる構成的修辞と、構成単位の位相関係による構成的修辞の関係を検討し、架構表現の種類、大／小による対比、位相関係による内／外、上／下の対比、位相関係の集中による中心／周縁の対比、といった様々な水準における対比と、それを成立させる統合の階層性によって、住宅作品を統合する主要な秩序が形成されることを明らかにした。またこの水準のなかで相対的に原理的な構成形式と考えられる2単位の位相関係による構成に注目し、接続による構成、内部と外部の構成、分割による構成としては捉えることができない、「入れ子による構成」と呼びうる原理的な構成の一つを抽出した。

さらににこれまで各章で明らかにした構成形式との対応から「入れ子による構成」は、架構表現の種類による対比だけでなく、大きさの対比や、中心／周縁の対比など、様々な水準での対比関係をともなって成立し、「室」との対応では＜内部の獲得＞＜主室での動線の集中＞による『主室型』の構成に対応するものが多いこと、また「空間の分割」において見い出された構成上の主題である「完結した全体における強い空間的な対比」に対応して、包含する単位内に内／外の強い空間的な対比を作り、「建築化された外部」の構成において見い出された構成上の主題である「領域の包含関係による内／外の分割の階層」に対応して、内／外の分割の《相同性》に基づく修辞を成立させることなどから、異なる水準において成立する構成的修辞や、構成上の主題を重層化して成立するということを、「入れ子による構成」の特徴として指摘した。

このことは、基本的には異なる水準で問題にされる構成上の主題を同時に扱いうる抽象的な水準の探究が、現代的な建築の意匠表現を展開させる重要な契機になるのではないかという、新たな仮説を提出することになると考える。

第7章の注

1)「統辞的」「範列的」などの記号学の用語に関しては、ここでは住宅作品が「架構表現による構成単位」の関係によって成立していることと、記号学的な構造モデルとの類似性から使用している。具体的には単位どうしのつながりを捉える位相関係とそれに基づく統合の階層的な関係を記号学でいうところの「統辞」に、こうしたつながりの中の同じ場所に同格で代入されうる候補単位群である「架構表現による構成単位」の選択可能性の幅の広がりにおける関係を記号学で言うところの「範列」に、それぞれ対応するものとしている。

2)第4章、第5章、第6章「架構表現による構成形式」の水準での分析資料の選定にあたっては、多様な構成形式が含まれるように、現代の建築ジャーナリズムのなかで代表的なものの一つと思われる「新建築」誌において、年末アンケートが開始された1951年から1994年までの44年間に掲載され(なお1985年以降は住宅のみ「住宅特集」に掲載されている)、アンケートの上位に挙げられた222の住宅作品を選んだ。そのうち単独の構成単位からなるものは64作品、複数の構成単位からなる住宅作品は160作品であった。

3)入れ子 nest of boxes：相似形をした複数の容器を順次中に重ねて収まるようにしたもの。(『建築学用語辞典』日本建築学会編、岩波書店)

4)包含される構成単位の分割について、それが脱衣洗面、風呂、便所などの水周り内部での細分化である場合は分割無しとした。

2単位

No.	発表号	作品名	架構表現 1	架構表現 2	種類数	単位数	差異と類似 断面	差異と類似 平面	差異と類似 構成材	パタン 外形	パタン 構成材	分節類型	位相関係 1	統合パタン	最大単位 位置	位相類型
1	5109	森博士の家	△■RW	△■R	2	2	△	■	RW,R	☆☆	え	d	1,2 貫	イ	非対称	A2
2	5202	増沢百邸	△■RF	□■	2	2	△□	■	RF,-	★☆	う	i3	1,2 包	イ	非対称	A3
4	5205	西京風の家	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b	1,2 隣	イ	非対称	A1
8	5306	大久保博士の家	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b	1,2 隣	イ	非対称	A1
9	5307	C・レーシ゛ト゛邸	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b	1,2 隣	イ	非対称	A1
12	5311	SH－1	△■RF	□■	2	2	△□	■	RF,-	★☆	う	i3	1,2 包	イ	非対称	A3
13	5409	ﾛｱのある H氏の住い	△■R	□■W	2	2	△□	■	R,W	★☆	お	対強	1,2 包	イ	非対称	A3
14	5411	住宅No.20	△■RF	□■W	2	2	△□	■	RF,W	★☆	お	d'	1,2 包	イ	非対称	A3
20	5511	住宅No.28	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b	1,2 隣	イ	非対称	A1
23	5702	栗の木のある家	△■RFS	△■R	2	2	△	■	RFS,R	☆☆	え	d	1,2 隣	イ	非対称	A1
28	5809	傾斜地に建つ家	△■RWS	□■	2	2	△□	■	RWS,-	★☆	う	i	1,2 隣	イ	非対称	A1
29	5901	菊竹自邸	△▼RF	△▼R	2	2	△	▼	RF,R	☆☆	え	d	1,2 包	イ	非対称	A3
36	6203	O氏邸	△■RF	□■	2	2	△□	■	RF,-	★☆	う	i3	1,2 包	イ	非対称	A3
38	6210	から森の家	△■R	□■	2	2	△□	■	R,-	★☆	う	i2	1,2 積	イ	非対称	A4
44	6404	舎堂の山荘	△■R	□■	2	2	△□	■	R,-	★☆	う	i2	1,2 包	イ	非対称	A3
48	6605	浜田山の家	△■R	□■	2	2	△□	■	R,-	★☆	う	i2	1,2 積	イ	非対称	A4
55	6707	白の家	□■RW	□■	2	2	□	■	RW,-	☆☆	う	c2	1,2 積	イ	非対称	A4
59	6901	金子邸	△■R	□■	2	2	△□	■	R,-	★☆	う	i2	1,2 積	イ	非対称	A2
72	7208	軽井沢の家その 1	□●	○■	2	2	○□	●■		★★	あ	g	1,2 貫	イ	非対称	A2
91	7604	Y邸	△▼	□■FW	2	2	△□	■▼	FW,-	★★	あ	g	対強	イ	非対称	A1
96	7611	代田の町家	△●	□■	2	2	△□	●■		★★	あ	g	1,2 積	イ	非対称	A4
97	7611	中野本町の家	□■F	○■	2	2	○□	□■	F,-	★☆	あ	i1	1,2 包	イ	非対称	A3
98	7701	上原通りの住宅	△■	□■	2	2	△□	■		★☆	う	f2	1,2 隣	イ	非対称	A1
103	7708	栴生の家	□■RWF	□■	2	2	□	■	RFW,-	☆☆	う	c2	1,2 積	イ	非対称	A4
104	7802	領豊の家	△▼	□■●	2	2	△□	■▼		★★	あ	g	1,2 包	イ	非対称	A3
110	7810	上原曲り道の住宅	△■	□■	2	2	△□	■		★☆	あ	f2	1,2 分	チ	非対称	N
113	7902	今宿の家	□■WS	□■	2	2	□	■	WS,-	☆☆	う	c2	1,2 包	イ	非対称	A3
119	8002	松谷邸	□■	□■	1	2	□	■		☆☆	あ	a	1,2 貫	イ	非対称	A2
120	8002	上田邸	△■	○■	2	2	○□	■		★☆	い	f	1,2 貫	イ	非対称	A2
124	8008	中央林間の家	△■R	△■R	1	2	△	■	R	☆☆	い	b	1,2 積	イ	非対称	A4
126	8008	塚田邸	□■	○■	2	2	○□	■		★☆	あ	f1	1,2 隣	イ	非対称	A1
128	8101	花山第４の住宅	△■	△▲	2	2	△	▲■		☆★	あ	e	1,2 積	イ	対称	B
129	8102	私たちの家	△■RFS	□■・・・	2	2	△□	■	RFS,-	☆★	あ	i	1,2 隣	イ	非対称	A1
135	8108	湯の花の家	△●	△■	2	2	△	●■		☆★	あ	i	1,2 積	イ	非対称	A4
139	8204	笠間の家	△■RF	□■	2	2	△□	■	RF,-	★☆	う	i1	1,2 積	イ	非対称	A4
152	8509	茅ヶ崎の家	△■F	□■	2	2	△□	■	F,-	★☆	う	i1	1,2 包	イ	非対称	A3
154	85冬	SPINNING HOUSE	○■	○■	1	2	○	■		☆☆	あ	a'	1,2 包	イ	非対称	A3
160	8610	開拓者の家	△■F	□■	2	2	○□	■	F,-	★☆	う	i1	1,2 包	イ	非対称	A3
166	8709	秋穂のｱﾄﾘｴ	△●	△■	2	2	△□	●■		★★	あ	g	1,2 貫	イ	対称	B
172	8806	葉山の家	△■RFS	□■・・・	2	2	△□	■	RFS,-	★☆	う	i	1,2 貫	イ	非対称	A2
175	8810	PLATFORM	○■	△■	2	2	○□	△■		★☆	あ	f	1,2 貫	イ	対称	B
176	8810	ﾊｲﾀｷｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ	□・・・・・・	□・・・・・・	1	2	△	●	▲	★★	あ	e	1,2 隣	イ	対称	B
177	8810	ｼﾝﾒｲ・ﾊｳｽ	△▲・・・	△●・・・	2	2	△	■		☆☆	あ	a	1,2 隣	イ	非対称	A1
179	8902	洗足の家	□■	□■	2	2	○□	■	R,-	★☆	う	i2	1,2 隣	イ	非対称	A3
181	8908	ちめんかのや	○■R	□■	2	2	△□	■		★☆	あ	f2	1,2 包	イ	非対称	A3
187	9001	鳥舘の住宅	△■	□■	1	2	○	■	RF	☆☆	い	b'	1,2 貫	イ	非対称	A2
193	9008	狐ヶ城の家	○■RF	○■RF	2	2	○	■	F,W	☆☆	お	d'	1,2 貫	イ	非対称	A2
194	9010	桜丘の家	△■W	△■F	2	2	□	■	W,S	☆☆	お	d'	1,2 貫	イ	非対称	A2
202	9202	もうひとつのｶﾞﾗｽの家	□■S	□■W	2	2	□	■		☆☆	お	d'	1,2 積	イ	対称	B
209	9208	富士裾野の山荘	□■・・・	□■・・・	1	2	□	■								

3単位

No.	発表号	作品名	架構表現 1	架構表現 2	架構表現 3	種類数	単位数	差異と類似 断面	差異と類似 平面	差異と類似 構成材	パタン 外形	パタン 構成材	分節類型	位相関係	統合パタン	最大単位 位置	最大単位 性格	複単位 位置	類型
5	5207	名取邸	△■R	△■R	△■R	1	3	△	■	R	☆☆	い	b	1,3 隣	ト	非対称	単／複	非対称	J,K
17	5411	住宅No.17	▒■	▒■F	▒□■	2	3	□	■	F,-	☆☆	う	c1	1,3 貫	ト	非対称	複	非対称	K
25	5712	villa CouCou	△■	▒■	▒□■	2	3	△□	■		★☆	あ	f2	1,2 隣	ト	非対称	複	非対称	K
41	6308	阿佐ヶ谷の家	△■R	□■RW	□□■	3	3	△□	■		★☆	か	k	1,2 隣	ト	中心	単		C
49	6605	祖田山の家	□■S	□■S	□■W	2	3	□	■	RW,R,-	☆☆	お	d'	1,3 隣	ト	非対称	複	非対称	K
52	6701	宍戸邸	□▼F	▒■F	▒■W	3	3	□	■	S,W	★★	か	k	1,2 隣	ト	非対称	単	非対称	J
53	6701	もうひとついっく	△●RW	□●	□■F	3	3	□	■▼	F,W	★☆	お	複多	1,3 隣	ト	非対称	複	非対称	K
60	6905	自邸	▒■	▒▼	▒▼	2	3	△□	●■	RW,F,-	★★	か	k	1,2 隣	ト	非対称	単／複	非対称	J,K
67	7202	直方体の森	□■	□■F	□□■	2	3	□	■▼		★☆	あ	f2	1,2 隣	ト	中心	単		C
71	7208	まつかわ・ぼっくす	□■	□■F	▒□■	2	3	□	■		★★	あ	e	1,2 隣	ト	非対称	複		N
74	7211	反住器	□■F	▒■	▒□■	2	3	□□	■	F,-	☆☆	う	c1	1,2 隣	ト	中心	単		J
75	7302	昨雪軒	□■	△■RW	△■R	3	3	△□	■	F,-	★☆	う	c1	1,2 積	ト	中心	単		C
78	7307	宮島邸	△▼	△■	△■	2	3	△	■	RW,R,-	★☆	か	k	1,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
79	7307	ｻﾞ ﾊｳｲﾝｸｽ	□■	▒■	▒■	1	3	□	■▼		☆☆	あ	a	1,2 隣	ト	中心	単		C
82	7502	北山・住宅	△■	▒■	▒□■	2	3	△□	■		★☆	あ	f2	1,3 隣	ト	対称	単		D
83	7502	天と地の家	▒■	△■	□□■	2	3	□	■		★☆	あ	f2	1,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
85	7506	幻庵	○■	□■	□□■	2	3	○□	■		★☆	あ	f1	1,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
88	75夏	八千代	▒■	▒■	□□■F	2	3	△□	■	F,-	★☆	う	i1	1,2 包	ト	対称	単		D
89	7602	設楽の家	□■	□▼F	□□■	2	3	△□	■	F,-	★☆	う	i1	1,2 包	ト	中心	単		C
94	7609	鈴懸ﾊｳｽ	△■	△■	△■	1	3	△	■▼		★★	う	h	1,2 包	ト	中心	単		C
95	7609	中内邸	△■	□■W	□□■	3	3	□	■	W,-	☆☆	あ	a'	1,3 隣	ト	非対称	複	非対称	K
111	7902	南湖の家	□■F	□■●	□□■●	2	3	□□	●■	F,-	★★	う	h	1,3 隣	ト	非対称	単		C
117	7910	小田原の住宅1978	□■	□■	□□■	1	3	□□	■		☆☆	あ	a	1,3 隣	ト	中心	単		C
122	8008	対空間の家	△■	△■FW	△■RF	3	3	△	■	RF,FW,-	☆☆	か	複多	1,2 隣	ト	対称	単		D
130	8103	松山桑原の住宅	▒▼F	▒▼F	□□■	2	3	□□	■▼	F,-	★☆	う	h	1,3 隣	ト	非対称	単	非対称	K
131	8104	光格子の家	□□■	□▼	□□■●	3	3	□□	●■▼		☆☆	あ	複多	1,3 隣	ト	中心	単		C
132	8104	るるるる阿房	○■	△■	▒□■	2	3	□□	■		★☆	あ	f	1,3 隣	ト	非対称	複	非対称	K
134	8106	祖師ヶ谷の家	□■F	△■F	□□■	3	3	□□	■	F,-	★☆	う	i	1,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
138	8202	経堂の家1980	□▼W	△■	□□■	3	3	△□	■▼	W,-	★★	う	j	1,3 隣	ト	非対称	単	非対称	J
141	8208	積木の家IV	△▼W	△●R	▒■F	3	3	●■	■▼	W,R,F	★★	お	複多	1,2 隣	ト	中心	単		C
148	8407	ﾗﾝﾄﾞｼｯﾌﾟII・ひまわり	△■	▒■	▒■	2	3	△□	■		★☆	あ	f2	1,3 積	ト	非対称	単		E
153	8512	ｷﾞｬﾗﾘｰをもつ家	△●RF	△■R	□■	3	3	△□	●■	RF,R,-	★★	か	複多	1,3 隣	ト	中心	単		C
156	8605	ｸﾞｨﾗ森井	○■	□■	○■	2	3	○□	■		★☆	う	f1	1,3 隣	ト	非対称	単	非対称	K
157	8605	ﾊｳｽ ｲﾝ ﾖｺﾊﾏ	○■RF	□■	□■	2	3	○□	■	RF,-	★☆	う	i	1,2 隣	ト	対称	単		D
159	8609	馬込沢の家	△■	△■R	□▲F	2	3	△□	■	R,F	★★	お	対強	1,2 積	ト	中心	単		C
162	8701	熊本の生宅	△■RF	△■R	△■R	2	3	△	■	RF,R	☆☆	え	d	1,2 積	ト	非対称	複	非対称	K
164	8705	練馬の家	□■W	□■F	▒□■	2	3	□	■	F,W	☆☆	お	d'	1,2 積	ト	非対称	複		K
165	8705	SHIP1987	△■R	□■	□□■	2	3	△□	■	R,-	★☆	う	i2	12,3 隣	ハ	循環	単		M
184	8909	岸ヶ沢の山荘	△▼R	□▲SF	□□■	3	3	△□	■	F,-	★★	か	複多	1,2 隣	ト	非対称	単	非対称	J
185	8911	千葉の住宅	△■	□■	□□■F	3	3	△□	■		★★	え	対強	1,2 積	ト	循環	単		M
190	9003	COSMOS	□■W	○▼RW	○▼RW	2	3	○□	▲■▼	R,SF,-	★☆	う	i 複	1,2 包	ト	非対称	複	非対称	K
192	9008	阿品の家	□■W	○■W	○●W	2	3	△□	■	RW,W	★★	え	対強	1,2 貫	ト	中心	単		C
198	9104	VILLA TORII	△■RW	□●W	△■R	2	3	○□	■▼	RW,W	★★	え	対強	12,3 貫	ト	非対称	単		E
199	9109	蘭月夜の家	○■R	△■R	△■R	1	3	△	■	R	☆☆	い	b'	1,2 隣	ト	非対称	複	非対称	K
201	9110	雷松林の家	△■RF	△■RF	△■RF	2	3	△	■	RF	☆☆	う	c2	1,3 隣	ト	中心	単		C
206	9206	富岡の住宅	▒■RF	▒■RF	△■	2	3	△□	■	RF,-	☆☆	う	j	12,3 貫	ト	非対称	複	非対称	K
215	9307	懐風荘	△■R	□●	△●R	3	3	○□	●■	R,-	★★	う	i 複	1,2 隣	ト	非対称	複	非対称	K
216	9307	BLUE-SCREEN HOUSE	○■	□■	□■W	3	3	△□	■	W,-	★☆	え	複多	1,2 包	ト	中心	単		C
219	9310	ﾀﾞﾌﾞﾙ-ﾙｰﾌの家	▒■RFS	▒■RF	▒■RFS	3	3	△□	■	RFS,RF,FS	★☆	お	対比	1,3 隣	ト	非対称	複	非対称	K
220	9311	山中湖のｶﾞﾗｽの家	□■W	△■F	△■F	2	3	△□	■	F,W	★☆	お	c2	1,2 貫	ト	非対称	単	非対称	K
222	9405	Y-HOUSE	□■WS	□■	□□■	3	5	□□	■	WS,-	☆☆	う		12,3 隣 1,2 包					

4単位以上

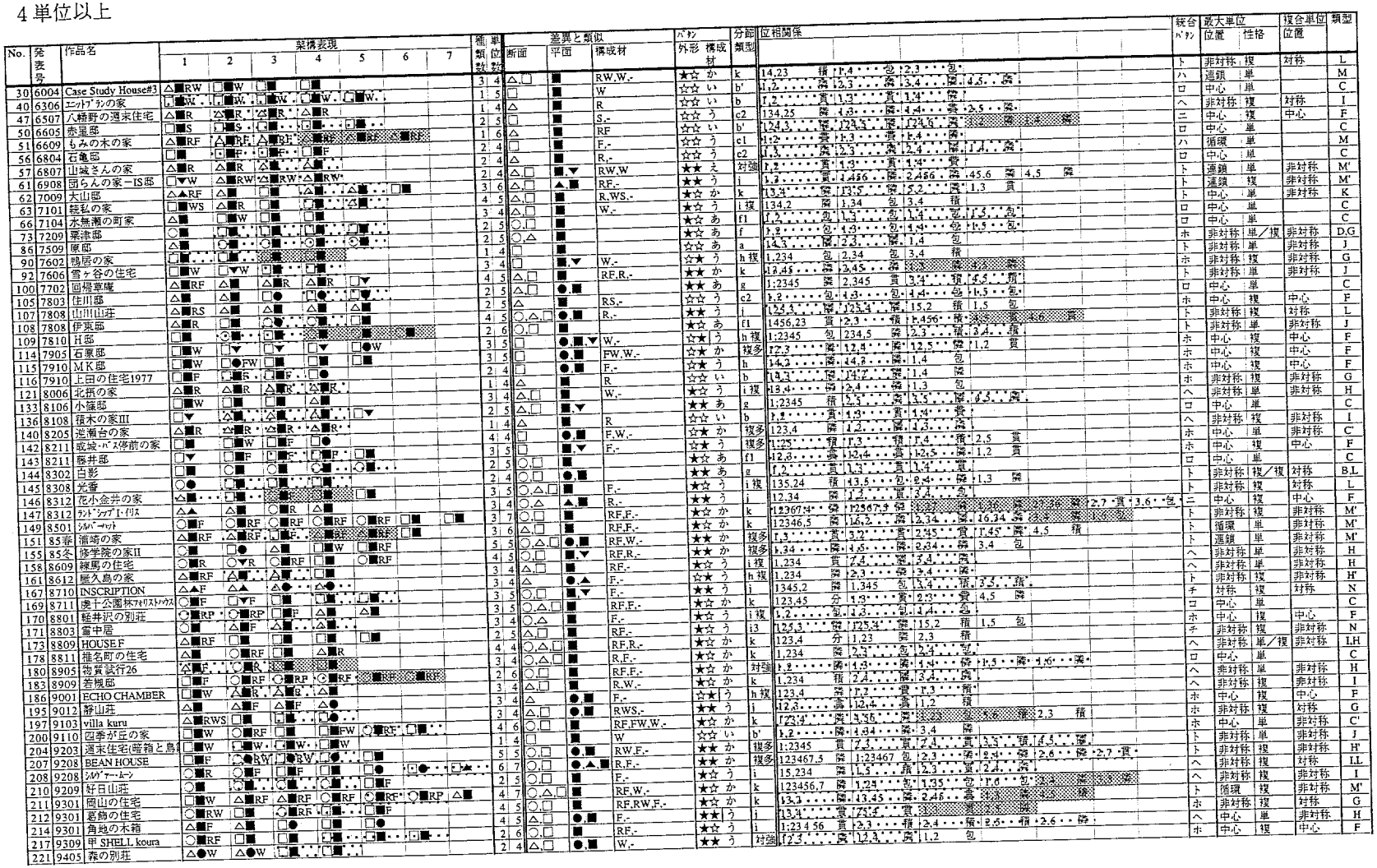
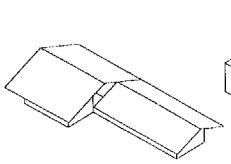
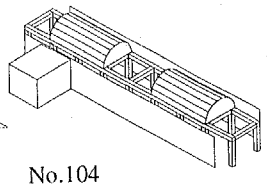
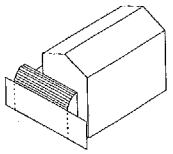

No.
発表号
作品名
架構表現
1
2
3
4
5
6
7
種類数
単位数
差異と類似
断面
平面
構成材
パタン
外形
構成材
分節類型
位相関係
統合パタン
最大単位
位置
性格
複合単位
位置
類型
30 6004 Case Study House#3
40 6306 ユニットプランの家
47 6507 八幡野の週末住宅
50 6605 赤星邸
51 6609 もみの木の家
56 6804 石亀邸
57 6807 山城さんの家
61 6908 団らんの家－IS邸
62 7009 大山邸
63 7101 続私の家
66 7104 木無瀬の町家
73 7209 栗津邸
86 7509 原邸
90 7602 鴨居の家
92 7606 雪ヶ谷の住宅
100 7702 回場車庫
105 7803 住川邸
107 7808 山川山荘
108 7808 伊東邸
109 7810 H邸
114 7905 石原邸
115 7910 MK邸
116 7910 上田の住宅1977
121 8006 北摂の家
133 8106 小篠邸
136 8108 積木の家III
140 8205 巡瀬台の家
142 8211 或城・バス停前の家
143 8211 藤井邸
144 8302 白影
145 8308 光香
146 8312 花小金井の家
147 8312 ランドシップ I・イリス
149 8501 シルバーマット
151 85春 福崎の家
155 85冬 修学院の家II
158 8609 練馬の住宅
161 8612 屋久島の家
167 8710 INSCRIPTION
169 8711 慶十公園林フォリストハウス
170 8801 軽井沢の別荘
171 8803 富中居
173 8809 HOUSE F
178 8811 椎名町の住宅
180 8905 物質試行26
183 8909 若槻邸
186 9001 ECHO CHAMBER
195 9012 磐山荘
197 9103 villa kuru
200 9110 四季が丘の家
204 9203 週末住宅(暗箱と鳥
207 9208 BEAN HOUSE
208 9208 シルヴァームーン
210 9209 好日山荘
211 9301 岡山の住宅
212 9301 葛飾の住宅
214 9301 角地の木箱
217 9309 甲 SHELL koura
221 9405 森の別荘

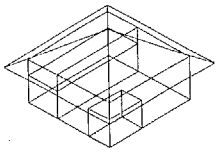
表7-2　2単位での範列的修辞と統辞的修辞

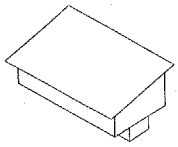
統辞的修辞＼範列的修辞			統一	統一強調	対比					対比強調				
			a,a'	b,b'	c1,c2	d,d'	e	f, f1,f2		h	i,i1, i2,i3	g		
2項関係	主／従	A1 隣接		23 4 8 9	104	36 28	129 139				181	97		
		A2 買入		126 193		1 194 202		176 124				91	96	
		A3 包含	120 160			20		113 103 187			29 166 44 55 2 12 38	172	13 14	
		A4 積層			59			128			48 98 154 72 152	110		
	均衡	B	179 209				177				175 135			
	(分離)	N			119									


No.23


No.104


No.124


No.55


No.72

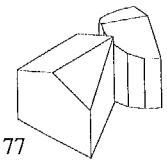
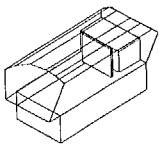
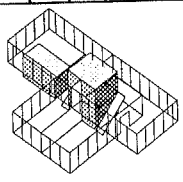
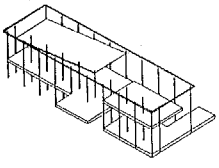

No.177

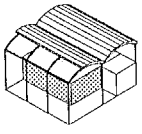
表7-3　3単位以上における範列的修辞と統辞的修辞

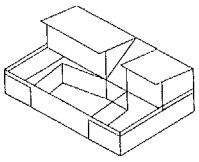
統辞的修辞＼範列的修辞			統一	統一強調	対比						対比強調				複数多様				
			a,a'	b,b'	c1,c2	d,d'	e	f, f1,f2			h	i,i1, i2,i3	g		j	k	(i,h)		
2項関係	主／従	I			50							210				180 211	195	142 195	
		K		5	17 206 222	49		25 60				184		198		75 151	66 111 138 216	53 132 219	
	均衡	J	79	5	74			60 85				88 159	105		141		92 114 190	52 148 207	
		H,H'										217	136		169	180 186	161 167	208	
	(階層の対称)	L						109				210			147	30	146		
集中	中心の強調	C,C'	95	47 140 204	56 107	165	67 78	73 82 86 134 153 157	183 199		94 117		145	220 61	215	41	171	130 143	
		F		51 121				144			116	173		221	108 197	149		115	
	対称	D	90					83			131	89		162					
	偏心	G	90												214	100 200	133		
		E	122	201		164												156	
連鎖・循環		M,M'		40	57									192	62	63 151 212		155 158 185	
(分離)		N			71											170 178			

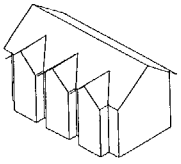

No.216

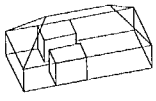

No.17

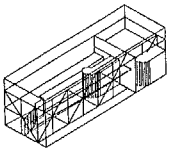

No.219

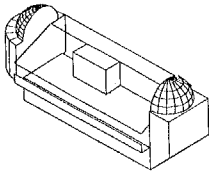

No.159


No.186


No.140


No.82


No.117


No.108

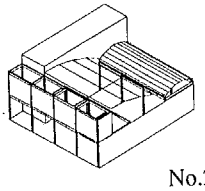

No.212

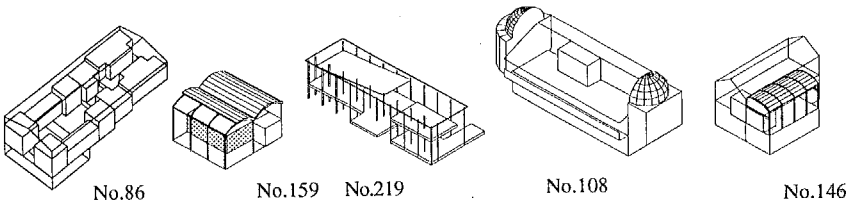
表7-4 「入れ子による構成」

No.	発表号	作品名	架構表現 1	2	3	4	5	6	7	種類数	単位数	差異と類似 断面	平面	構成材	ﾊﾟﾀﾝ 外形	構成材	分節類型	範列的修辞
2	5202	増沢百邸	△■RF	□■						2	2	△,□	■	RF,-	★☆	★う	i3	対比強調
38	6210	から傘の家	△■RF	□■						2	2	△,□	■	RF,-	★☆	★う	i3	対比強調
44	6404	谷掌の山荘	△■R	□■						2	2	△,□	■	R,-	★☆	★う	i2	対比強調
55	6707	白の家	△■R	□■						2	2	△,□	■	R,-	★☆	★う	i2	対比強調
103	7708	柿生の家	△■	□■						2	2	△,□	■		★☆	☆あ	f2	対比
113	7902	今宿の家	△■	□■						2	2	△,□	■		★☆	☆あ	f2	対比
120	8002	上田邸	□■	□■						1	2	□	■		☆☆	☆あ	a	統一
160	8610	開拓者の家	○■	○■						1	2	○	■		☆☆	☆あ	a'	統一
166	8709	秋穂のｱﾄﾘｴ	△■F	□■						2	2	△,□	■	F,-	★☆	★う	i1	対比強調
172	8806	窮山の家	△●	□■						2	2	△,□	●,■		★★	☆あ	g	対比強調
187	9001	馬初の住宅	△■	□■						2	2	△,□	■		★☆	☆あ	f2	対比
67	7202	直方休の森	□■	▽■	▽■					2	3	□	■,▼		☆★	☆あ	e	対比
82	7502	北山・住宅	△■	□■	▽■					2	3	△,□	■		★☆	☆あ	f2	対比
94	7609	船橋ﾎﾞｯｽ	□■	□▼F	□■					2	3	□	■,▼	F,-	☆★	★う	h	対比強調
95	7609	中内邸	△■	△■	△■					1	3	△	■		☆☆	☆あ	a'	統一
117	7910	小田原の住宅1978	□■F	□●	□●					1	3	□	●,■	F,-	☆★	★う	h	対比強調
219	9310	ﾀﾌﾞﾙｰﾌの家	□■RFS	△■RF	▽■FS					3	3	△,□	■	RF,RF,FS	★☆	★え	複多	複数多様
74	7211	反住器	□■F	▽■R	▽■					2	3	□	■	F,-	☆☆	★う	c1	対比
85	7506	幻庵	□■	□■	□■					2	3	△,□	■		★☆	☆あ	f1	対比
190	9003	COSMOS	△■	□■	□■F					3	3	△,□	■	F,-	★☆	★う	i1	複数多様
138	8202	荏窪の家1980	□■F	△■F	□■					3	3	△,□	■	F,-	★☆	★う	ii	複数多様
159	8609	馬込沢の家	○■RF	□■	□■					2	3	△,□	■	RF,-	★☆	★う	i	対比強調
25	5712	villa CouCou	△■	▽■	▽■					2	3	△,□	■		★☆	☆あ	f2	対比
53	6701	もうびぃでぃっく	△●RW	□●	□■F					3	3	△,□	●,■	RW,F,-	★★	★か	複多	複数多様
111	7902	衛潤の家	△■	□■W	□■					3	3	△,□	■	W,-	★☆	★う	i	複数多様
184	8909	芹ヶ沢の山荘	△■R	□■	□■					2	3	△,□	■	R,-	★☆	★う	i2	対比強調
222	9405	Y-HOUSE	□■WS	□■	□■					2	5	□	■	WS,-	☆☆	★う	c2	複数多様
88	75夏	八千代	△■F	□■	□■					2	3	△,□	■	F,-	★☆	★う	i1	対比強調
216	9307	BLUE-SCREEN HOUS	○■	□■	□■W					2	3	○,□	■	W,-	★☆	★う	i	複数多様
71	7208	まつかわ・ぼっくす	□■	□■F	□■					2	3	□	■	F,-	☆☆	★う	c1	対比
73	7209	粟津邸	○■	□■	□■	□■	□■	□■		2	5	○,□	■		★☆	☆あ	f1	対比
86	7509	原邸	△■	○■	○■	○■	○■	○■		2	5	○,△	■		★☆	☆あ	f	対比
171	8803	雪中居	○■	△■F	△■	△■				3	4	△,△	■	F,-	★☆	★う	h	対比
92	7606	雪ヶ谷の住宅	□■W	□▽W	□■	□■				3	4	□	■,▼	W,-	☆★	★う	h	複数多様
114	7905	石原邸	□■W	□▽	□▽	□▽	□●W			3	5	□	●,■,▼	W,-	☆★	★う	h	複数多様
146	8312	花小金井の家	△■	□■	○■F	□■	□■			3	5	○,△,□	■	F,-	★☆	★う	i	複数多様
208	9208	ｼﾙｸﾞﾚｰ・ﾑｰﾝ	○■R	○■F	□■F	□■	□●	○●	○▲	6	7	○,□	●,▲,■	R,F,-	★★	★か	複多	複数多様
66	7104	水無瀬の町家	△■	□■W	□■	□■				3	4	△,□	■	W,-	★☆	★う	i	複数多様
169	8711	庚十公園林ﾌｫﾘｽﾄﾊｳｽ	○■F	□▽F	□■	▽■	▽■			3	5	○,□	■,▼	F,-	★★	★う	j	複数多様
180	8905	物質試行26	△■F	○■R	▽■	▽■				3	4	○,△,□	■	R,F,-	★☆	★か	k	複数多様
200	9110	四季が丘の家	□■W	○■RF	□■	□■FW	○■RF	▽■		4	6	○,□	■	RF,FW,W,-	★☆	★う	h	複数多様
90	7602	鴨居の家	▽■	▽■	▽■	▽■				1	4	□	■		☆☆	☆あ	a	統一
221	9405	森の別荘	△●W	△●W	□■	□■				2	4	△,□	●,■	W,-	★★	★う	対強	対比強調
133	8106	小篠邸	□■W	□■	□■	△■				3	4	△,□	■	W,-	★☆	★う	i	複数多様
108	7808	伊東邸	△■R	□■	▽●	▽■	□■			4	5	○,△,□	●,■	R,-	★★	★う	j	複数多様
158	8609	鍊馬の住宅	○■R	○▽R	○■RF	□■	○■RF			4	5	○,□	■,▼	RF,R,-	★★	★か	複多	複数多様
173	8809	HOUSE F	△■RF	□■	□■	□■	□■			2	5	△,□	■	RF,-	★☆	★う	i3	対比強調
151	85春	浦海の家	△■RF	△■RF	▽■F	△■RF	△■RF	□■		3	6	△,□	■	RF,F,-	★☆	★か	k	複数多様
149	8501	ｼﾙﾊﾞｰﾊｯﾄ	○■F	○■RF	○■RF	○■RF	○■RF	□■	□■	3	7	○,□	■	RF,F,-	★☆	★か	k	複数多様
12	5311	ＳＨ－１	△■RF	□■						2	2	△,□	■	RF,-	★☆	★う	i3	
13	5409	コアのあるH氏の住い	△■R	□■W						2	2	△,□	■	R,W	★☆	★お	対強	
14	5411	住宅No.20	△■RF	□■W						2	2	△,□	■	RF,W	★☆	★お	対強	
20	5511	住宅No.28	□■RF	□■W						2	2	□	■	RF,W	☆☆	★お	d'	
29	5901	菊竹自邸	△■RW	□■						2	2	△,□	■	RWS,-	★☆	★う	i	
30	6004	Case Study House#3	△■RW	□■W	□■	□■				3	4	△,□	■	RW,W,-	★☆	★か	k	
116	7910	上田の住宅1977	□■F	▽■F	▽■F	□●				2	4	□	●,■	F,-	☆★	★う	h	
147	8312	ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟ・ｲﾘｽ	△▲	△■	○■R	△■				3	4	○,△	▲,■	R,-	★★	★う	j	
107	7808	山川山荘	△■RS	△■	△■	△■	△■			2	5	△	■	RS,-	☆☆	★う	e2	
211	9301	両山の住宅	□■W	△■RF	△■RF	○■RF	▽■RF	○■RF	△■	4	7	○,△,□	■	RF,W,-	★☆	★か	k	

| No. | 位相関係 | | | | | |

表7-5
入れ子による構成の
統合パターン

	V 1次で最大単位による（階層無し）	W 1次で最大単位による（階層有り）	X 1次で複合最大単位による	Y 2次で最大単位による	Z 2次以降で最大単位によらない
2単位	2,38,44,55,103,113,120,160,166,172,187				
3単位	67,82,94,95,117 71	74,85,159,190	138,219	25,53,111,184,216,222	88
4単位以上	171 73,86	114		90 169 66 133,200 208 180 108,173 151 221 200	149 92 146 158

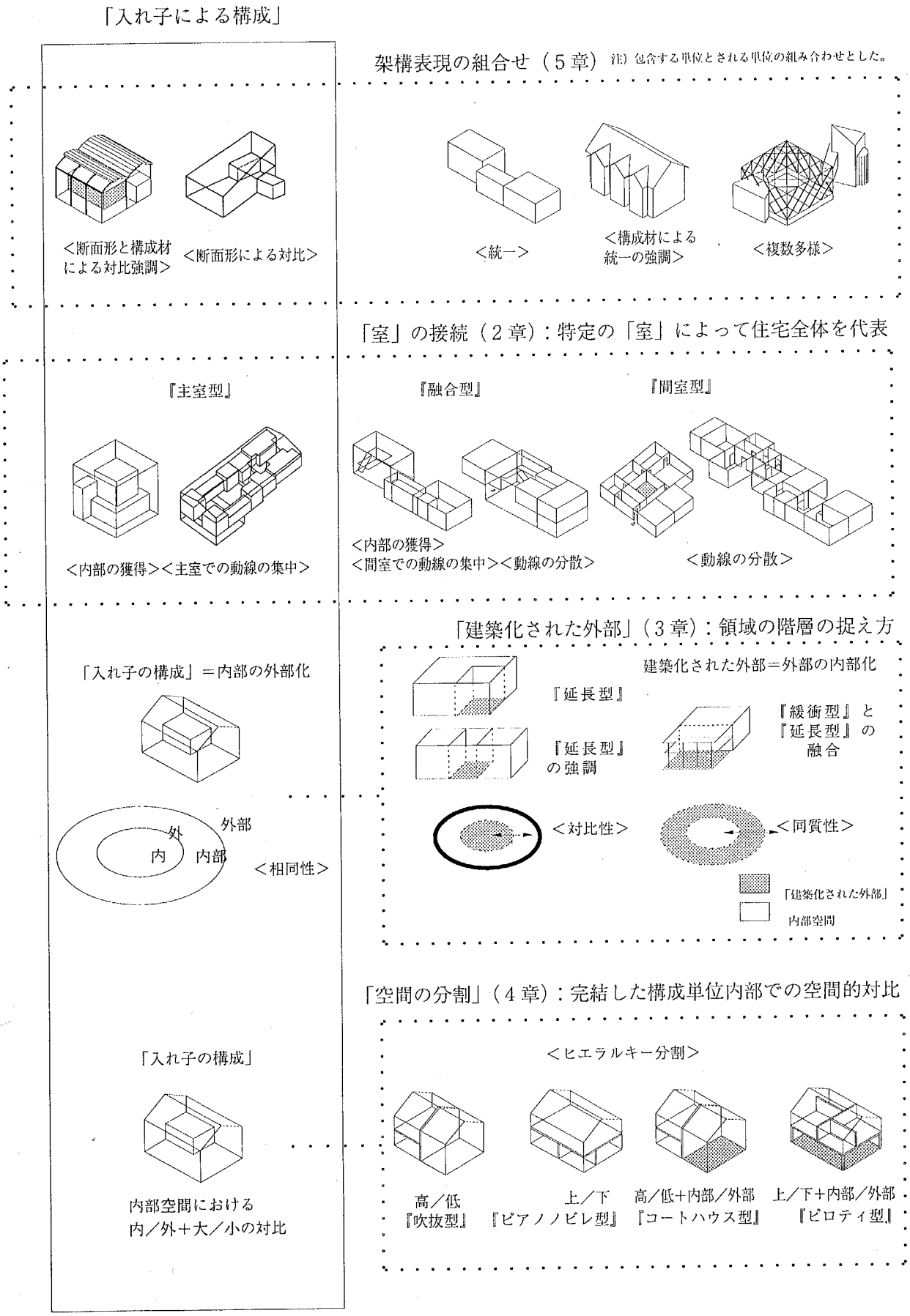


No.86　No.159　No.219　No.108　No.146

表7-6
分割と複合と入れ子

		包含する構成単位（大）		
		分割無し	分割有り	複合
包含される構成単位(小)	分割無し	53* 82# 86# 90* 173* 149* 216* 217* No.82 No.216 No.67	2 25* 38 44 55 73# 88* 108* 117# 160 184* 221* No.117 No.25 No.66	146* 219
	分割有り	67# 71# 94# 95# 111* 133* 180*# 187 No.187	103 113 120 166 171# 172 200* No.10	138
	複合	74 85 92 114 159 169* 208* 222 No.74	66# 190 凡例) ＊は2次以降の入れ子 ＃は複数単位を包含するもの	

図7-7 「入れ子による構成」の特徴



第８章　結論

第２章から第７章までを通して、部分と全体の関係に基づく住宅作品の構成形式について類型的な見方による検討を行ってきた。そのために、何らかの空間を単位として住宅全体を分節し、これら分節化された単位の性格と、単位間の関係によって住宅の全体の構成形式を体系的に検討してきた。各章は、こうした空間の単位それぞれにおける構成形式を論じ、各水準で成立する構成類型を導くとともに、類型を成立させている構成的修辞を明らかにするものであった。

本論では、まず具体的な内部空間に対応する「室」と外部の「室」ともいえる「建築化された外部」による構成形式を明らかにした。この「建築化された外部」の検討において、内部空間と外部空間が同じ構成材による一つの架構表現によって成立する構成が見い出されたことから、内部空間や外部空間の区別とは異なる水準で成立する、「架構表現による構成単位」を空間の単位として設定し、これに基づく構成形式を明らかにした。さらに「架構表現による構成単位」とその位相関係による最も特徴的な構成形式として「入れ子による構成」を抽出し、その特徴を各章で明らかにした構成形式との対応から明らかした。

本章では各章で得た結果を総括し、本論文の結論とする。

第２章「空間の分節と接続」

■具体的な内部空間に対応する「室」を単位に、それらの動線的な接続による構成形式を検討した。その結果、住宅の中で最大の「室」である主室を中心に全ての「室」および外部が接続される、『主室型』、主室の大きさが従属的で、間室を中心とした全ての「室」および外部の接続や、主室を含めた複数の室の連鎖による動線の連鎖、回遊性成立する『間室型』の２つの特徴的な構成類型が成立することを明らかにした。これによって一続きの空間としての住宅と、複数の分節された室の組合せとしての住宅という、２つの対照的な住宅あり方

および、この２つが融合した性格を持つ構成類型が成立することを明らかにした。

■さらにこれらの構成類型は、以下に示す複数の構成的修辞の重なりとして成立することを示した。

＜内部の獲得＞

住宅全体の中で主室が著しく大きく、他の「室」と大きさの上で対比されることで、内部空間としての広がりが強調される。

＜主室での動線の集中＞

全ての室および外部が主室によって接続される。

＜間室での動線の集中＞

全ての室および外部が間室によって接続される。

＜動線の分散＞

特定の「室」に動線が集中せず、複数の室が動線として機能することによって動線が連鎖、回遊される。

■また、これらの構成的修辞を成立させる具体的な分節操作に関する以下の構成的修辞を示した。

＜対比分節＞

住宅全体が主室と他の１室の計２室に分節される、大きさの対比が強調される。

＜室群分節＞

室数が多い場合に複数の室が部分的にまとめられ、住宅全体が２～３の室群による構成に単純化される。

＜室群多分節＞

複数の室を部分的にまとめた室群が多く分節される。

＜独立多分節＞　室群ではなく独立した「室」が多く分節され、主室に直接接続されることで、室群に生じやすい動線の階層化を避け、室数が多い場合でも主室を中心に統合される。

■これらの構成的修辞は、大きさの対比や動線の集中によって特定の「室」が差異化され、住宅全体が代表される表現であることから、部分の空間によって住宅全体を代表させることが「室」の構成形式に

おける最も重要な主題であることを指摘した。この視点に立てば『主室型』は大きさにおける代表と、動線の集中における代表が主室で一致するものであり、『間室型』は動線の集中において間室によって住宅全体が代表されるものである。また、それらが融合した類型は、一つの住宅に大きさによって住宅全体を代表する内部空間と、動線によって住宅全体を代表する内部空間が別々に成立するものである。さらに特定の「室」に動線が集中されない『間室型』の一部は、住宅全体を代表する一つの内部空間を作らない表現であるといえる。

第3章「外部空間の分節と統合」

■内部空間に限って構成形式を検討した第2章に続いて、外部の「室」とも言える、建築単体の構成に取り込まれた外部空間である「建築化された外部」を含めた住宅作品の構成形式を検討した。主に内部空間と「建築化された外部」の関係から、内部空間に対しては閉ざし建築の領域の外部との連続が強調される『緩衝型』、建築の領域の外に対しては閉ざし内部空間から連続する『延長型』、『延長型』の強調、さらに一つの住宅にその両者を別々に併せ持つ『緩衝型』『延長型』の複合、一つの「建築化された外部」において建築の領域外へも内部空間へも連続が強調される『緩衝型』『延長型』の融合、という構成類型が成立することを明らかにした。

■さらに共通の構成材の表現によって統一された建築の領域の中に、内部空間と「建築化された外部」を体系的に位置付ける『延長型』と、『緩衝型』と『延長型』の融合の比較から、『延長型』のように内部空間と外部空間の連続性が領域の構造的な階層性を利用することによって成立する内外の《対比性》に基づく修辞と、『緩衝型』と『延長型』の融合のように内部空間と外部空間の連続性によってむしろ領域の階層性を克服しようとする内外の《同質性》に基づく修辞という、領域の階層性に対する対照的な2つの構成的修辞を明らかにした。

■ここで得られた結果は、「建築化された外部」を作ることが領域の包含関係と内／外の分割という構成の主題を浮上させ、その捉え方

によってこの水準での構成的修辞が成立するという、住宅の空間構成の構造の一端を示すものであることを指摘した。

第4章「空間の分割」

■具体的な内部空間や外部空間の区別とは異なる水準で成立する「架構表現による構成単位」に基づく構成形式の検討の手始めとして、単独の構成単位からなる住宅作品における、空間の分割による構成形式を検討した。結果、分割の階層と床／壁による分割、内部空間の分割、内部／外部の分割などによる分割の性格の関係から、『吹き抜け型』、『コートハウス型』、『ピアノノビレ型』、『ピロティ型』などの構成類型を導き、断片的に捉えられているこれらの構成形式を、共通の体系の中に位置付けた。

■さらに、これらの構成類型は、以下に示す構成的修辞の重なりとして成立することを明らかにした。

＜ヒエラルキー分割＞

構成単位から直接分割されたままそれ以上分割されない部分と、さらに細分化される部分の間に、空間のヒエラルキーが生じる。

＜均衡分割＞

構成単位から直接分割された部分が、それぞれさらに細分化される。

＜1次内外分割＞

構成単位に対する直接の分割が、内部空間と外部空間の分割に対応。

＜複層分割＞

構成単位に対する直接の分割が壁による分割で、それ以上分割されない部分とさらに床によって層状に細分化される部分がある。

＜上下分割＞

構成単位に対する直接の分割が、床による層状の分割であることによって、構成単位内部に上下の分割が生じる

■先に挙げた類型は、構成単位自体の分割に関わる＜1次内外分割＞と＜複層分割＞＜上下分割＞などの修辞による内／外、高／低、上／下という空間的な対比が、分割の階層に関する修辞である＜ヒ

エラルキー分割＞によって強調されることによって成立する。このことから、完結した全体において強い空間的な対比を作り出すことが、「空間の分割」における一つの重要な主題として見い出せることを指摘した。

第５章「架構表現による構成単位の分節」

■構成単位内部の分割による構成形式を検討した第４章に続き、複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品において、その組み合わせによる構成形式を検討し、架構表現の性格を規定する平面形、断面形、構成材の各水準における差異と類似の組合せから構成類型を抽出した。

■これらの構成類型は、以下に示す架構表現の種類による複数単位のグループ化に関する修辞と、分節の水準の選択に関する修辞の重なりとして成立することが明らかになった。

□複数単位のグループ化に関する修辞

＜統一＞

複数の構成単位が全て同じ架構表現で統一される。

＜統一の強調＞

外形や構成材の類似が重なって、架構表現の統一が強調される。

＜対比＞

複数の構成単位が２種類の架構表現に分けられ、対比される。

＜対比の強調＞

外形や構成材の差異が重なって、架構表現の対比が強調される。

＜複数多様＞

複数の構成単位に３種類以上の架構表現が与えられる。

□分節の水準の選択に関する修辞

＜ヴォリューム分節＞

構成材を分節しないヴォリュームの外形による架構表現の組合せ。

＜構成材分節＞

構成材の種類による架構表現の組み合わせ。

＜複合分節＞

構成材の種類とヴォリュームの外形による架構表現の組み合わせ。

■また、構成材の表現が、「類似を前提とした差異」や「架構表現の階層性」など、構成単位間により複雑な関係を与えることを指摘した。

第６章「架構表現による構成単位の位相関係」

■複数の「架構表現による構成単位」からなる住宅作品において、その組み合わせによる構成形式を検討した第５章に続き、構成単位の位相関係による構成形式を検討した。結果、構成単位の位相関係が作る階層と最大単位の関係から、２単位の位相関係による構成類型と、３単位以上の位相関係の階層による構成類型を抽出した。

■これらの構成類型は、住宅の大まかな分節にともなって見い出される１次の位相関係による《統合の図式》に関する修辞を骨格とし、これに最大単位や複合単位による《抑揚》に関する構成的修辞が重なって成立することが明らかになった。

□《統合の図式》に関する修辞

＜２項関係＞

１次の位相関係によって２項がまとめられる。

＜集中＞

中心となる特定の構成単位に位相関係が集中し、複数の構成単位がまとめられる。

＜連鎖・循環＞

位相関係の鎖状、円環状のつながりによって複数の構成単位がまとめられる。

□《抑揚》に関する構成的修辞

＜主／従＞

最大単位あるいは複合した最大単位と小規模な単位の組み合わせにより＜２項関係＞が成立する。

＜均衡＞
大きさの等しい２単位や、最大単位とそれに匹敵する大きさの複合単位により＜２項関係＞が成立する。
＜中心の強調＞
最大単位が位相関係が＜集中＞する中心となる。
＜対称＞
２つの最大単位が小規模な単位を中心とする位相関係によって統合される。
＜編心＞
最大単位が位相関係が＜集中＞する中心に一致しない。
■また３単位以上の構成類型において、＜集中＞で同じ位相関係が繰り返されることや、階層の上位と下位で位相関係が変わることなどが、位相関係の階層性を明確にすることを指摘している。

第７章「構成単位の包含による入れ子の構成」
■第５章、第６章で明らかにした架構表現の組み合わせによる構成的修辞と、構成単位の位相関係による構成的修辞は、それぞれ住宅全体を統合する秩序の範列的性格と統辞的性格に対応するものであることから、「架構表現による構成単位」に基づく住宅作品の総括的な構成形式を明らかにするために、両者の関係を検討した。その結果、架構表現の種類、大／小による対比、位相関係による内／外、上／下の対比、位相関係の集中による中心／周縁の対比、といった様々な水準における対比関係と、それを成立させる統合の階層性によって住宅作品を統合する主要な秩序が形成されることを明らかにした。またこの水準のなかで相対的に原理的な構成形式と考えられる２単位の位相関係による構成に注目し、接続による構成、内部と外部の構成、分割による構成としては捉えることができない、「入れ子による構成」と呼びうる原理的な構成の一つを抽出した。
■次にこれまで各章で明らかにした構成形式との対応から「入れ子による構成」の特徴を明らかにした。まず、「入れ子による構成」は、

架構表現の種類による対比だけでなく、大きさの対比や、中心／周縁の対比など、様々な水準での対比関係をともなって成立している。それは「室」との対応では＜内部の獲得＞＜主室での動線の集中＞による『主室型』の構成に対応するものが多い。また、「空間の分割」において見い出された構成上の主題である「完結した全体における強い空間的な対比」に対応して、包含する単位内に内／外の強い空間的な対比を作る。さらに「建築化された外部」の構成において見い出された構成上の主題である「領域の包含関係による内／外の分割の階層」に対応して、内／外の分割の《相同性》に基づく修辞を成立させる。

このことから、異なる水準において成立する構成的修辞や、構成上の主題を重層化して成立するということを、「入れ子による構成」の特徴として指摘した。

住宅作品の空間構成による類型を様々な水準で抽出しそれを成立させる構成的修辞を明らかにすることを通して得られたこれらの結論は、建築の実体が成立させる空間構成の水準において、現代の住宅作品の建築の意匠が成立し、それを体系化することができるという本論文の仮説を検証するものである。またそのことは現代日本の建築家によって設計された住宅作品における空間構成上の試みに相対的な評価を与えるだけでなく、空間構成の構造的な把握に基づいた住宅の設計手法の指針になるものと考える。

発表論文目録

＜本論文に関する審査論文＞

1　現代日本の住宅作品における空間の分節と接続　－住宅建築の構成形式に関する研究－
（塚本由晴、坂本一成）日本建築学会計画系論文集　第465号、85-93、1994年11月
（第２章と対応）

2　現代日本の住宅作品における外部空間の分節と統辞　－住宅建築の構成形式に関する研究－
（塚本由晴、繁昌朗、坂本一成）日本建築学会計画系論文集　第470号、95-104、1995年4月
（第３章と対応）

3　現代日本の住宅作品における空間の分割　－住宅建築の構成形式に関する研究－
（塚本由晴、坂本一成）日本建築学会計画系論文集　第478号、1995年12月
（第４章と対応）

4　住宅作品における架構表現による構成単位の分節　－住宅建築の構成形式に関する研究－
（塚本由晴、奥矢恵、坂本一成）日本建築学会計画系論文集　第480号、1996年2月
（第５章と対応）

5　住宅作品における構成単位の位相関係　－住宅建築の構成形式に関する研究－
（塚本由晴、奥矢恵、坂本一成）日本建築学会計画系論文集（準備中）
（第６章と対応）

6　住宅作品における構成単位の包含　－住宅建築の構成形式に関する研究－
（塚本由晴、坂本一成）日本建築学会計画系論文集（準備中）
（第７章と対応）

＜口頭発表論文：日本建築学会大会学術講演梗概集＞共著

本論文に関するもの

・　建築の構成における修辞　住宅作品における建築の構成に関する研究（１）　1990,10
・　建築の構成における形式　住宅作品における建築の構成に関する研究（２）　1990,10
・　構成材の分節とその統辞　住宅作品における建築の構成に関する研究　1991,9
・　建築の構成図式に関する研究(１)　住宅作品における機能的分節と形式的分節　1992,8
・　建築の構成図式に関する研究(２)　住宅作品における構成の図式化とその類型　1992,8
・　現代住宅作品における内部意匠に関する研究　構成材とその修辞　1992,8
・　現代日本の住宅作品における外部領域の分節と統合　住宅作品における建築の構成に関する研究（３）　1994,9
・　外部領域の分節と統合による住宅作品の構成類型　住宅作品における建築の構成に関する研究（４）　1994,9
・　架構表現による構成単位の分節と統合　現代日本の住宅作品における建築の構成に関する研究（５）　1995,8
・　架構表現による住宅作品の構成的修辞　現代日本の住宅作品における建築の構成に関する研究（６）　1995,8
・　現代日本の住宅作品における「構え」に関する研究　1995,8

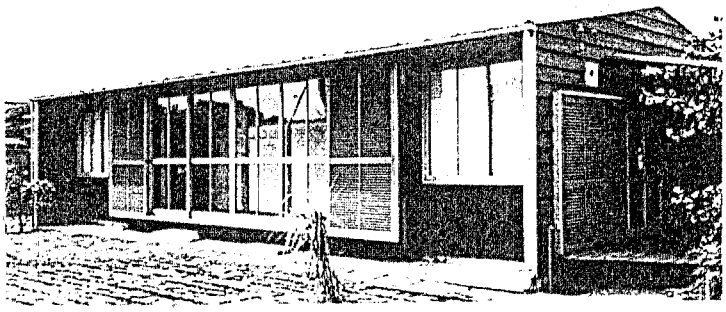
その他

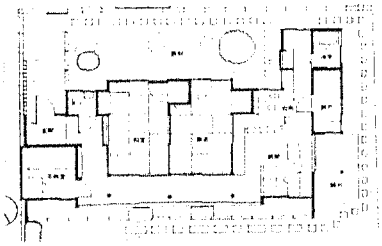
・　図示された都市のイメージ　＜都市のイメージ＞に関する研究　1988,10
・　言葉からみる「かたち」　雑誌にみられる「かたち」の記述に関する研究　1991,9
・　建築家の都市に関するプロジェクト　その１「構成要素」「構成」「イメージ」からみた都市像　1991,9
・　建築家の都市に関するプロジェクト　その２「建築としての表現」からみた都市像　1991,9
・　現代日本の建築の外部領域に関する研究（１）　外部領域の分節とアプローチ　1992,8
・　現代日本の建築の外部領域に関する研究（２）　分節とアプローチによる外部領域の性格　1992,8
・　現代の集合住宅における領域形成に関する研究（１）　住棟の平面形式による外部領域　1992,8
・　現代の集合住宅における領域形成に関する研究（２）　視線と動線による住棟領域の性格　1992,8

・ 現代日本の集合住宅における形態構成に関する研究　住棟外形における構成要素とその集合形式　1993,9
・ 円形平面をもつ建築の構成と機能に関する研究　1993,9
・ 現代日本のアトリウム的空間の構成に関する研究　1994,9
・ 主要動線における空間の分節　現代建築のアクセス空間に関する研究（１）　1994,9
・ 主要動線における空間の構成形式　現代建築のアクセス空間に関する研究（２）　1994,9
・ ヴォリュームの分節と機能および公開領域　現代日本の市庁舎建築の構成に関する研究（１）　1994,9
・ ヴォリュームの分節と形態構成　現代日本の市庁舎建築の構成に関する研究（２）　1994,9
・ 架構によるヴォリュームの複合から見た構成形式　公共文化施設の構成に関する研究（１）　1994,9
・ 構成形式とビルディング・タイプ　公共文化施設の構成に関する研究（２）　1994,9
・ 動線を形成する室の構成的性格と連結　現代日本の建築作品における動線の空間的修辞に関する研究（１）1994,9
・ 動線の空間の類型と空間的修辞　現代日本の建築作品における動線の空間的修辞に関する研究（２）　1994,9
・ 建物用途の混在による街区構成と領域形状　中心業務地区における建物用途の混在形式に関する研究（１）1994,9
・ 建物用途の混在による「領域」構成とその類型
　中心業務地区における建物用途の混在形式に関する研究（２）1994,9
・ 建築の外形におけるヴォリュームの分節・配列と方向性
　現代日本の公共文化施設における形態構成に関する研究（１）　1994,9
・ 建築の外形における構成形式とその類型　現代日本の公共文化施設における形態構成に関する研究（２）1994,9
・ 都市型中高層建築の構成と外形表現　建築の外形構成に関する研究（１）　1995,8
・ 都市型中高層建築の構成類型とその修辞　建築の外形構成に関する研究（２）　1995,8
・ 現代日本の博物館建築におけるアプローチ空間の構成に関する研究　1995,8
・ 単位構成から見た集合の階層性　現代日本の集合住宅における住戸の集合形式に関する研究　その１　1995,8
・ 構成単位の差異による多様性・均質性　現代日本の集合住宅における住戸の集合形式に関する研究　その２　1995,8
・ 多様性・均質性に関する構成的修辞による類型
　現代日本の集合住宅における住戸の集合形式に関する研究　その３　1995,8
・ 包含関係がみられる空間の形式と表現の差異
　現代日本の建築作品における内部空間の意匠に関する研究（１）1995,8
・ 包含関係がみられる空間の構成的修辞による類型
　現代日本の建築作品における内部空間の意匠に関する研究（２）　1995,8
・ 動線空間を構成するヴォリュームの性格とその結合
　現代日本の博物館建築における動線空間の構成的修辞に関する研究（１）　1995,8
・ 動線空間の類型と構成的修辞　現代日本の博物館建築における動線空間の構成的修辞に関する研究（２）　1995,8

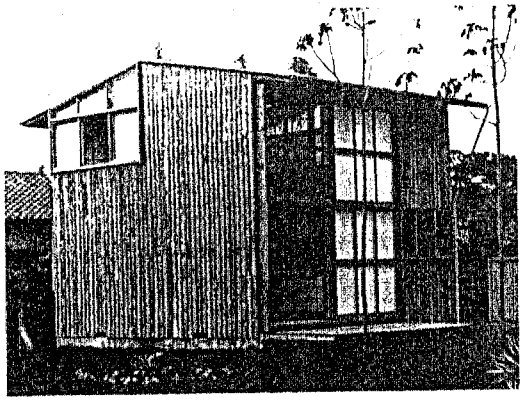
別冊：資料リスト

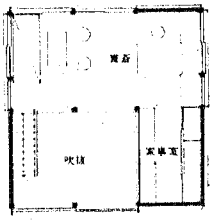
各資料は第４章、第５章、第６章、第７章での「架構表現による構成単位」の水準での検討における資料番号によって整理した。この中で第２章「室」、第３章「建築化された外部」の水準での検討に用いた資料に対応するものについては、それぞれの検討における資料番号を付した。



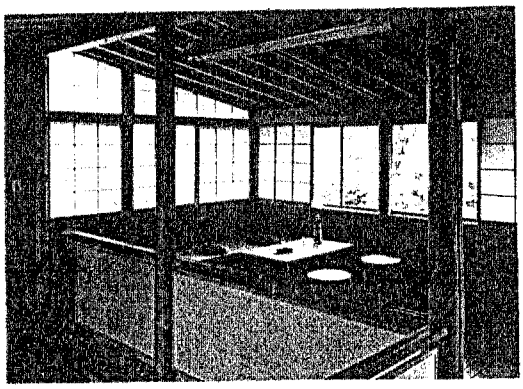


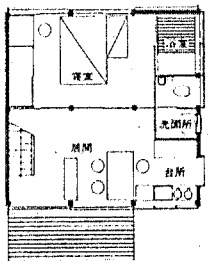
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
1	5109	森博士の家	清家　清	1	





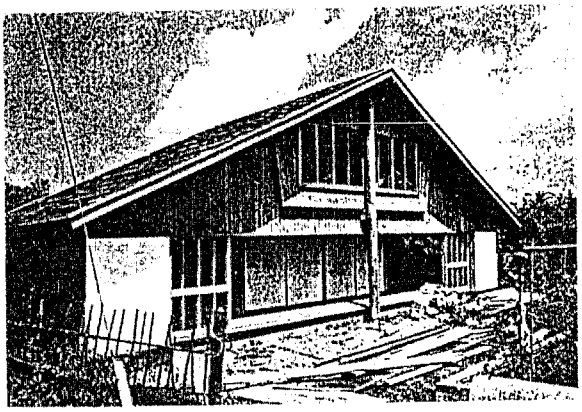
2階平面図

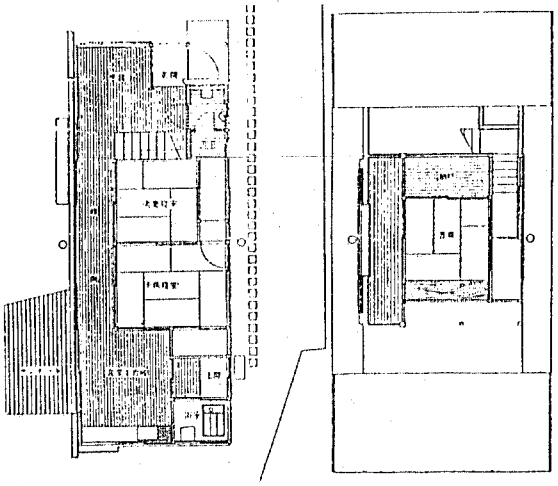




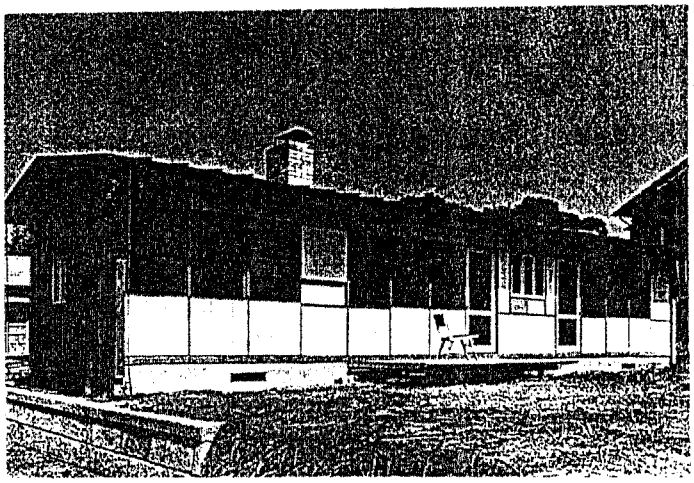
1階平面図　1／200

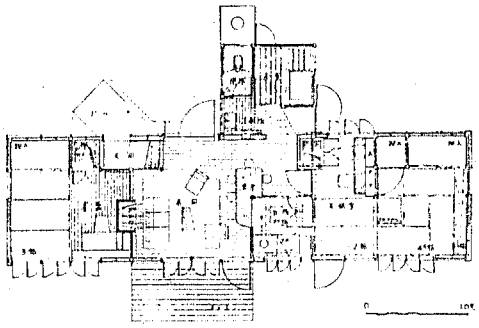
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
2	5202	増沢自邸	増沢　洵	2	



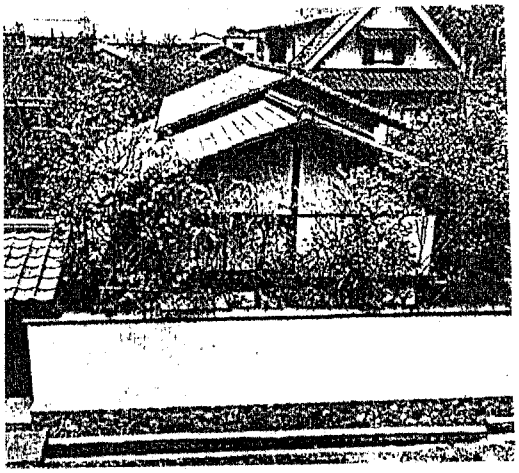


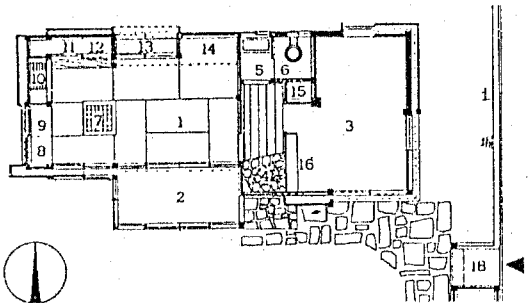
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
3	5205	竹田教授の家	清家　清	3	

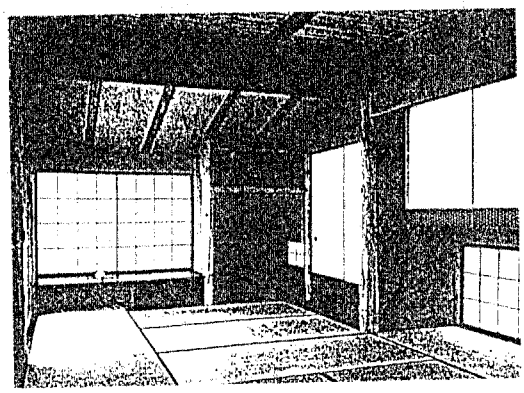




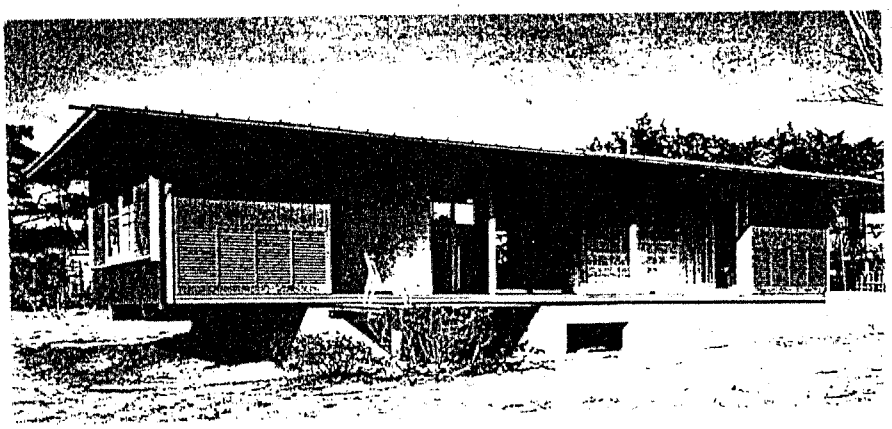
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
4	5205	西京風の家	広瀬鎌二	4	

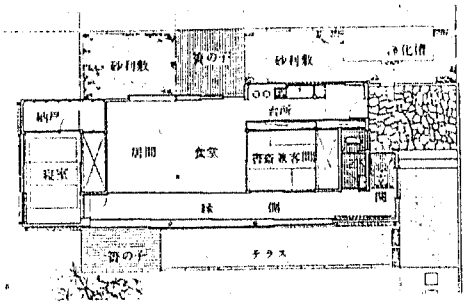




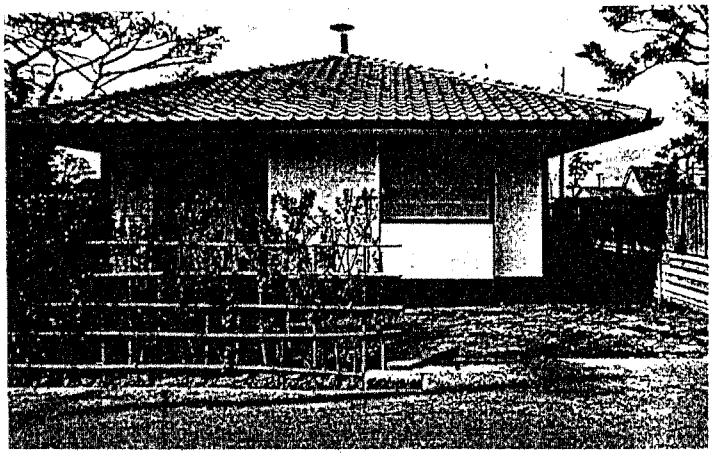


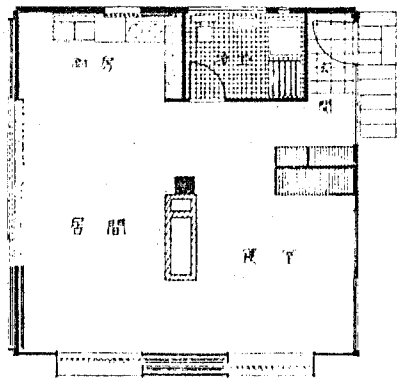
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
5	5207	名取邸	清水 一	5	



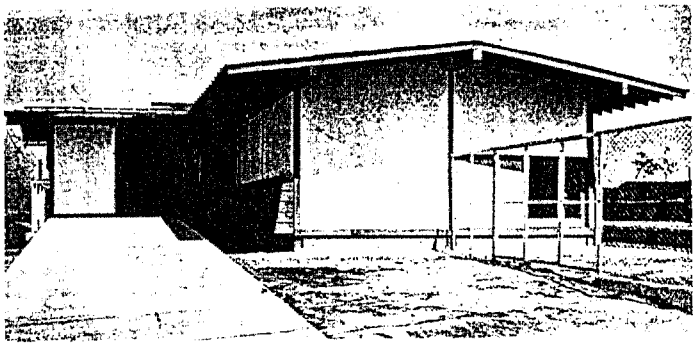


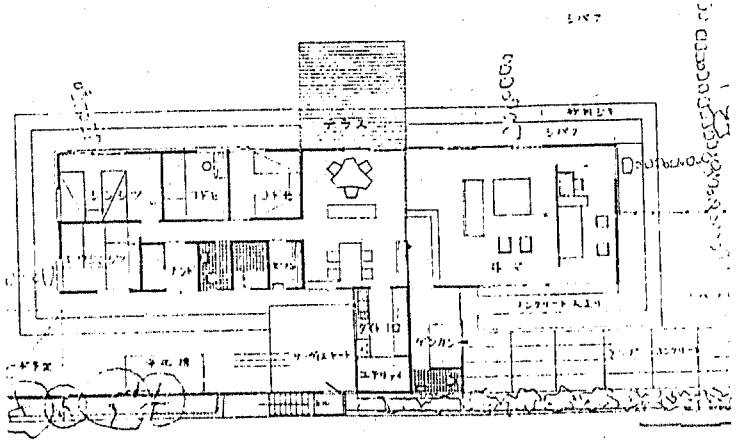
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
6	5302	斉藤助教授の家	清家 清	6	



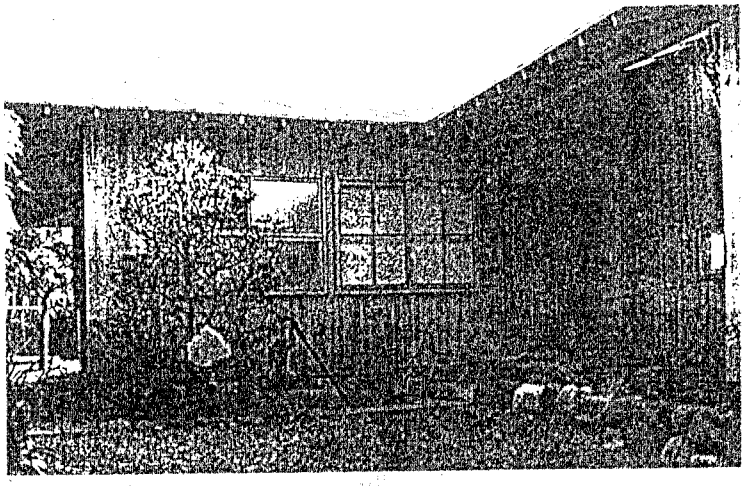


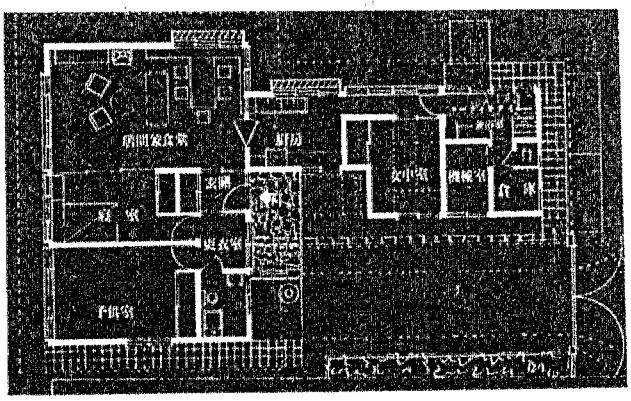
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
7	5305	正方形の家	番匠谷堯二	7	



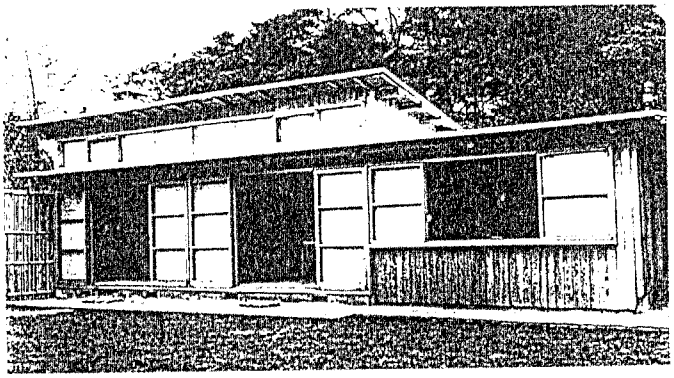


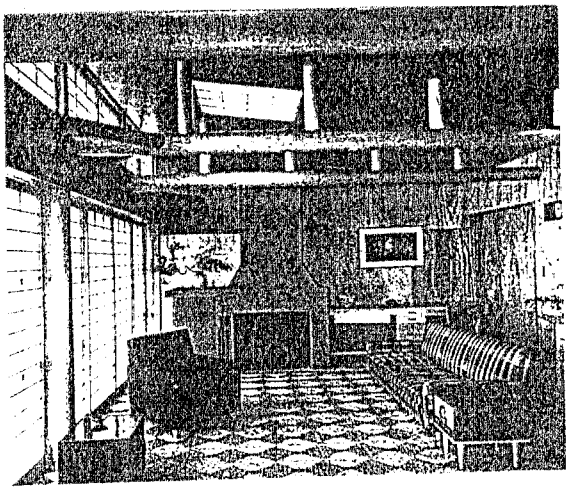
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8	5306	大久保博士の家	山口文象他	8	

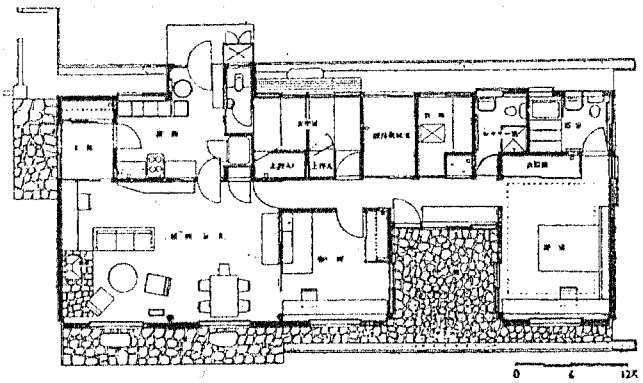




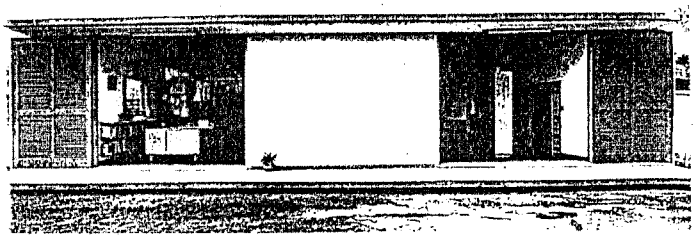
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
9	5307	C・レーモント゛邸	A・レーモント゛	9	

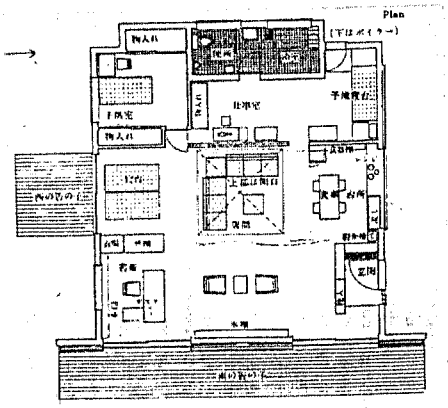




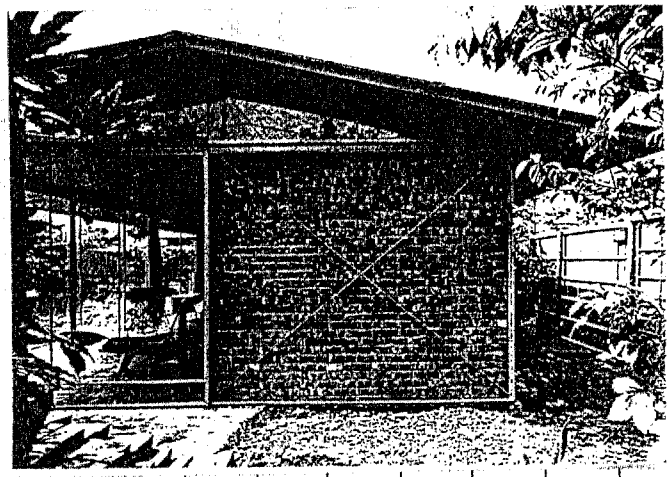


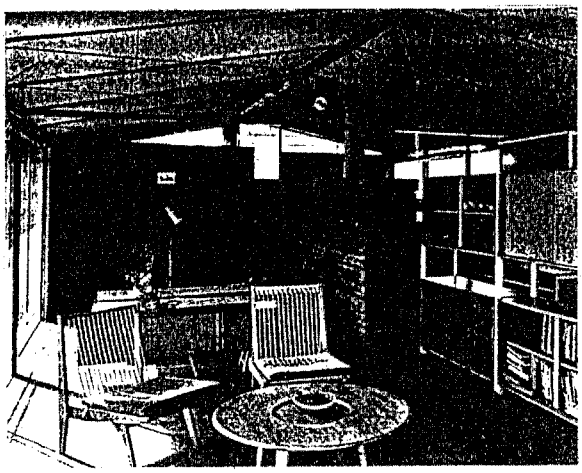
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
10	5309	サロモン邸	A・レーモント゛	10	

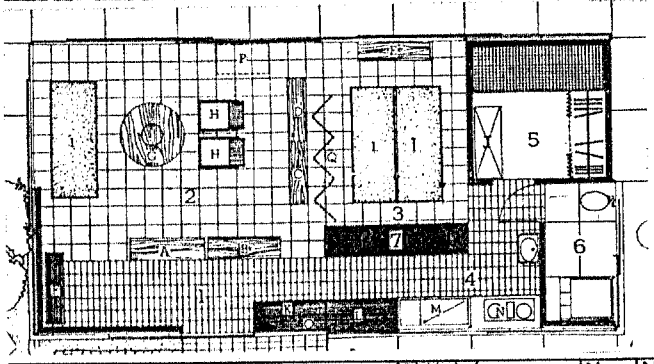




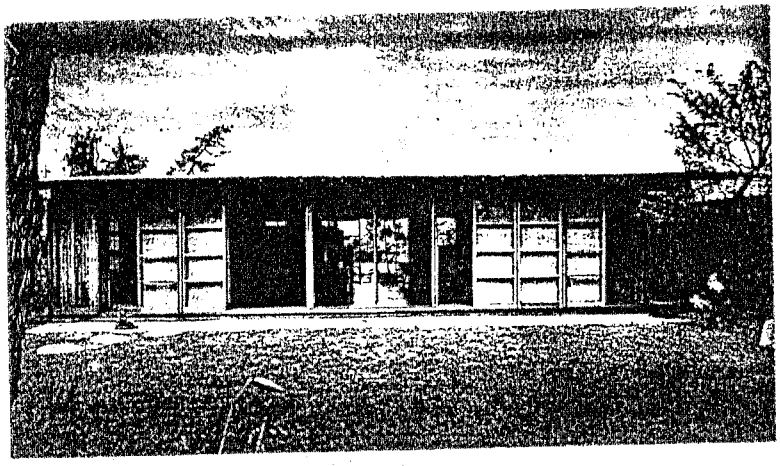
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
11	5311	宮城教授の家	清家清他	11	

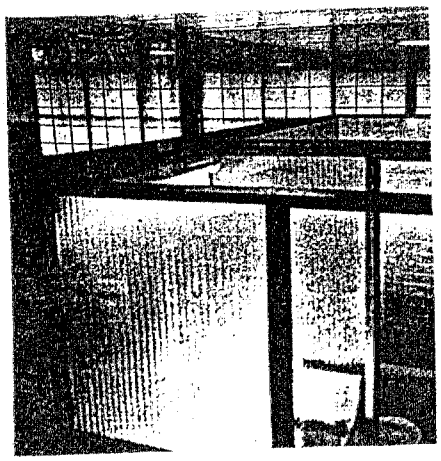


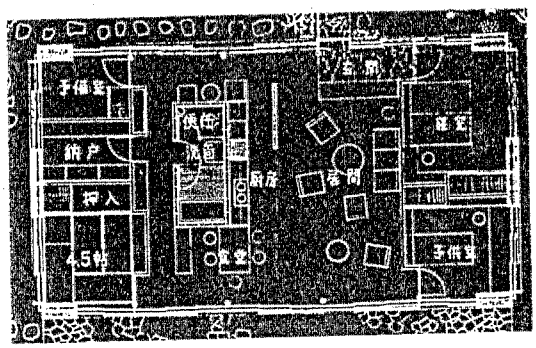




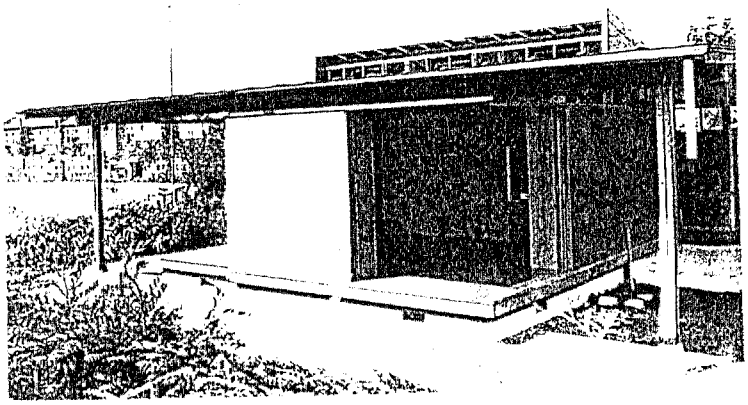
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
12	5311	S H－1	広瀬鎌二	12	

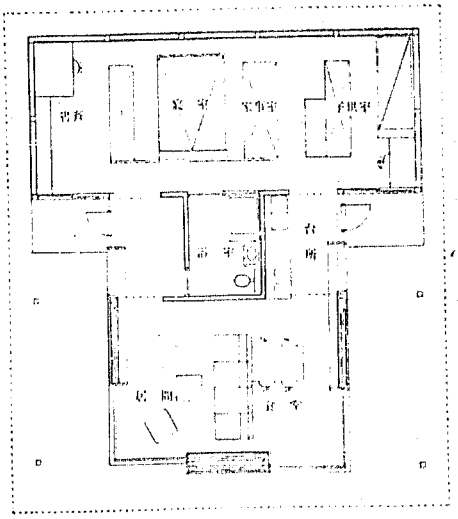




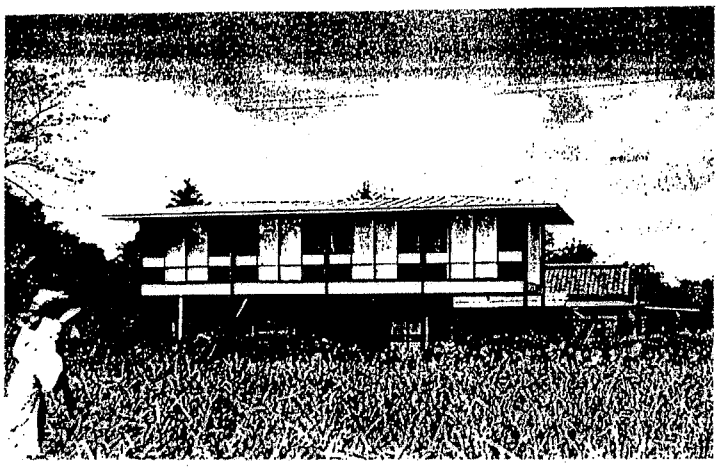


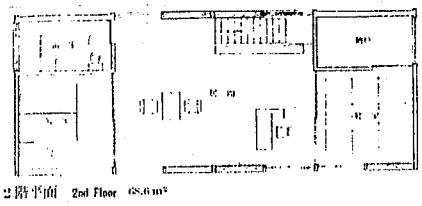
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
13	5409	ｺｱのあるH氏の住い	増沢　洵	13	

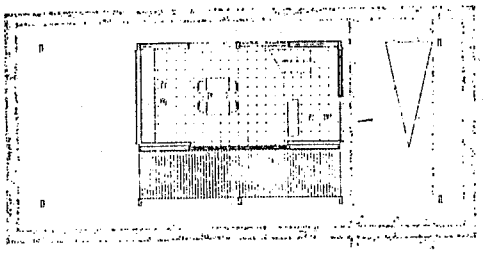




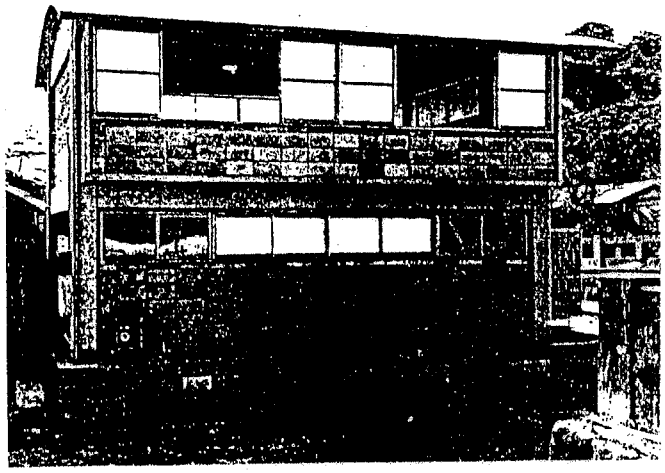
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
14	5411	住宅No.20	池辺　陽	14	1

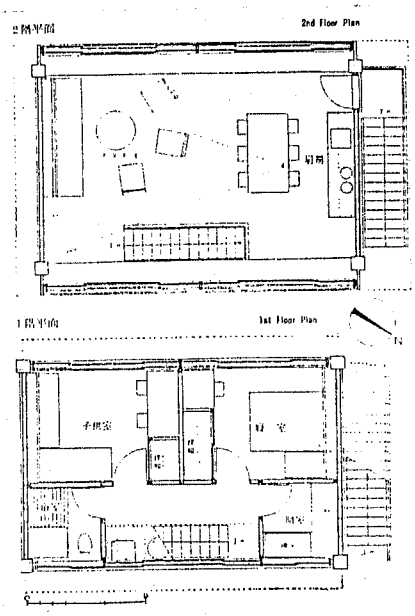




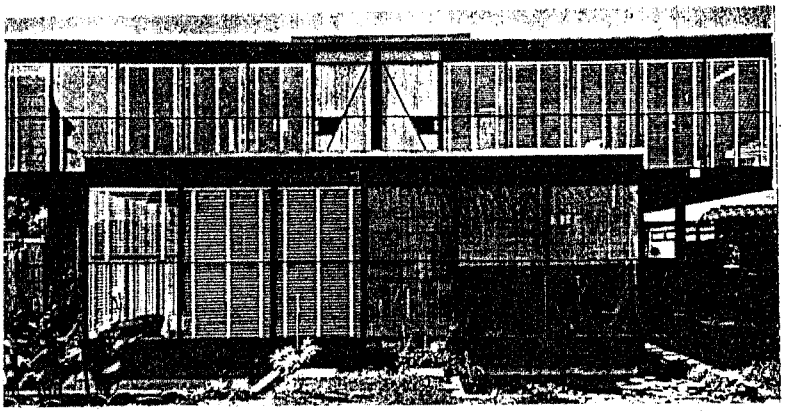


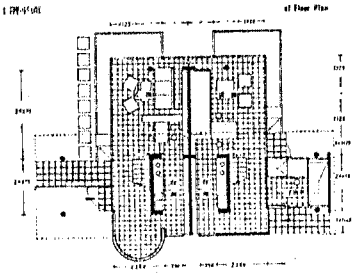
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
15	5411	久我山の家	篠原一男	15	2

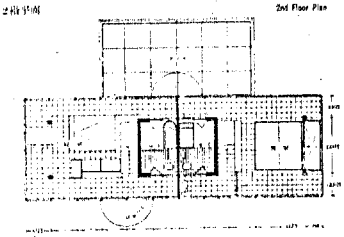




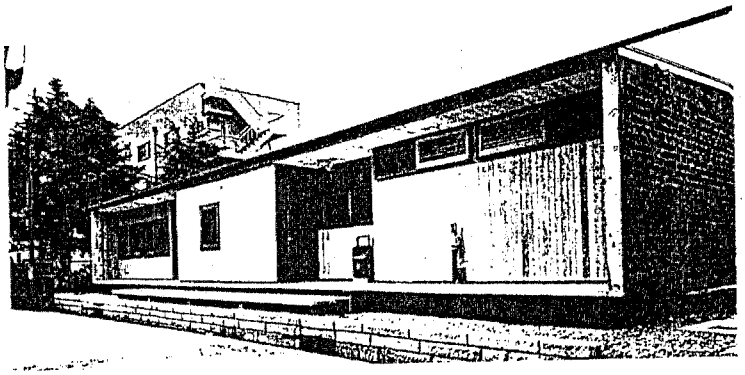
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
16	5411	稲村隆正の家	増沢　洵	16	

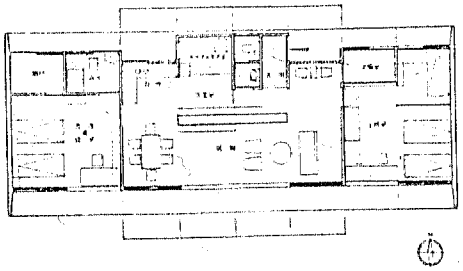




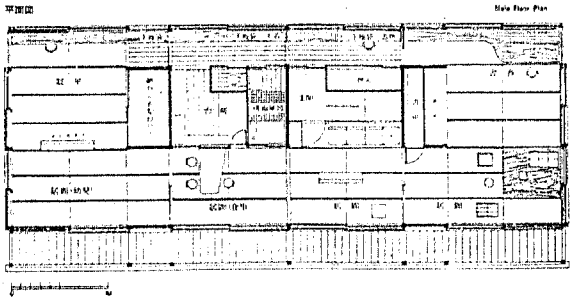


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
17	5411	住宅No.17	池辺　陽	17	3

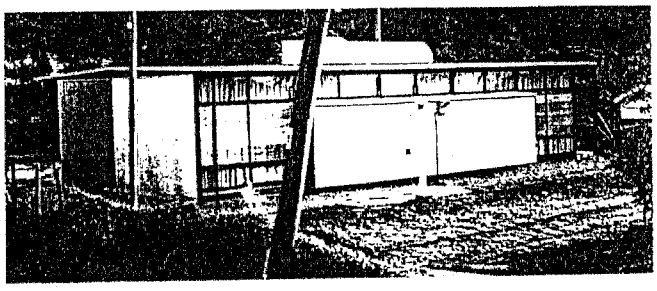


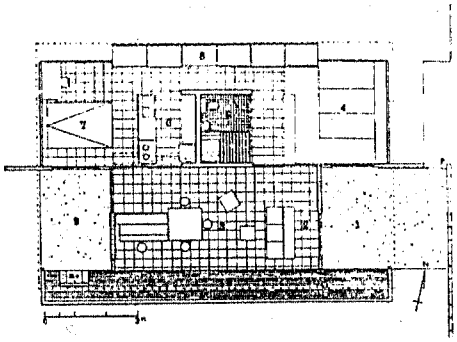


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
18	5411	数学者の家	清家　清	18	

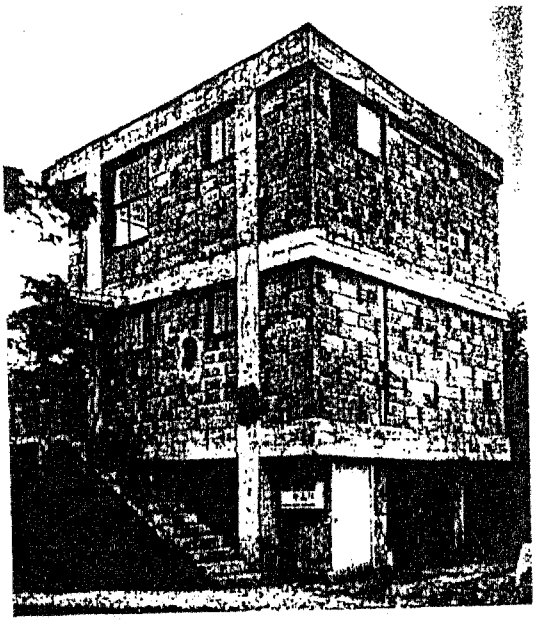


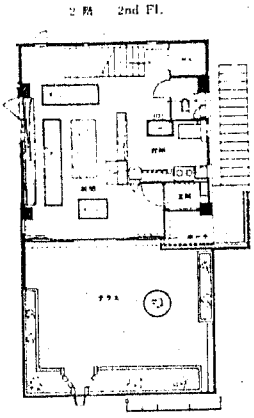
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
19	5501	住居	丹下健三他	19	4

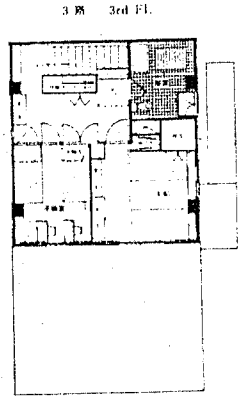




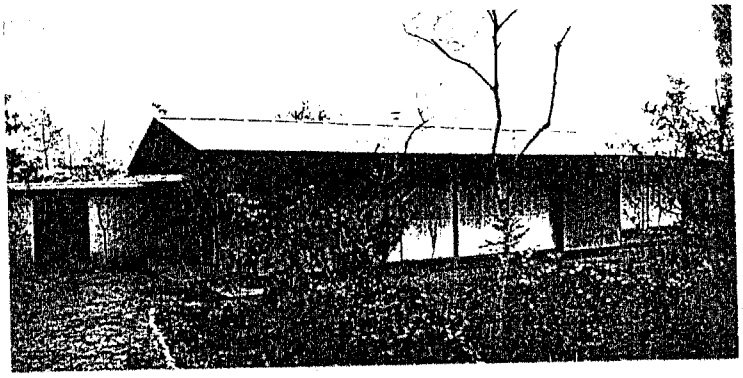
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
20	5511	住宅No.28	池辺陽他	20	5

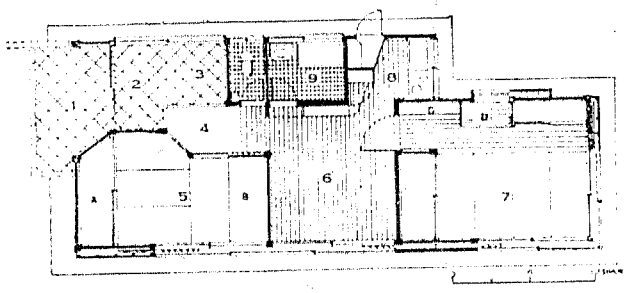




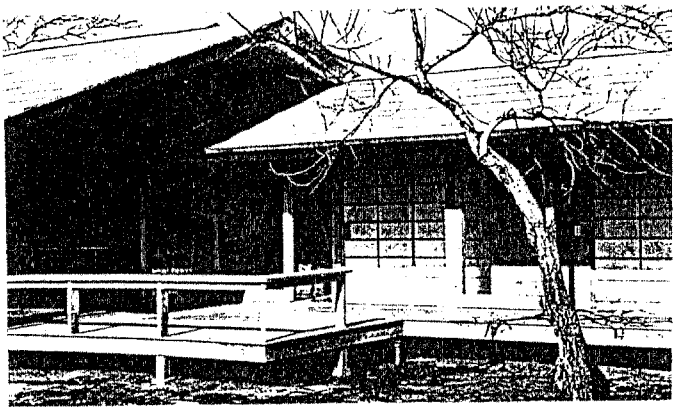


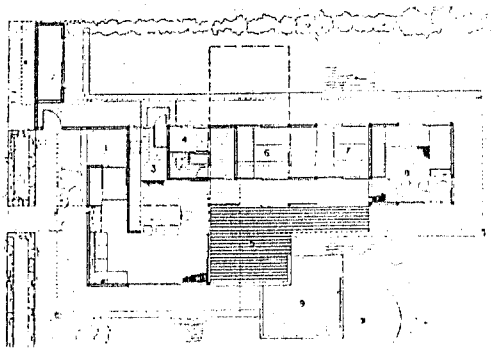
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
21	5511	吉阪自邸	吉阪隆正	21	6



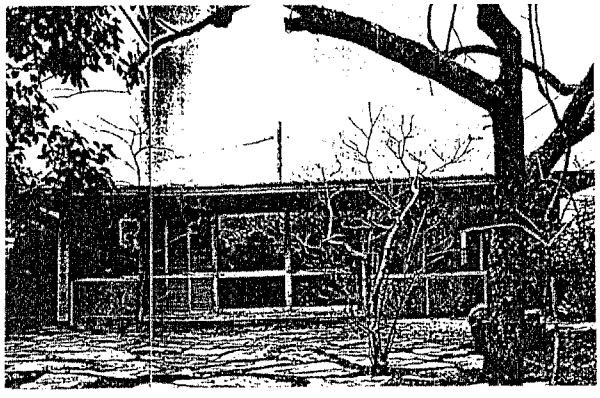


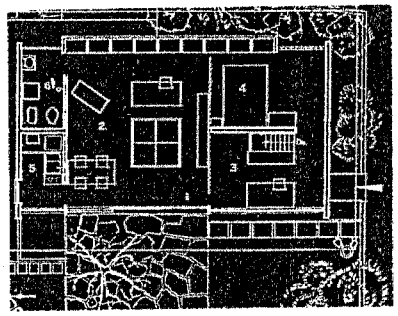
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
22	5609	小平の家	白井晟一	22	



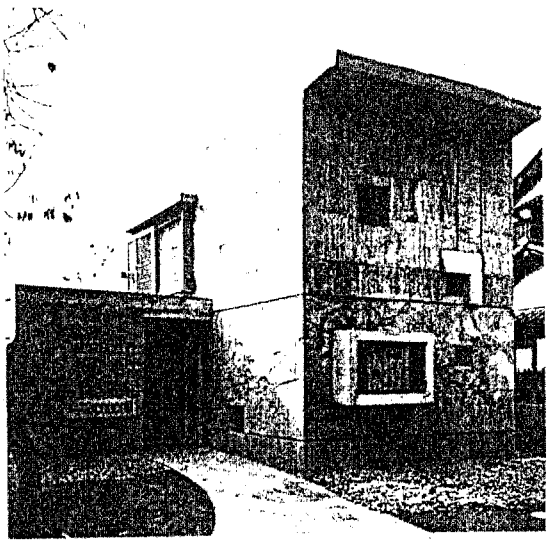


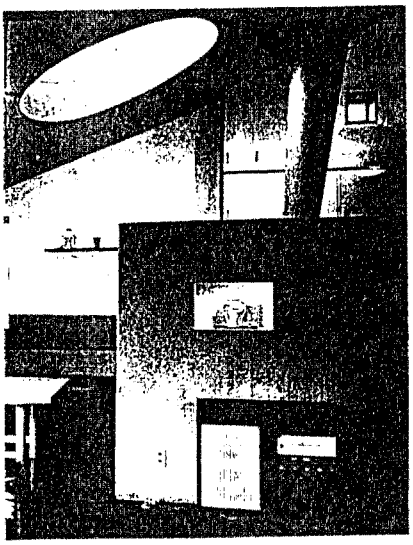
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
23	5702	栗の木のある家	生田 勉他	23	

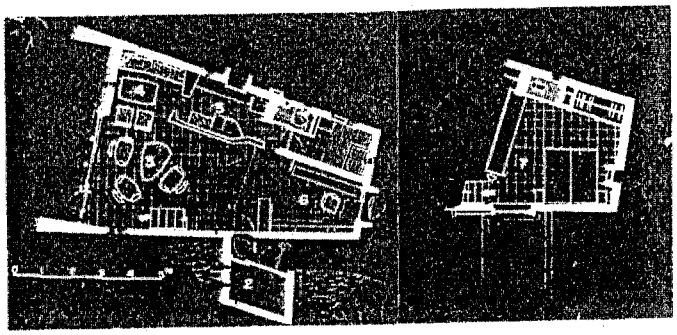




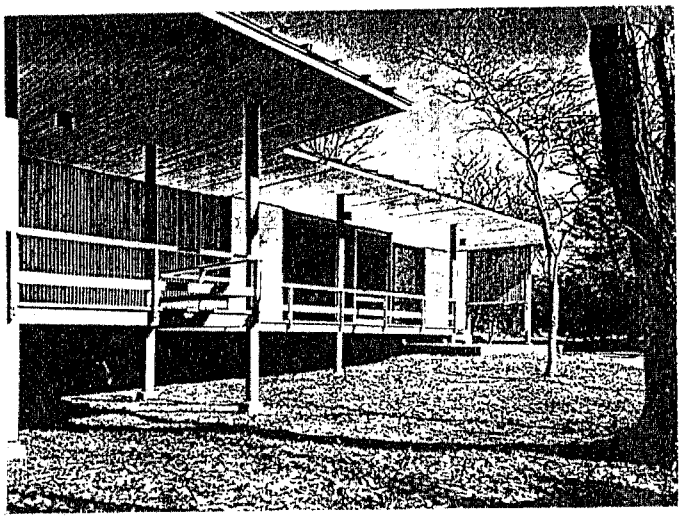
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
24	5703	私の家	清家 清	24	

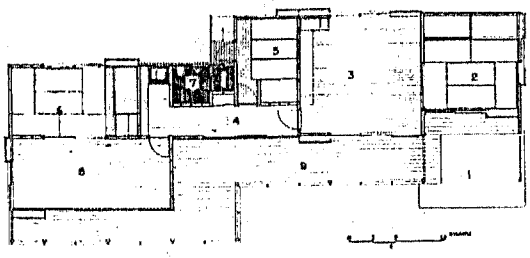




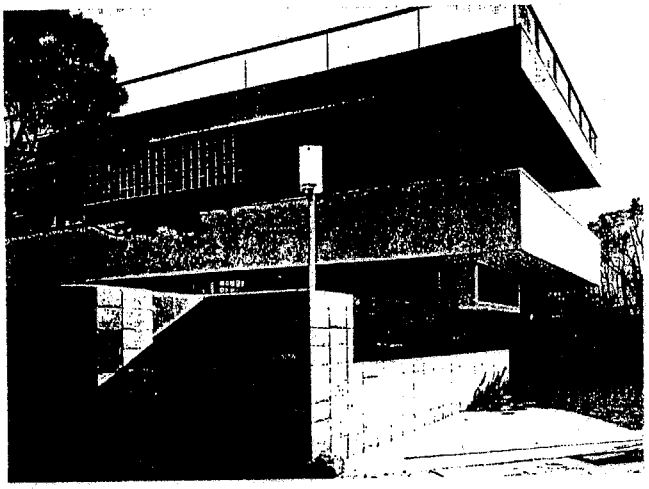


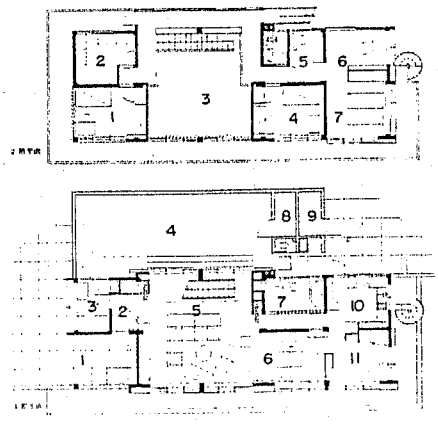
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
25	5712	villa CouCou	吉阪隆正	25	



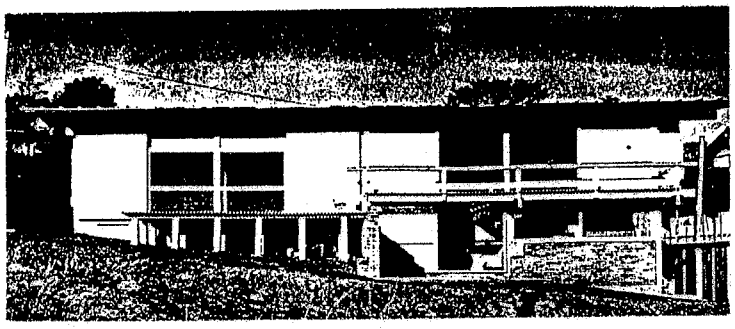


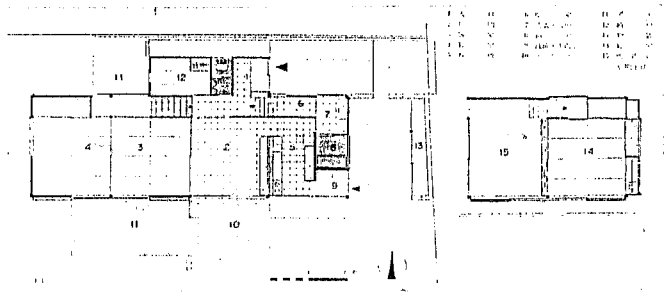
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
26	5801	佐伯邸	谷口吉郎	26	



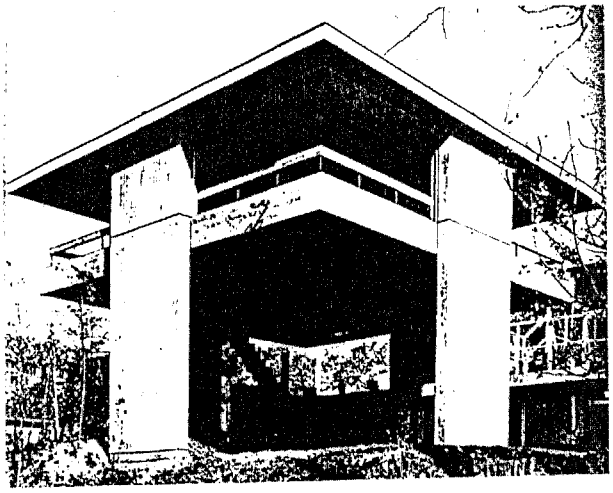


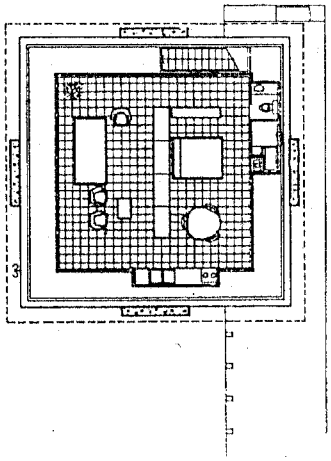
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
27	5801	岩波邸	堀口捨巳	27	



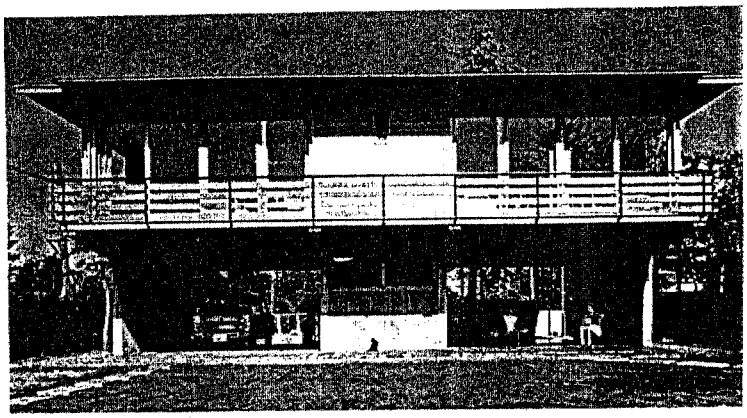


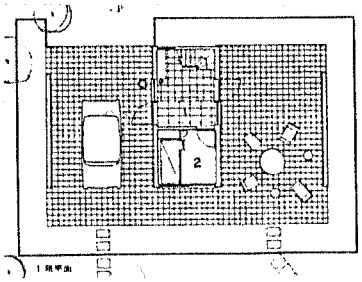
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
28	5809	傾斜地に建つ家	林　雅子	28	

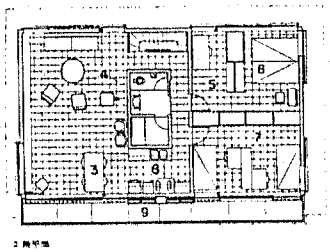




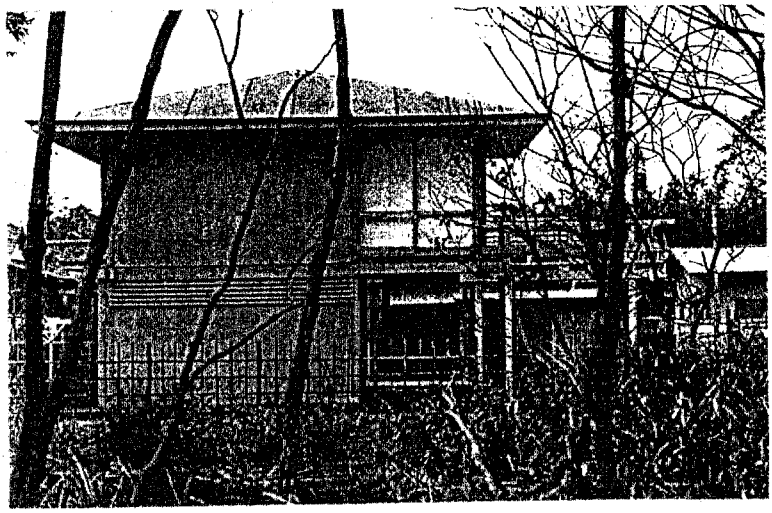
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
29	5901	菊竹自邸	菊竹清訓他	29	7

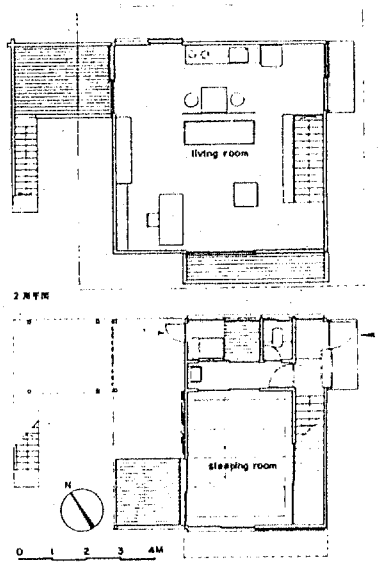




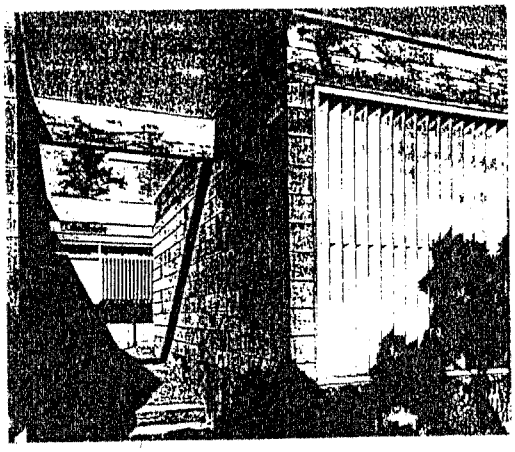


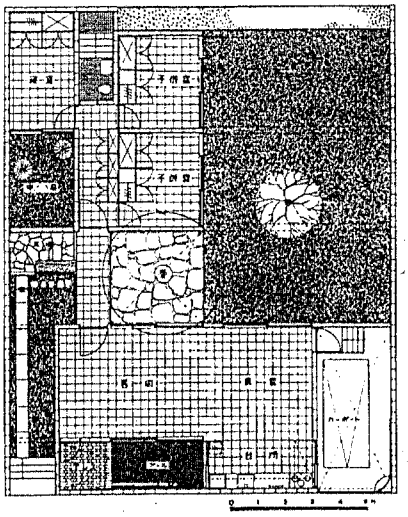
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
30	6004	Case Study House#3	増沢　洵	31	8



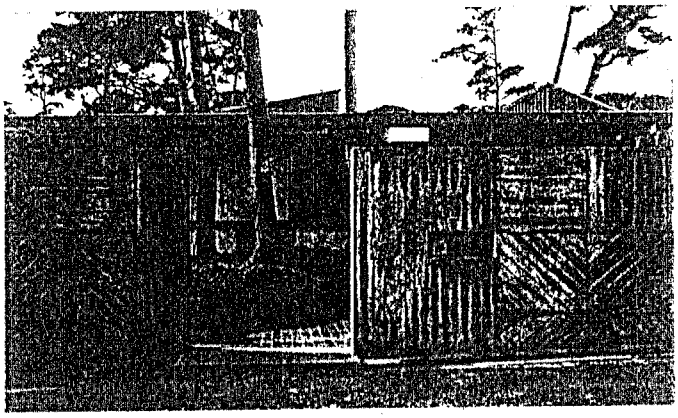


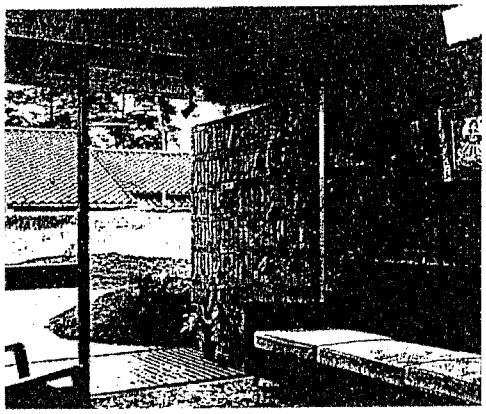
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
31	6004	狛江の家	篠原一男	32	9

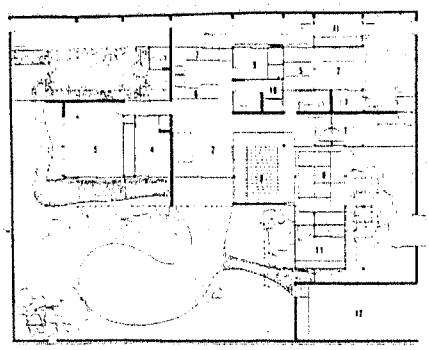




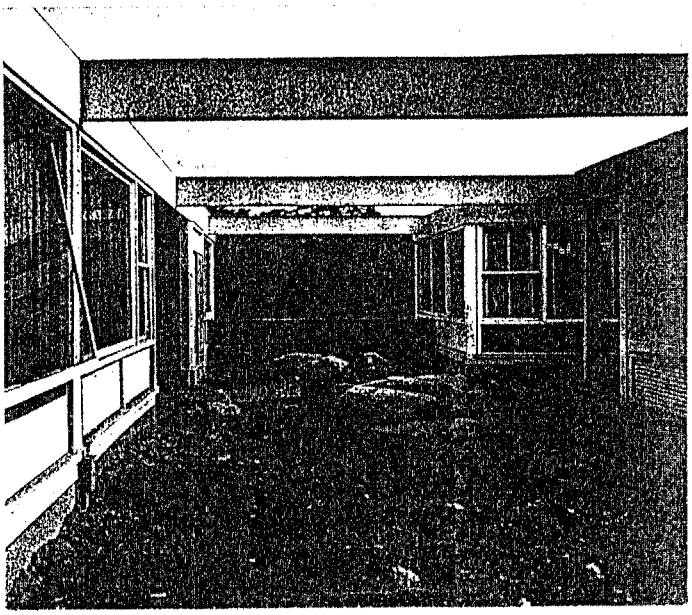
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
32	6201	銀杏を囲む家	清家　清	33	11

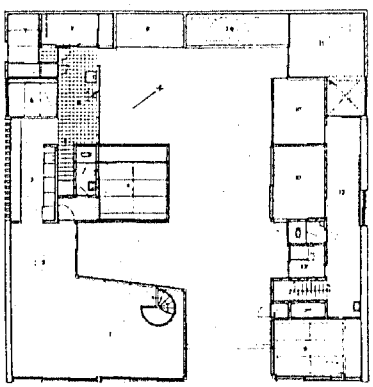




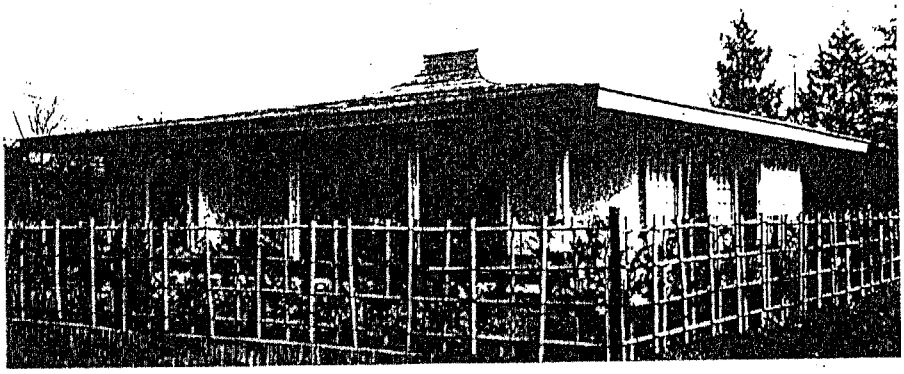


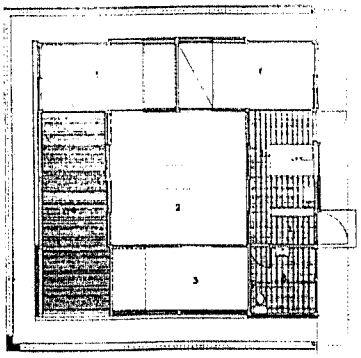
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
33	6201	K氏邸	坂倉大阪	34	12



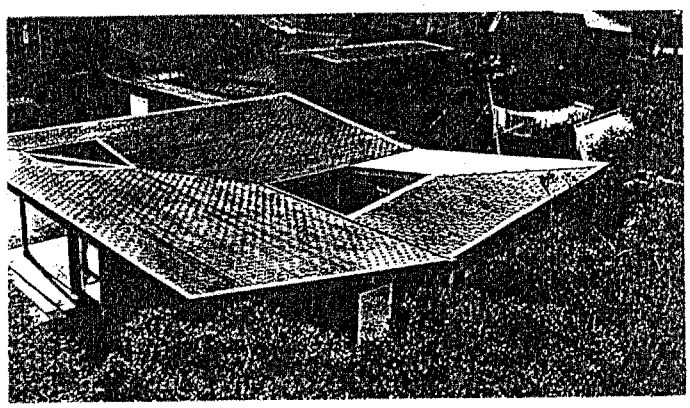


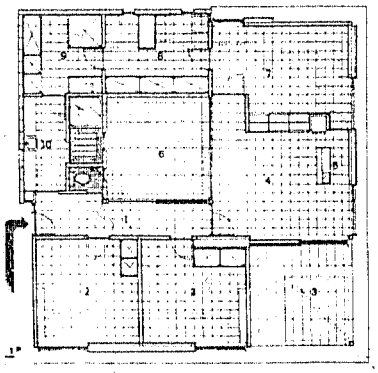
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
34	6201	西田博士の家	清家　清	35	13



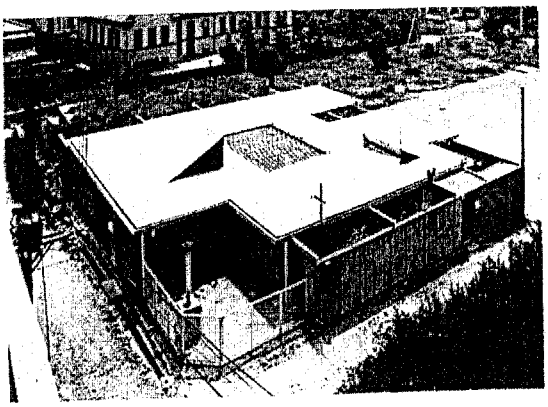


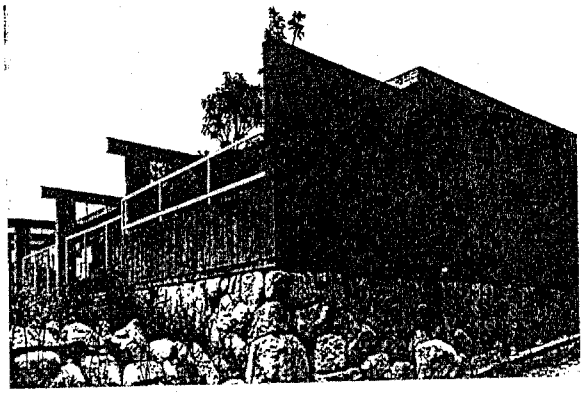
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
35	6201	佐竹さんの家	清家　清	36	14

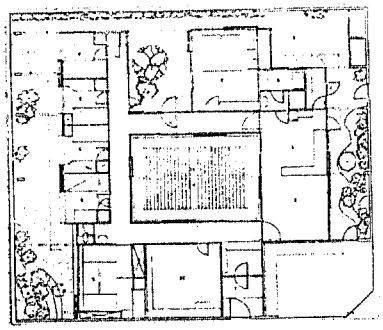




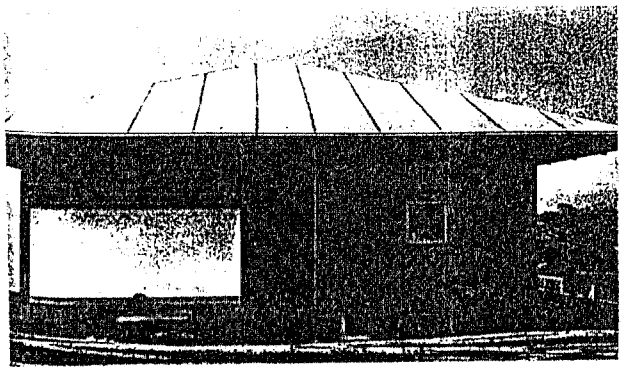
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
36	6203	O氏邸	連合設計市ケ谷	37	15

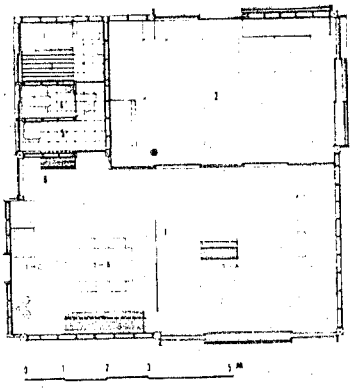


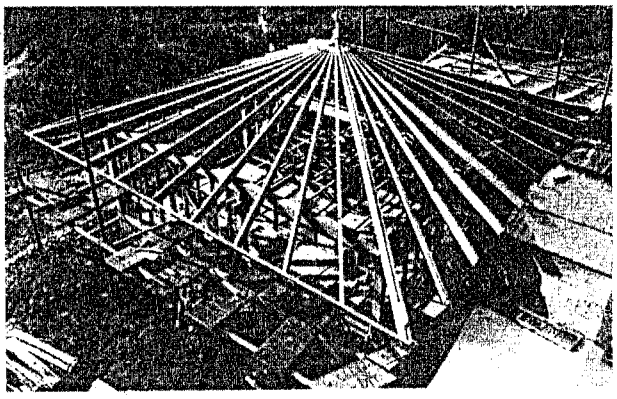




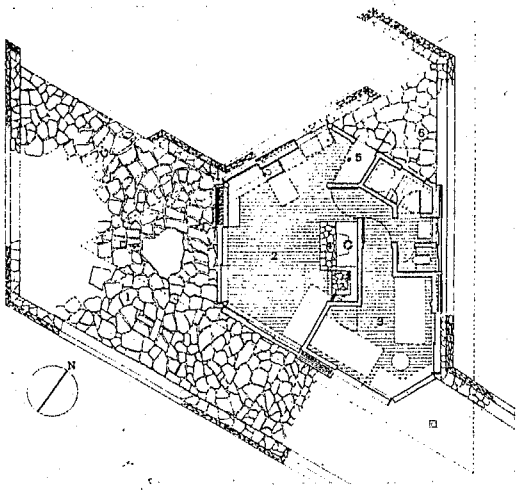
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
37	6210	正面のない家K	坂倉大阪	38	16



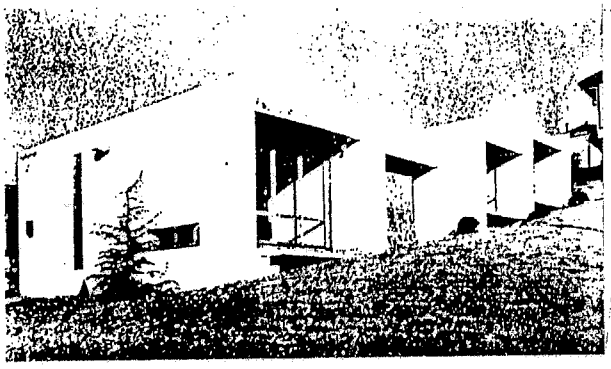


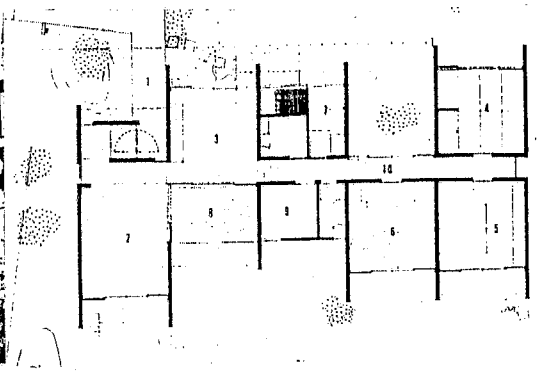


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
38	6210	から傘の家	篠原一男	39	

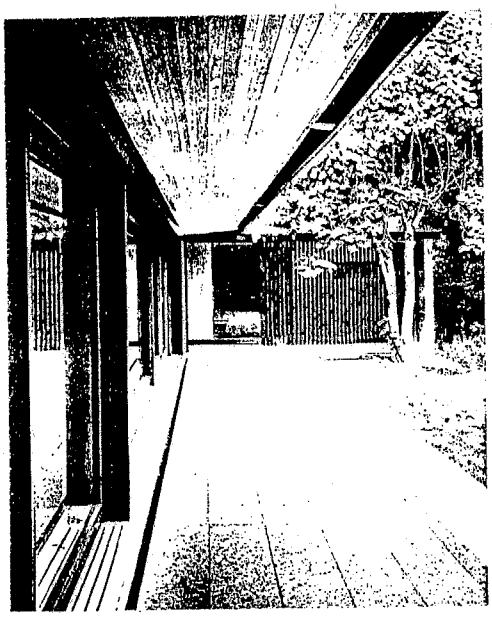


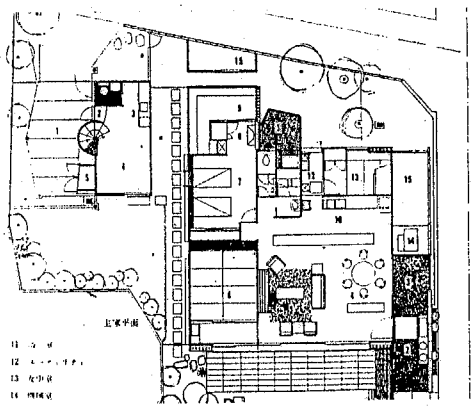
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
39	6210	ぽっこ山荘	生田勉他	40	17



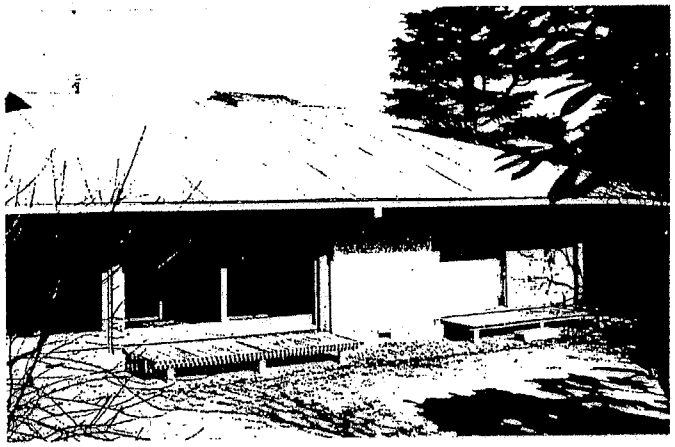


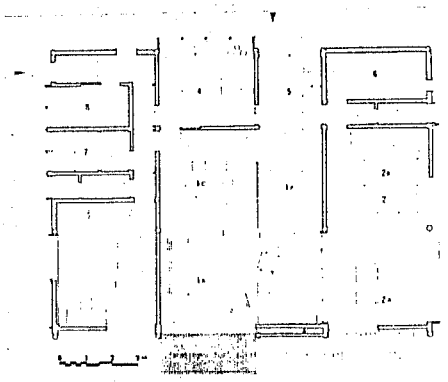
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
40	6306	ユニットプランの家	坂倉大阪	41	18



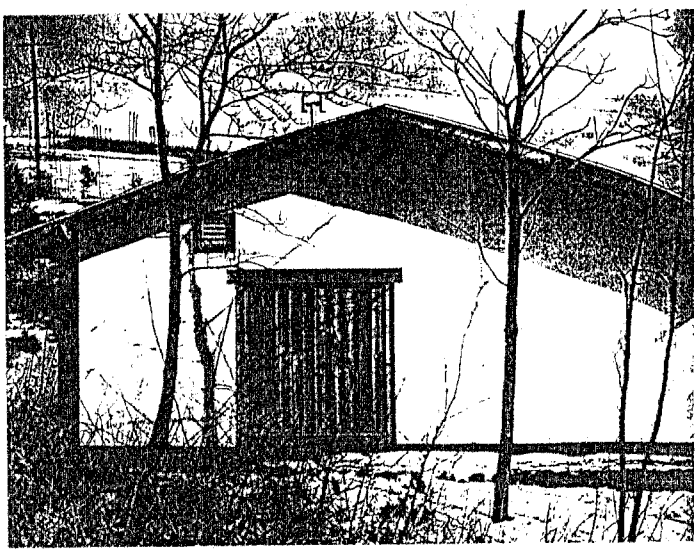


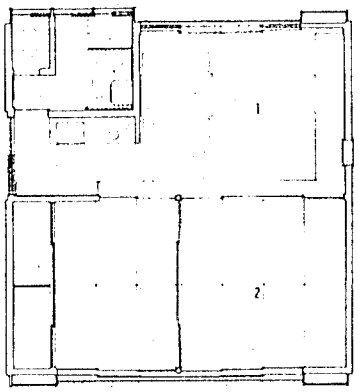
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
41	6308	阿佐ヶ谷の家	石野事務所	42	



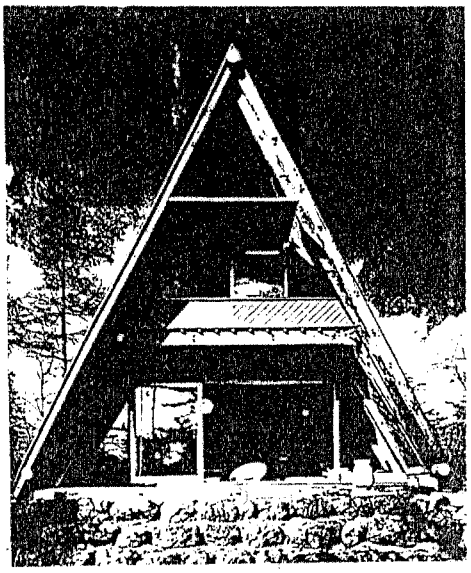


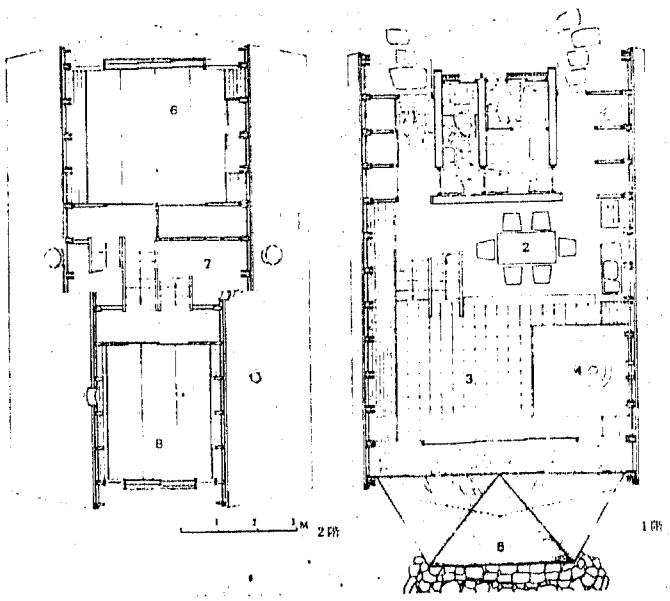
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
42	6404	大屋根の家	篠原一男	43	



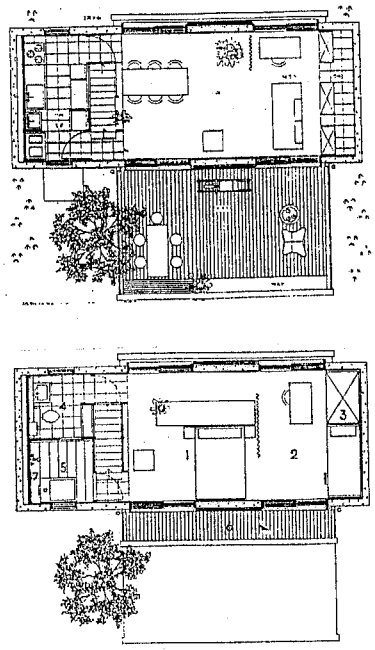


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
43	6404	土間の家	篠原一男	44	

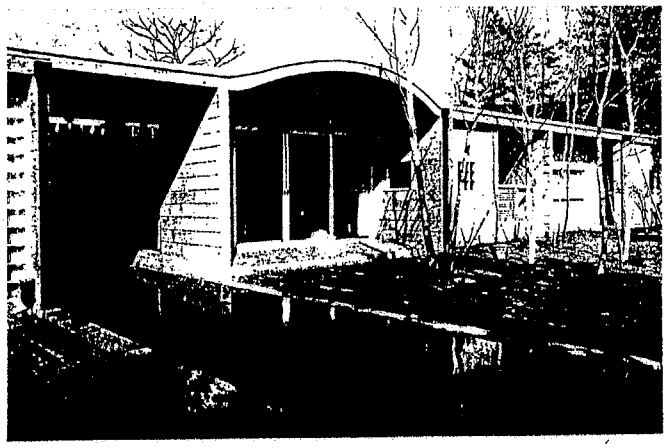


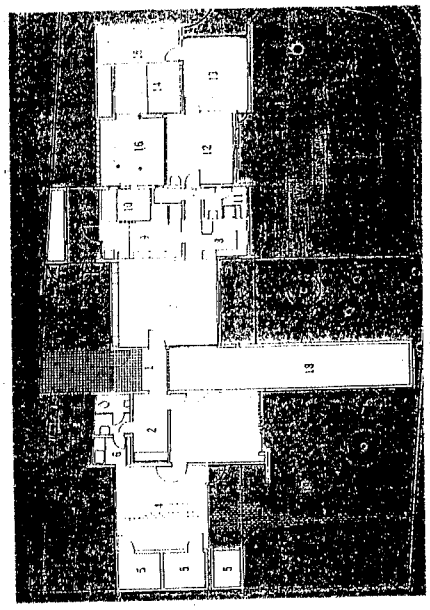


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
44	6404	合掌の山荘	日建設計	45	

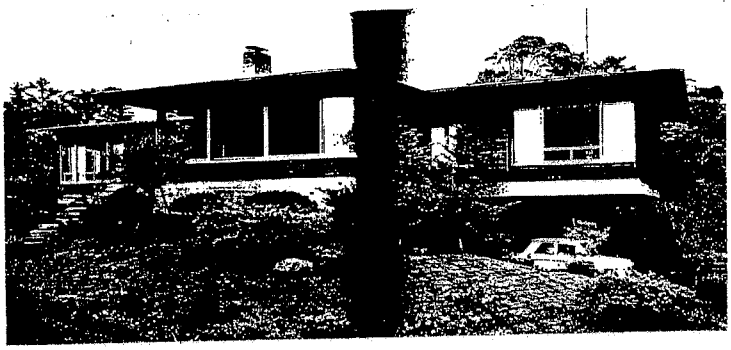


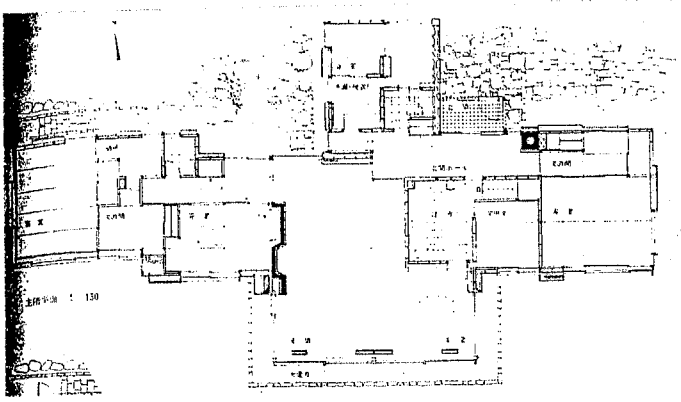
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
45	6501	すまい	藤木忠善	46	



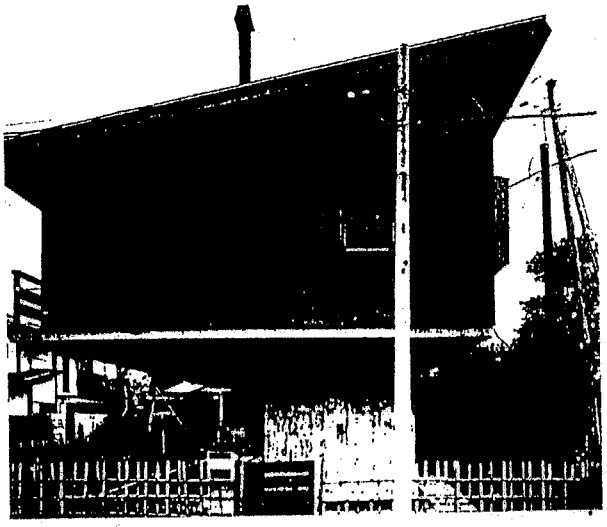


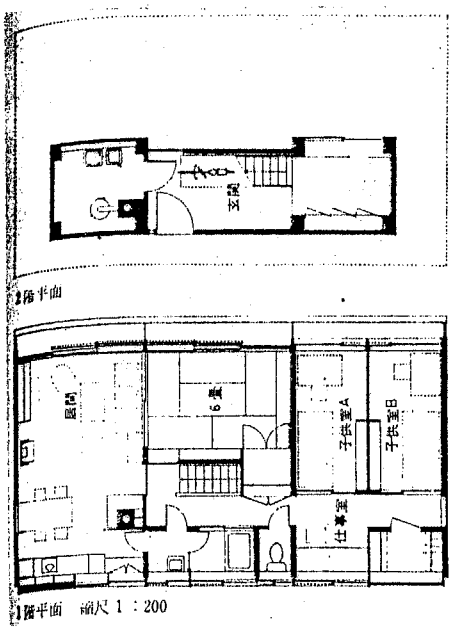
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
46	6501	沢田画伯の家	清家　清	47	19





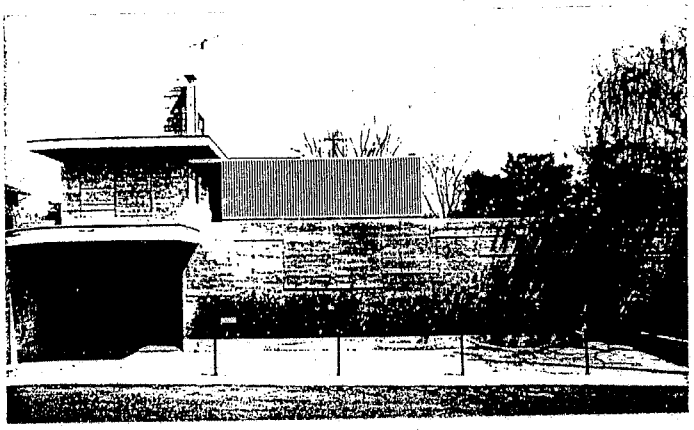
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
47	6507	八幡野の週末住宅	吉村順三	48	

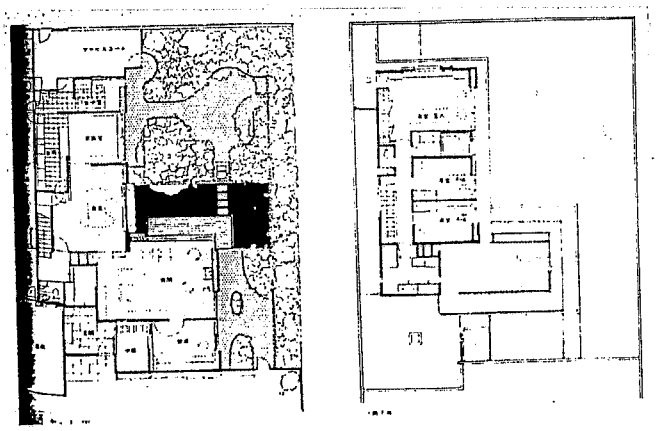




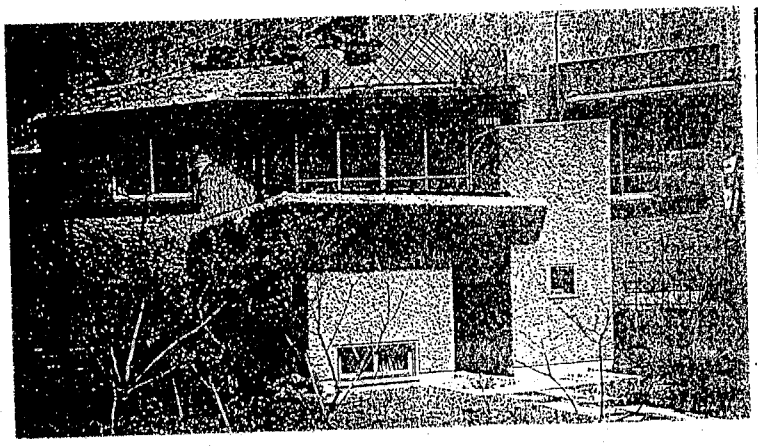
2階平面　縮尺 1：200

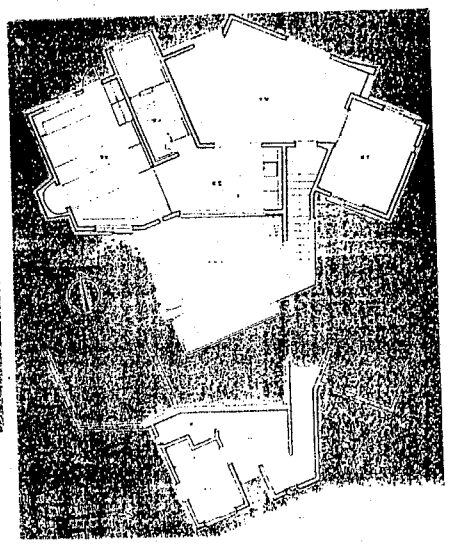
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
48	6605	浜田山の家	吉村順三	49	21



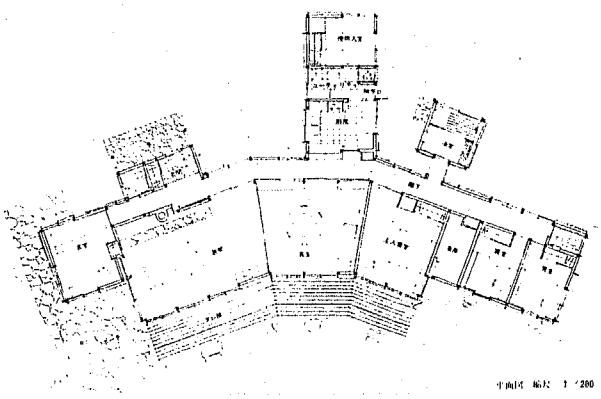


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
49	6605	池田山の家	吉村順三	50	

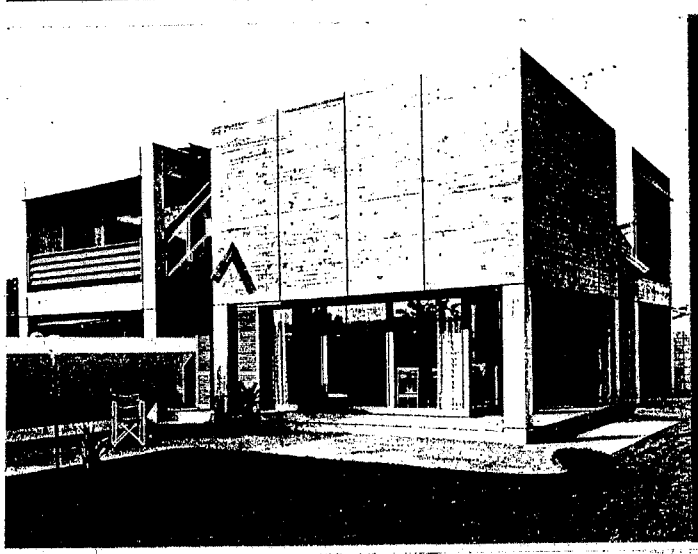


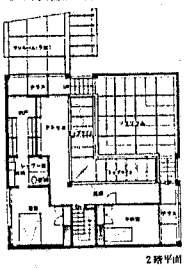


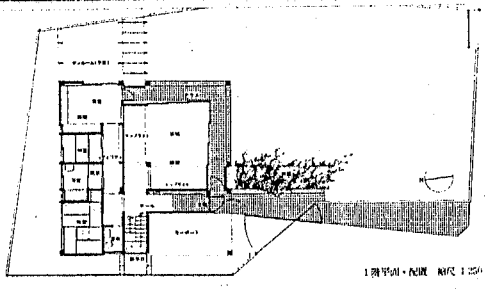
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
50	6605	赤星邸	吉阪隆正	52	



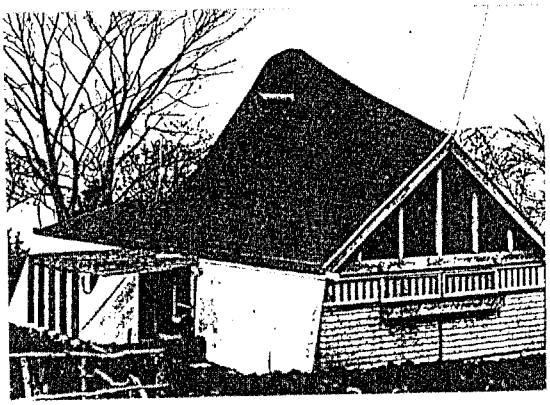
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
51	6609	もみの木の家	A・レーモンド他	53	

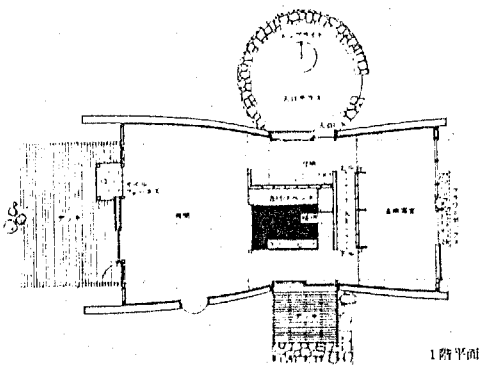




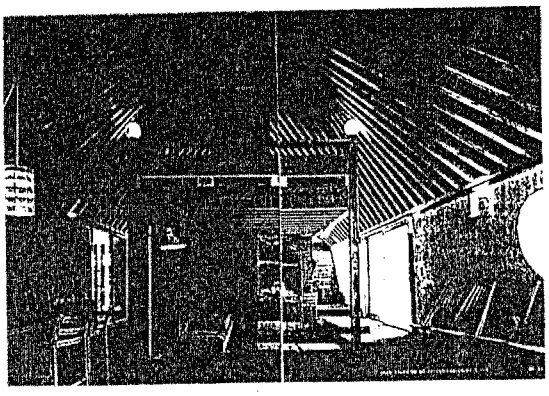


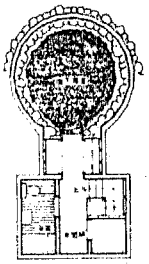
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
52	6701	宍戸邸	鈴木　恂	54	





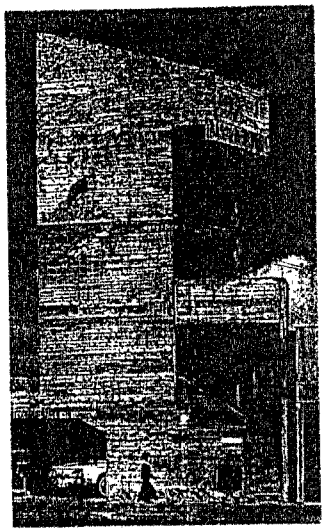
1階平面

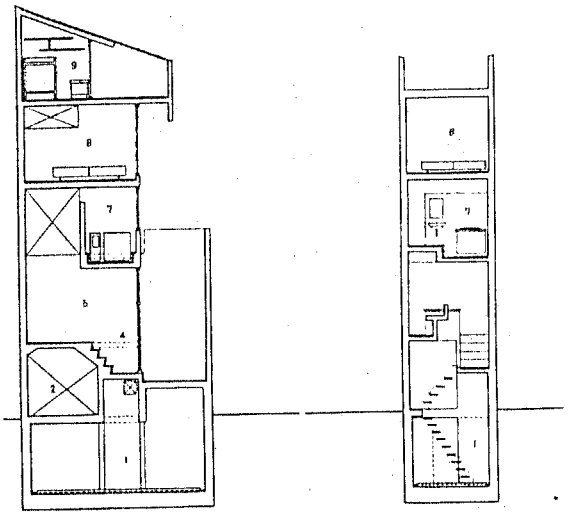




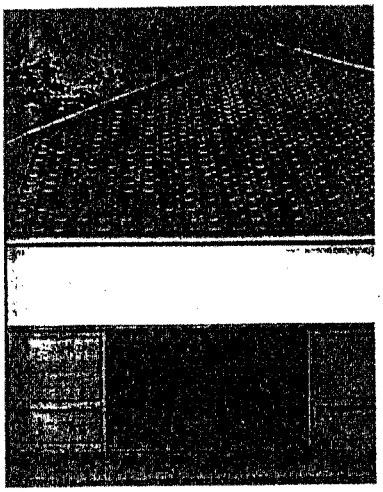
地階平面

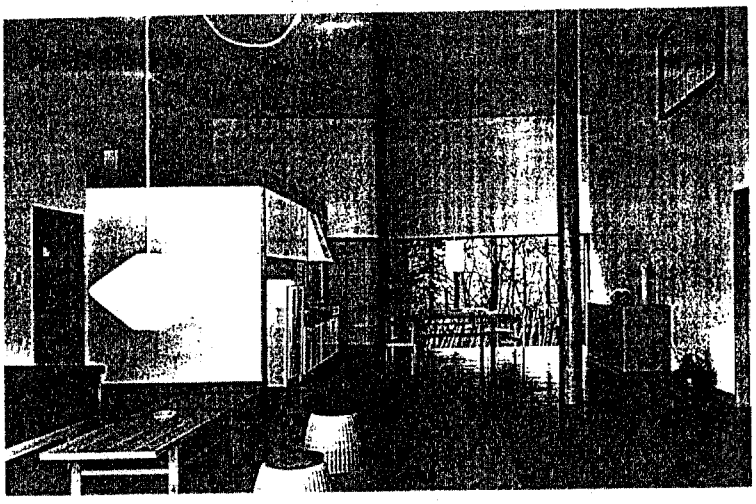
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
53	6701	もうびぃでぃっく	宮脇　檀	55	

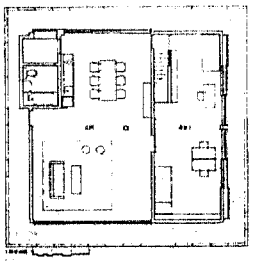


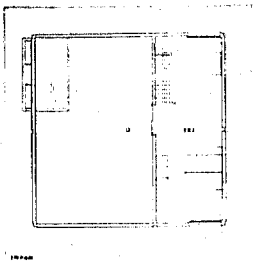


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
54	6707	塔の家	東　孝光	56	20

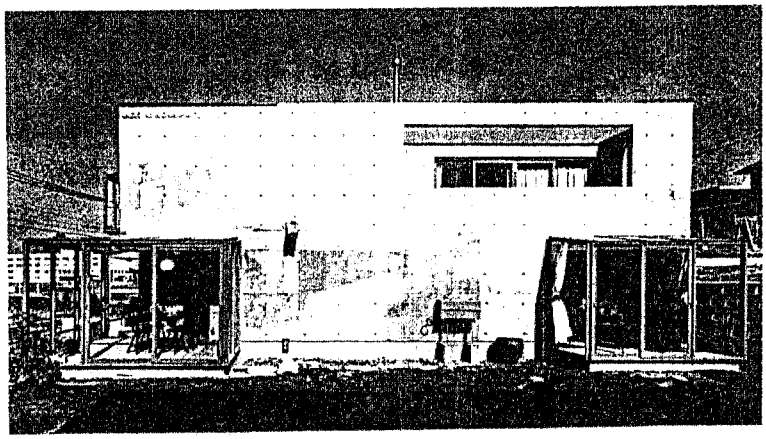


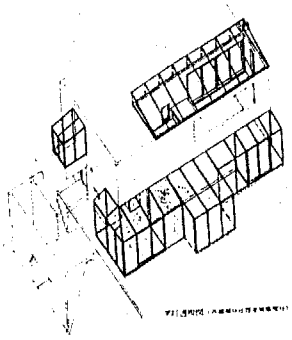


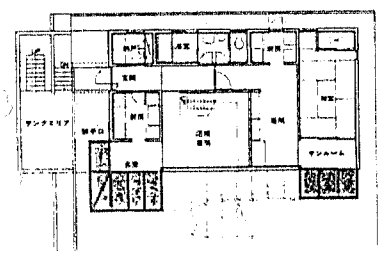


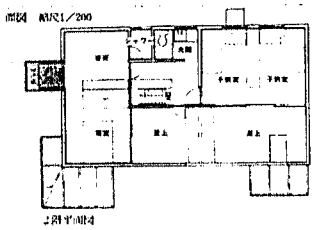


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
55	6707	白の家	篠原一男	57	

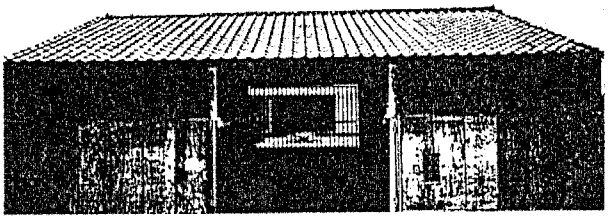


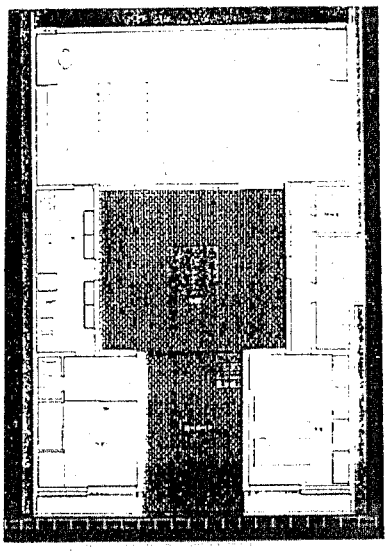


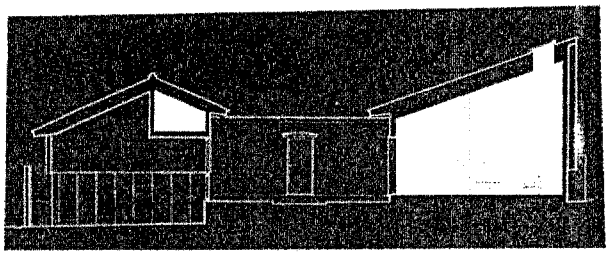




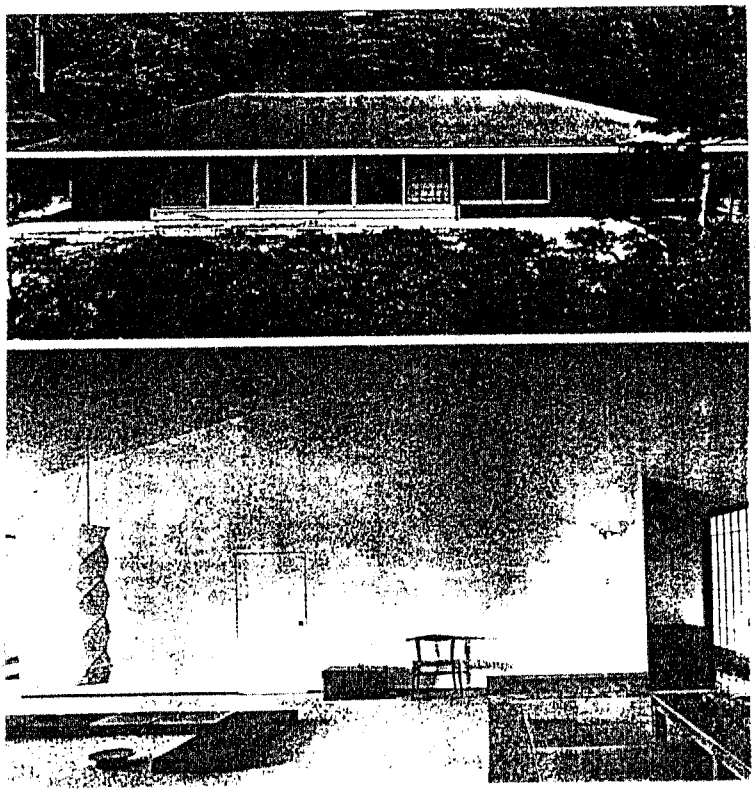
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
56	6804	石亀邸	鈴木　恂	58	

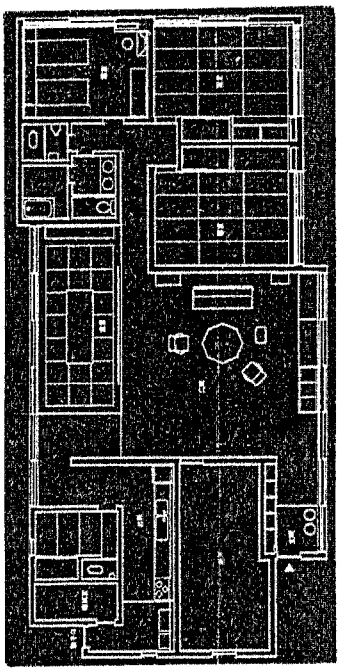




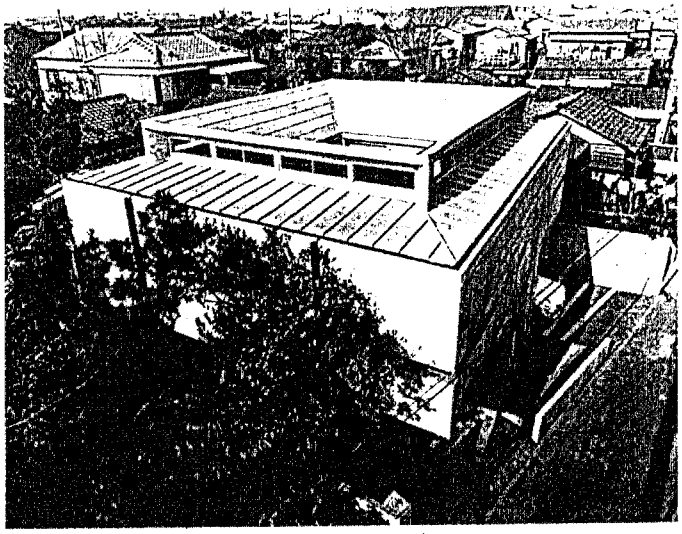


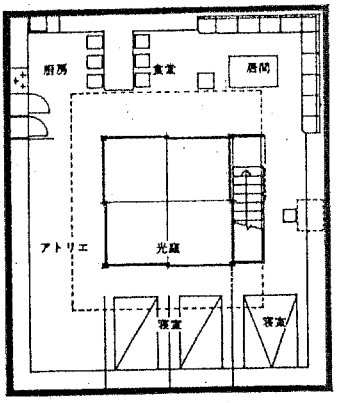
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
57	6807	山城さんの家	篠原一男	59	22



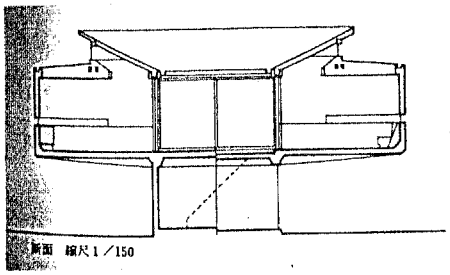


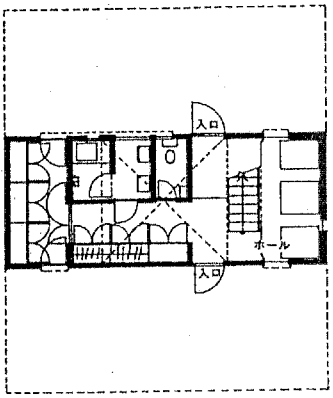
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
58	6807	鈴庄さんの家	篠原一男	60	





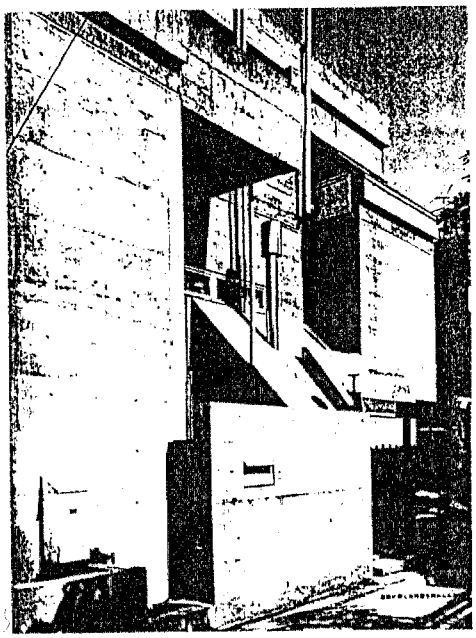
2階平面

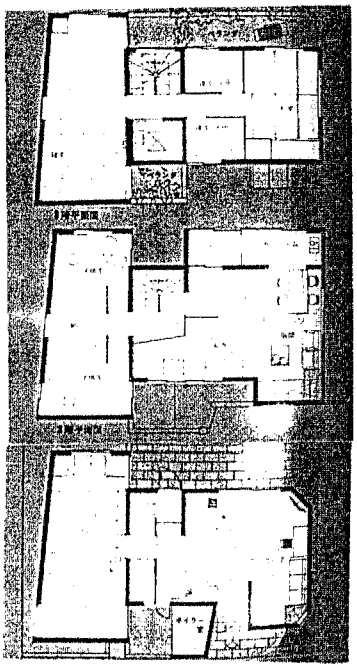




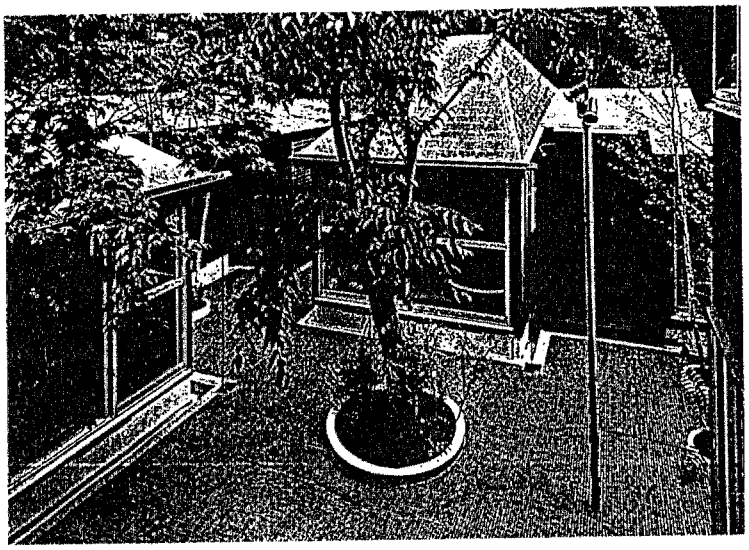
1階平面 縮尺1／150

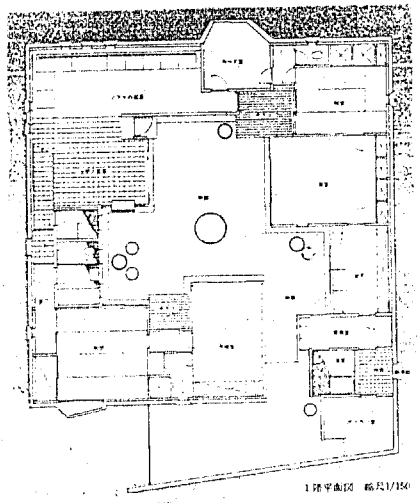
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
59	6901	金子邸	高須賀晋	61	23

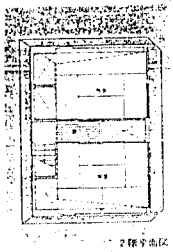


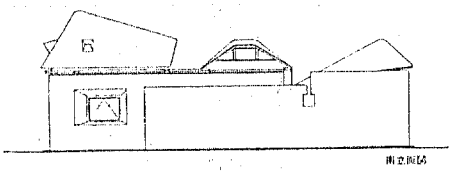


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
60	6905	自邸	岡田新一	62	

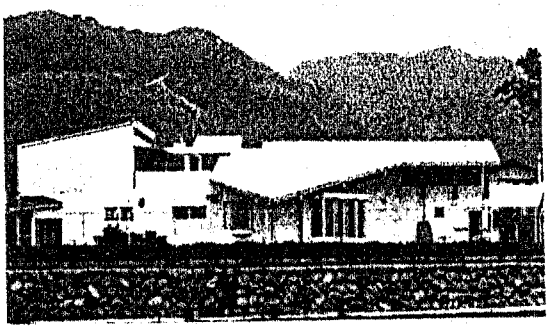


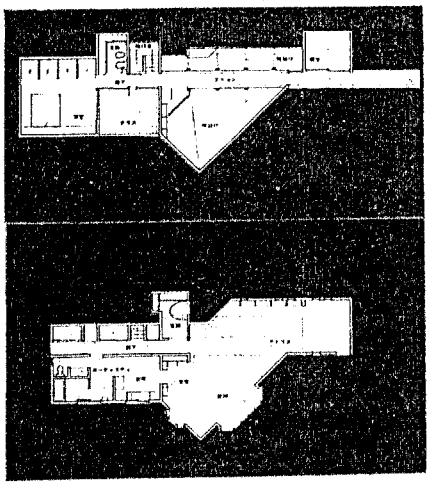




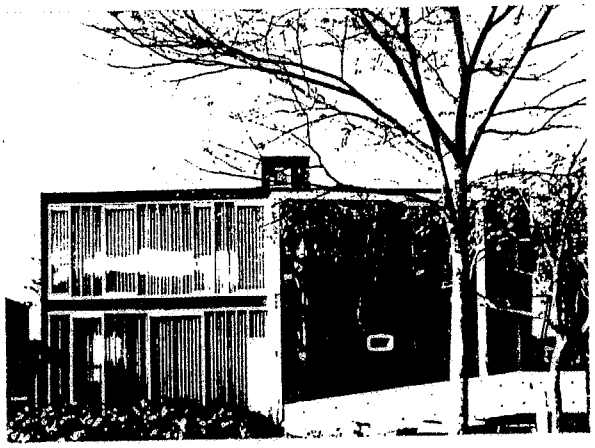


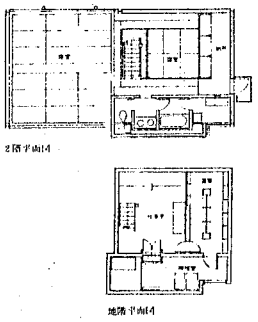
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
61	6908	団らんの家ーIS邸	RIA	63	24

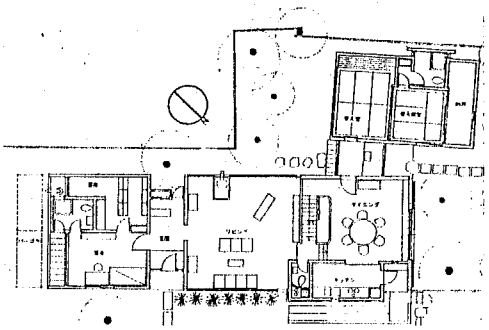




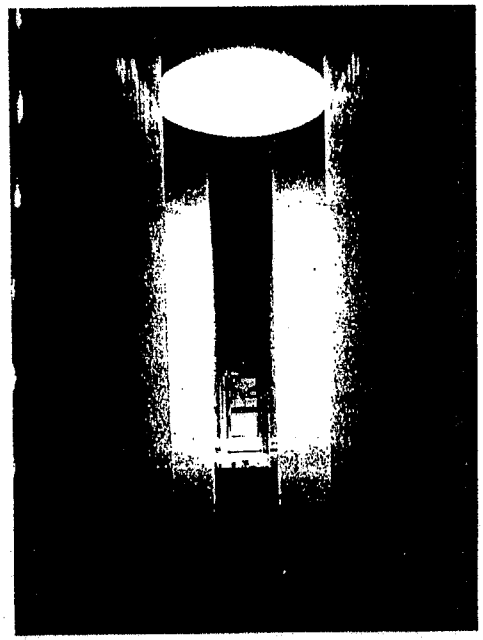
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
62	7009	大山邸	東　孝光	64	

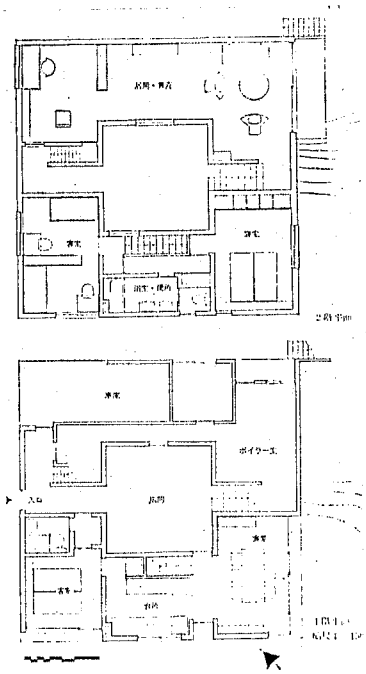




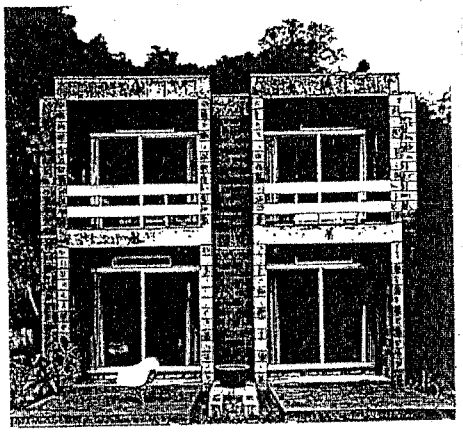


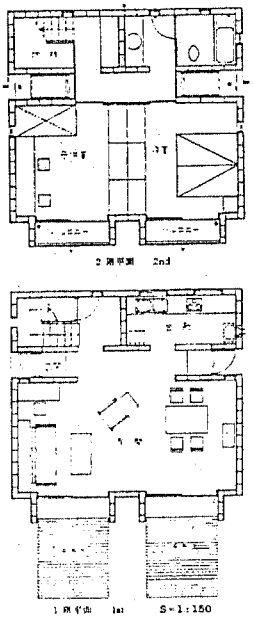
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
63	7101	続私の家	清家　清	65	



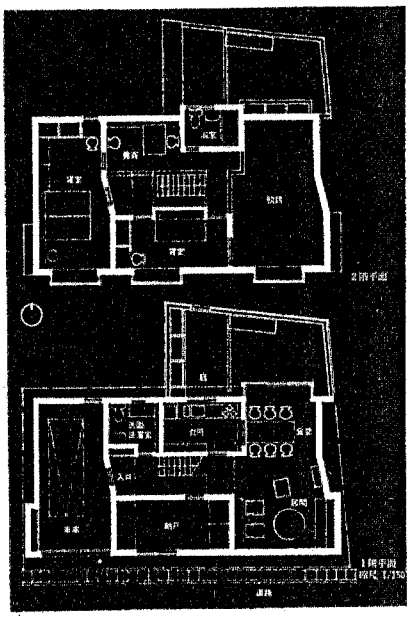


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
64	7101	未完の家	篠原一男	66	

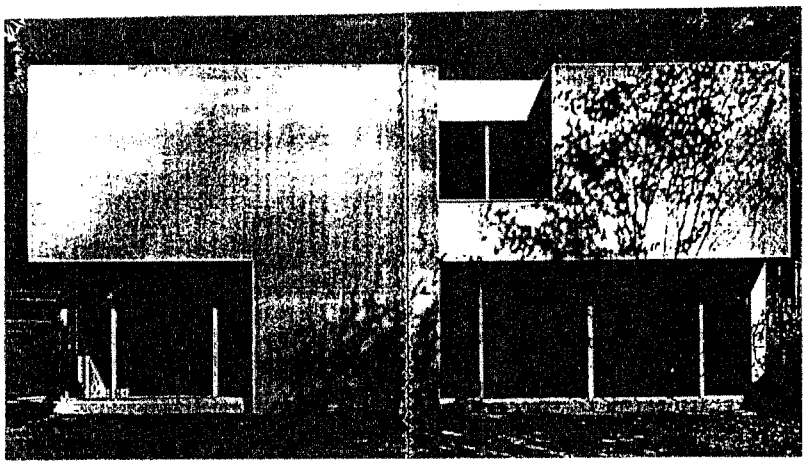


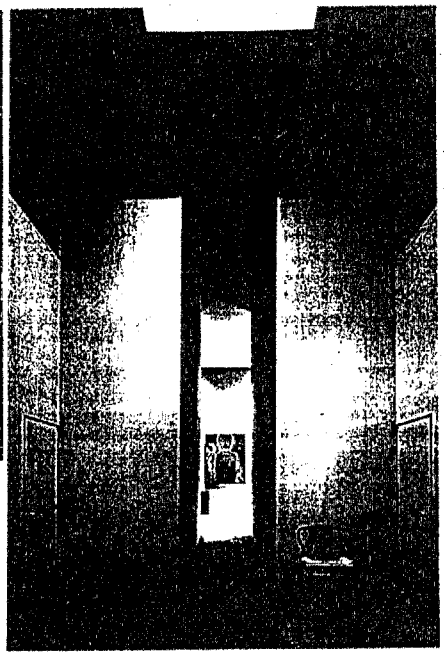


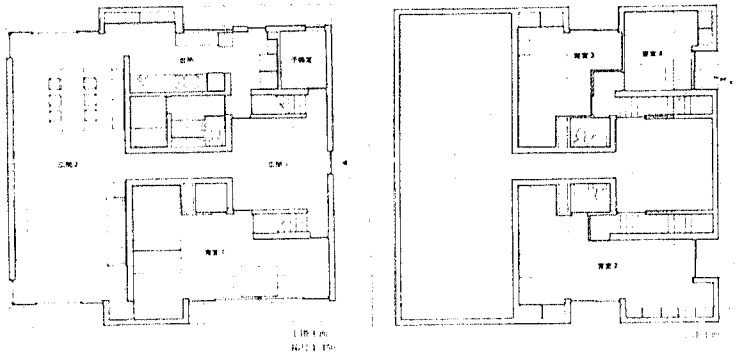
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
65	7102	豊口邸	山下和正	67	



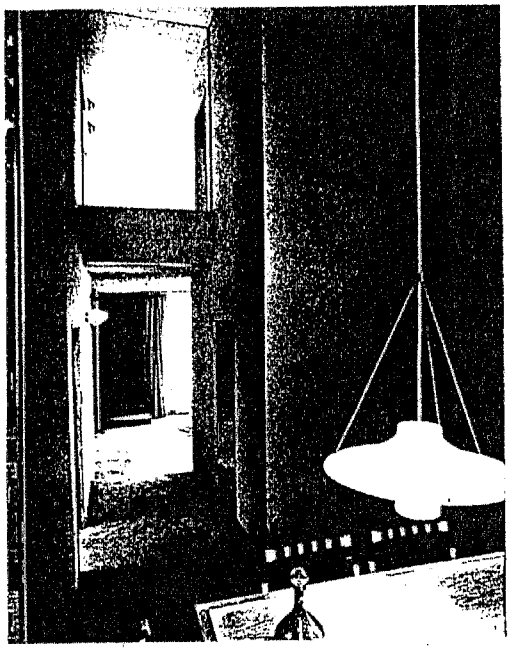
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
66	7104	水無瀬の町家	坂本一成	68	25

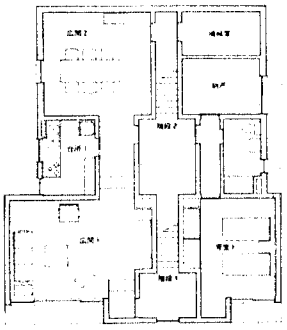


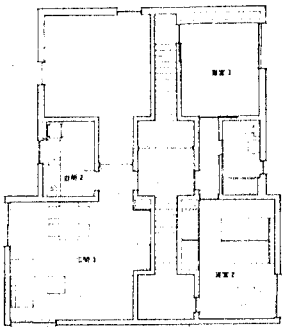




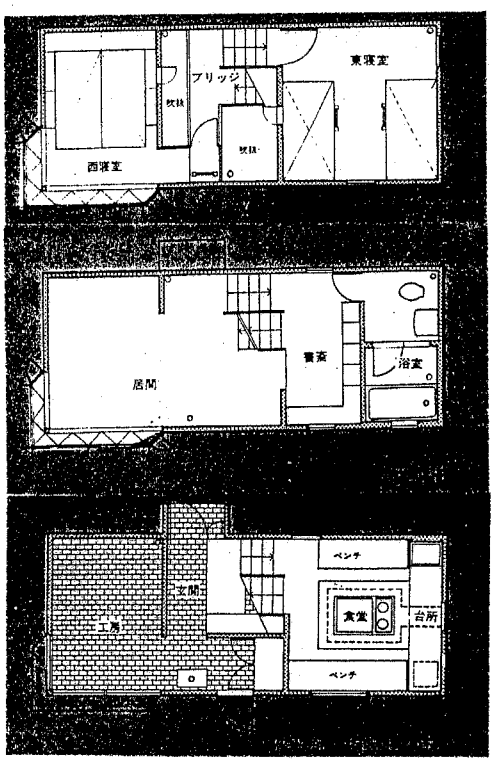
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
67	7202	直方体の森	篠原一男	69	



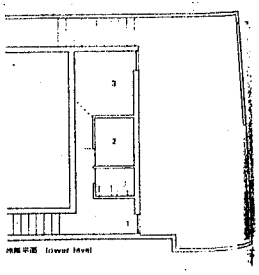


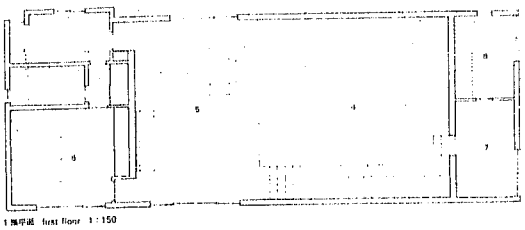


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
68	7202	同相の谷	篠原一男	70	

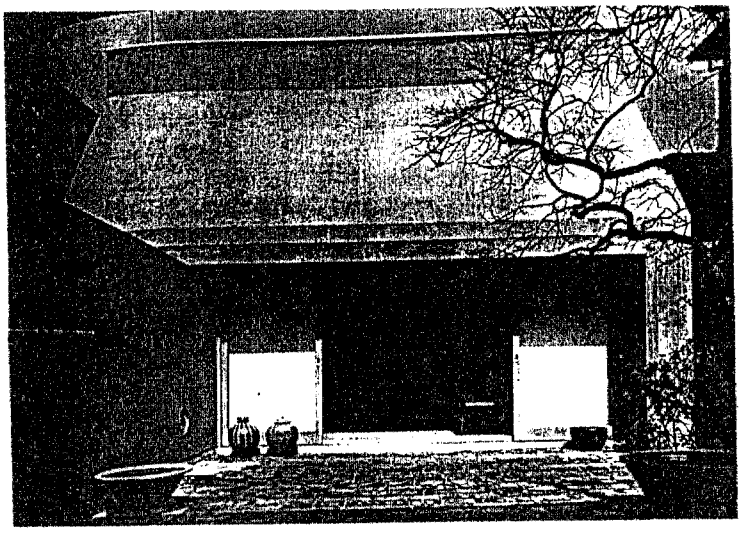


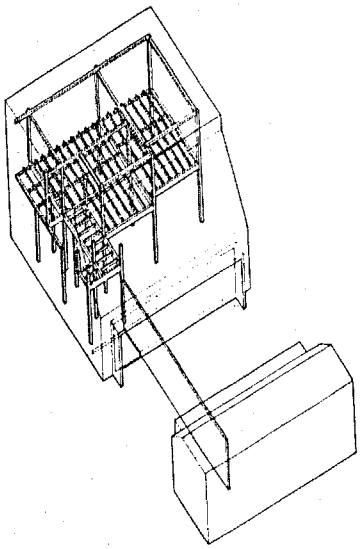
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
69	7205	ＭＯＶ山荘	山下和正	71	

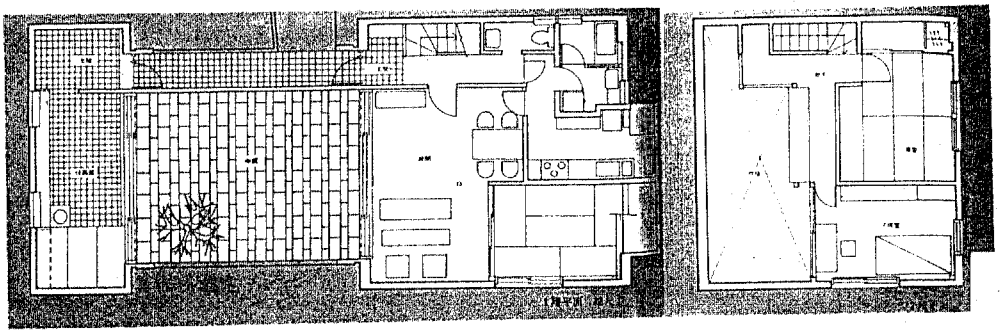




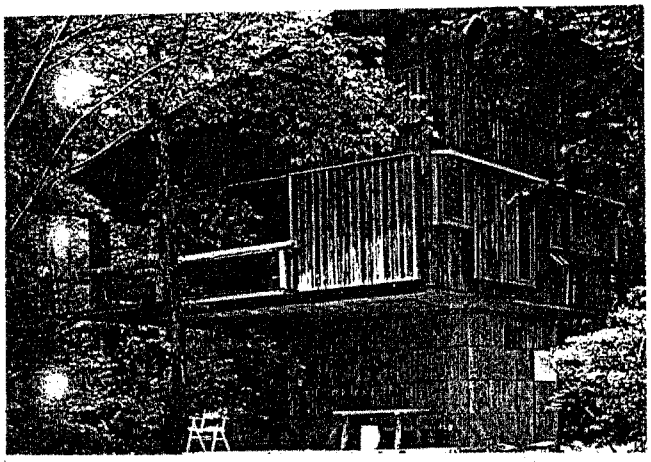
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
70	7207	海の階段	篠原一男	72	

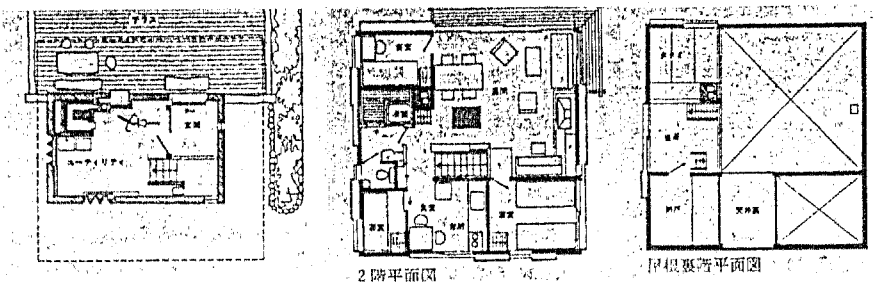




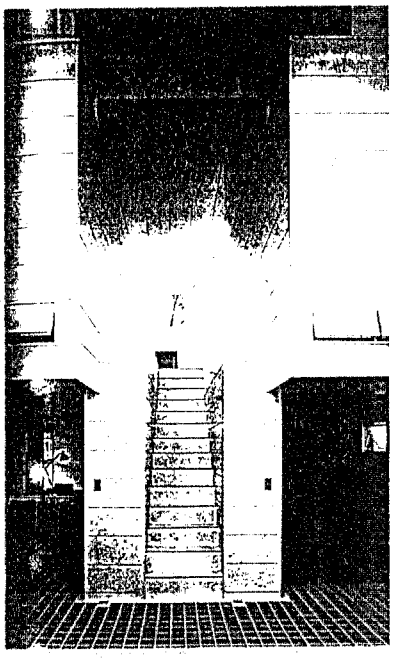


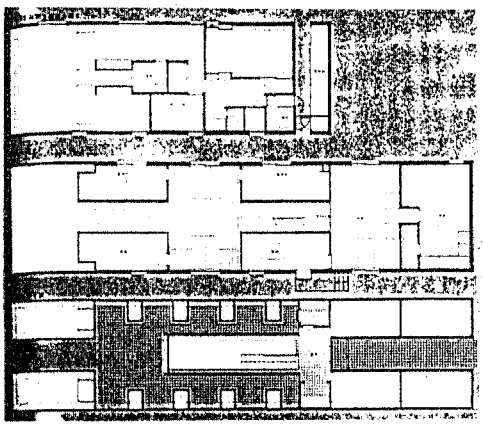
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
71	7208	まつかわ・ぼっくす	宮脇　檀	73	27



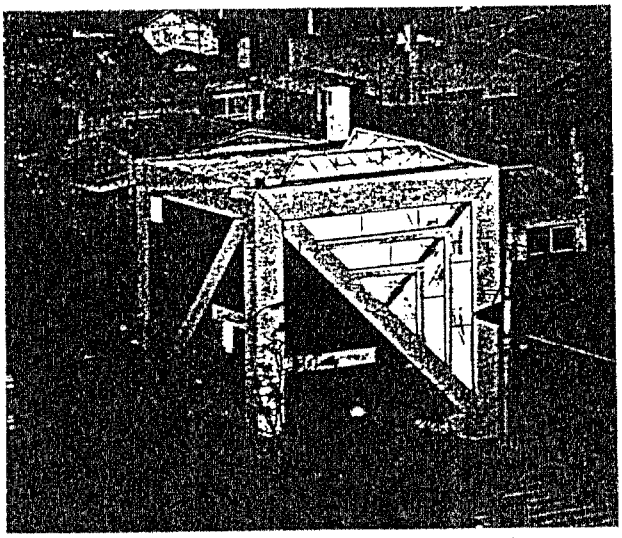


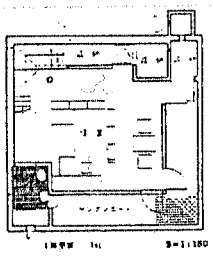
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
72	7208	軽井沢の家その1	吉村順三	74	26

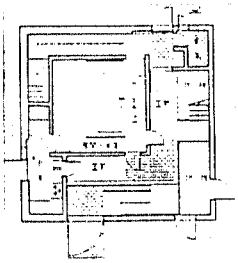


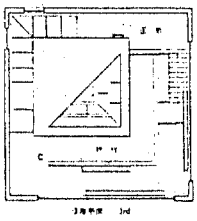


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
73	7209	粟津邸	原　広司	75	

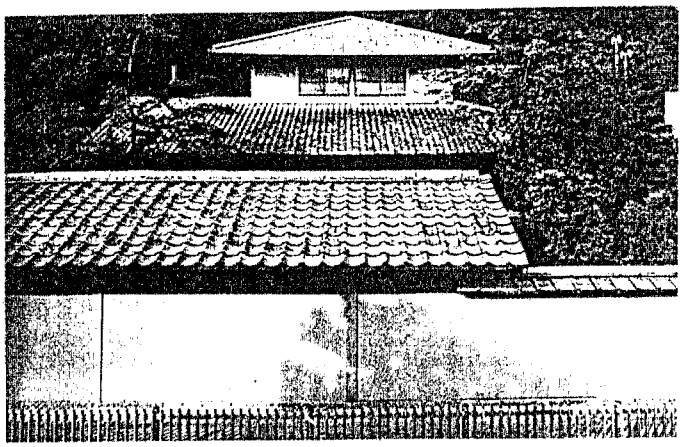


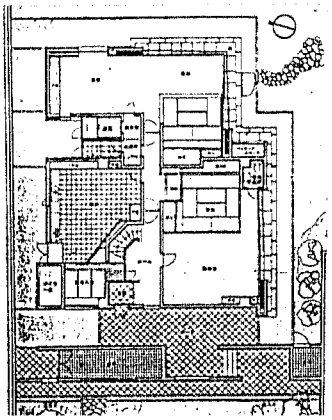


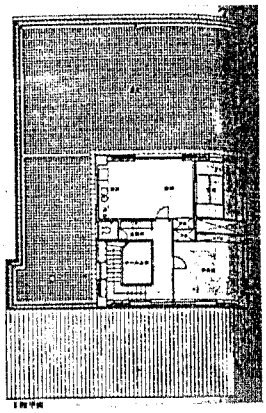




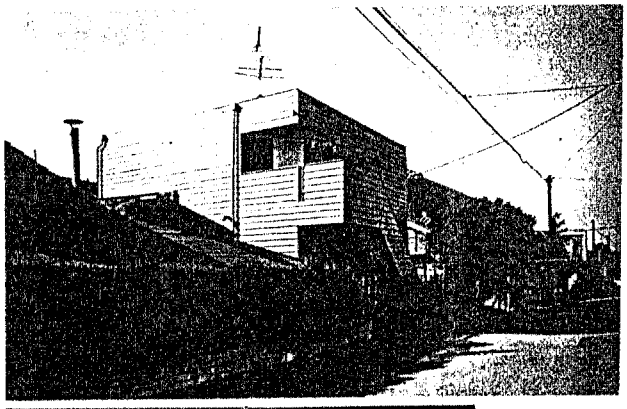
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
74	7211	反住器	毛綱毅曠	76	

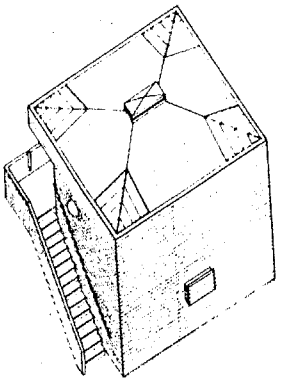


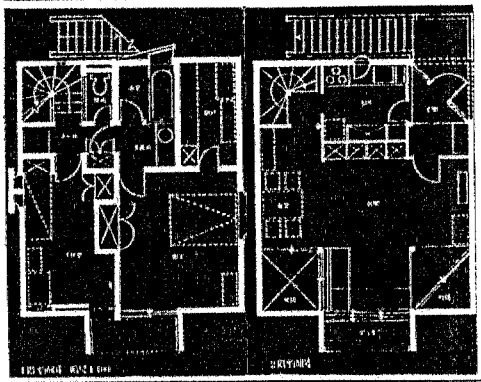




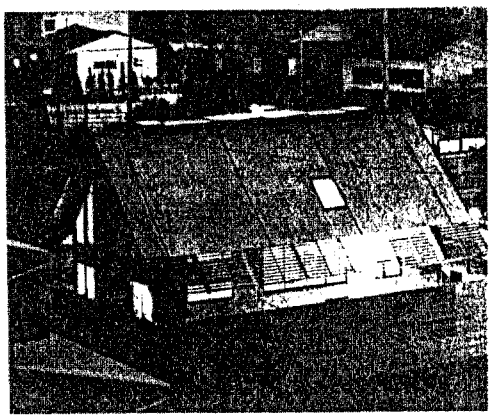
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
75	7302	昨雪軒	白井晟一	77	

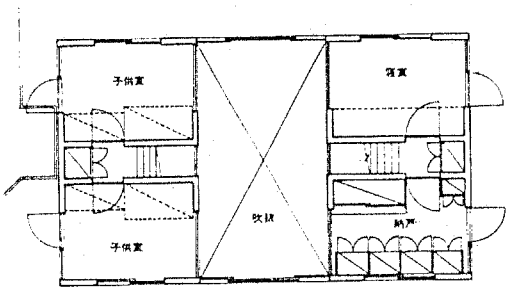


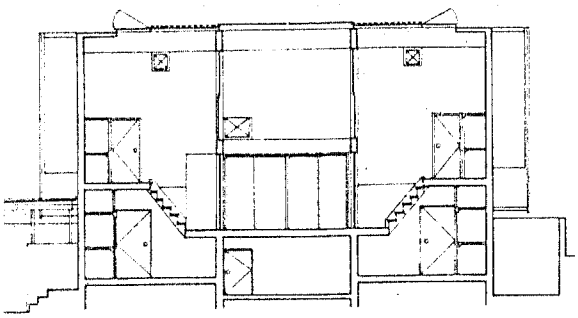


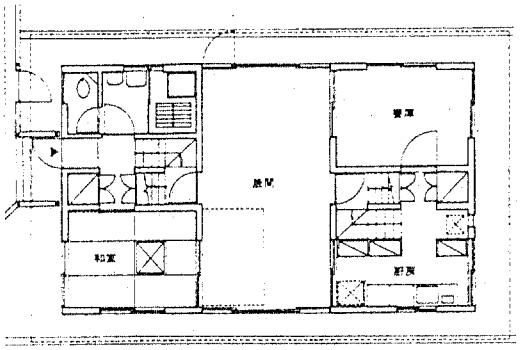


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
76	7302	ｸﾞﾘｰﾝﾎﾞｯｸｽ#1	宮脇　檀	78	

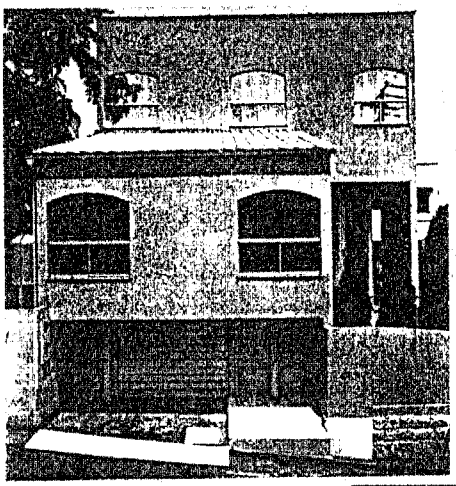


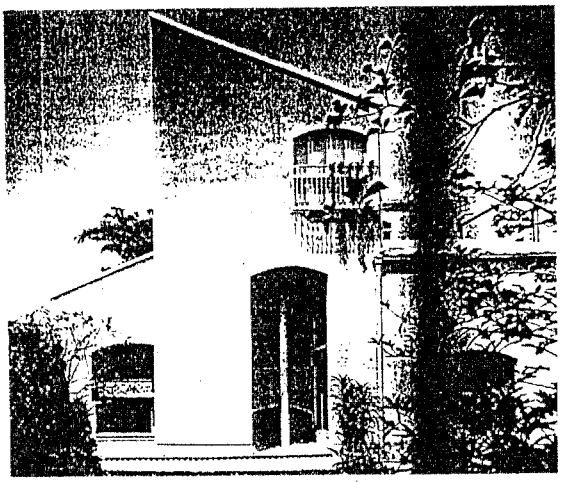


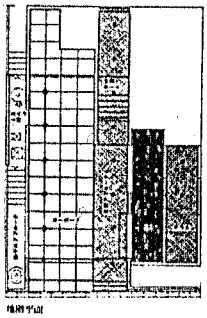


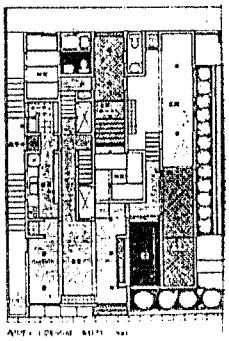


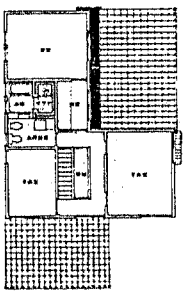
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
77	7305	清原邸	高須賀晋	79	



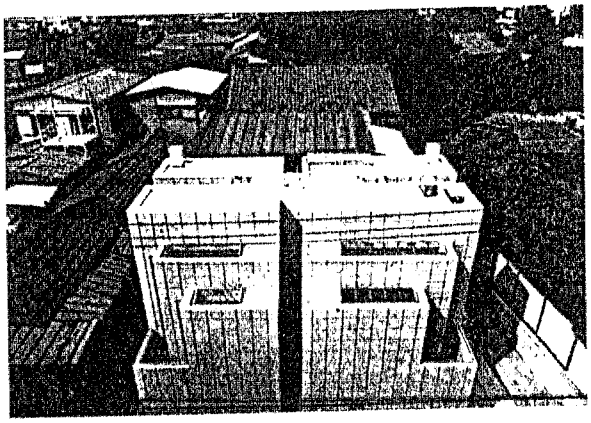


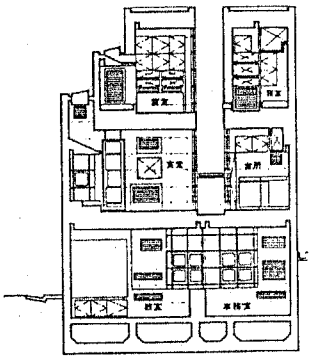




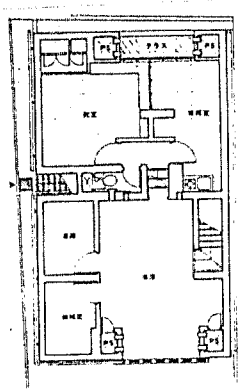


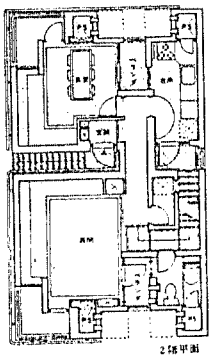
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
78	7307	ｻﾞ ﾎﾜｲﾄﾊｳｽ	木島安史	80	



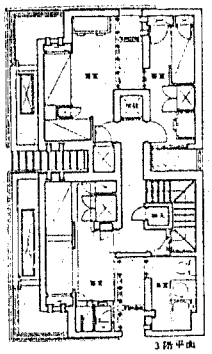


断面　縮尺 1／150



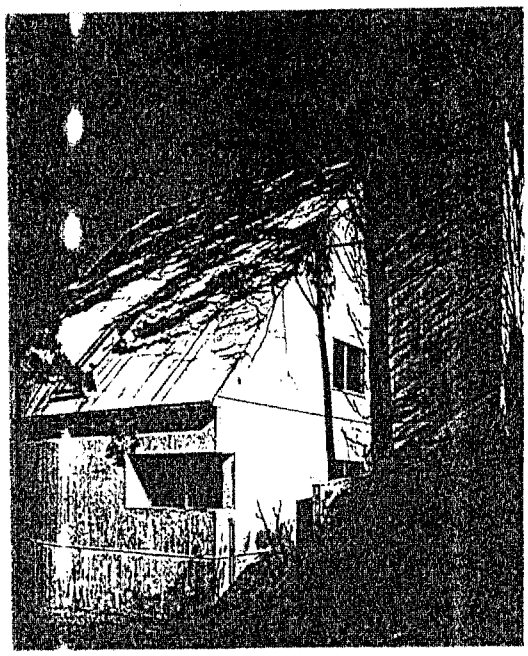


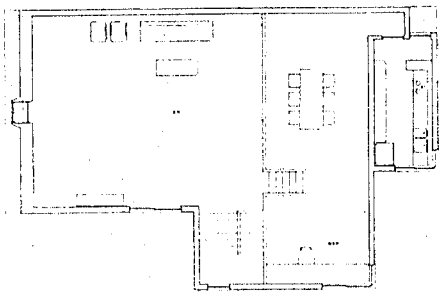
2階平面

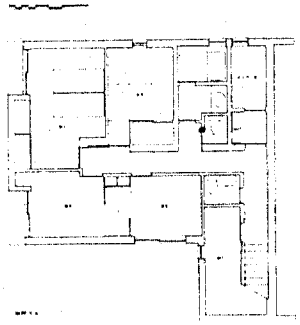


3階平面

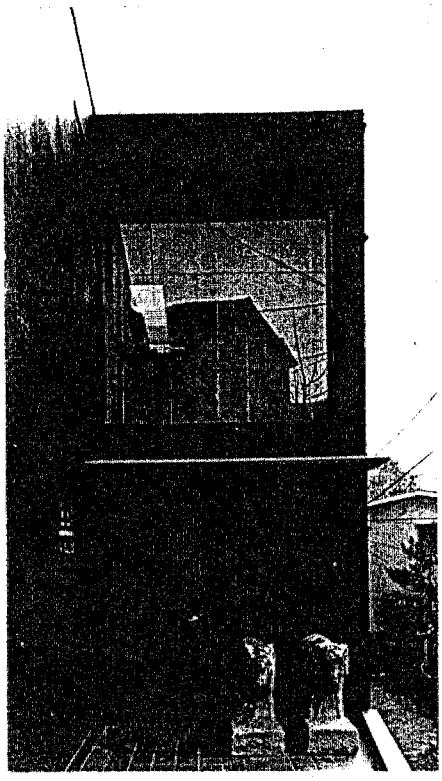
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
79	7307	宮島邸	藤井博巳	81	28

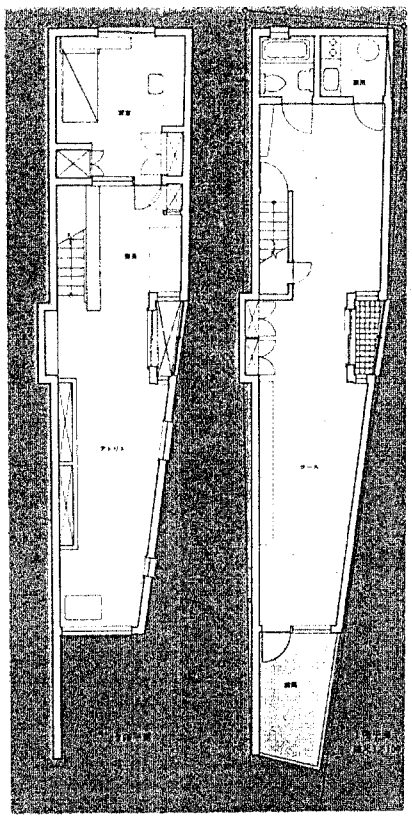




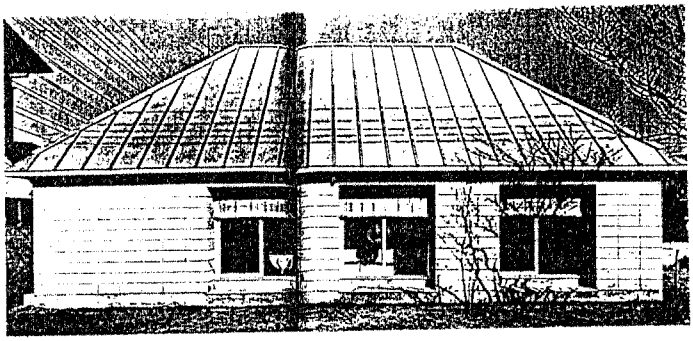


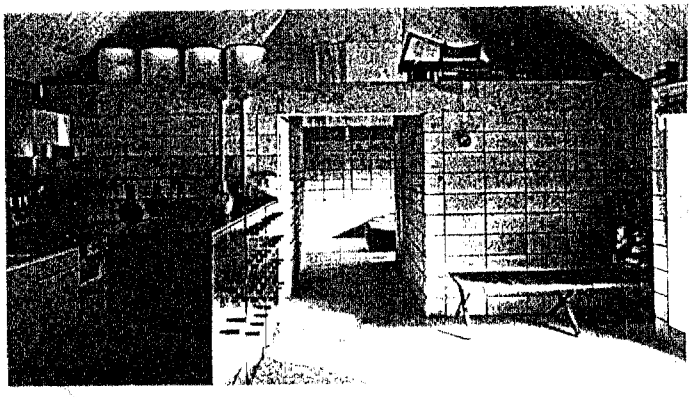
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
80	7402	成城の住宅	篠原一男	82	

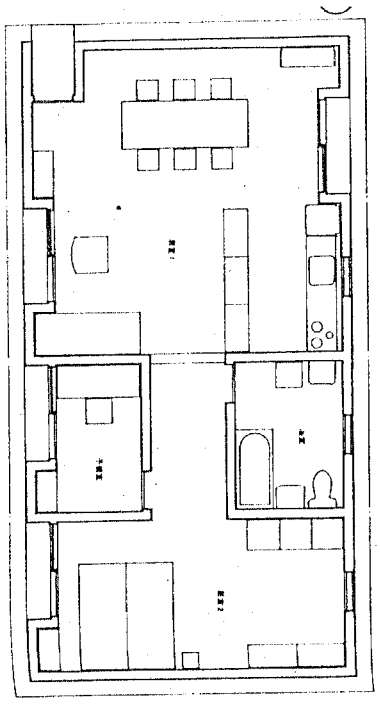




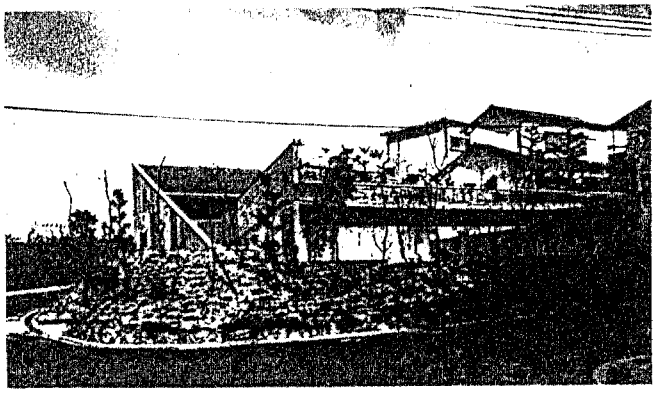
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
81	7502	墨の家	伊丹　潤	84	

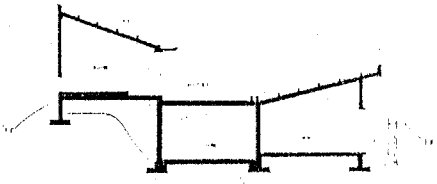


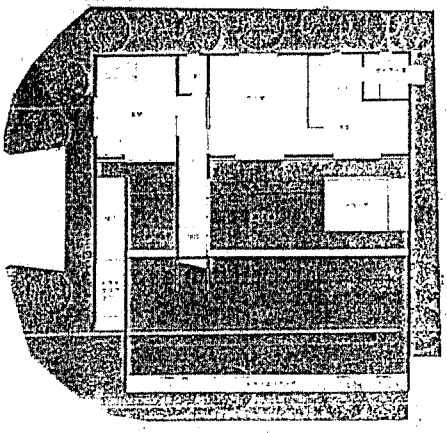


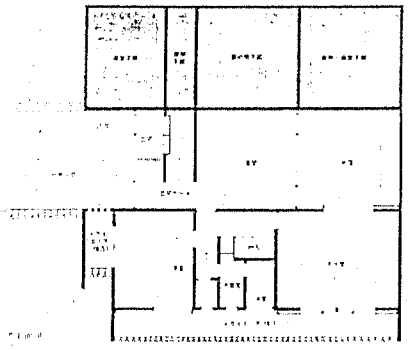


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
82	7502	北山・住宅	白澤宏規	86	

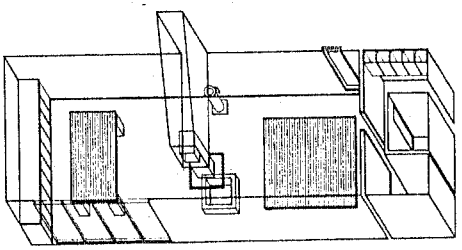


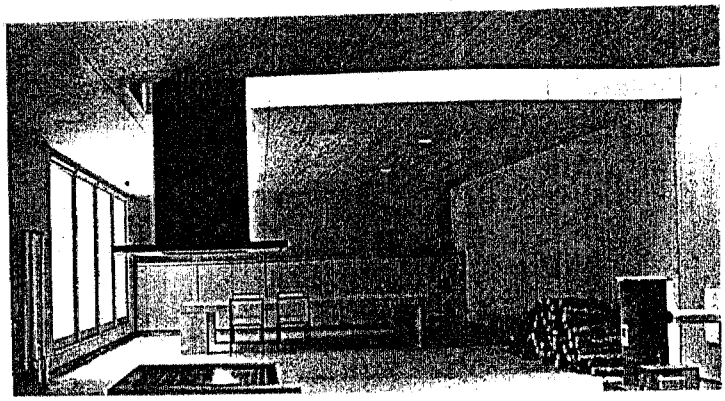


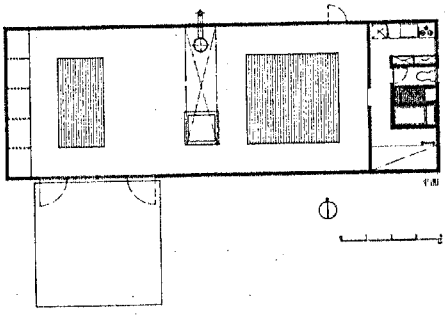




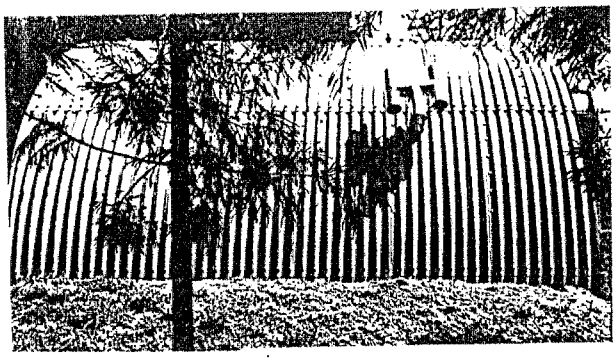
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
83	7502	天と地の家	石井　修	85	29

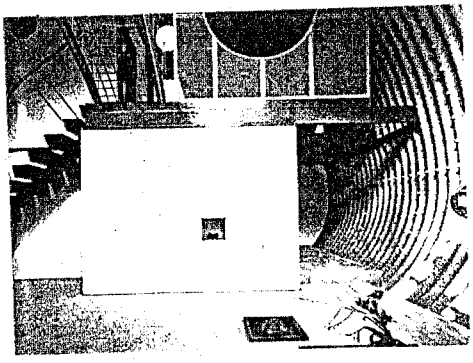


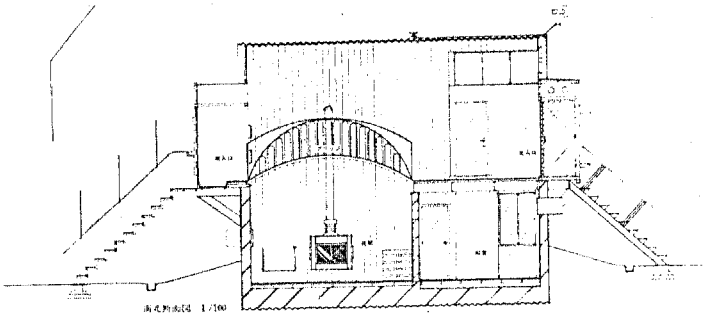




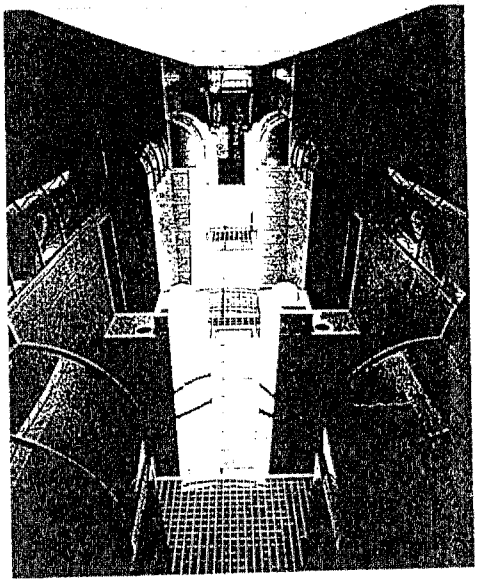
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
84	7504	山中湖のｱﾄﾘｴ	内田　繁	87	

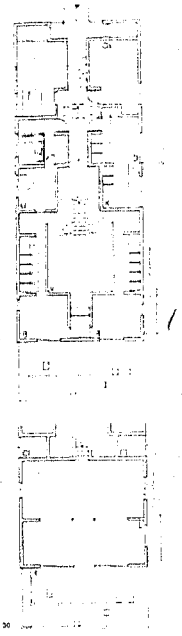




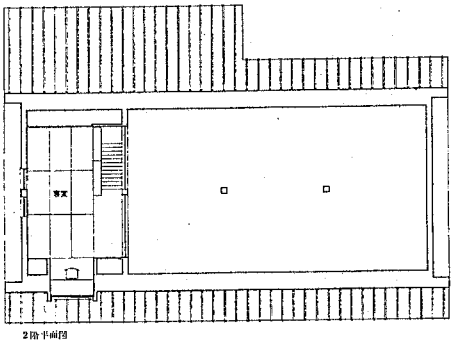


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
85	7506	幻庵	石山修武	88	

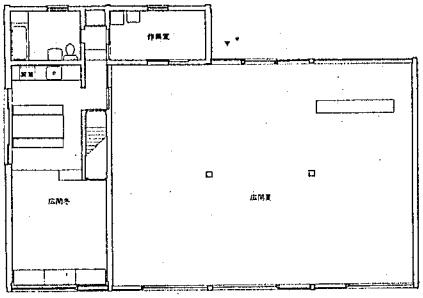




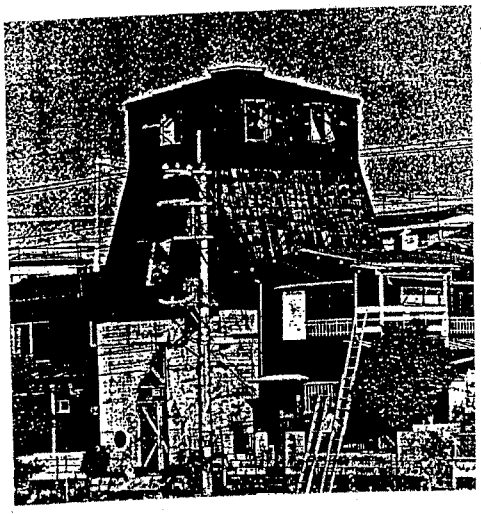
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
86	7509	原邸	原　広司	83	

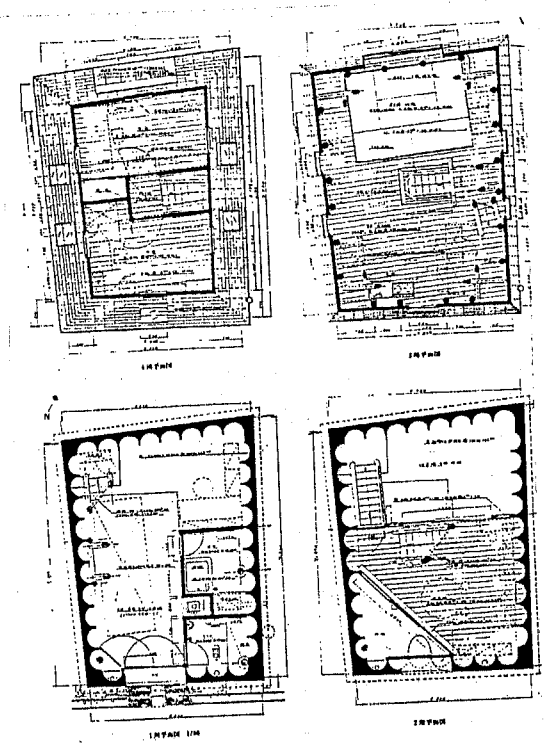


2階平面図

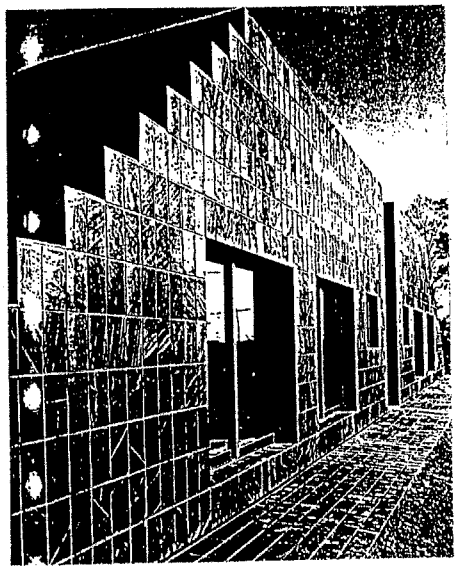


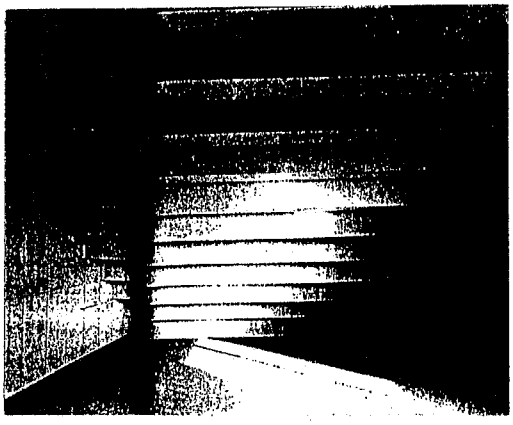
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
87	7510	谷川さんの住宅	篠原一男	90	

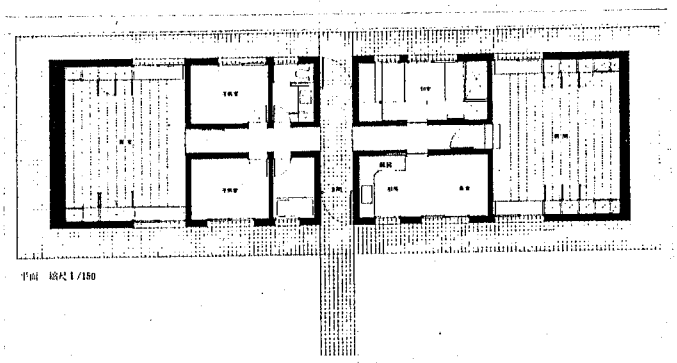




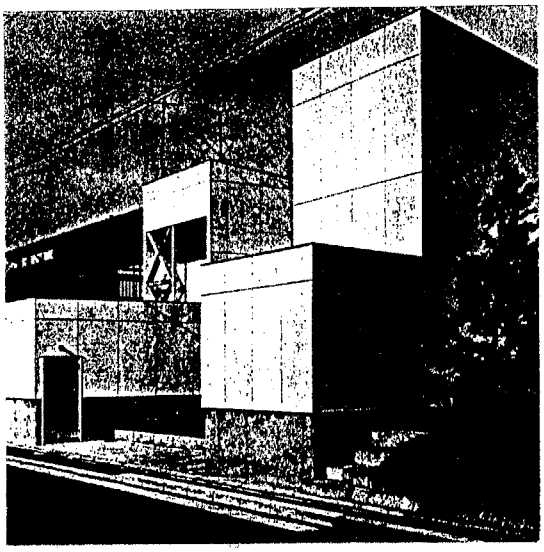
No.	発表号	作品名	建築家名
88	75夏	八千代	山根鋭二

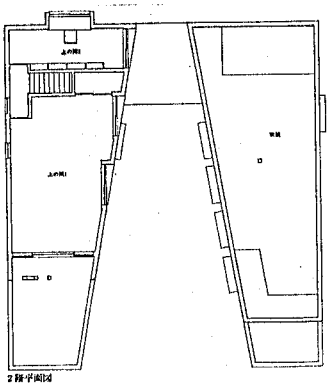


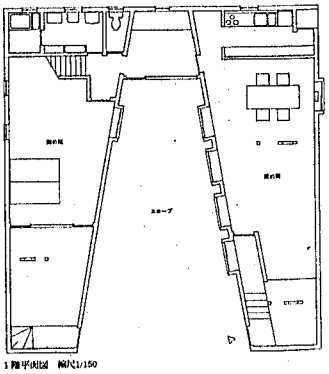




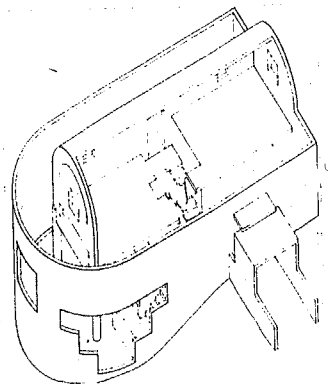
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
89	7602	段象の家	相田武文	92	

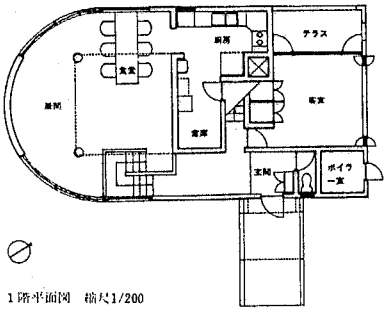




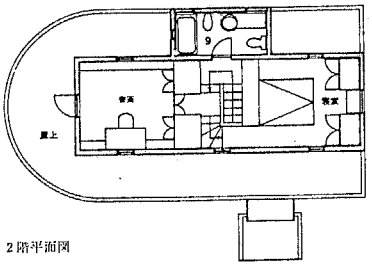


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
90	7602	鴨居の家	長谷川逸子	94	31



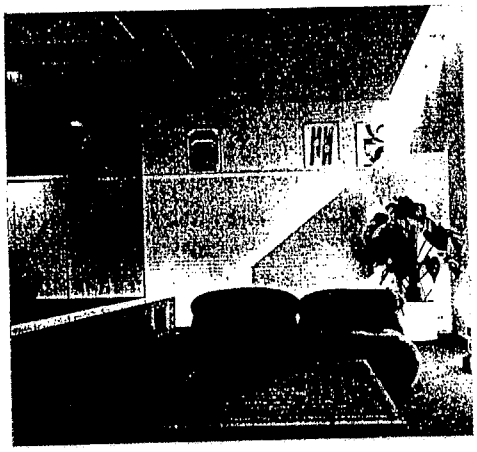


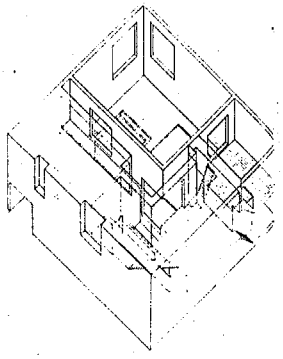
1階平面図　縮尺1/200

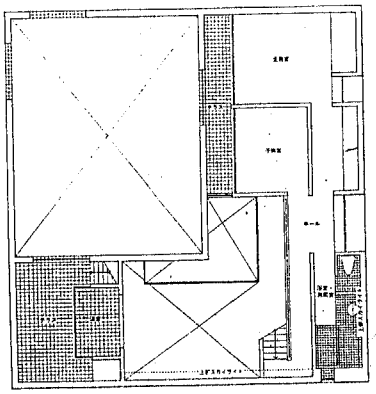


2階平面図

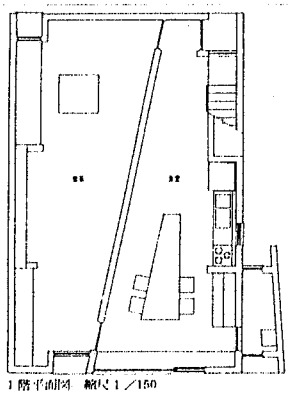
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
91	7604	Y邸	磯崎　新	95	



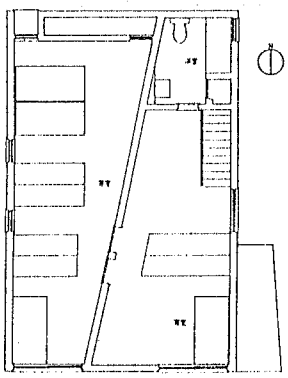




No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
92	7606	雪ヶ谷の住宅	谷口吉生他	96	32

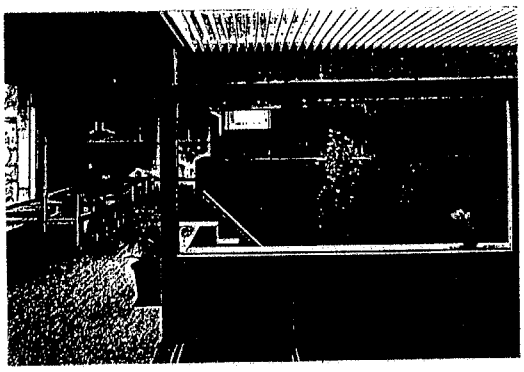


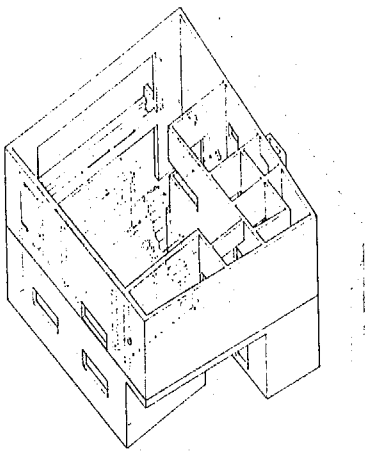
1階平面図　縮尺 1／150

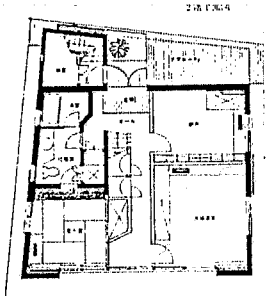


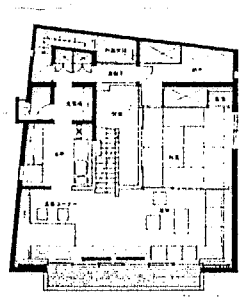
2階平面図

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
93	7609	緑が丘の家	長谷川逸子	97	

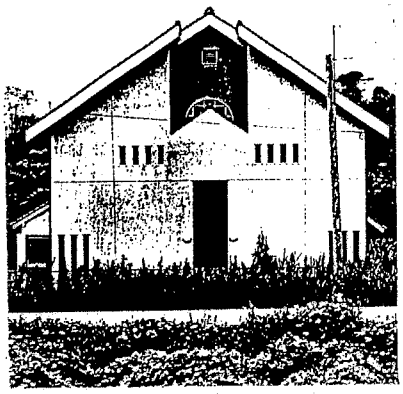


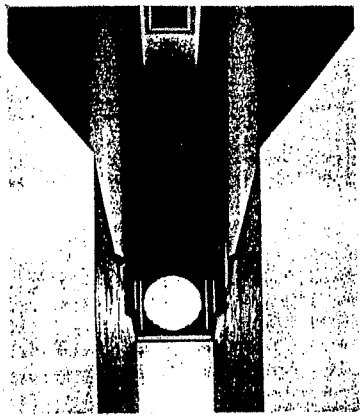


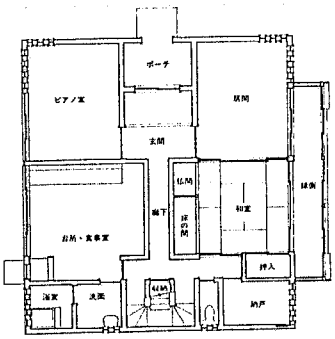




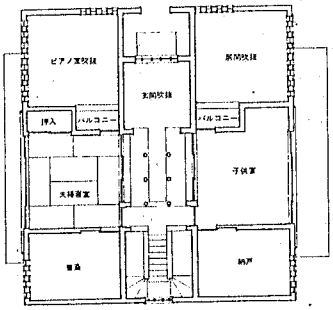
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
94	7609	船橋ﾎﾞｯｸｽ	宮脇　檀	98	33





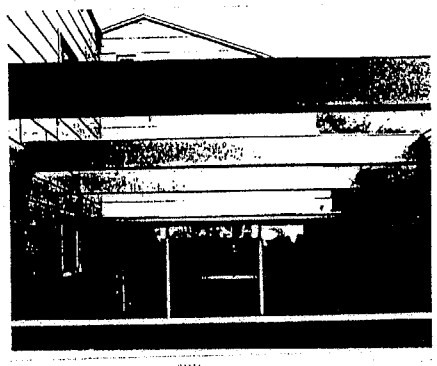


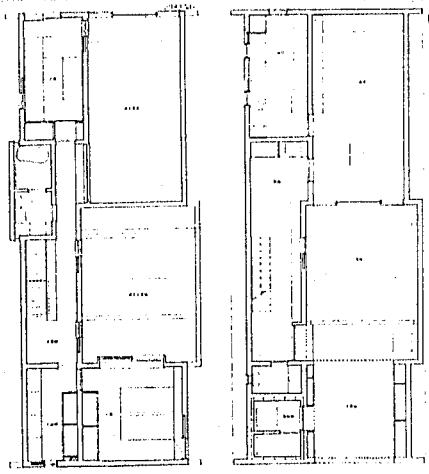
1階平面図　縮尺　1／200

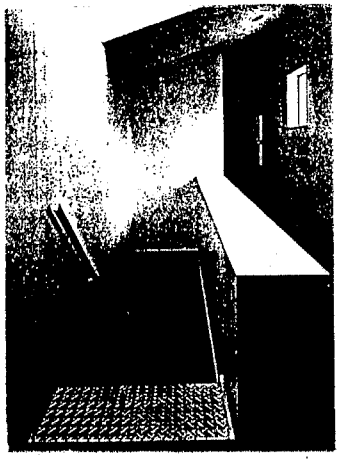


2階平面図

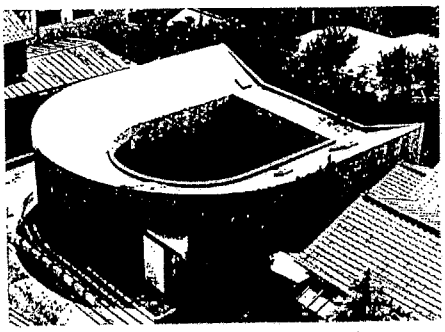
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
95	7609	中内邸	渡辺豊和	99	

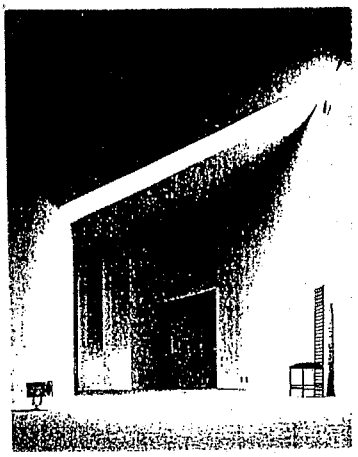


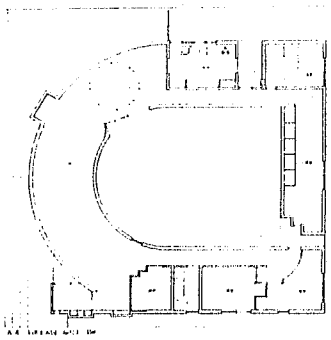




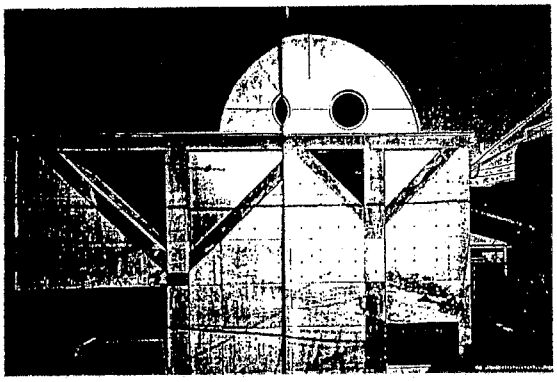
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
96	7611	代田の町家	坂本一成	100	34

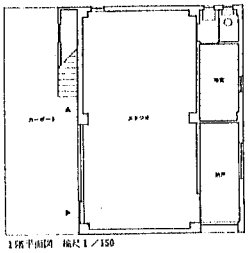


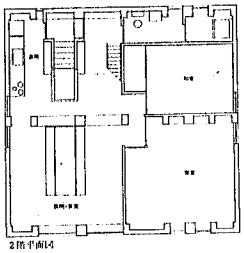


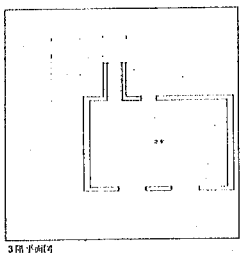


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
97	7611	中野本町の家	伊東豊雄	101	35

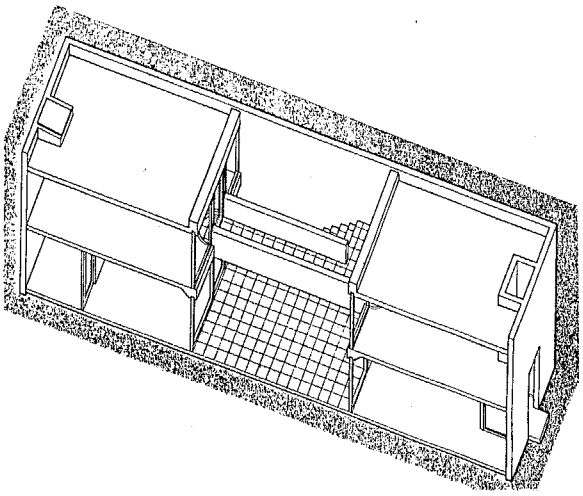


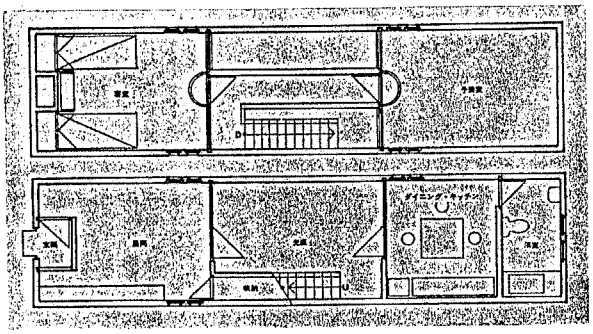




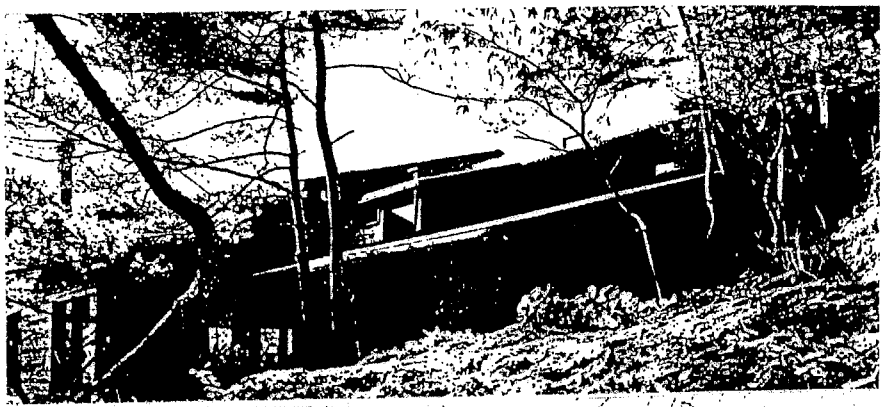


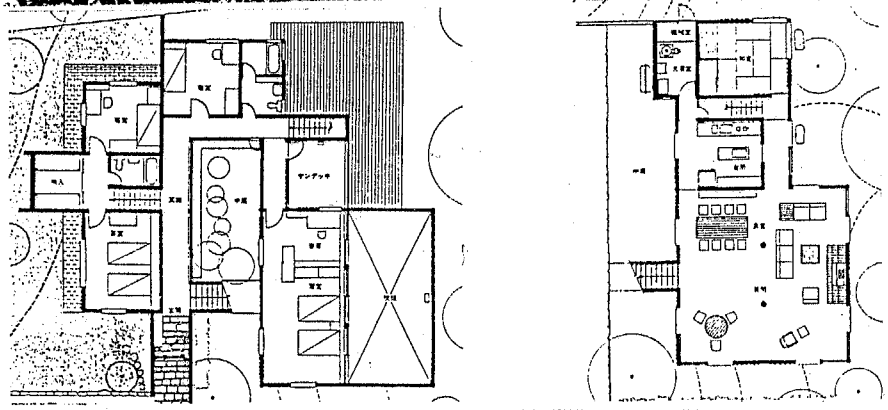
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
98	7701	上原通りの住宅	篠原一男	102	36



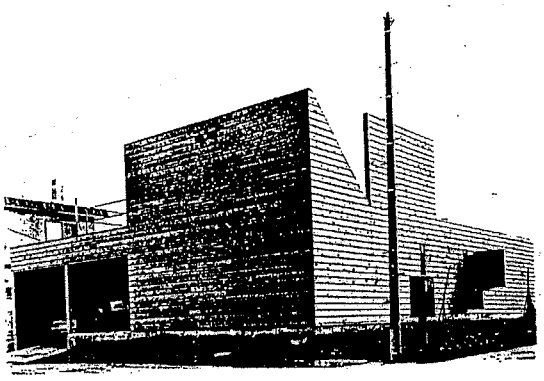


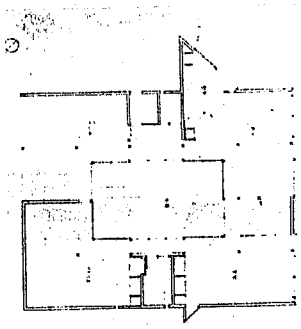
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
99	7702	住吉の長屋	安藤忠雄	103	37

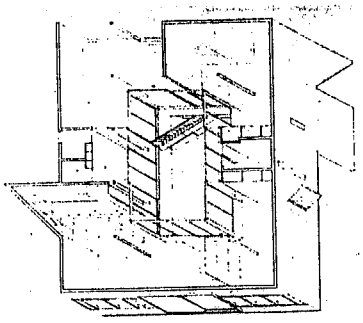




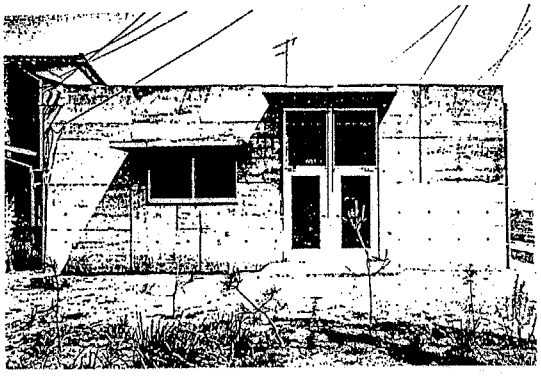
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
100	7702	回帰草庵	石井　修	104	

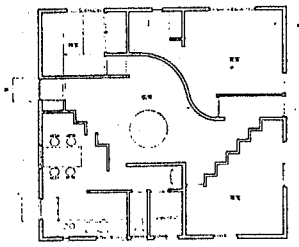




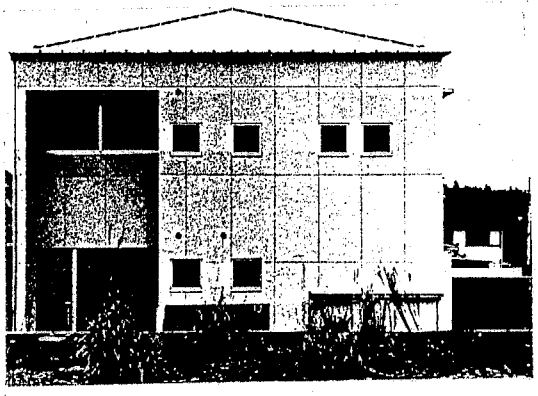


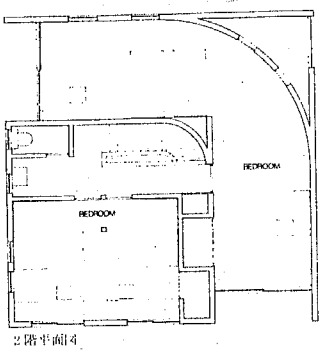
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
101	7704	GEH7511	鈴木　恂	105	38



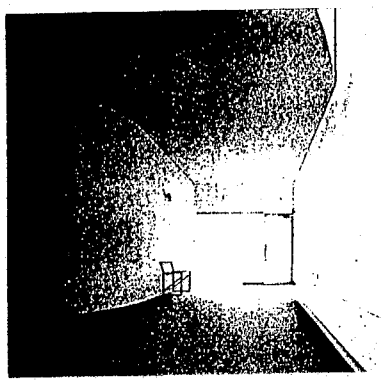


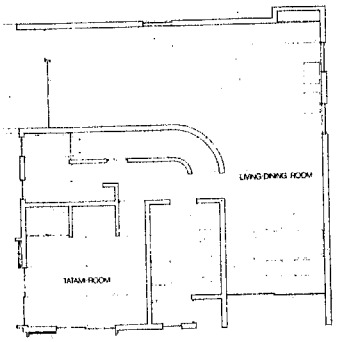
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
102	7706	上和田の家	伊東豊雄	106	



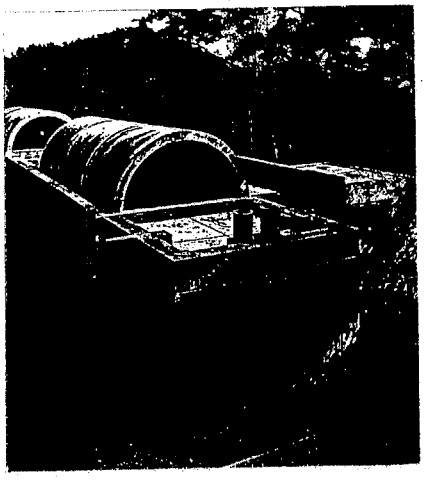


2階平面図





No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
103	7708	柿生の家	長谷川逸子	107	



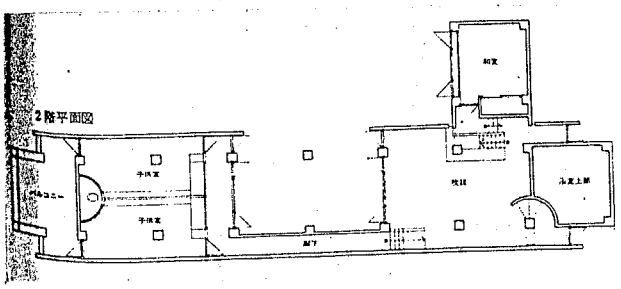
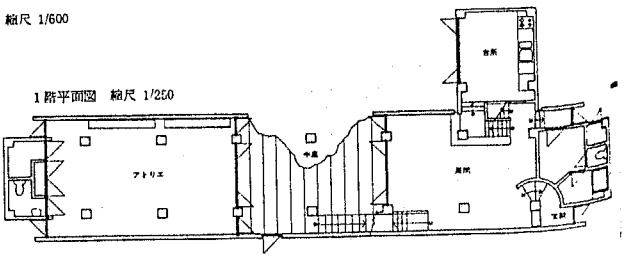
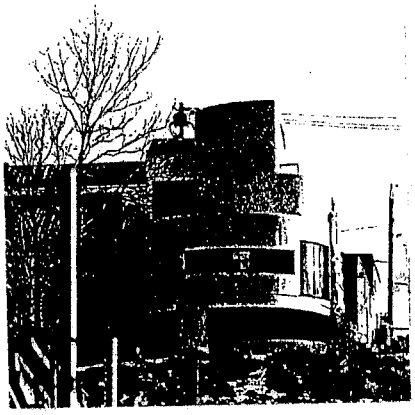
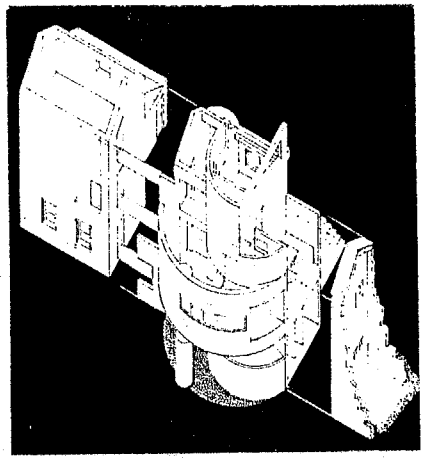


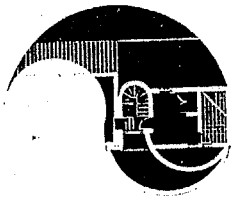
図 縮尺 1/600

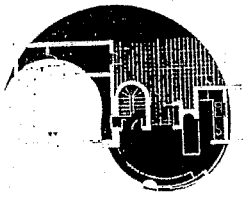


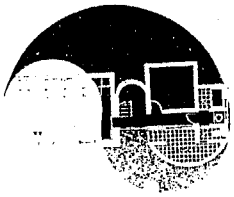
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
104	7802	領壁の家	安藤忠雄	109	39



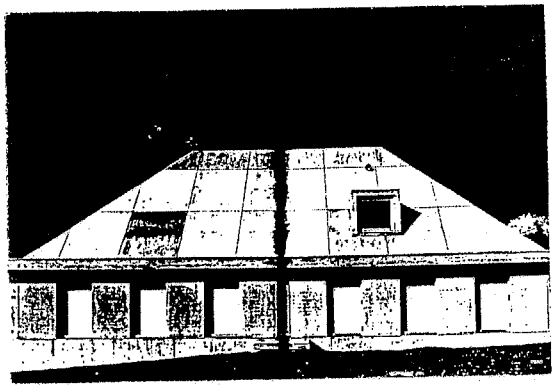


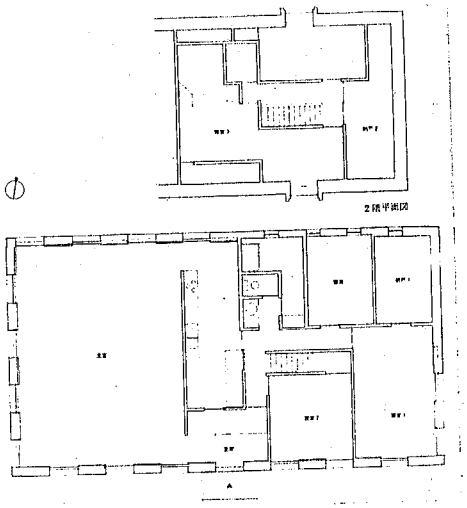




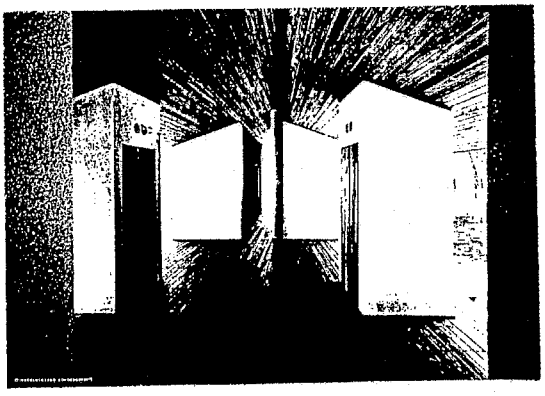


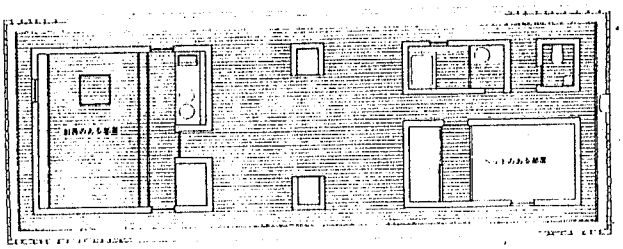
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
105	7803	住川邸	毛綱毅曠	112	





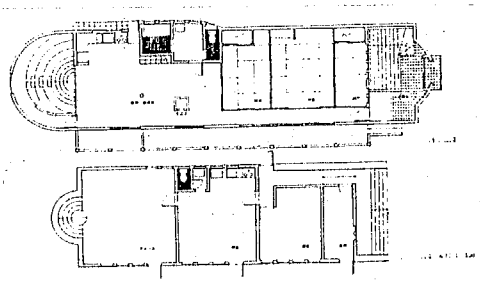
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
106	7807	愛鷹裾野の住宅	篠原一男	113	

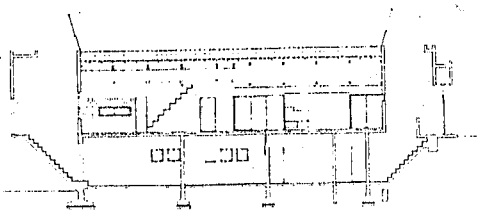




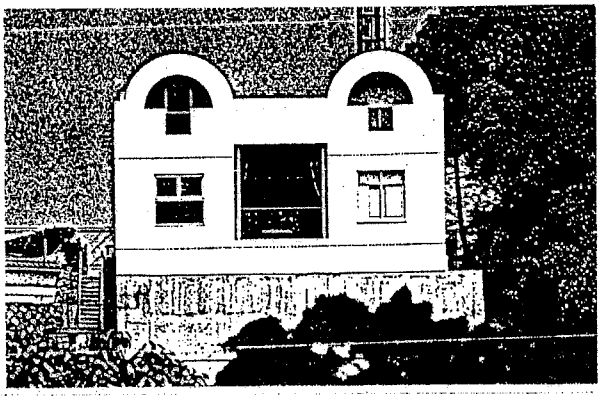
平面図　縮尺 1／150

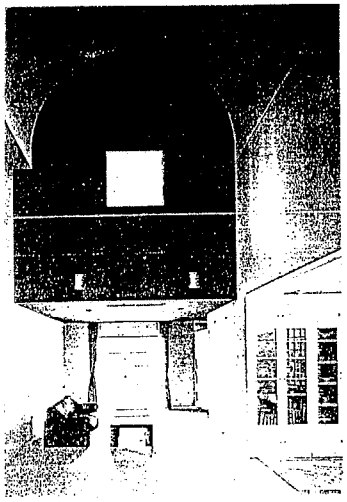
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
107	7808	山川山荘	山本理顕	114	40

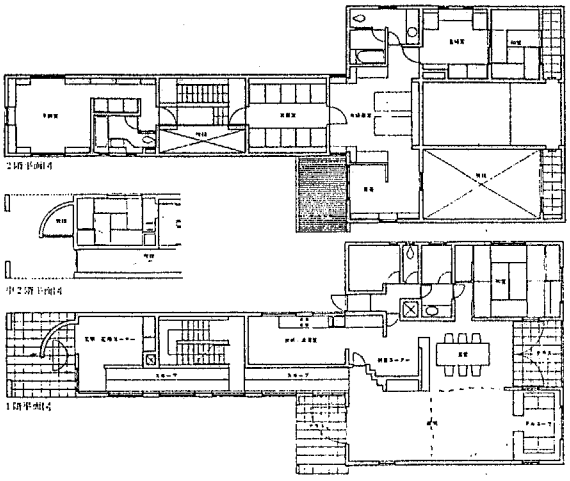


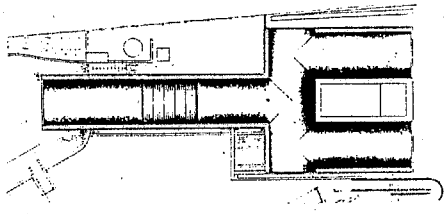


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
108	7808	伊東邸	渡辺豊和	115	

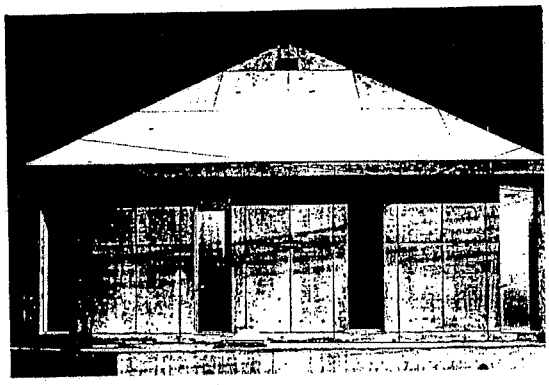


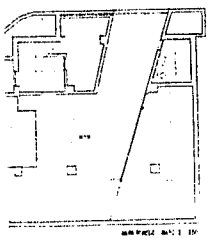


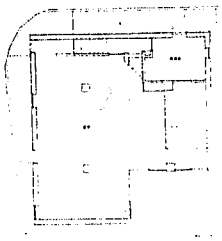


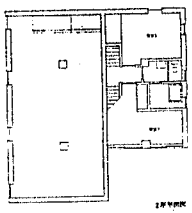


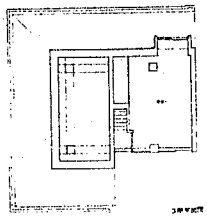
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
109	7810	H邸	磯崎　新	116	



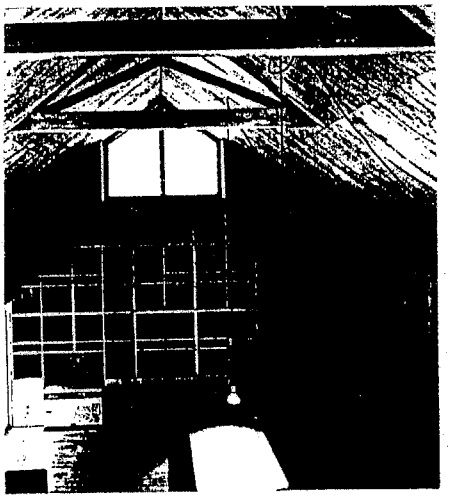


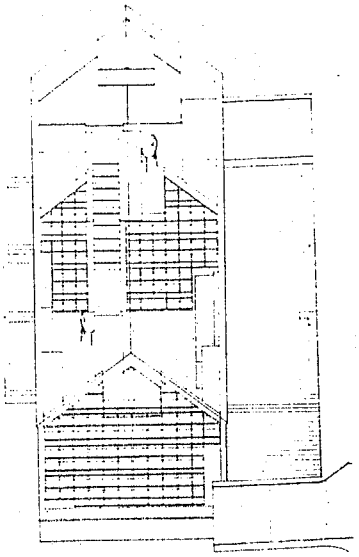


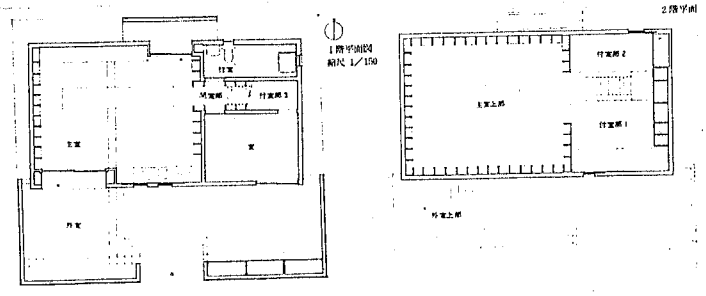




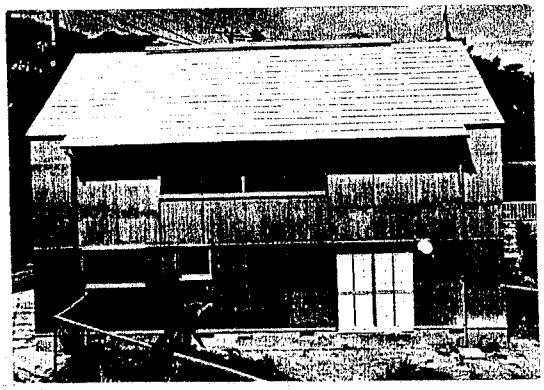
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
110	7810	上原曲り道の住宅	篠原一男	117	

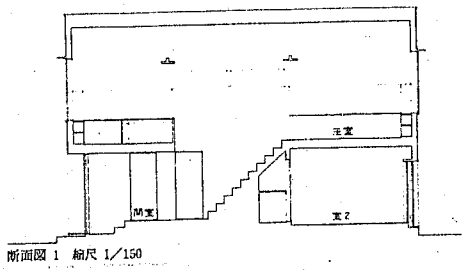




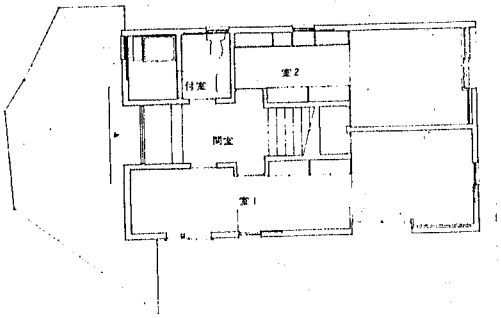


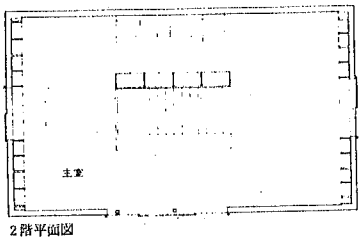
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
111	7902	南湖の家	坂本一成	119	41





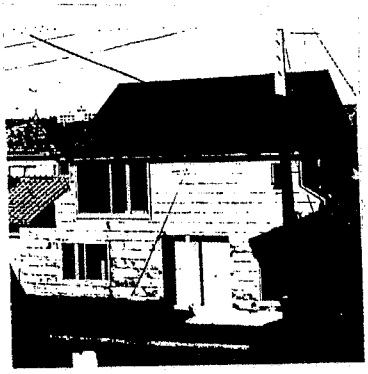
断面図 1　縮尺 1／150

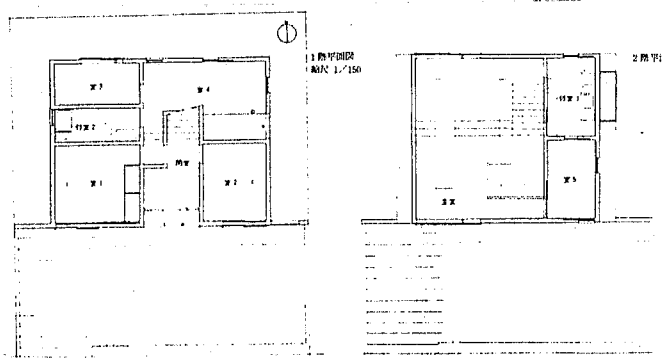




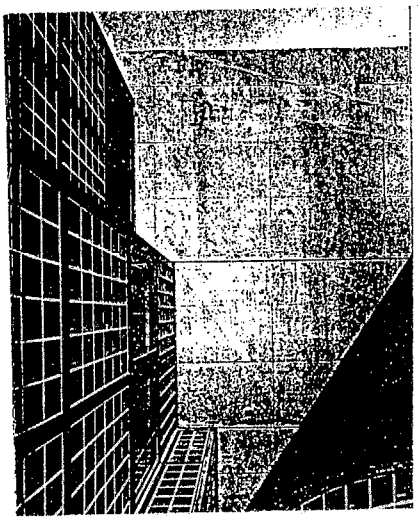
2階平面図

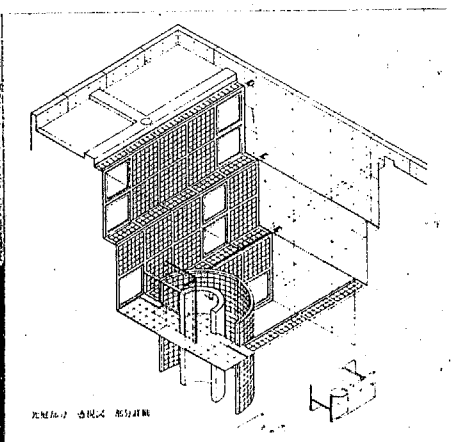
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
112	7902	坂田山附の家	坂本一成	120	

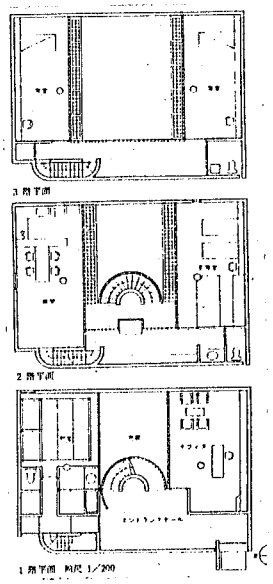




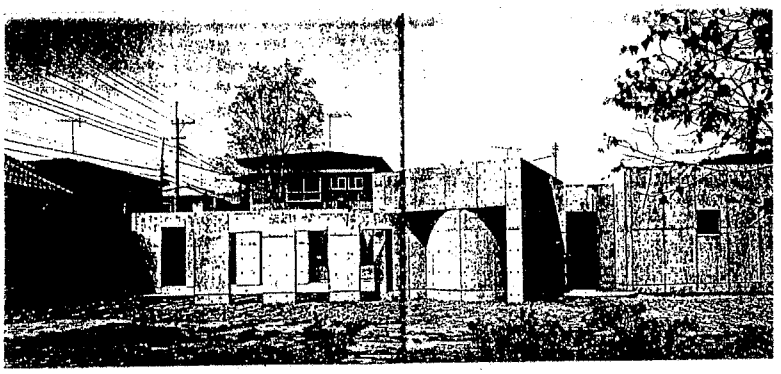
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
113	7902	今宿の家	坂本一成	121	

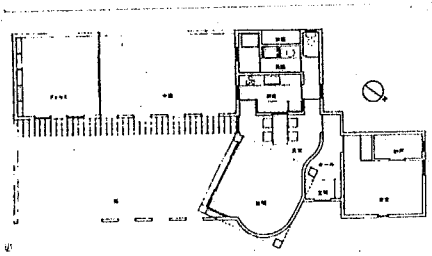


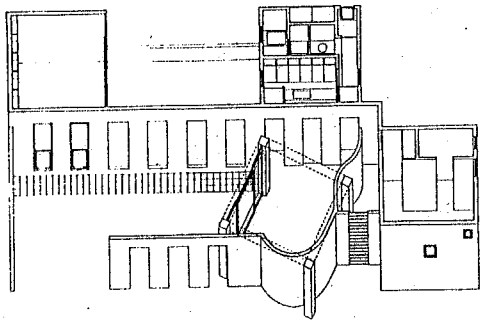




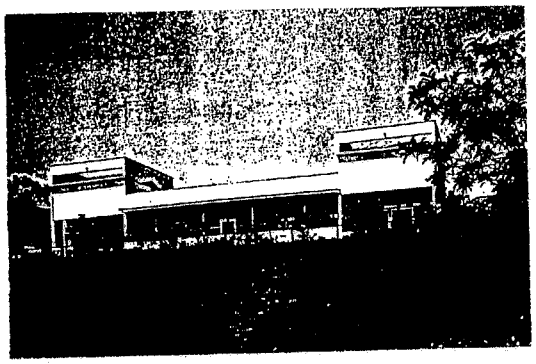
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
114	7905	石原邸	安藤忠雄	122	42

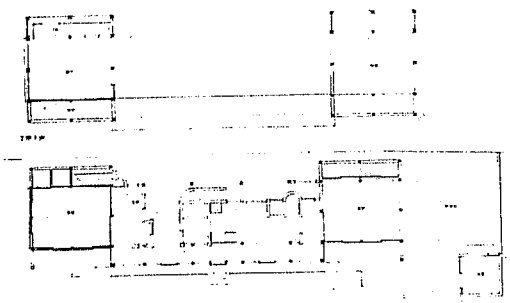




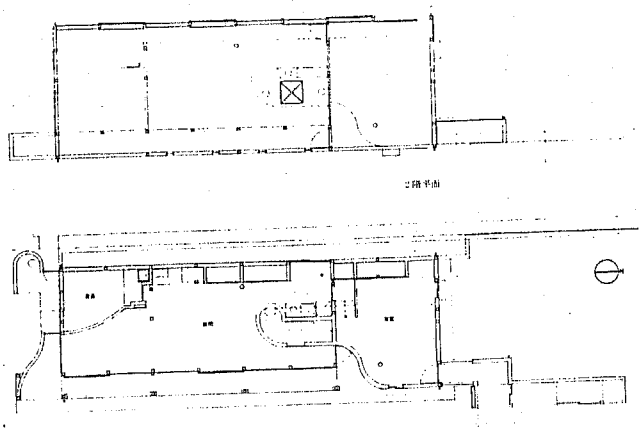


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
115	7910	M K 邸	早川邦彦	123	43

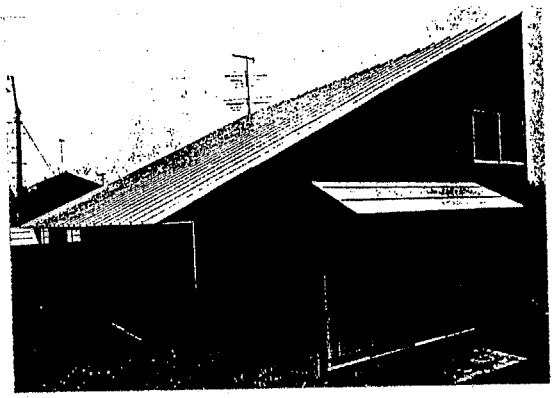


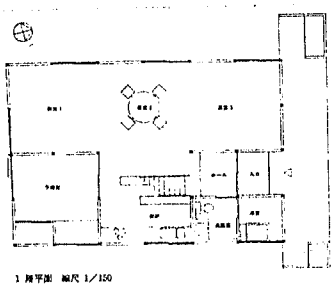


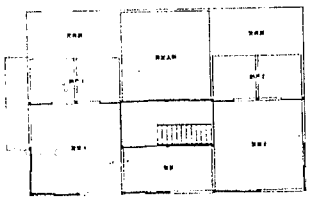
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
116	7910	上田の住宅1977	富永　譲	124	



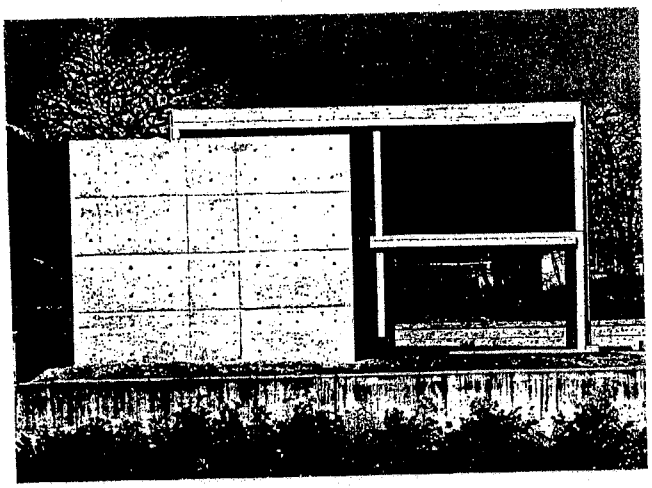
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
117	7910	小田原の住宅1978	富永　譲	125	

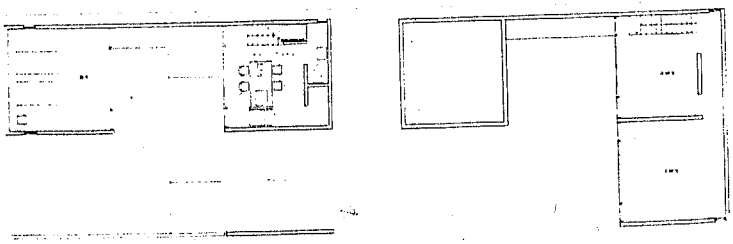




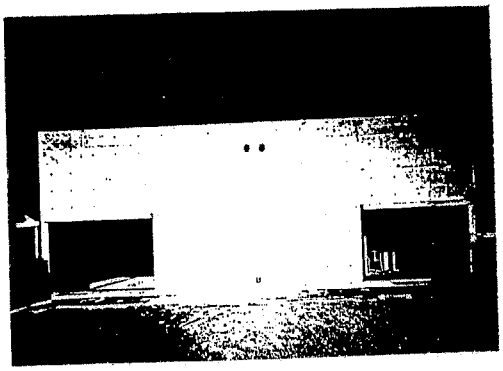


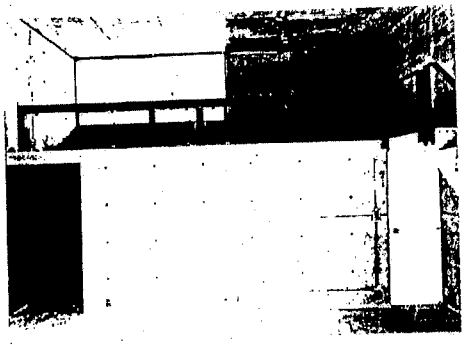
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
118	7912	銀舎	白澤宏規	126	

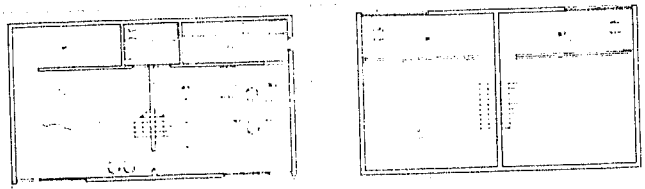




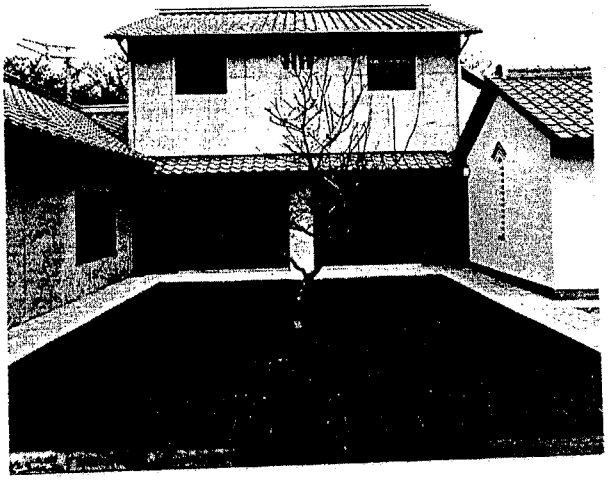
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
119	8002	松谷邸	安藤忠雄	127	44

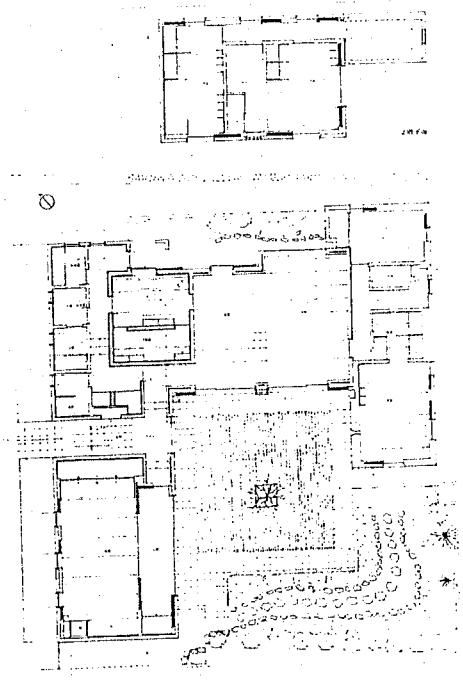




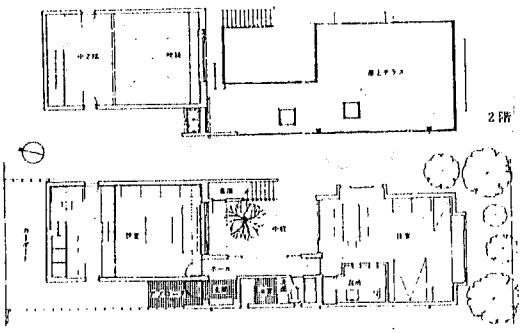


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
120	8002	上田邸	安藤忠雄	128	

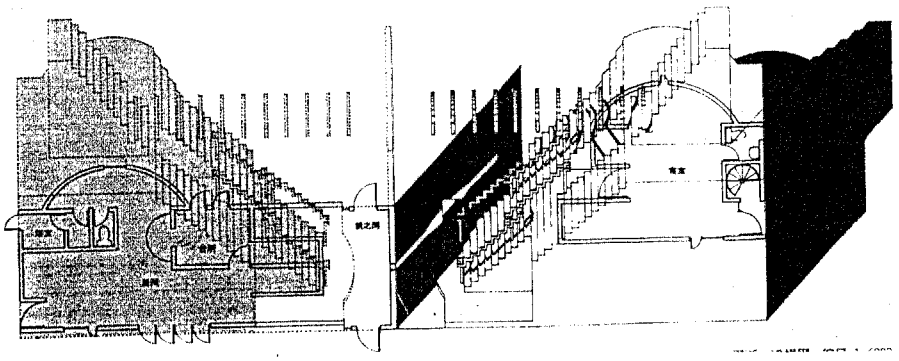




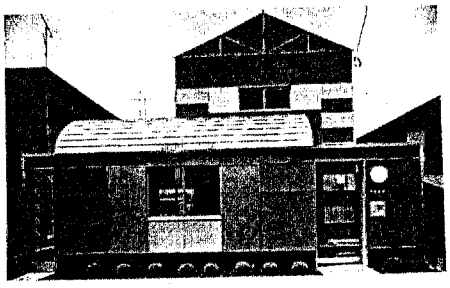
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
121	8006	北摂の家	出江　寛	129	

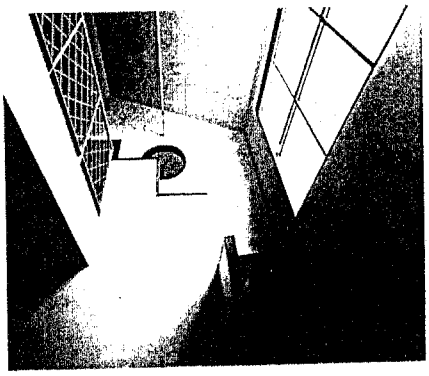


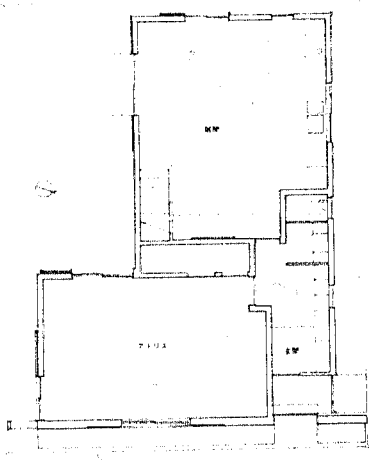
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
122	8008	対空間の家	斎藤　義	130	45

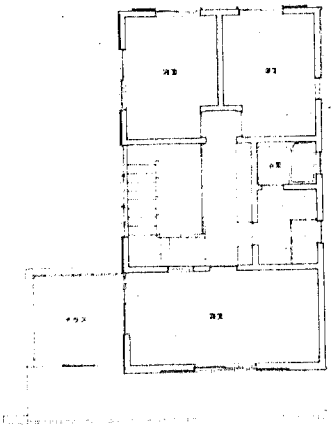


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
123	8008	鏡之間	毛綱毅曠	131	

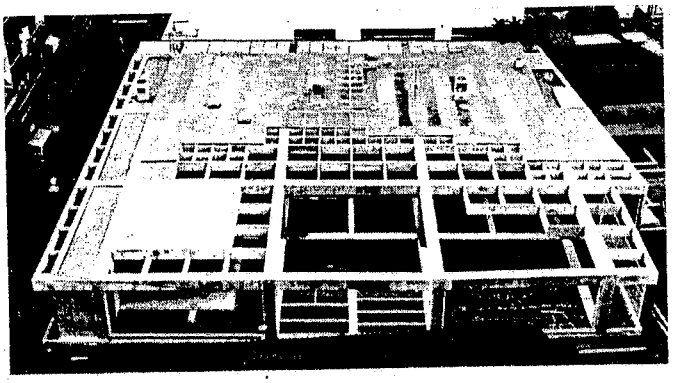


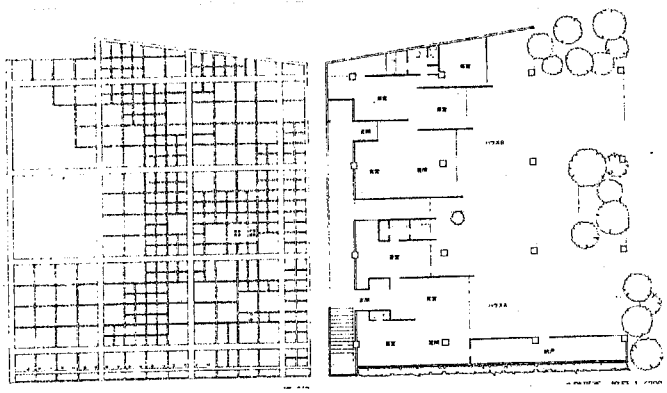




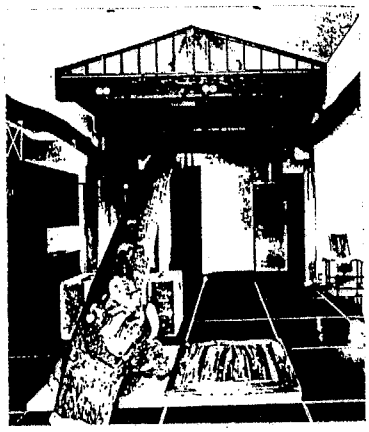


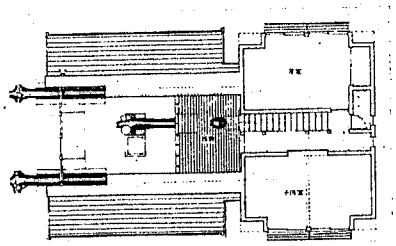
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
124	8008	中央林間の家	伊東豊雄	132	

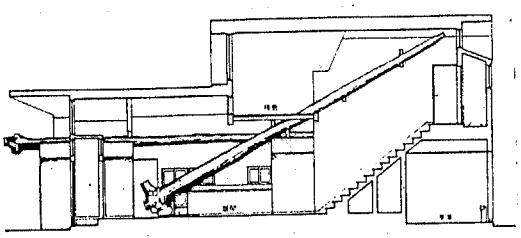


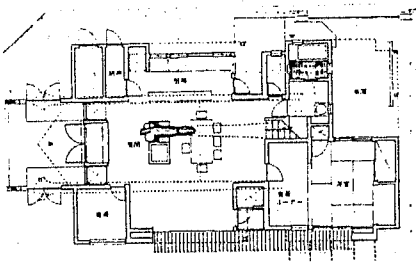


No.	発表号	作品名	建築家名
125	8008	Yコートハウス	葉　祥栄

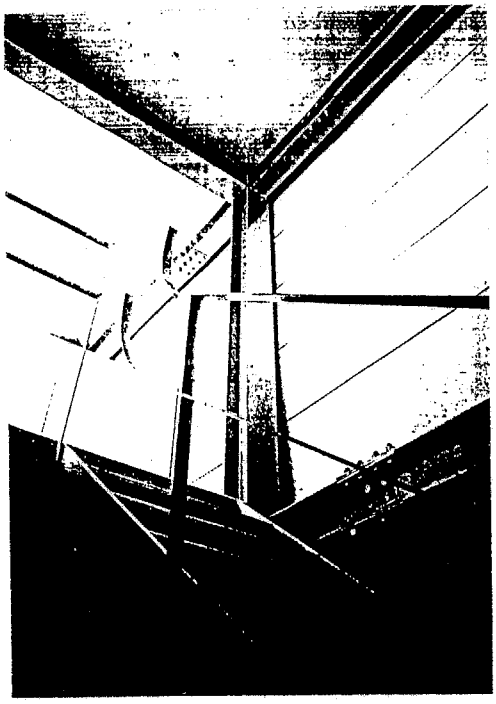


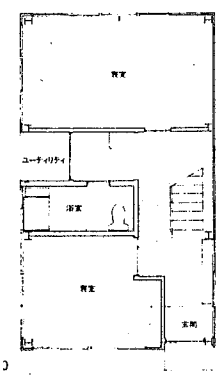


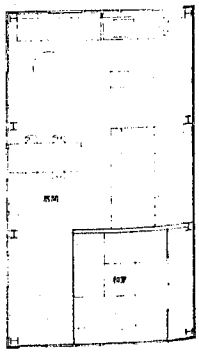




No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
126	8008	塚田邸	六角鬼丈	133	

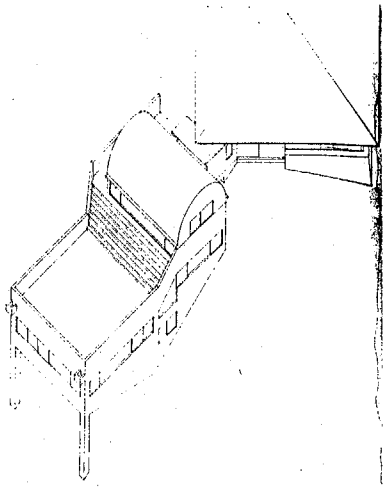


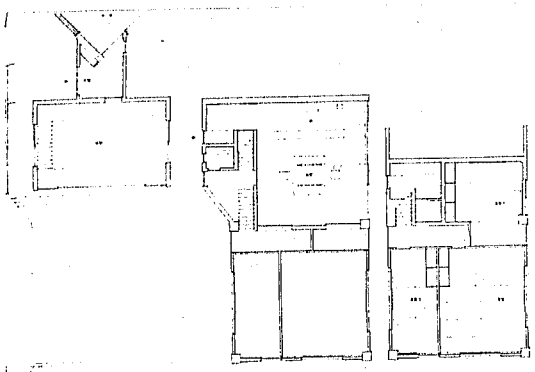




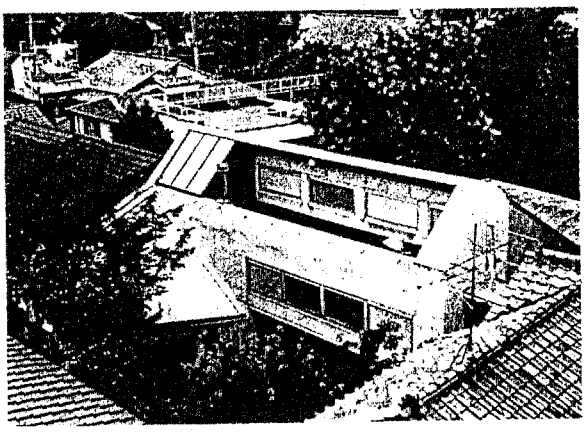
2階平面

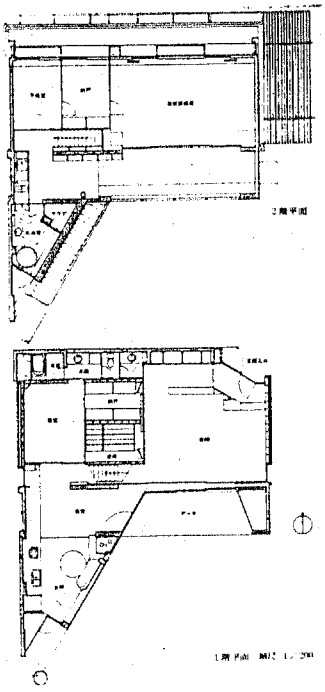
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
127	8008	小金井の家	伊東豊雄	134	



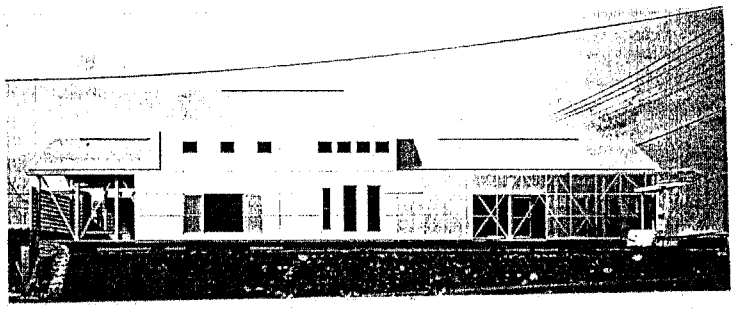


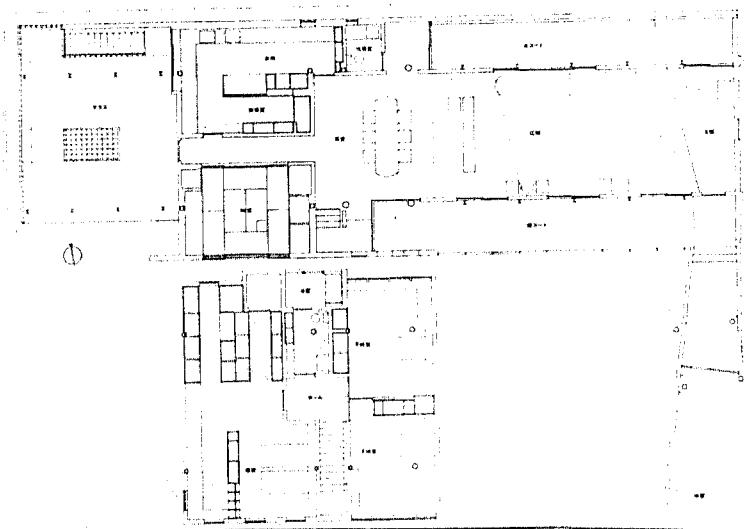
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
128	8101	花山第4の住宅	篠原一男	136	



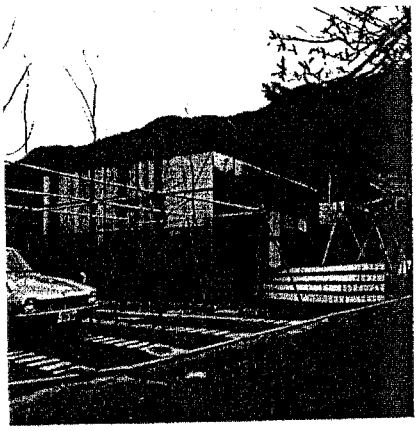


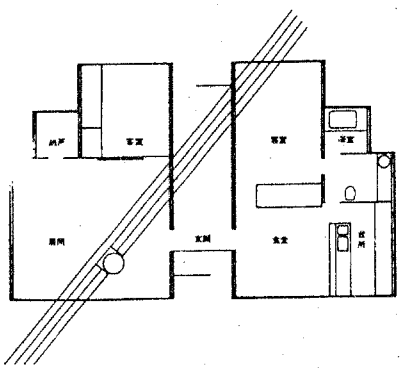
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
129	8102	私たちの家	林昌二・雅子	138	47

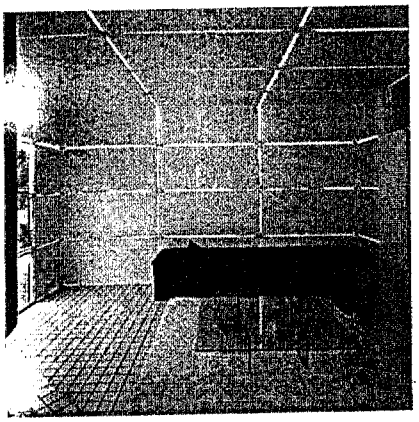


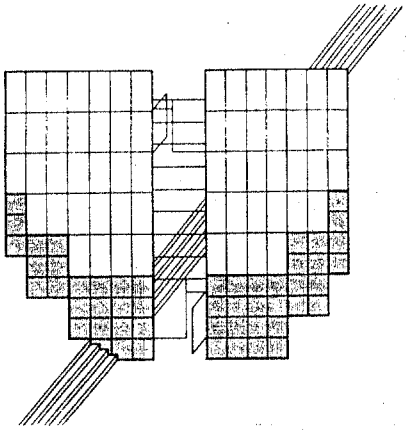


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
130	8103	松山桑原の住宅	長谷川逸子	139	48

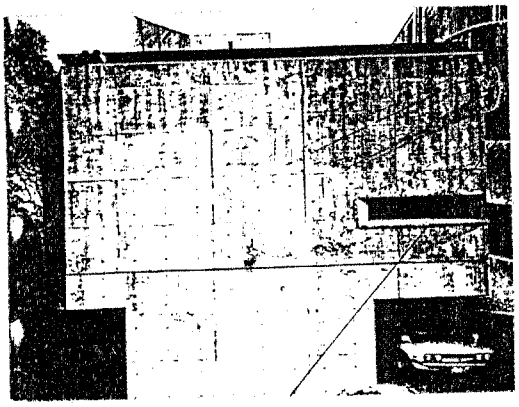


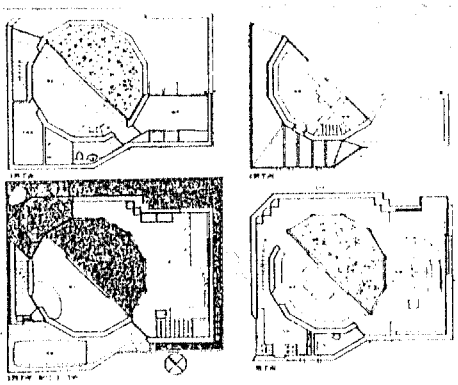




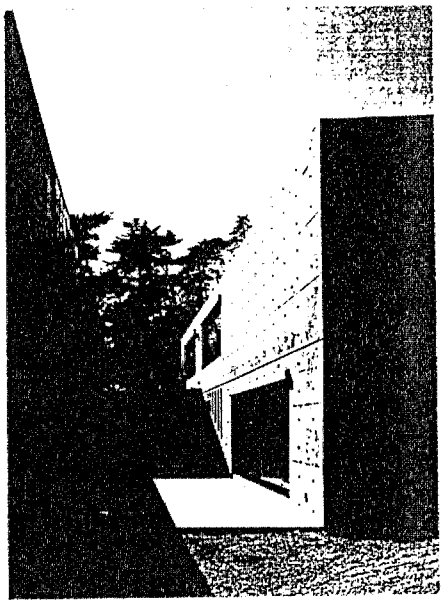


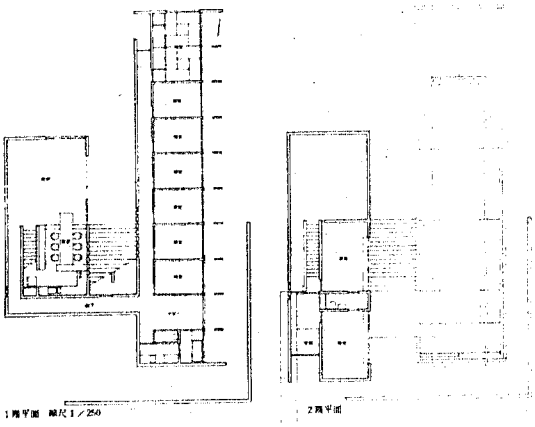
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
131	8104	光格子の家	葉　祥栄	140	



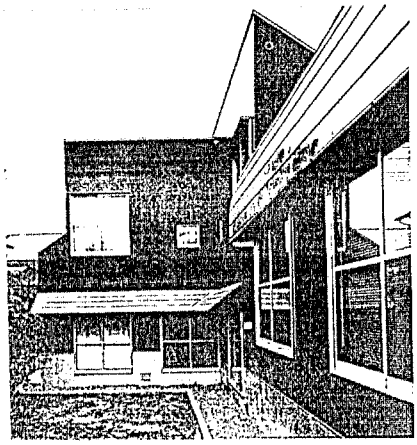


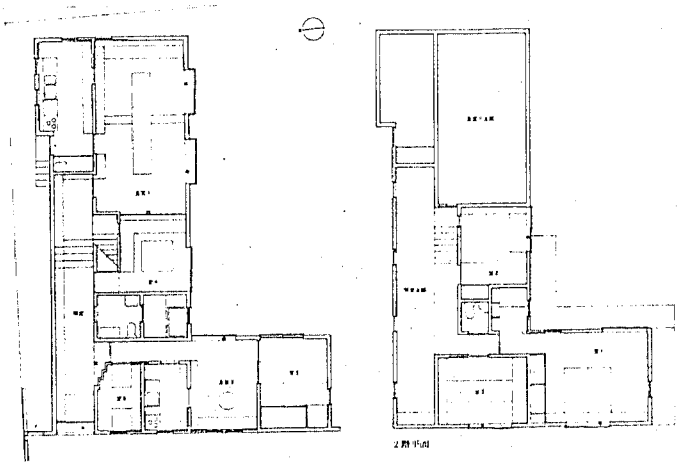
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
132	8104	るるるる阿房	斉藤　裕	142	49



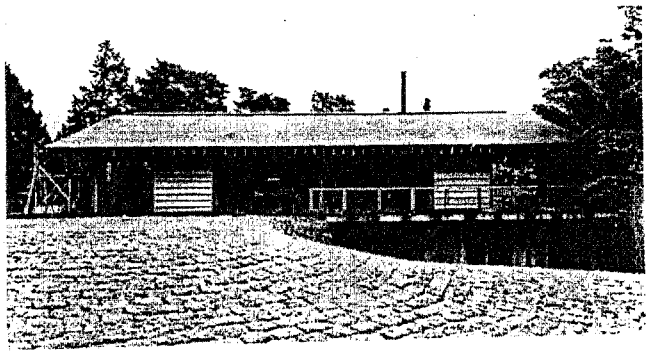


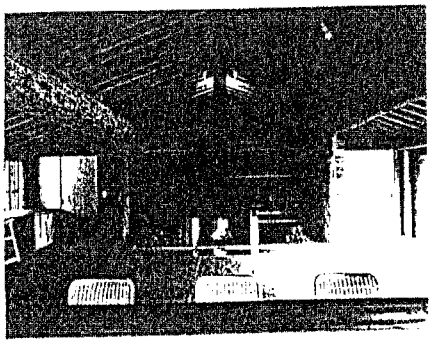
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
133	8106	小篠邸	安藤忠雄	143	

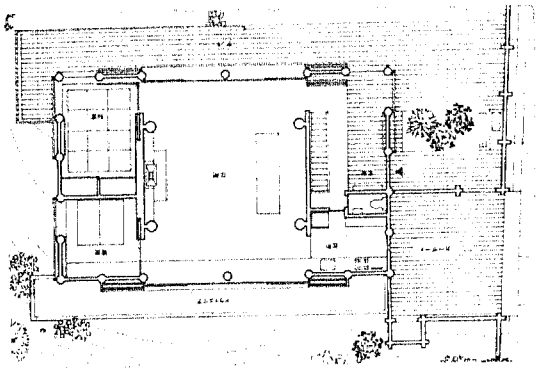


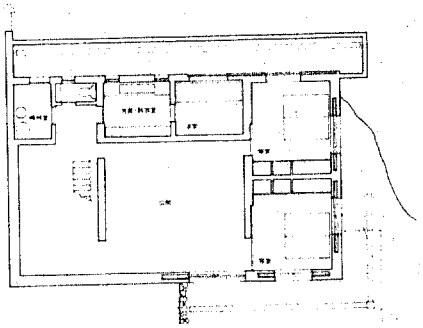


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
134	8106	祖師ヶ谷の家	坂本一成	145	

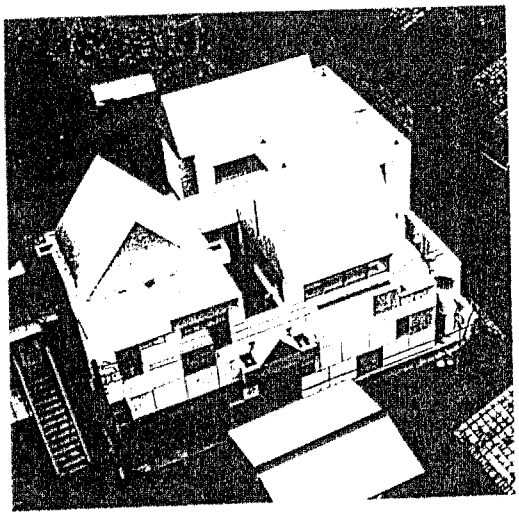


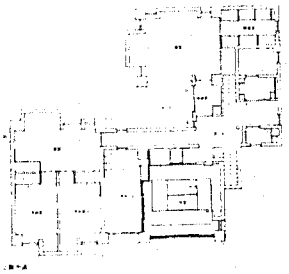


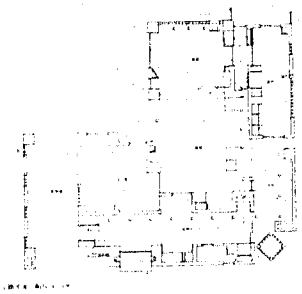




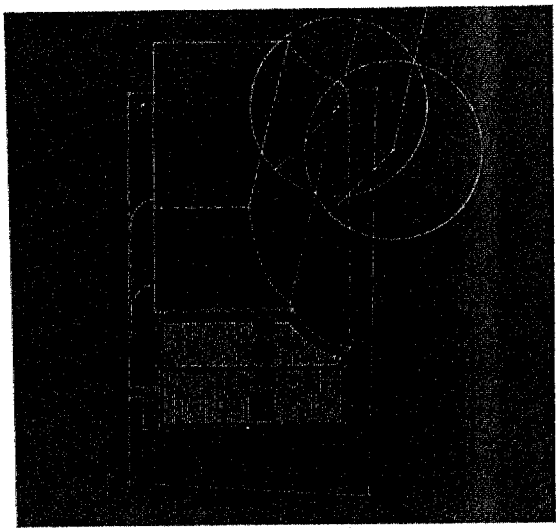
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
135	8108	湯の花の家	茶谷正洋	147	

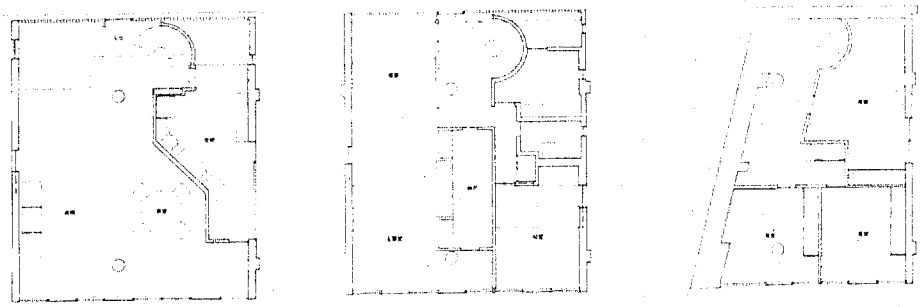




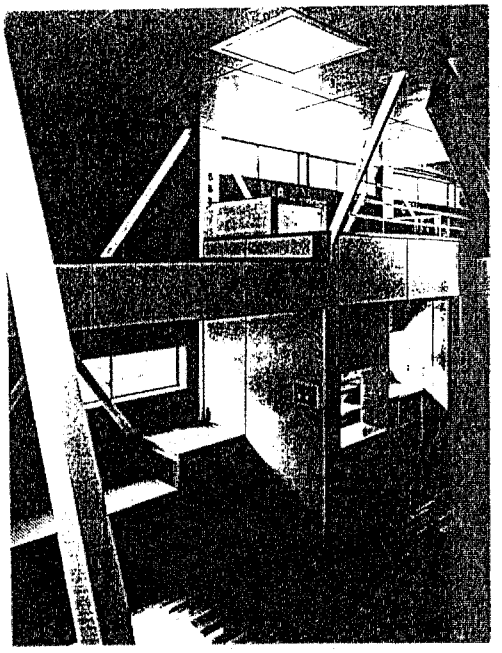


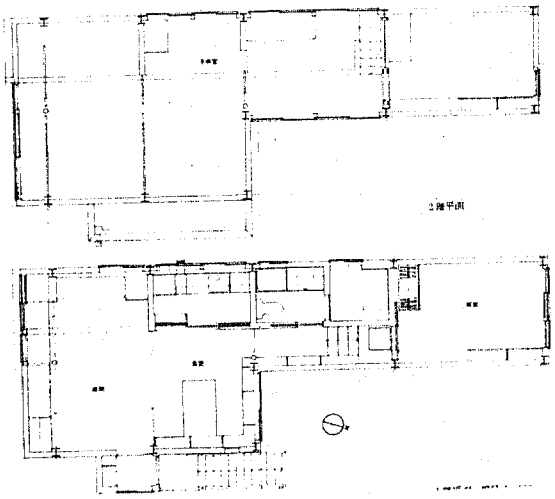
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
136	8108	積木の家III	相田武文	146	50



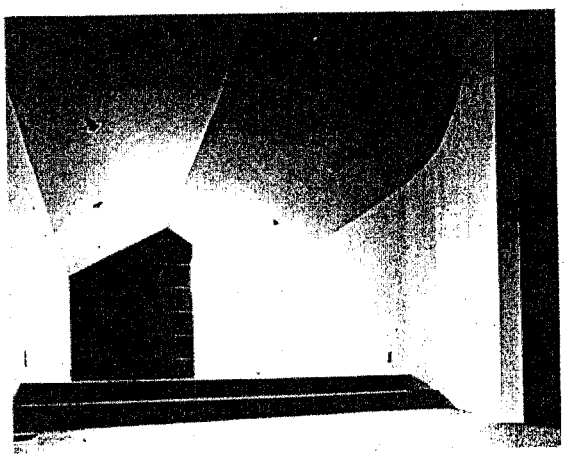


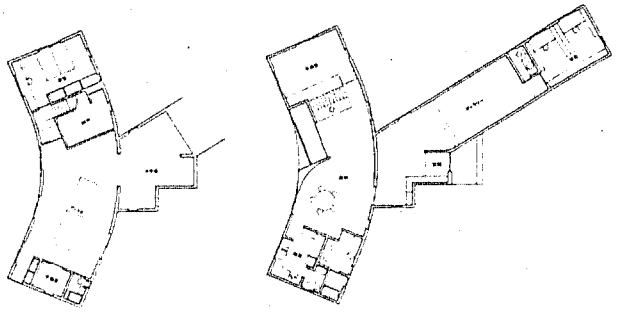
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
137	8109	高圧線下の住宅	篠原一男	148	



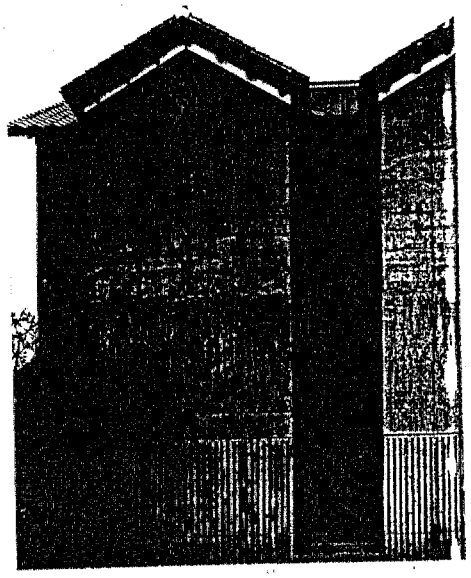


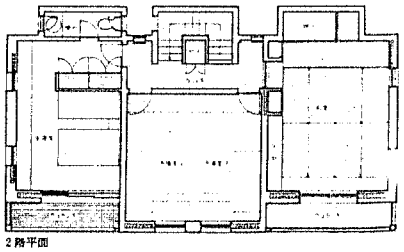
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
138	8202	経堂の家1980	富永　譲	149	52

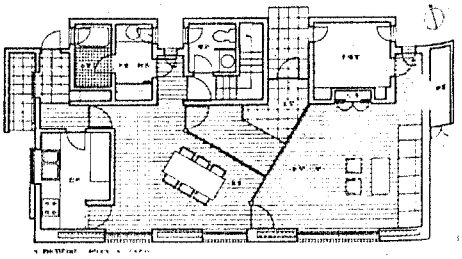




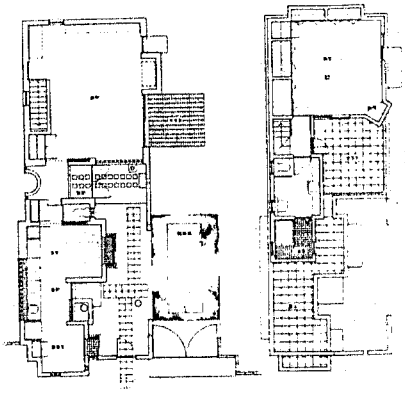
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
139	8204	笠間の家	伊東豊雄	150	

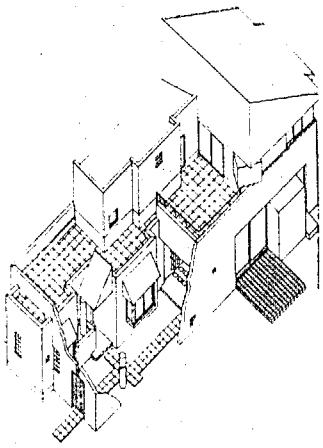




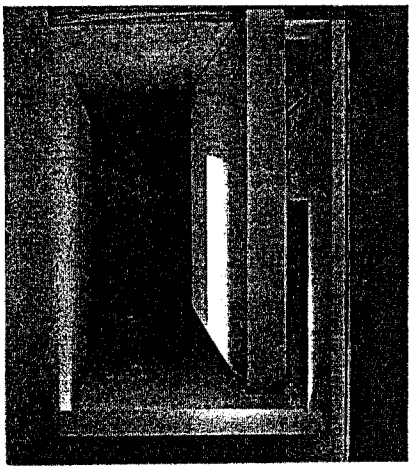


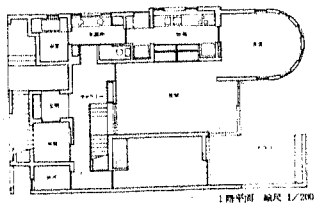
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
140	8205	逆瀬台の家	出江　寛	151	

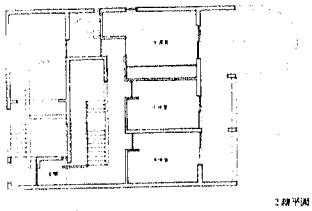




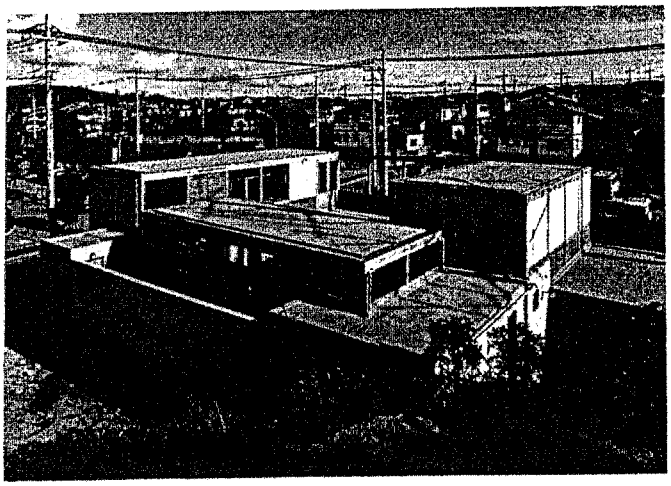
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
141	8208	積木の家IV	相田武文	152	51

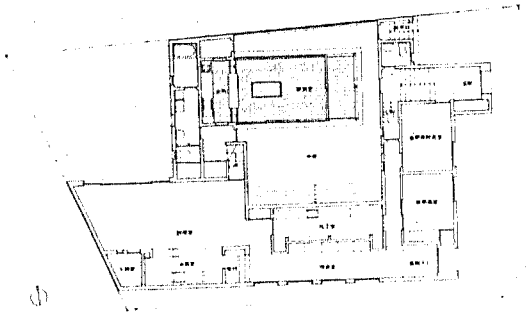


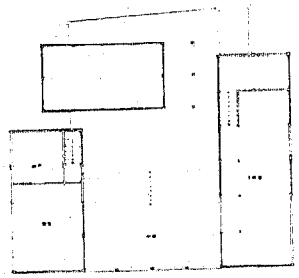




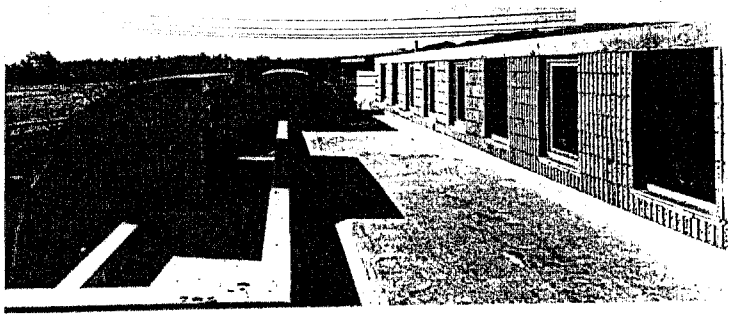
	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
142	8211	成城・ﾊﾞｽ停前の家	早川邦彦	153	53

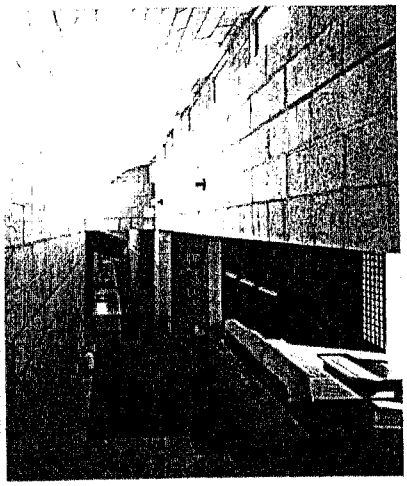


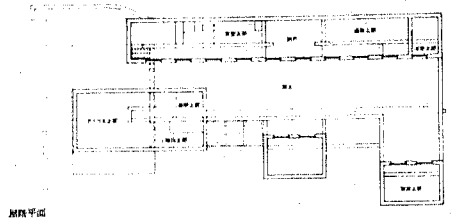


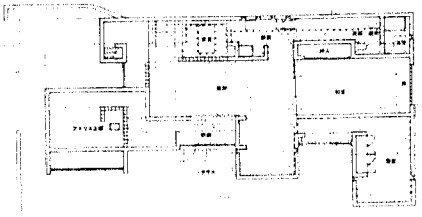


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
143	8211	藤井邸	山本理顕	154	54

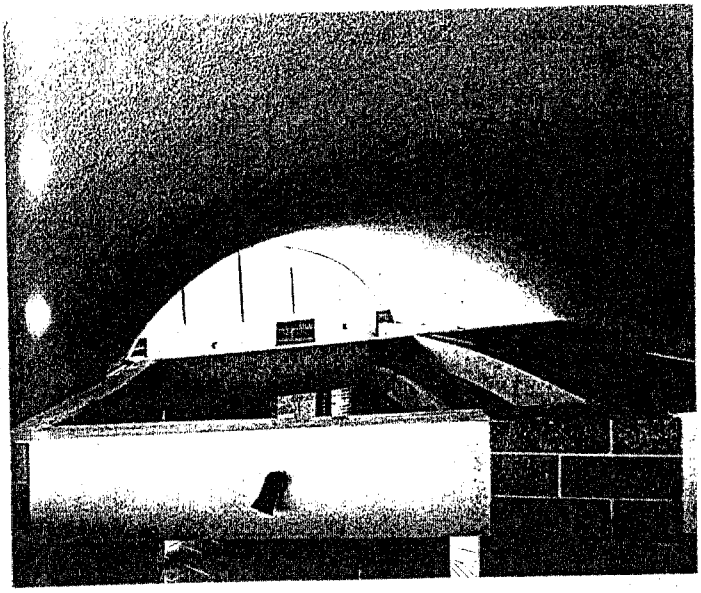


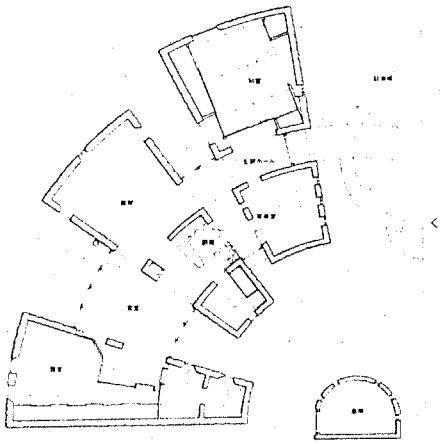




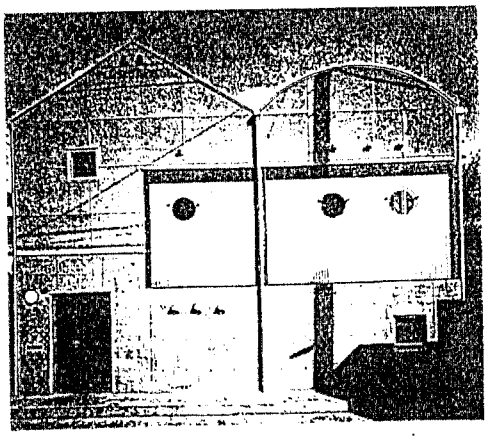


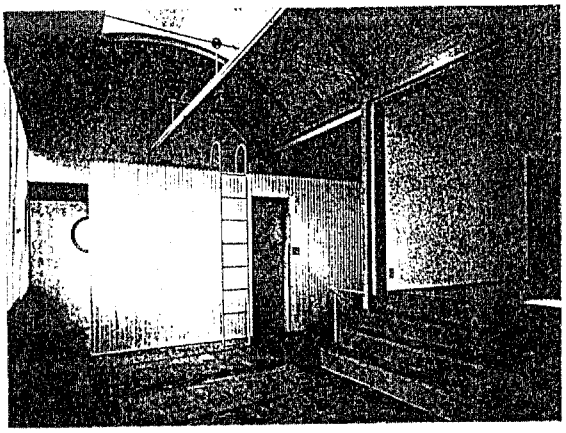
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
144	8302	白影	近藤春司	155	

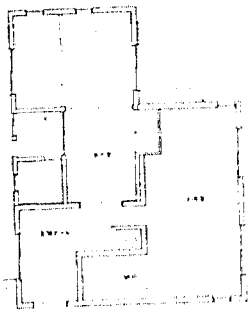


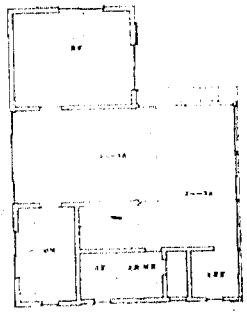


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
145	8308	光香	近藤春司	159	

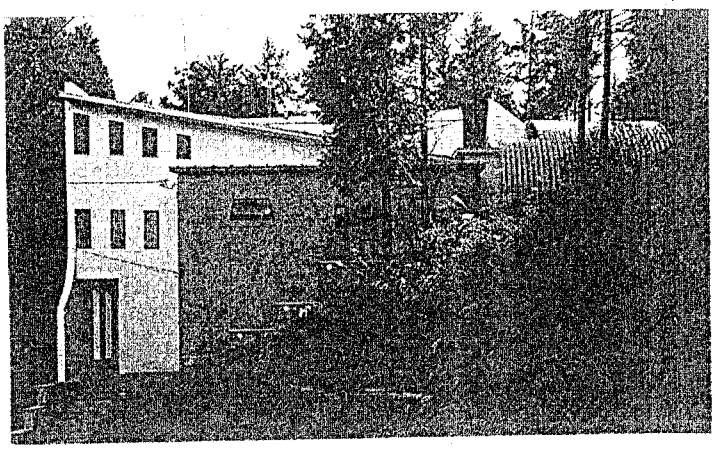


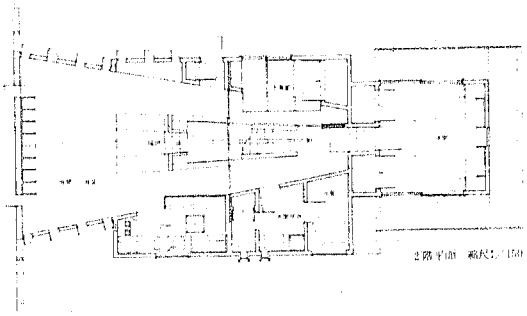


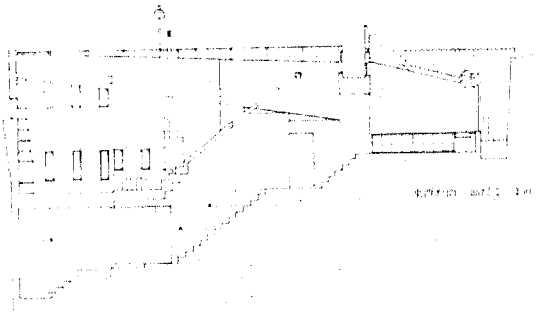




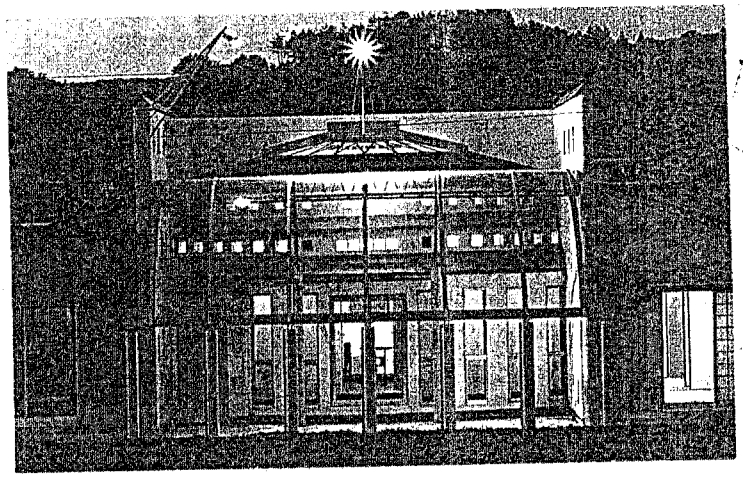
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
146	8312	花小金井の家	伊東豊雄	161	

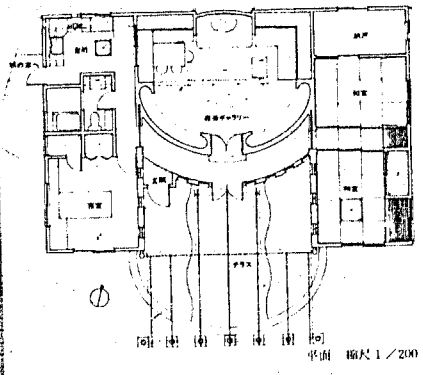




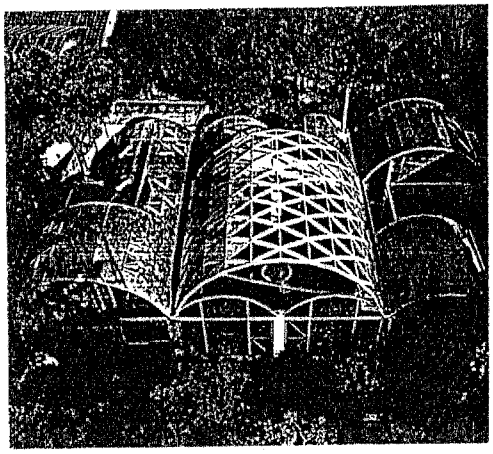


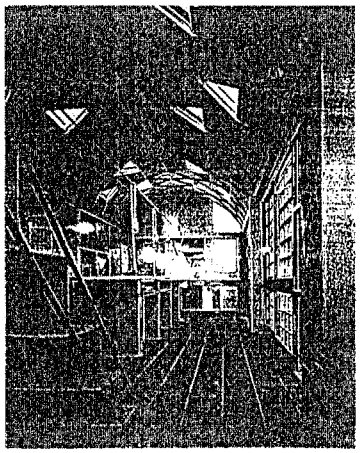
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
147	8312	ﾗﾝﾄﾞｼｯﾌﾟI・ｲﾘｽ	石山修武	163	

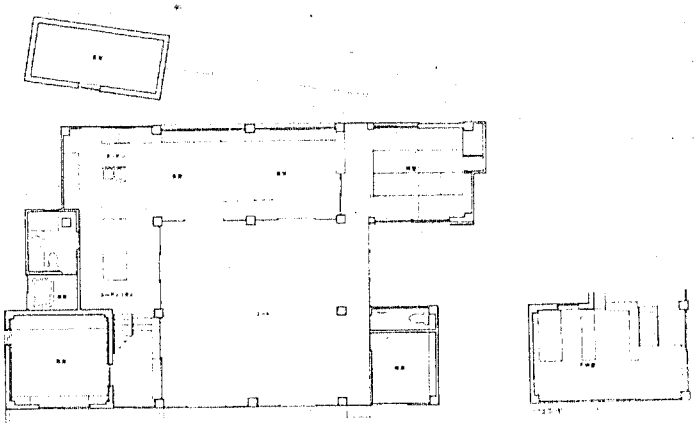




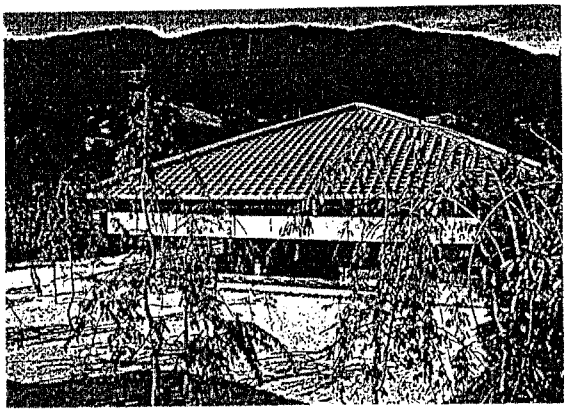
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
148	8407	ﾗﾝﾄﾞｼｯﾌﾟII・ひまわり	石山修武	168	57

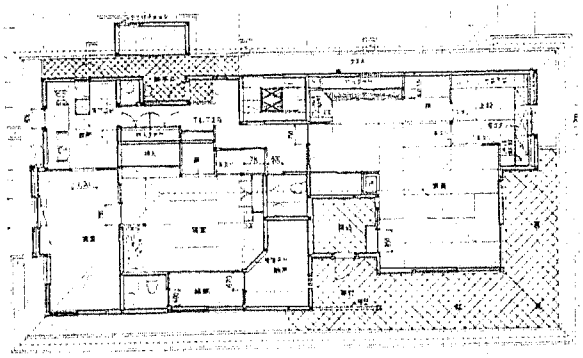




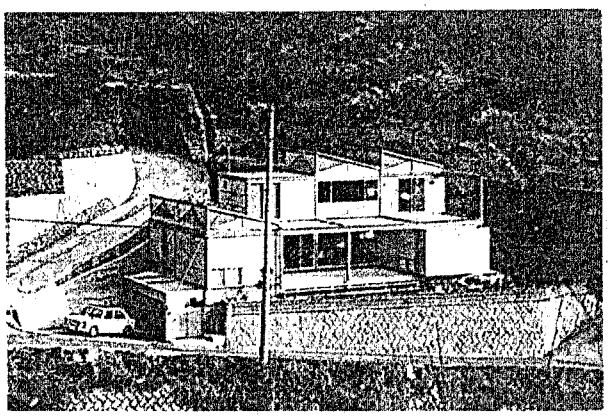


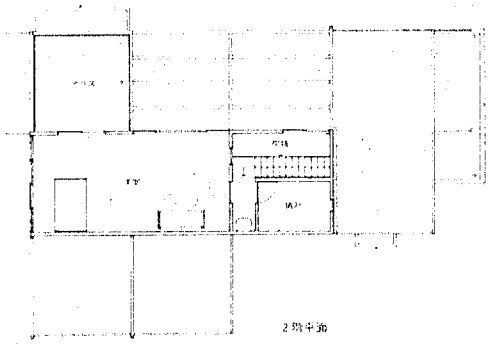
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
149	8501	ｼﾙﾊﾞｰﾊｯﾄ	伊東豊雄	169	58



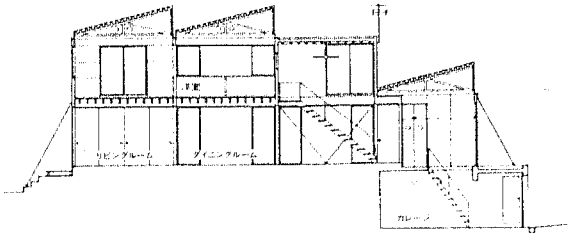


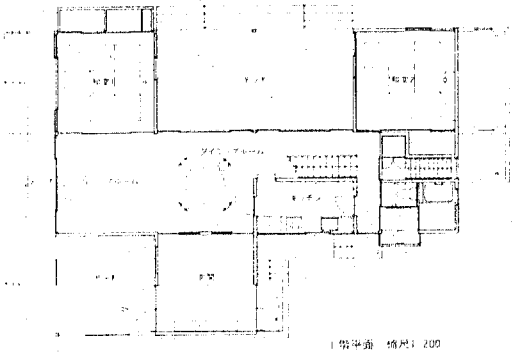
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
150	8502	雲伴居	白井晟一	170	





2階平面

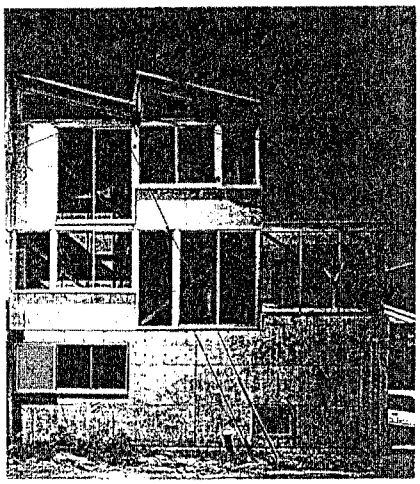


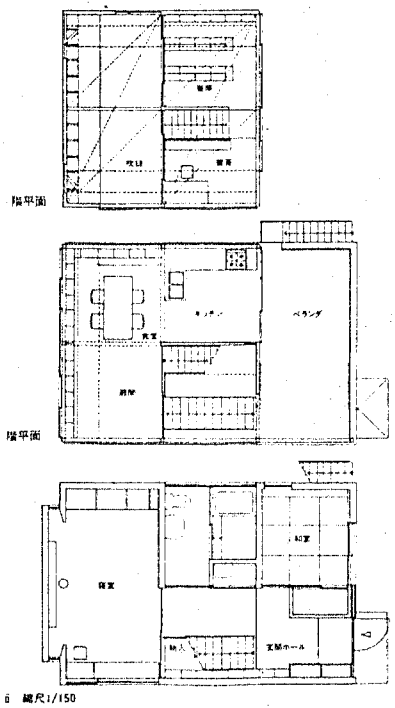


1階平面　縮尺1:200

断面　縮尺1:200

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
151	85春	浦崎の家	石田敏明	174	59



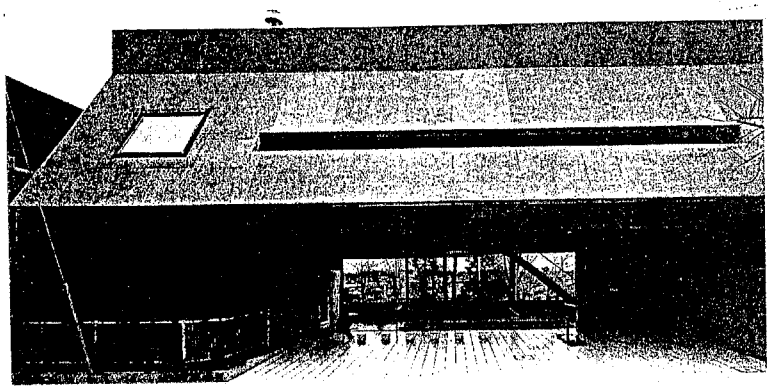


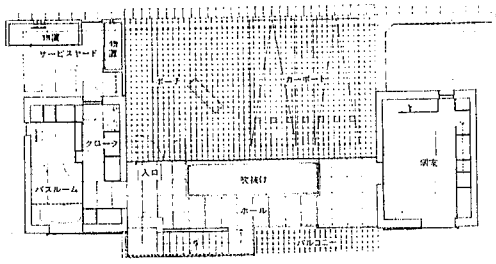
2階平面

1階平面

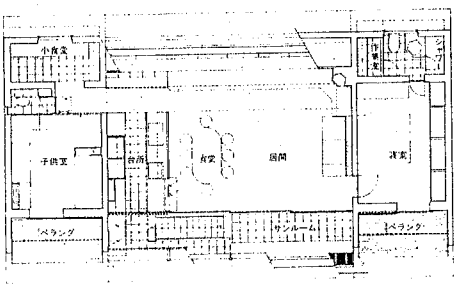
配置　縮尺1/150

No.	発表号	作品名	建築家名
152	8509	茅ヶ崎の家	石田敏明



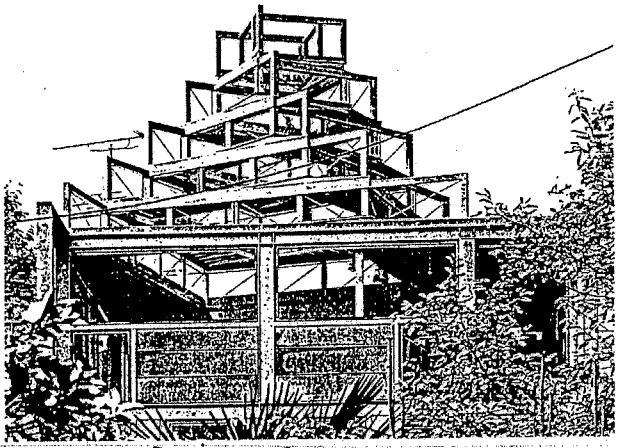


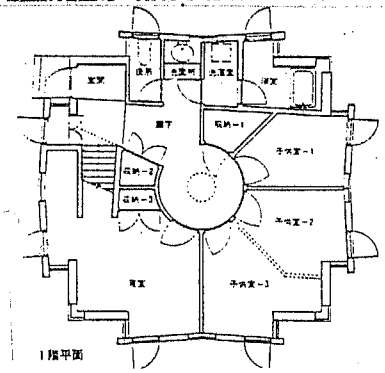
1階平面　縮尺 1：200



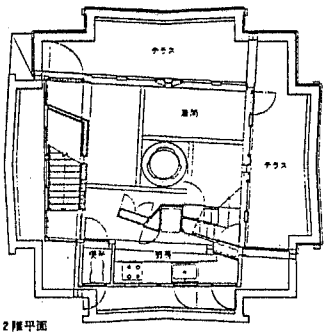
2階平面

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
153	8512	ｷﾞｬﾗﾘｰをもつ家	林　雅子	172	62

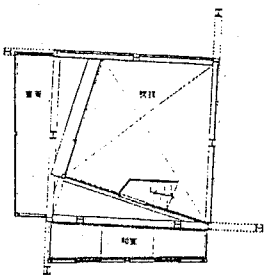




1階平面

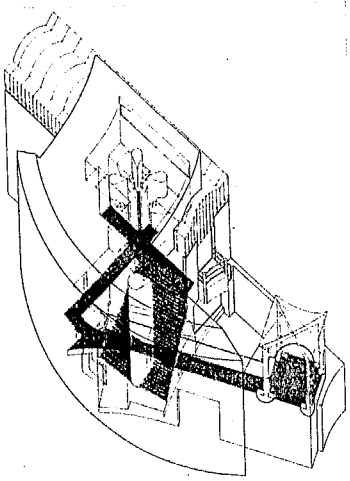


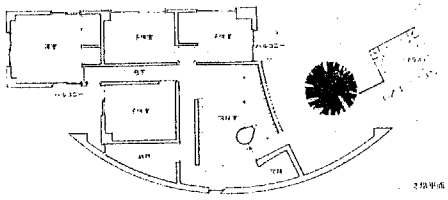
2階平面

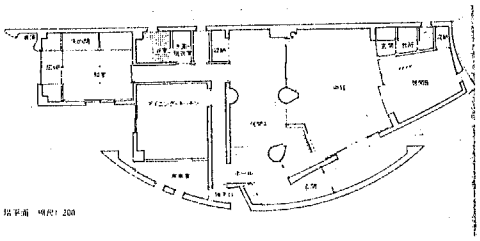


3階平面　縮尺1/150

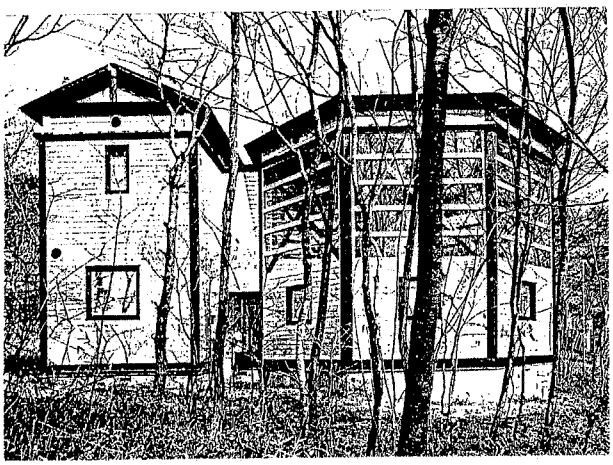
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
154	85冬	SPINNING HOUSE	石井和紘	175	

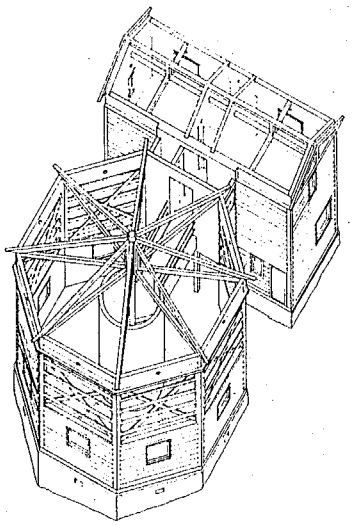


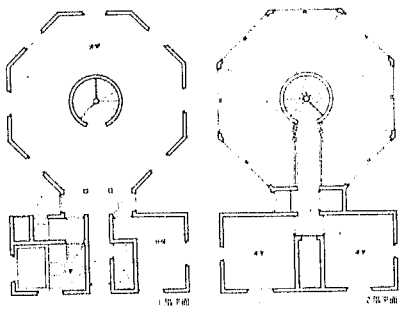




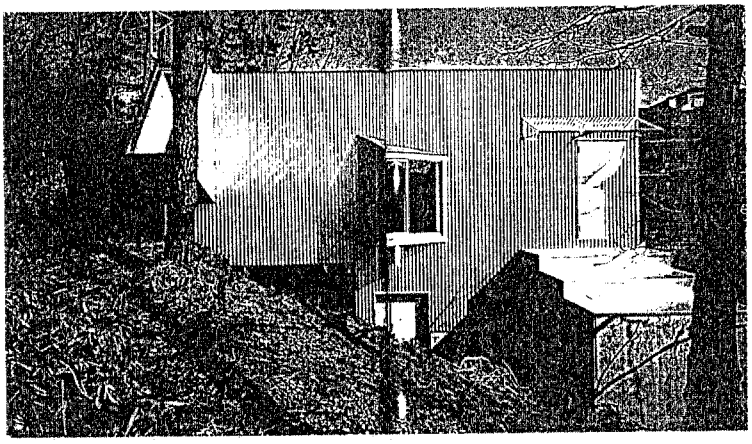
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
155	85冬	修学院の家II	高松　伸	176	61

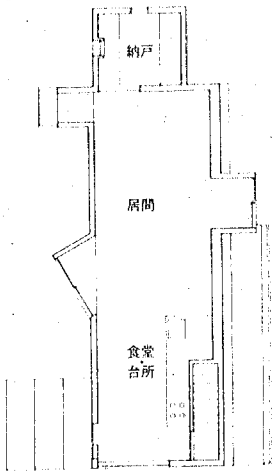




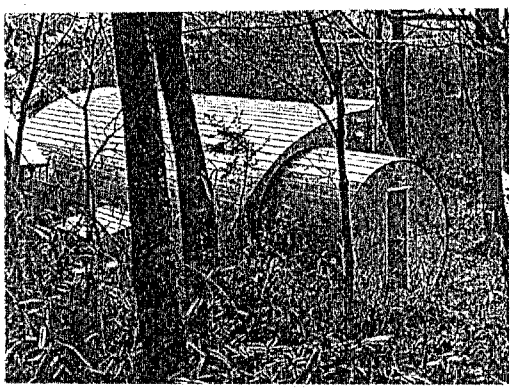


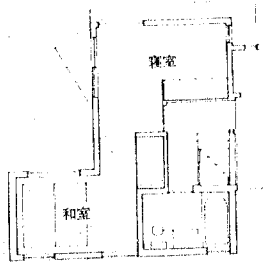
No.	発表号	作品名	建築家名
156	8605	ｳﾞｨﾗ森井	団　紀彦





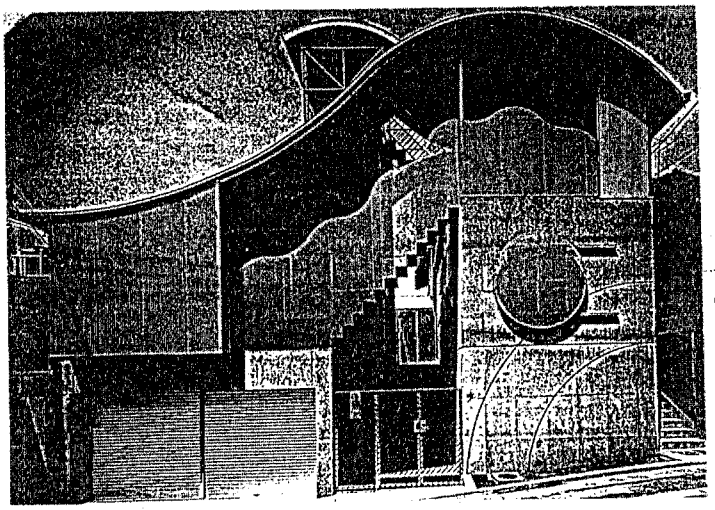
2階平面

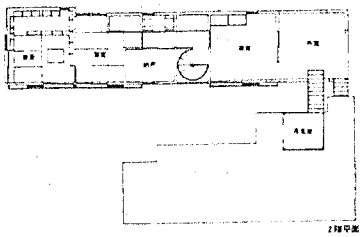


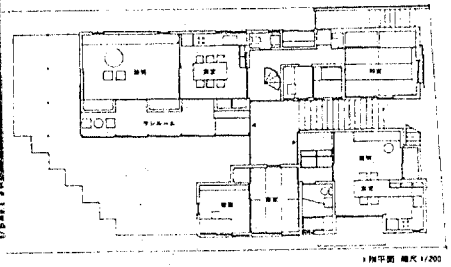


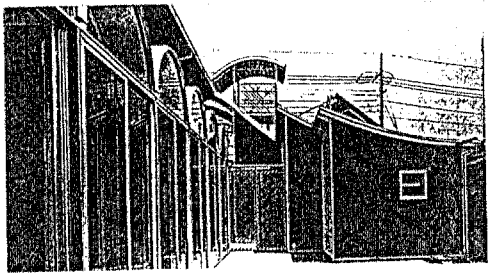
1階平面　縮尺1/200

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
157	8605	ハウス イン ヨコハマ	篠原一男	177	

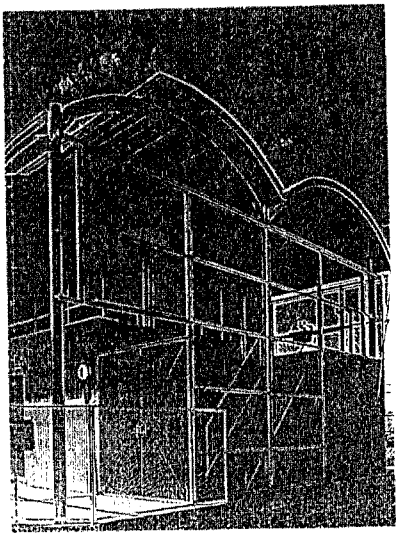


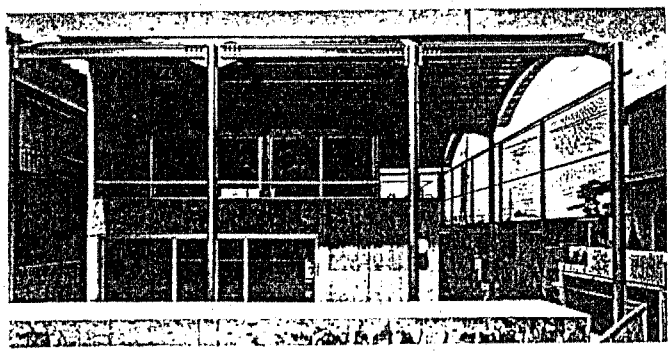


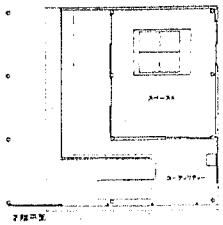


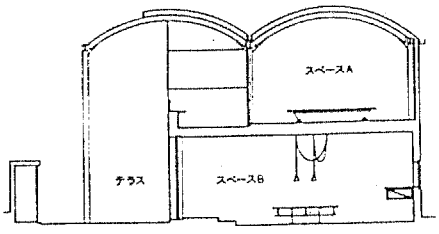


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
158	8609	練馬の住宅	長谷川逸子	179	63

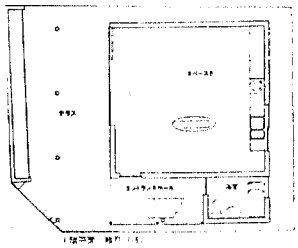




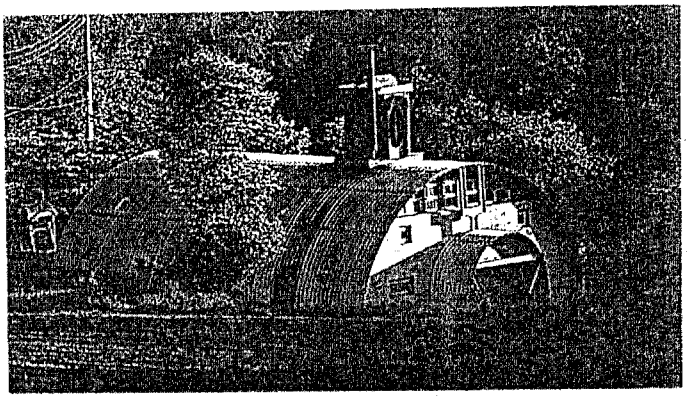


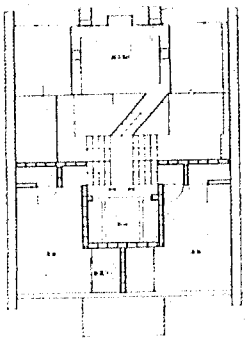


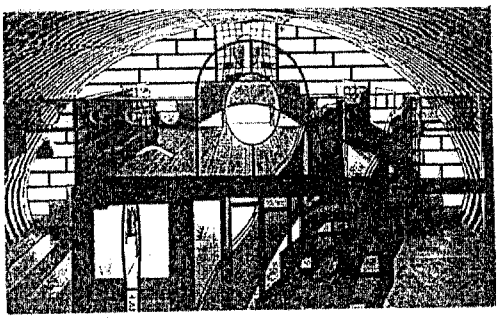
150

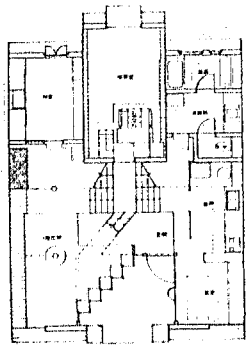


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
159	8609	馬込沢の家	伊東豊雄	180	64

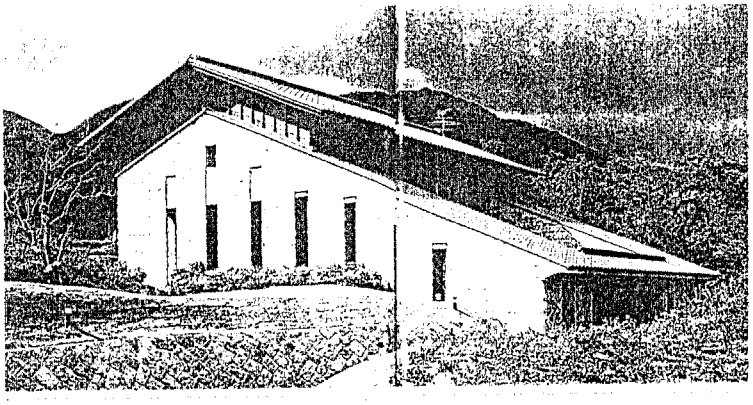


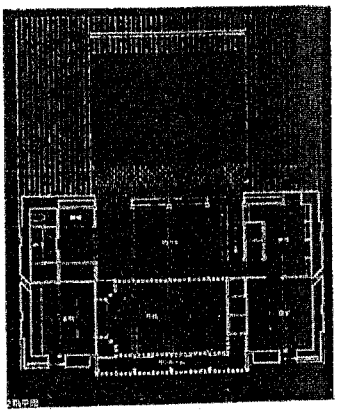


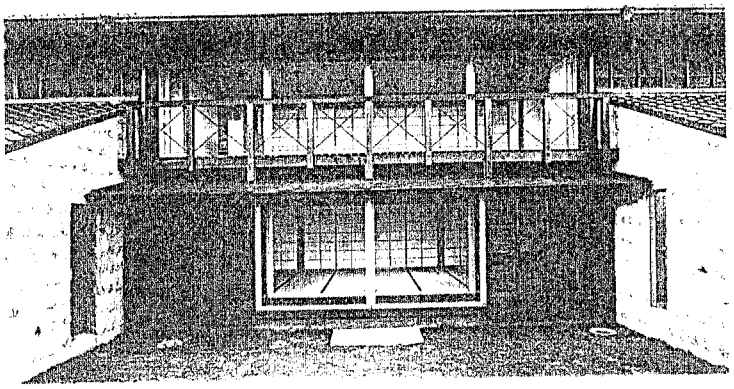


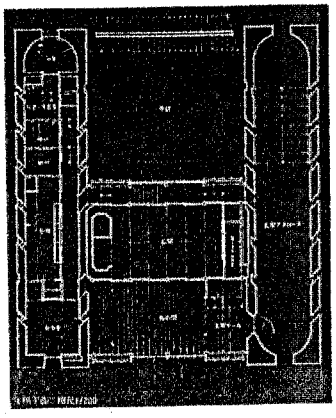


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
160	8610	開拓者の家	石山修武	181	

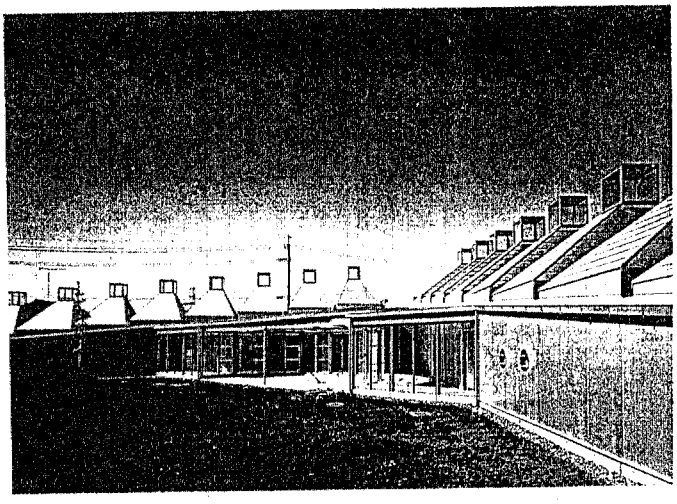


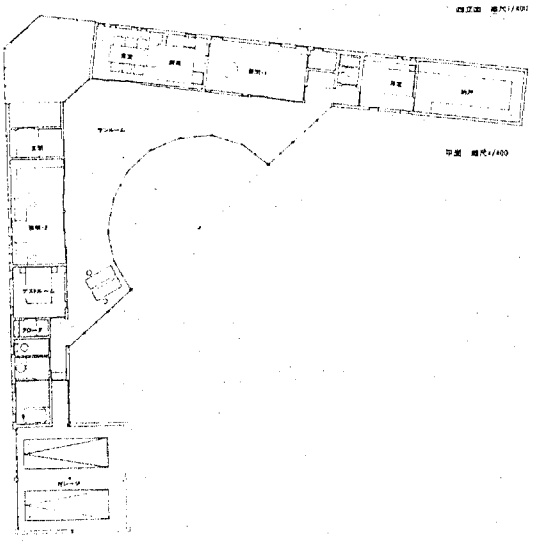




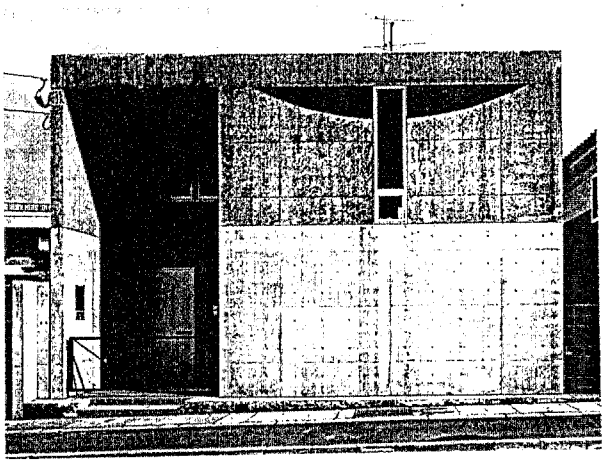


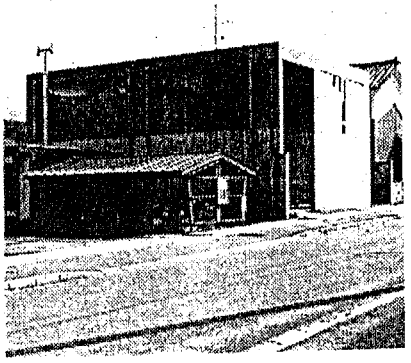
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
161	8612	屋久島の家	斎藤　裕	182	

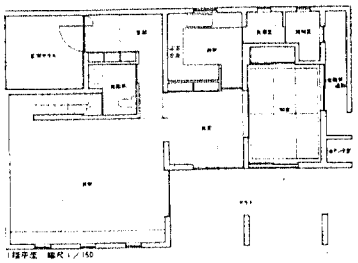


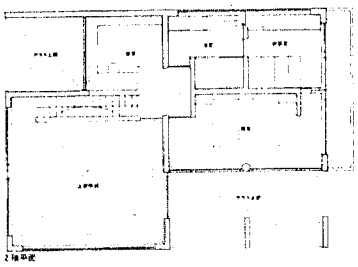


No.	発表号	作品名	建築家名
162	8701	熊本の住宅	長谷川逸子

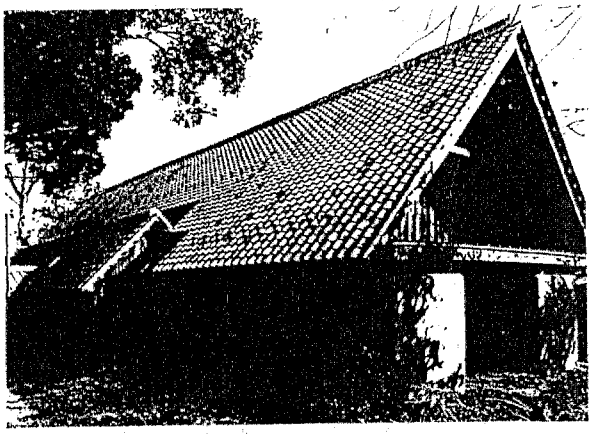


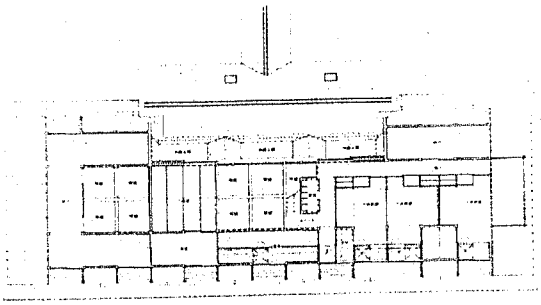


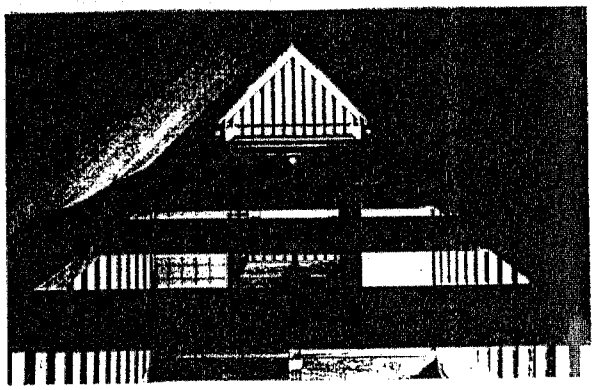


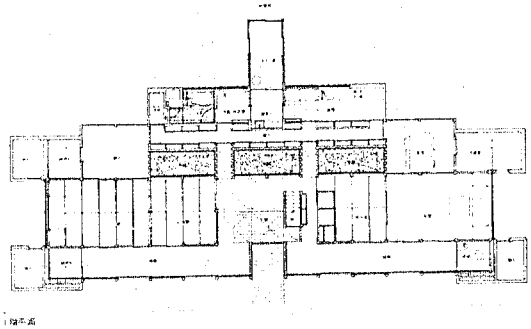


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
163	8702	福井・勝山の家	伊東　孝	184	65

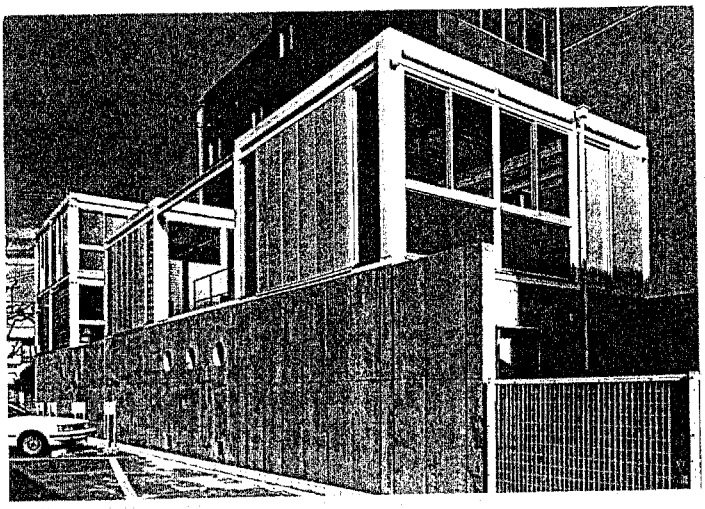


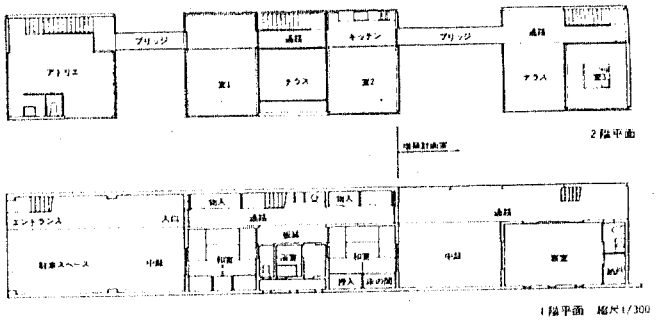




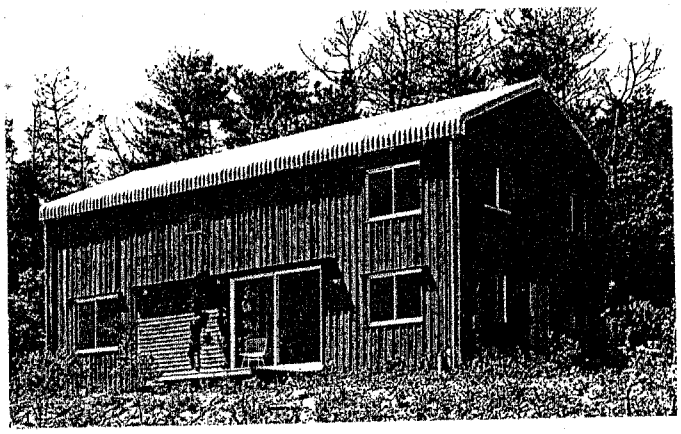


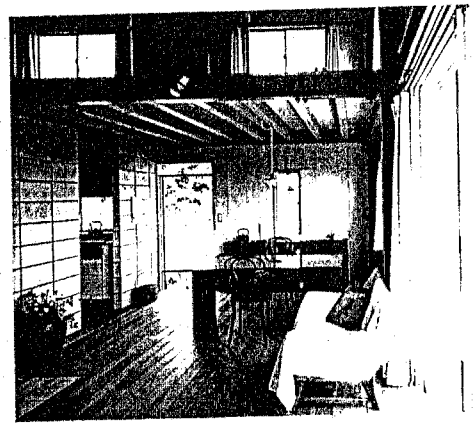
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
164	8705	練馬の家	斎藤　裕	185	

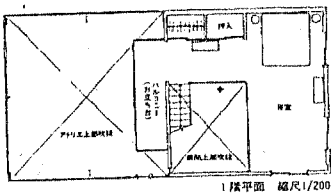


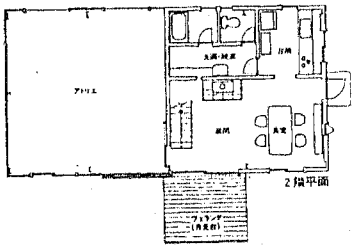


No.	発表号	作品名	建築家名
165	8705	SHIP1987	祖父江義郎他

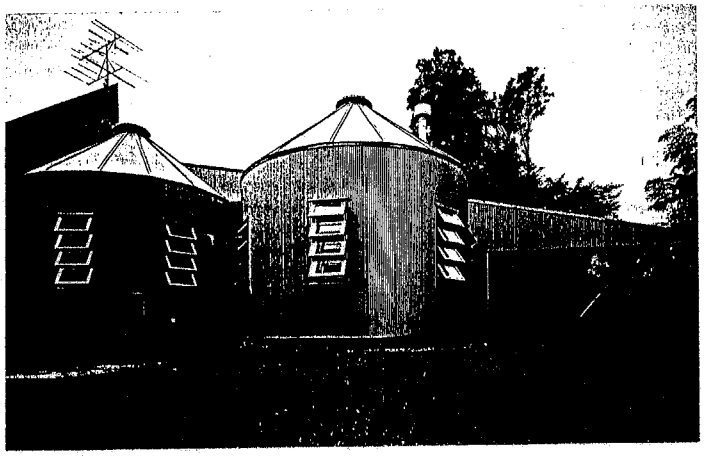


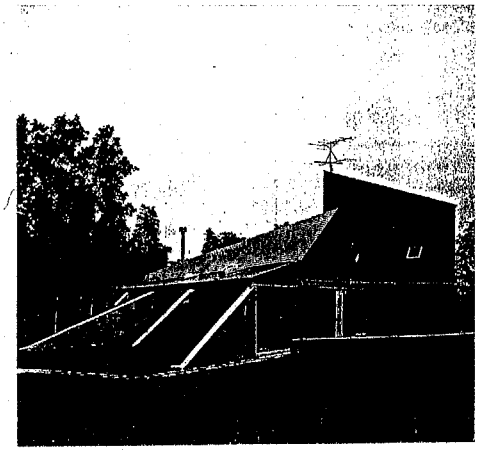


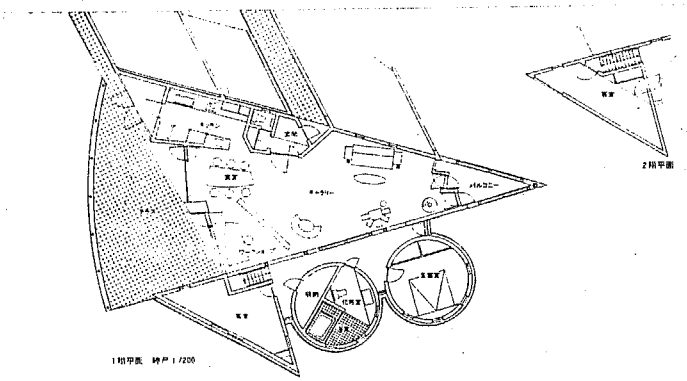


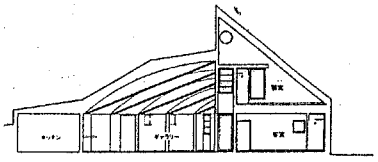


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
166	8709	秋穂のアトリエ	中村好文	188	

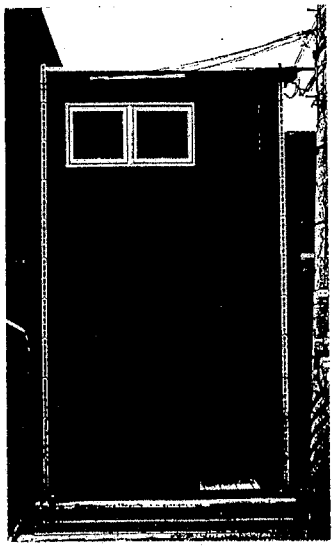


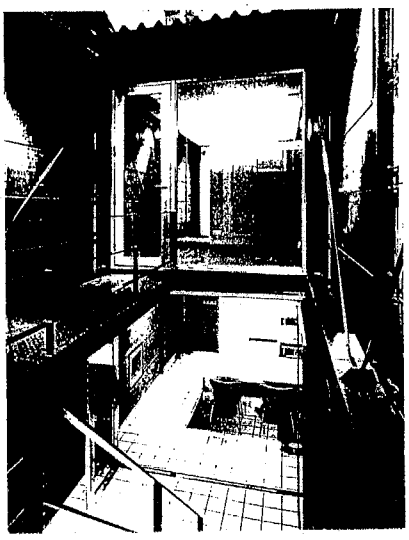


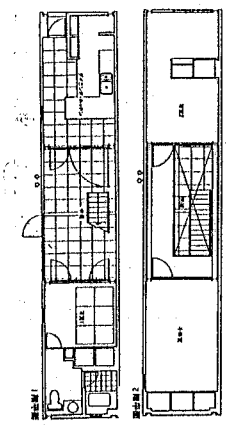




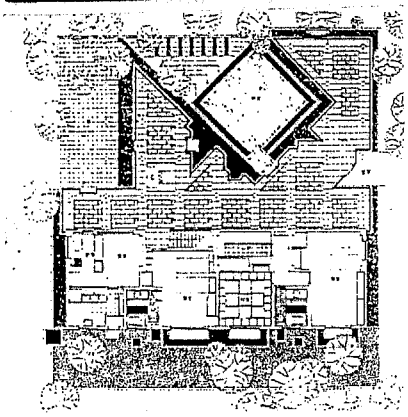
No.	発表号	作品名	建築家名
167	8710	INSCRIPTION	松永安光

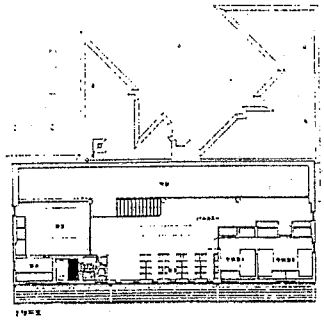




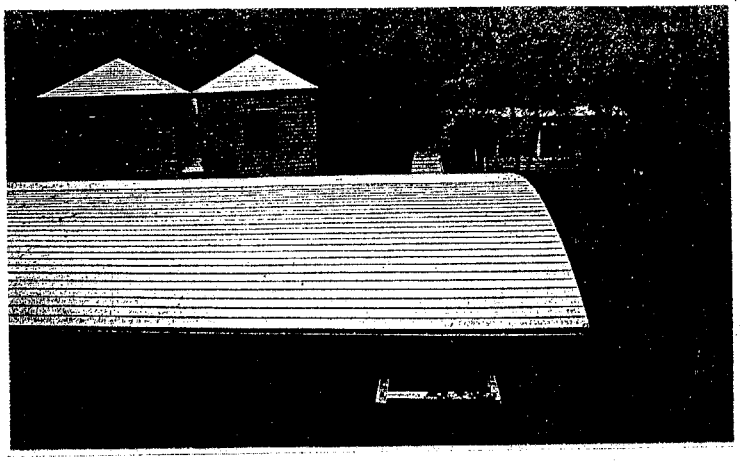


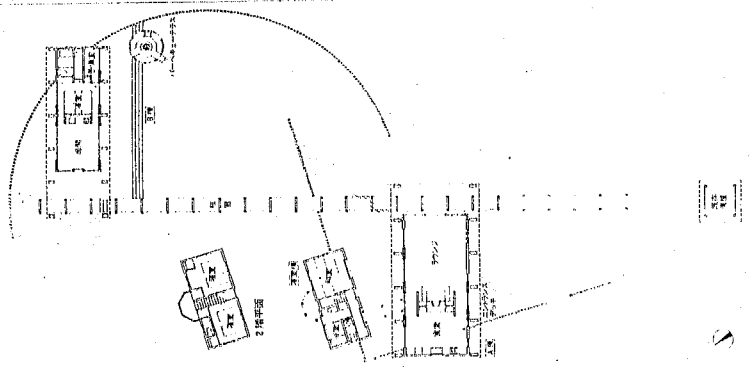
No.	発表号	作品名	建築家名
168	8710	KIM HOUSE	岸　和郎



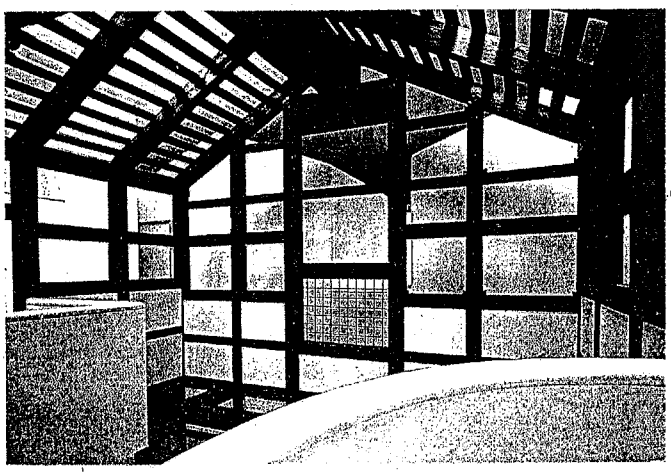


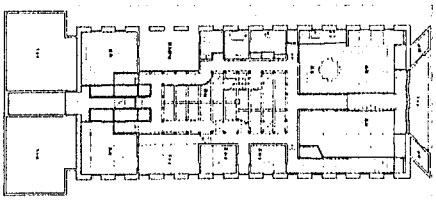
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
169	8711	虔十公園林フォリストハウス	原　広司	189	

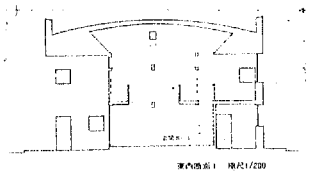


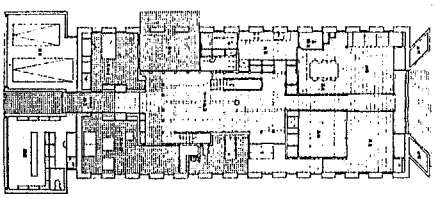


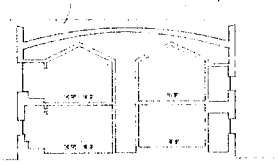
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
170	8801	軽井沢の別荘	アモルフ	190	



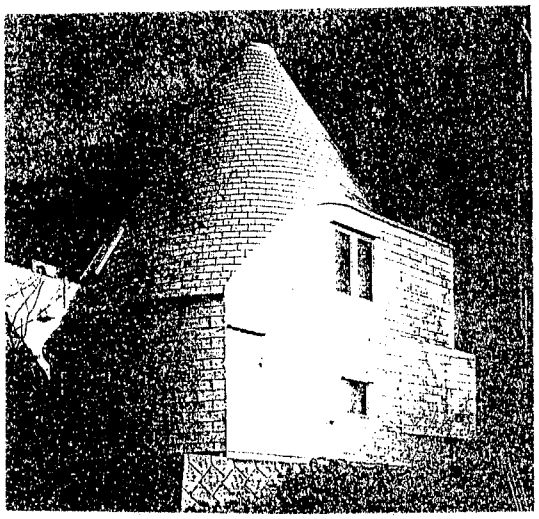


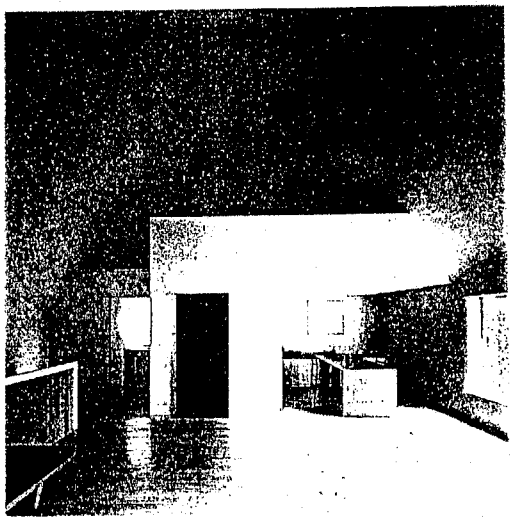


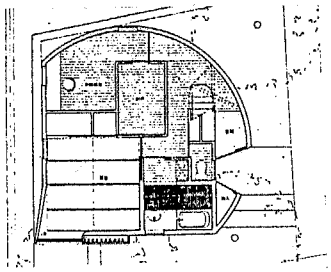


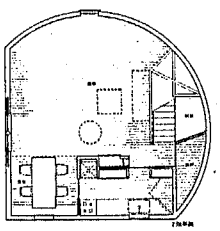


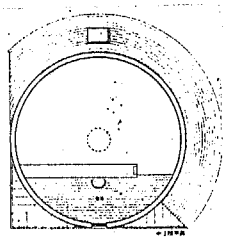
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
171	8803	雪中居	斎藤　裕	191	

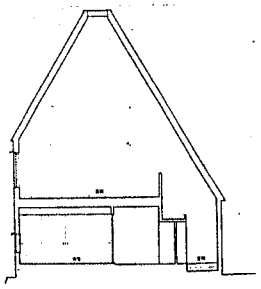




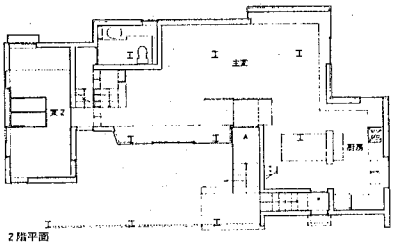




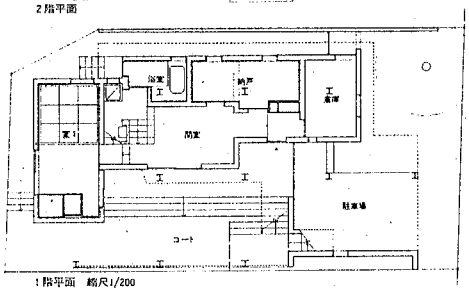




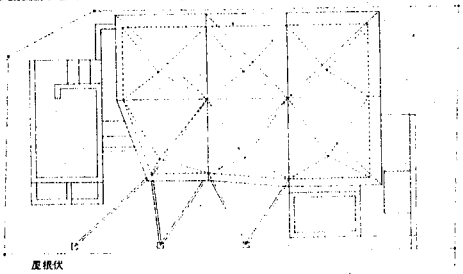
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
172	8806	葉山の家	斉藤　裕	192	



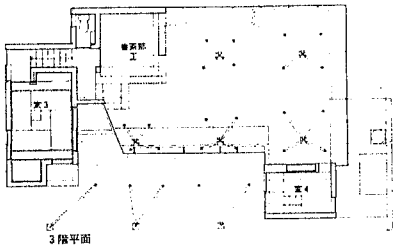
2階平面



1階平面　縮尺1/200

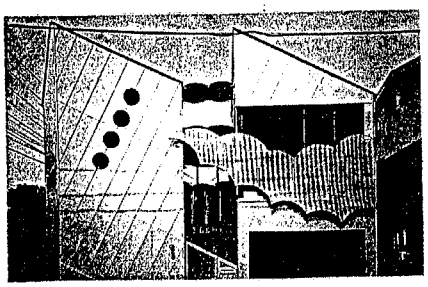


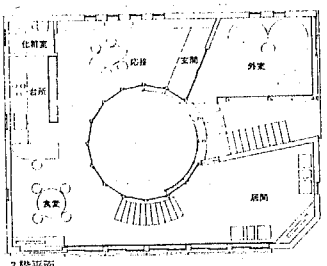
屋根伏



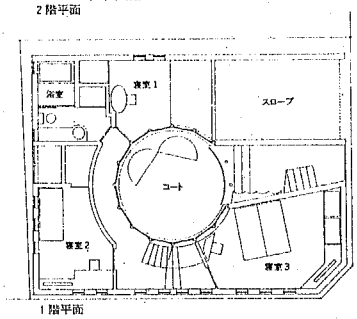
3階平面

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
173	8809	HOUSE F	坂本一成	193	69



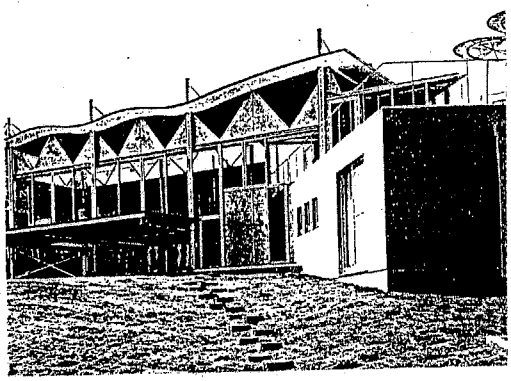


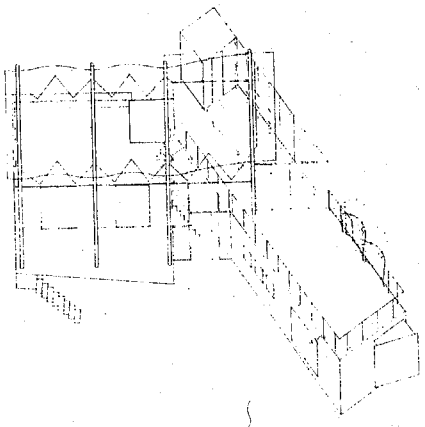
2階平面

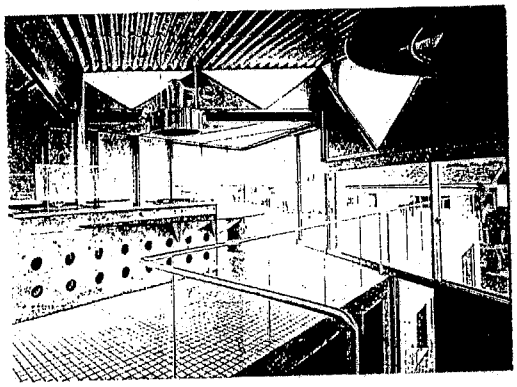


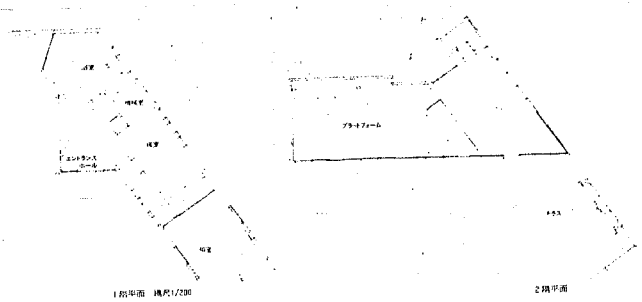
1階平面

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
174	8810	尾山台の住宅	長谷川逸子	194	71

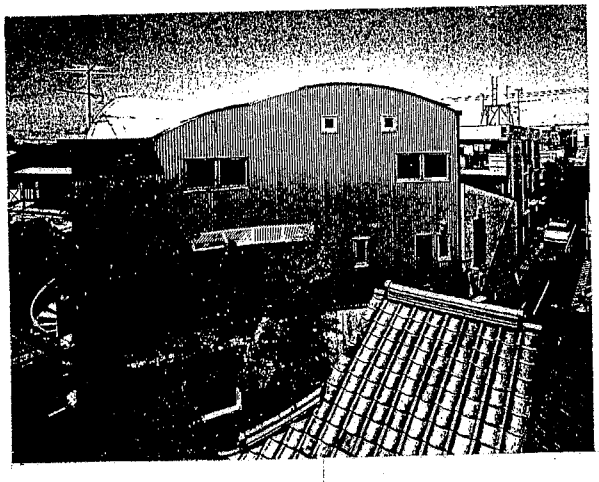


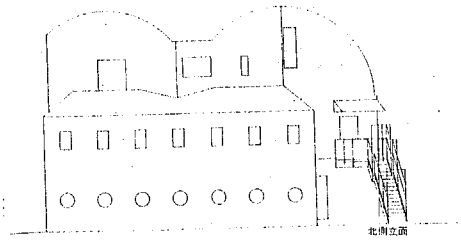


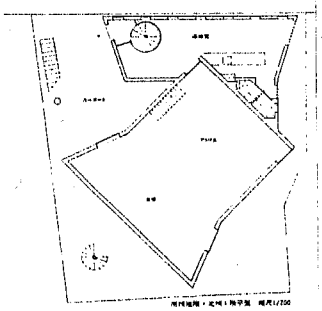


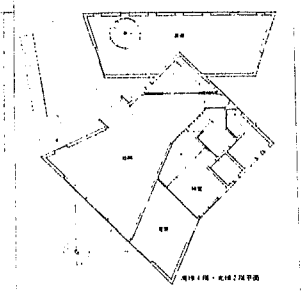


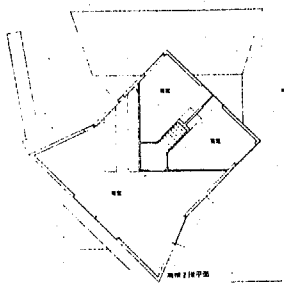
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
175	8810	PLATFORM	妹島和世	195	



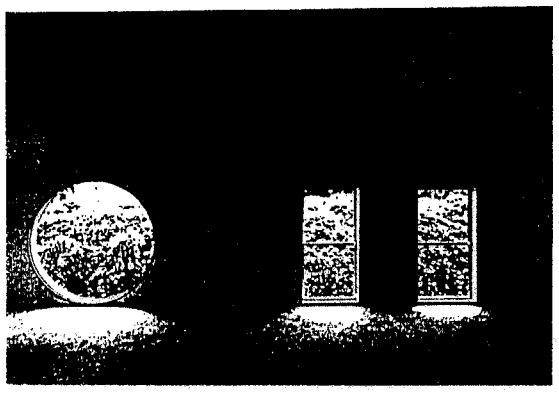


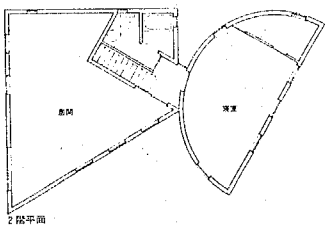


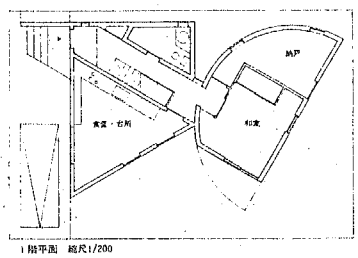




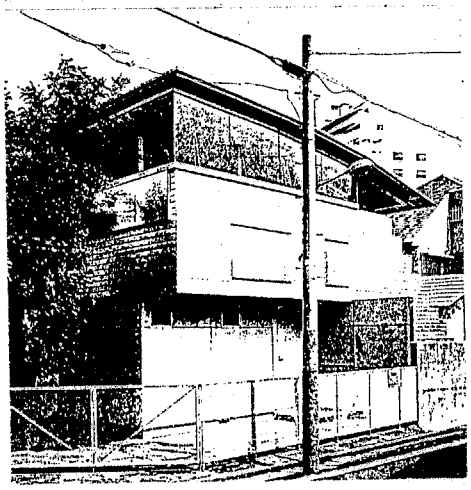
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
176	8810	ﾊﾈｷﾞｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ	篠原一男	196	

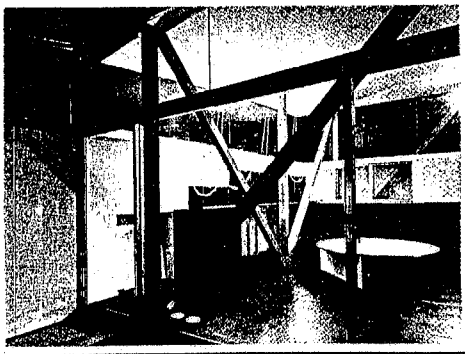


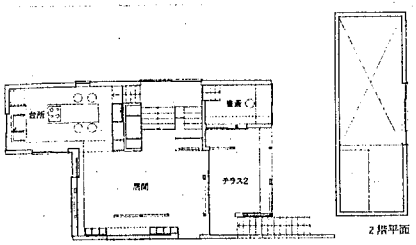


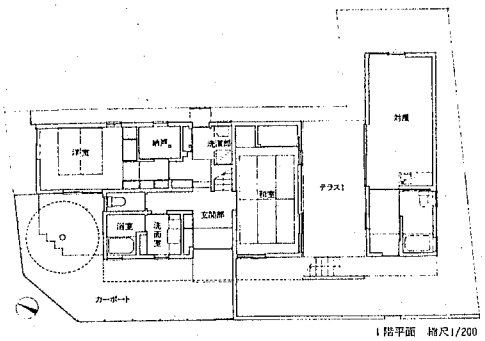


No.	発表号	作品名	建築家名
177	8810	ﾃﾝﾒｲ・ﾊｳｽ	篠原一男

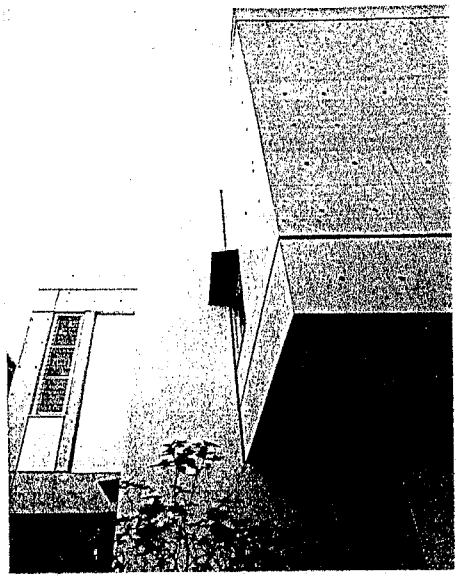


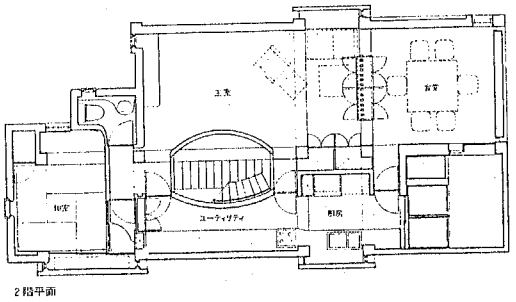




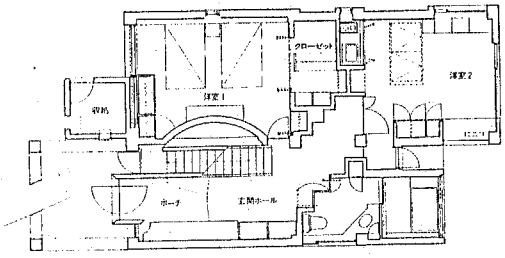


No.	発表号	作品名	建築家名
178	8811	椎名町の住宅	奥山信一



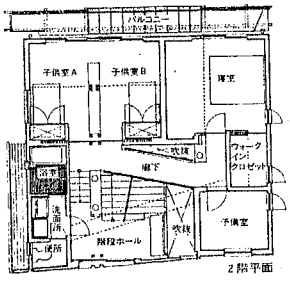


2階平面

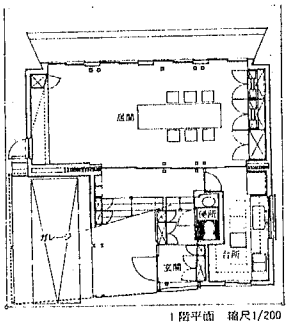


1階平面　縮尺1/150

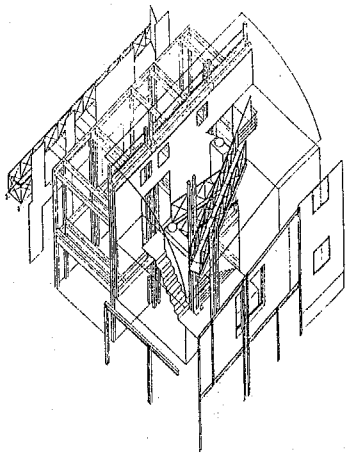
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
179	8902	洗足の家	横河　健	198	72



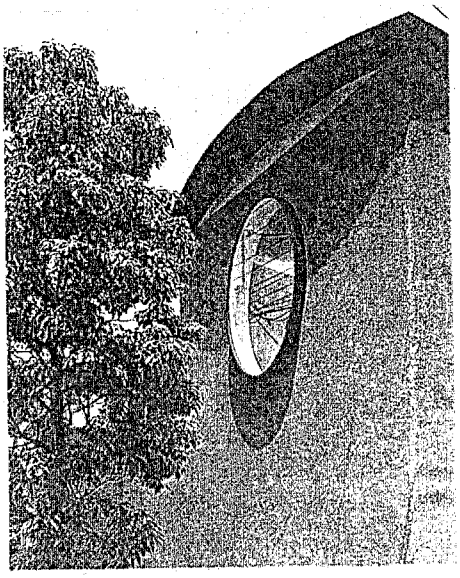
2階平面

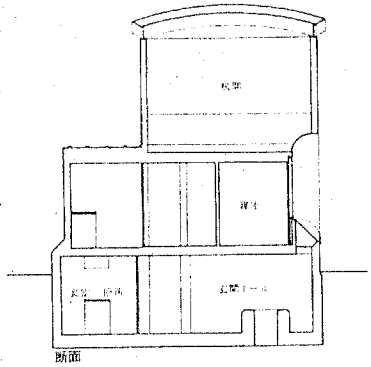


1階平面　縮尺1/200

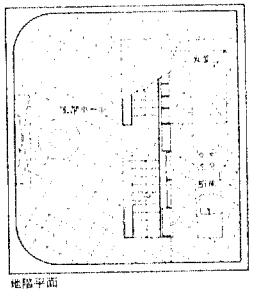


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
180	8905	物質試行26	鈴木了二	199	73

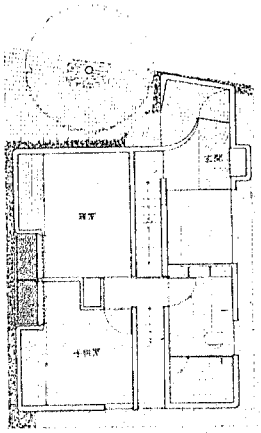




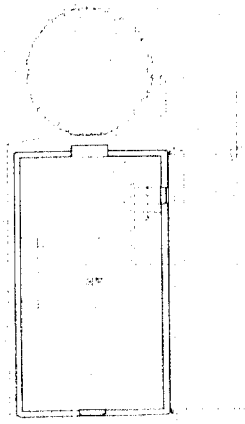
断面



地階平面

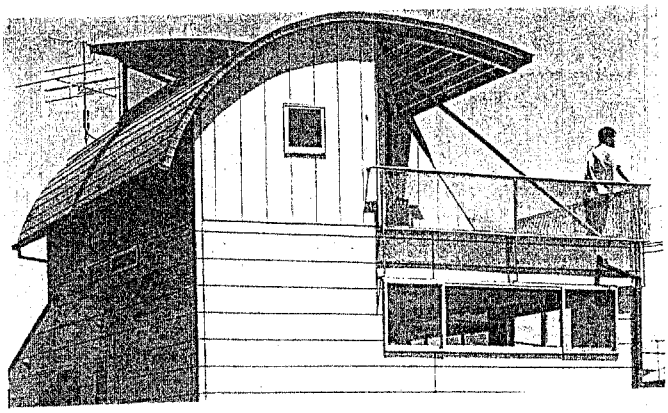


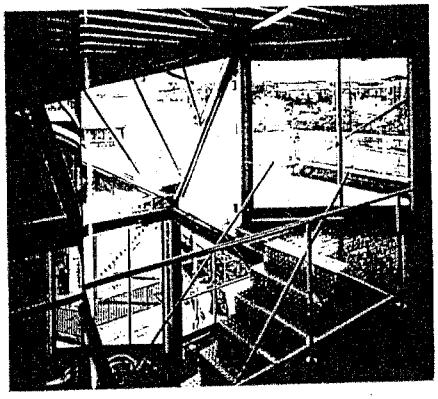
1階平面

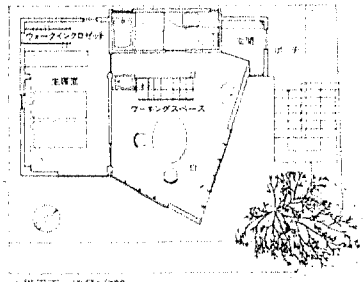


2階平面　縮尺1:100

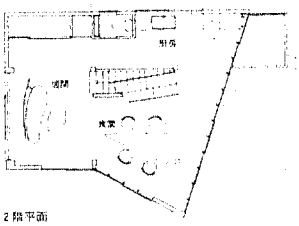
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
181	8908	ちめんかのや	斉藤　裕	200	



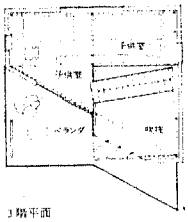




1階平面　縮尺1/200

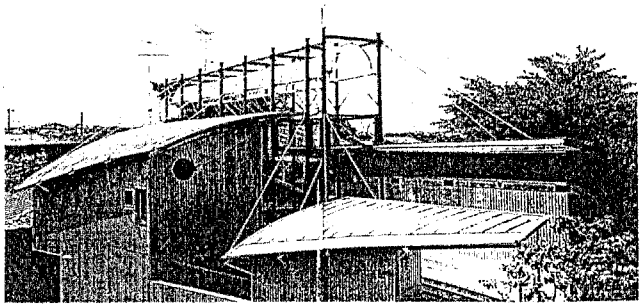


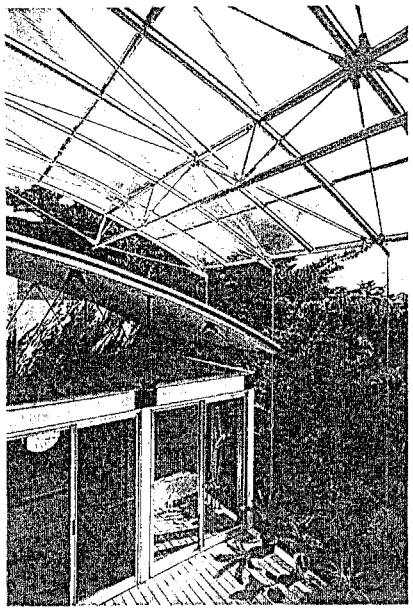
2階平面

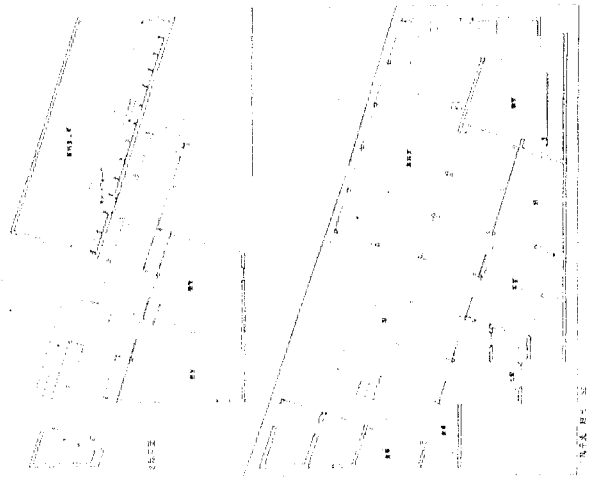


3階平面

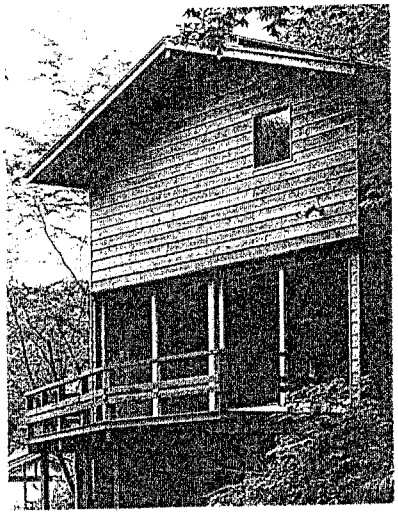
No.	発表号	作品名	建築家名
182	8908	Transit	石田敏明

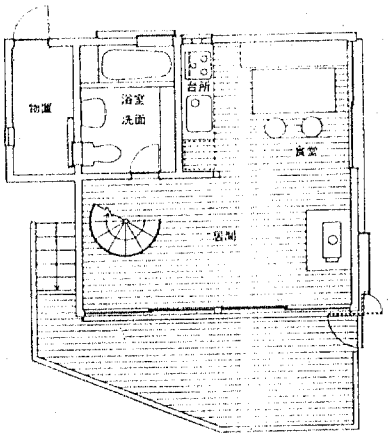


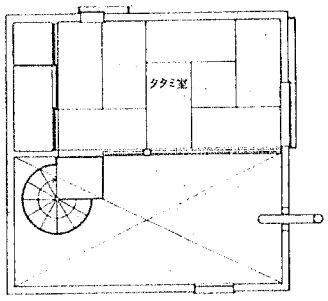




No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
183	8909	若槻邸	山本理顕	202	74

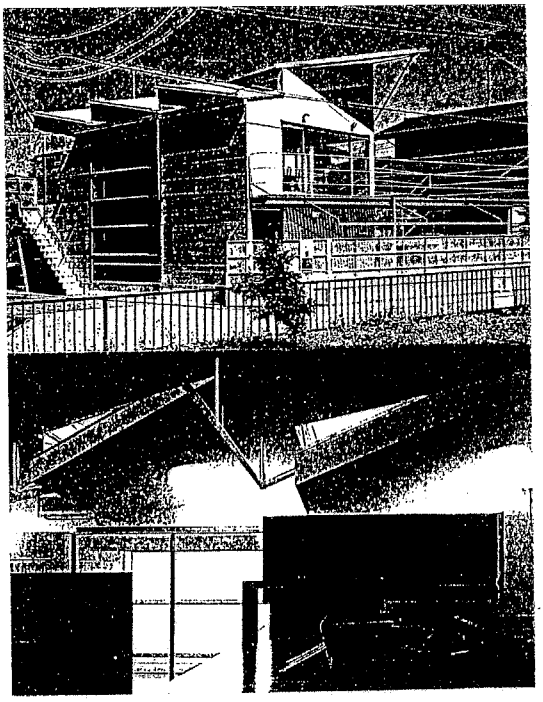


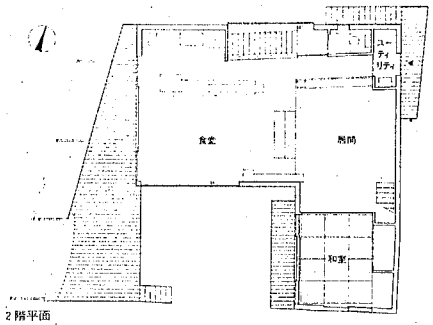




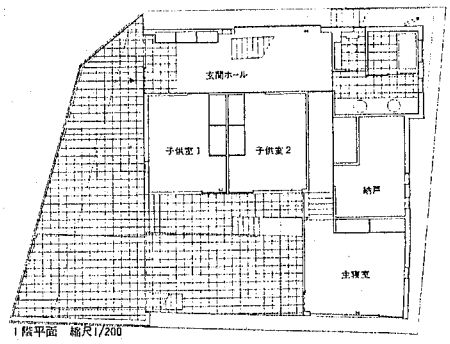
2階平面

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
184	8909	芹ヶ沢の山荘	中村好文	201	



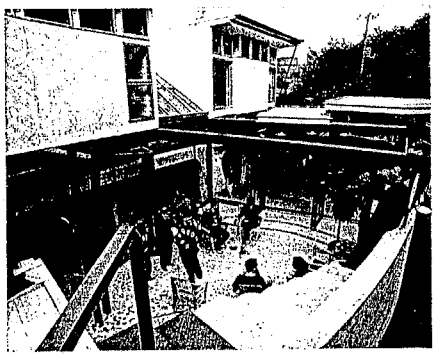


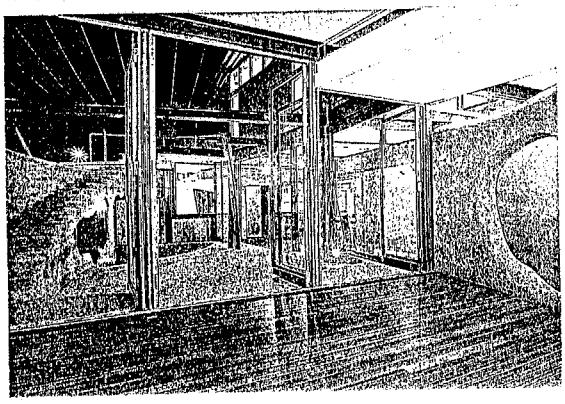
2階平面

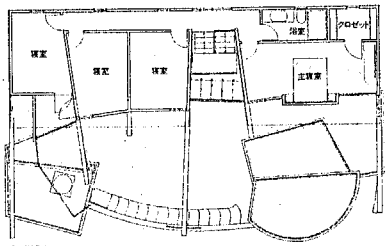


1階平面　縮尺1/200

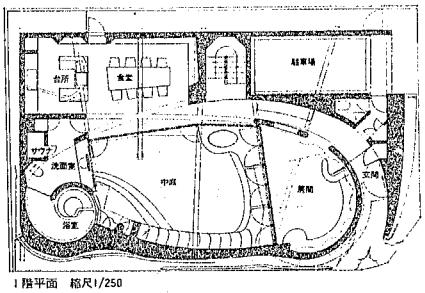
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
185	8911	千葉の住宅	入江経一	203	





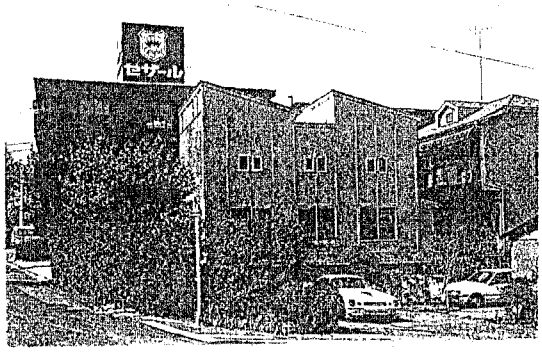


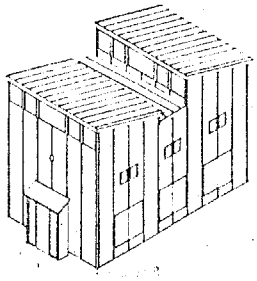
2階平面

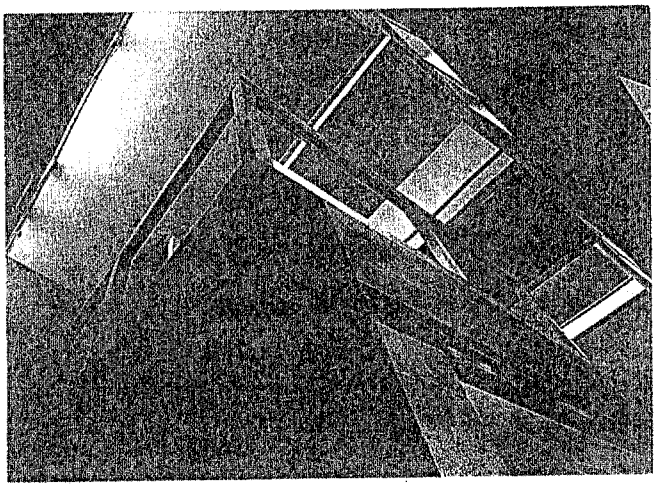


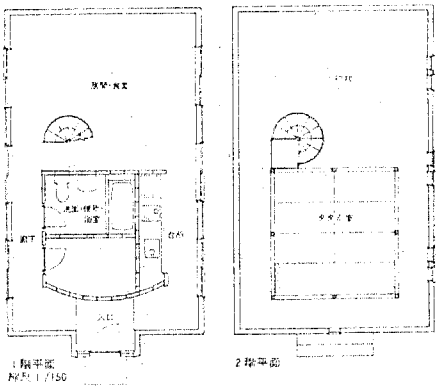
1階平面　縮尺1/250

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
186	9001	ECHO CHAMBER	ｳｼﾀﾞ・ﾌｨﾝﾄﾞﾚｲ		75

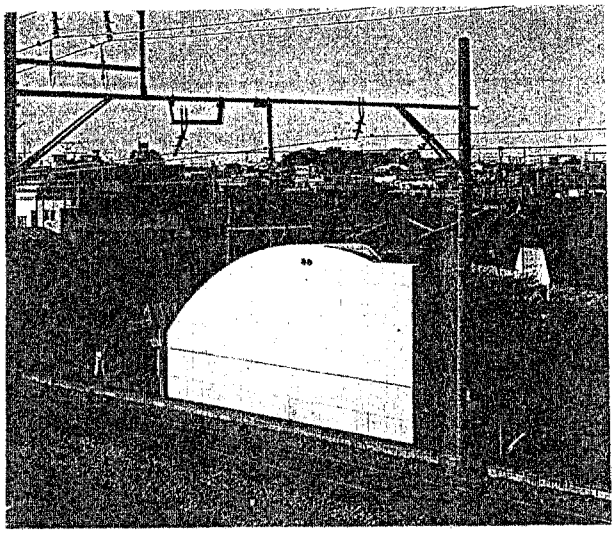


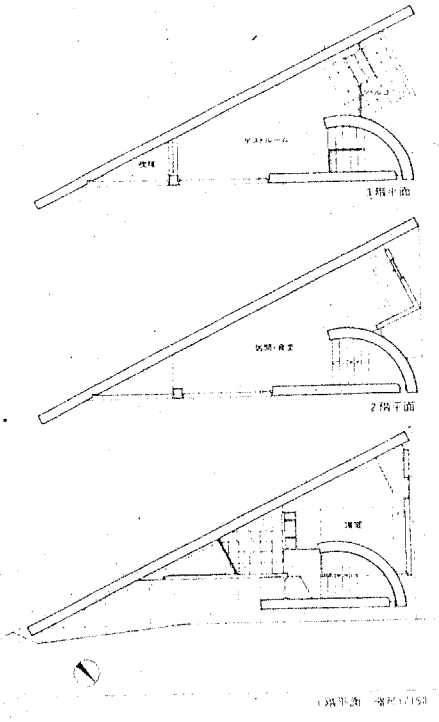




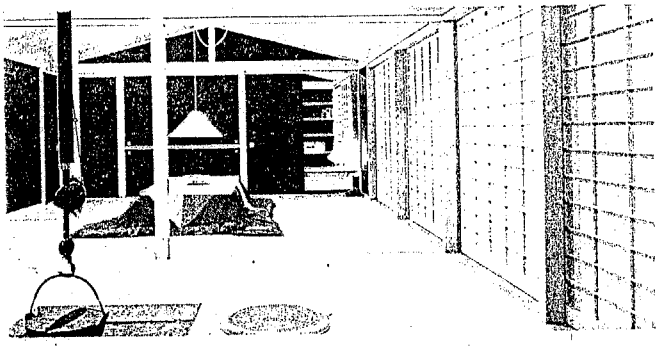


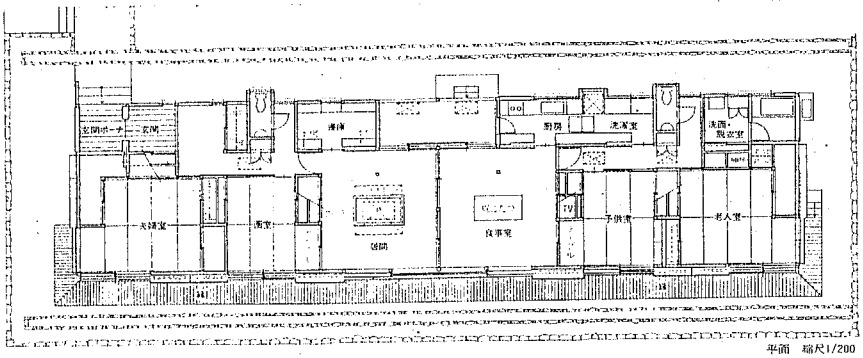
No.	発表号	作品名	建築家名
187	9001	馬絹の住宅	中村好文





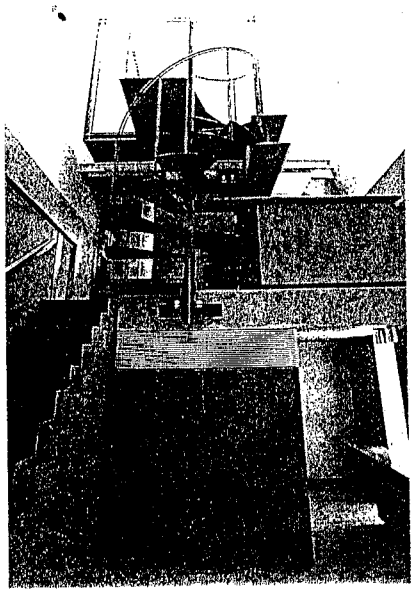
No.	発表号	作品名	建築家名
188	9001	緑ヶ丘の住宅	アモルフ

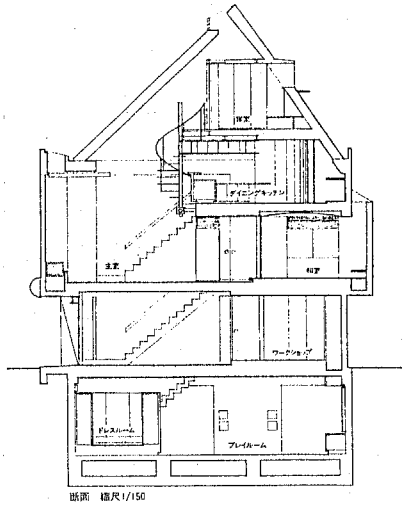




平面　縮尺1/200

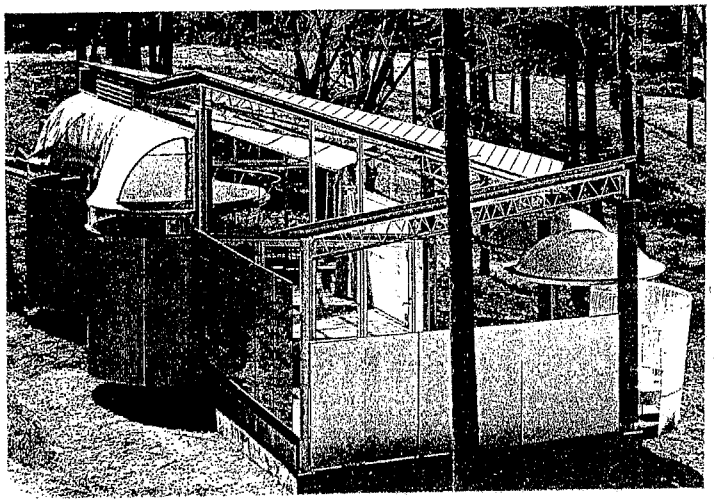
No.	発表号	作品名	建築家名
189	9002	I氏邸	高須賀晋

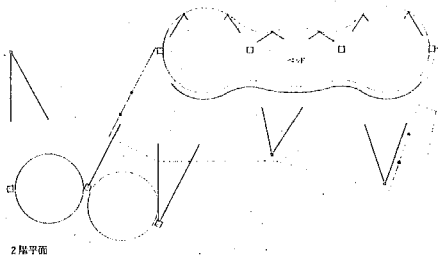




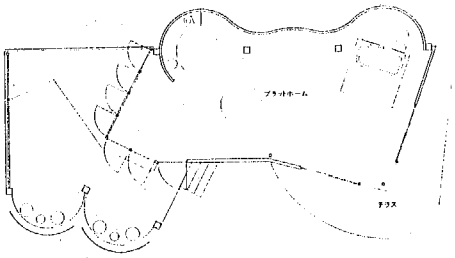
断面　縮尺1/150

No.	発表号	作品名	建築家名
190	9003	COSMOS	横河　健

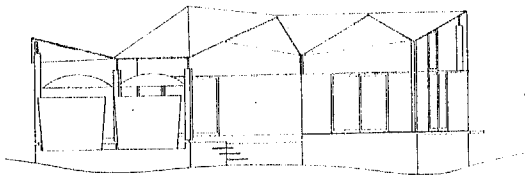




2階平面

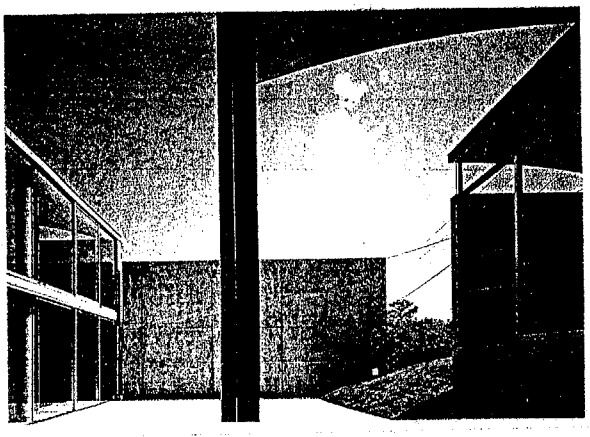


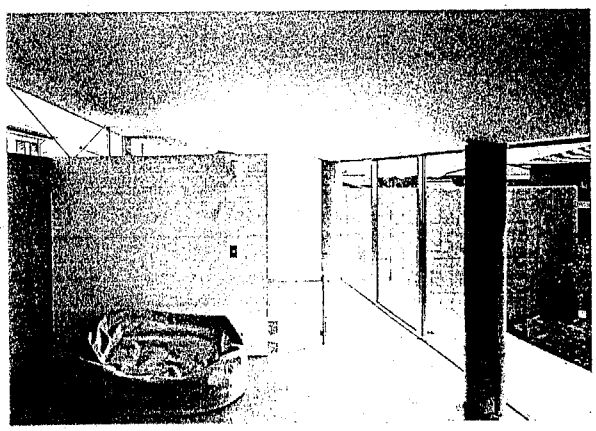
1階平面　縮尺1/150

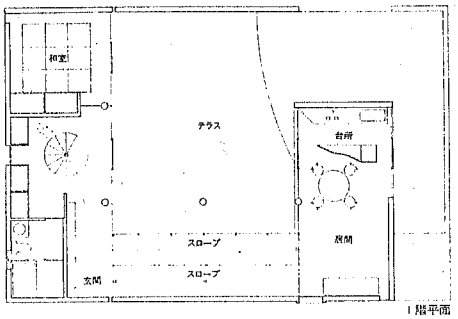


西立面

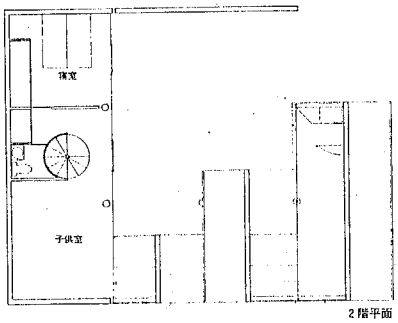
No.	発表号	作品名	建築家名
191	9007	PLATFORM2	妹島和世





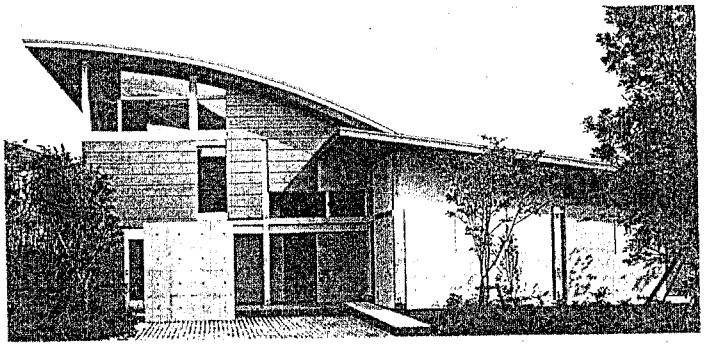


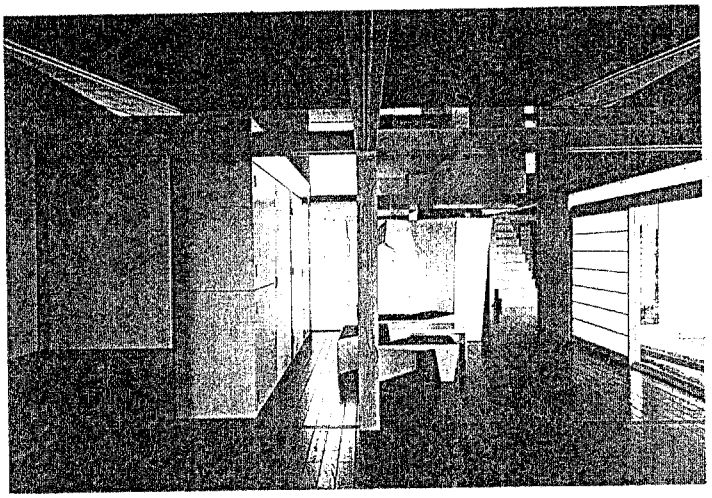
1階平面

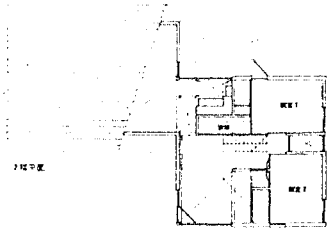


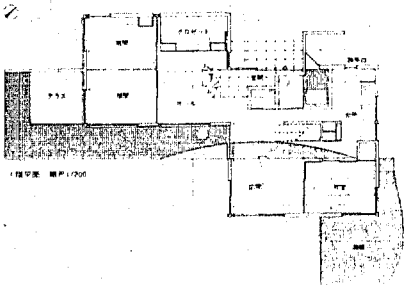
2階平面

No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
192	9008	阿品の家	村上　徹		76

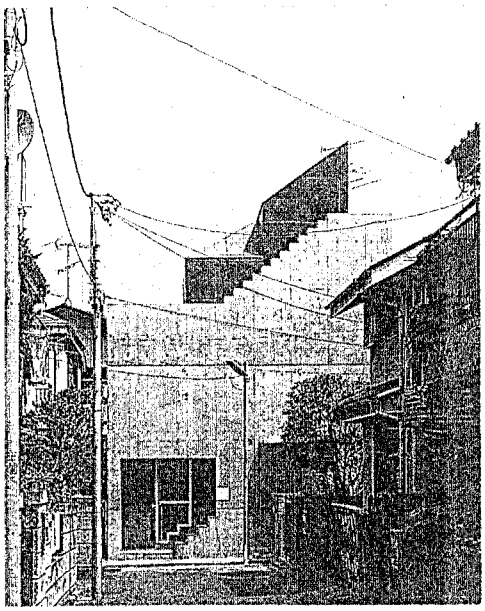


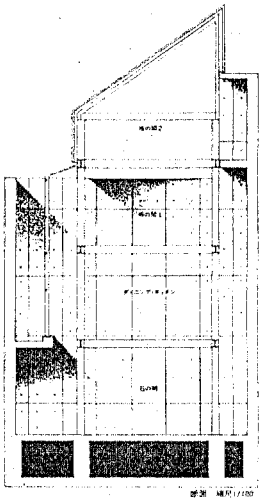




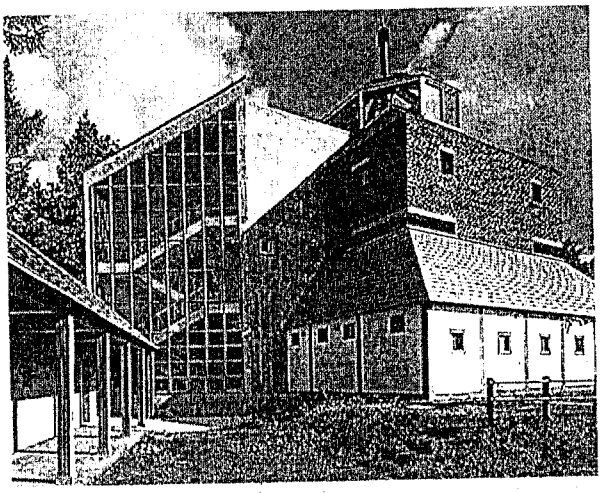


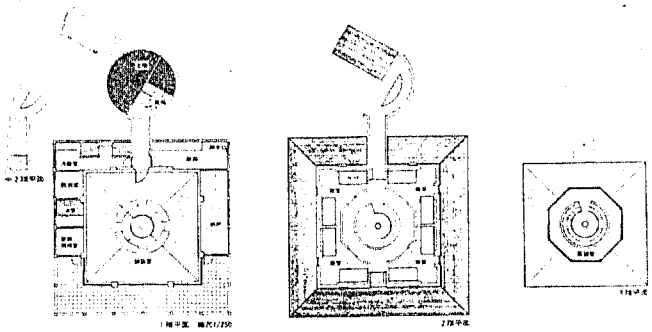
No.	発表号	作品名	建築家名
193	9008	狐ヶ城の家	古谷誠章



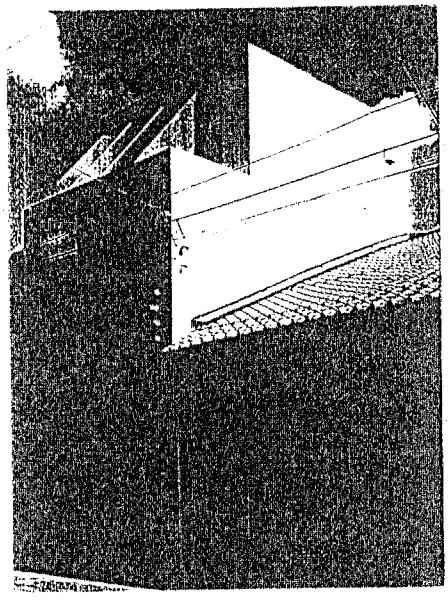


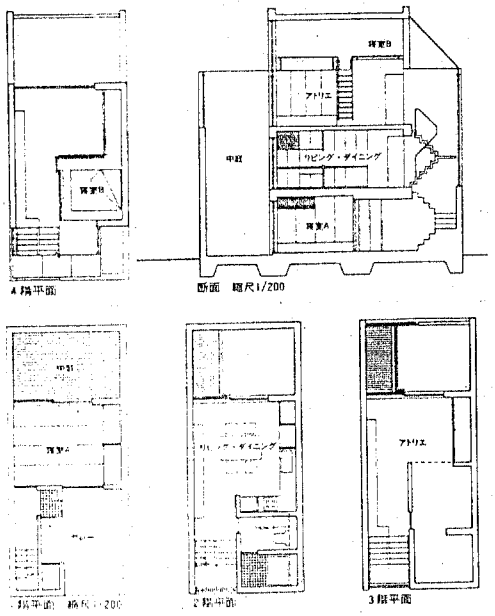
No.	発表号	作品名	建築家名
194	9010	桜丘の家	ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ



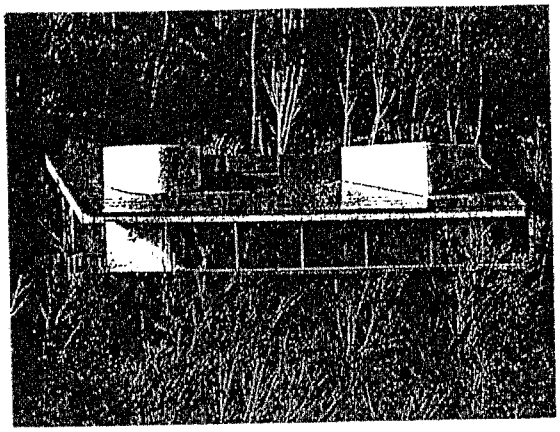


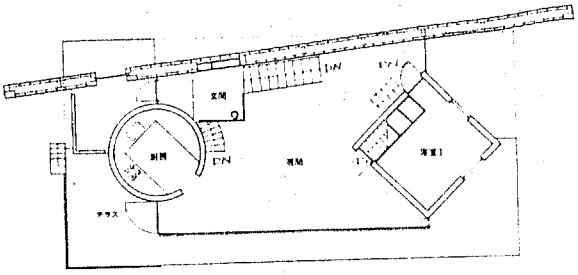
No.	発表号	作品名	建築家名
195	9012	靭山荘	高橋靱一



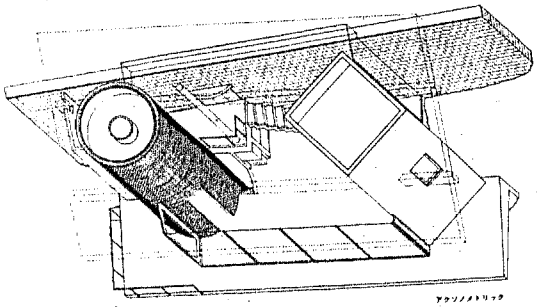


No.	発表号	作品名	建築家名
196	9102	上京の家	岸　和郎

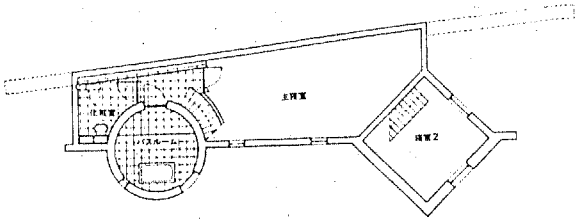




1階平面

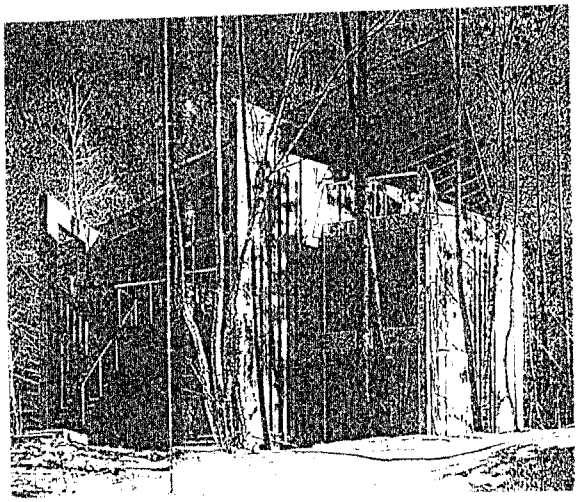


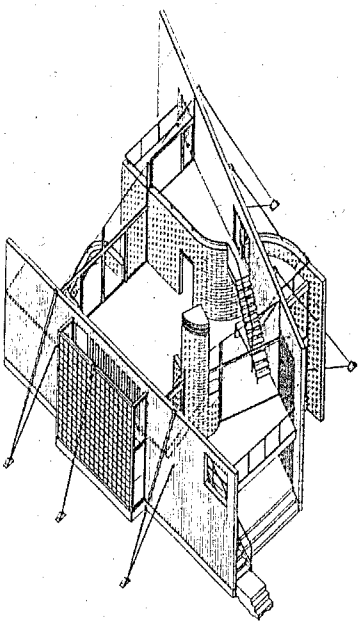
アクソノメトリック

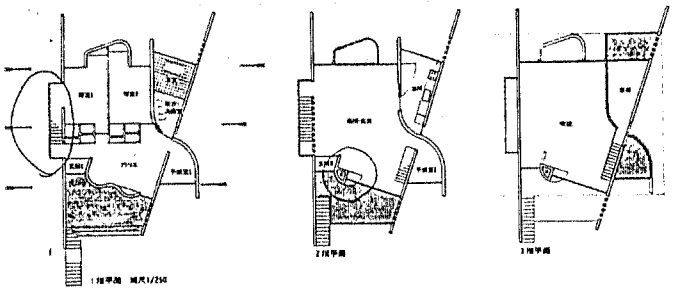


地階平面　縮尺1/200

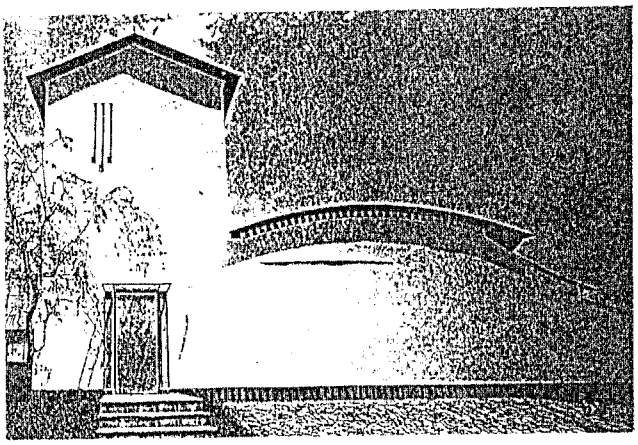
No.	発表号	作品名	建築家名
197	9103	villa kuru	坂　茂

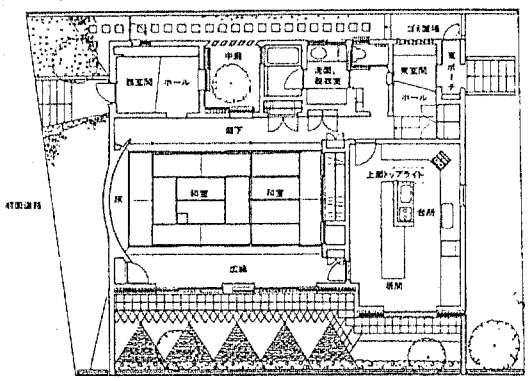




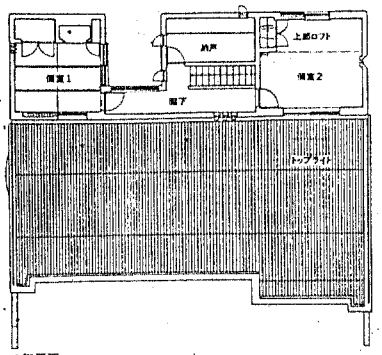


No.	発表号	作品名	建築家名
198	9104	VILLA TORII	坂　茂



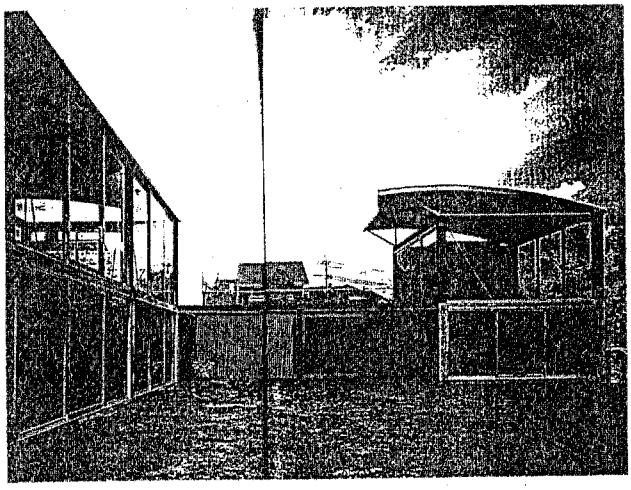


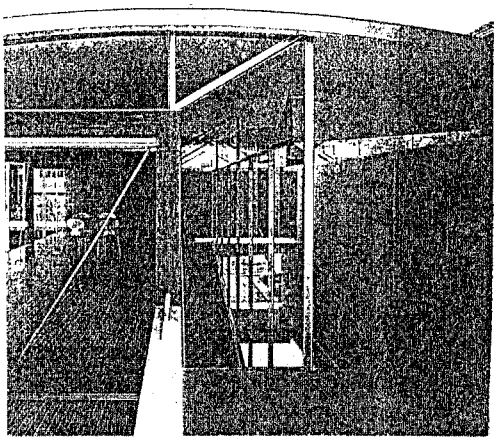
1階平面　縮尺1/200

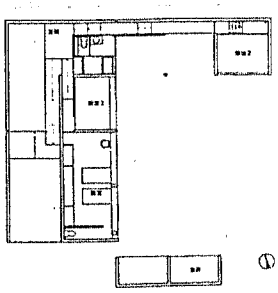


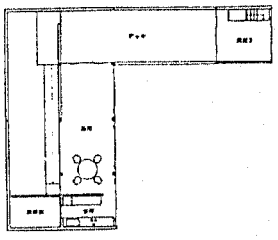
2階平面

No.	発表号	作品名	建築家名
199	9109	朧月夜の家	出江　寛

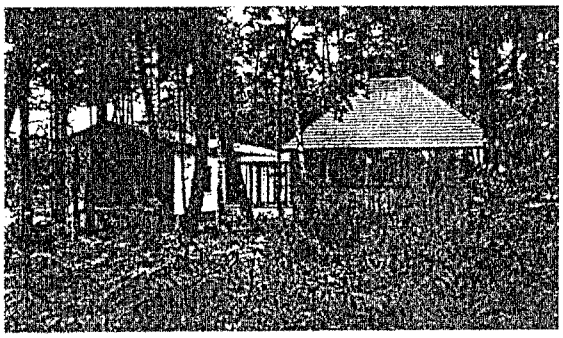


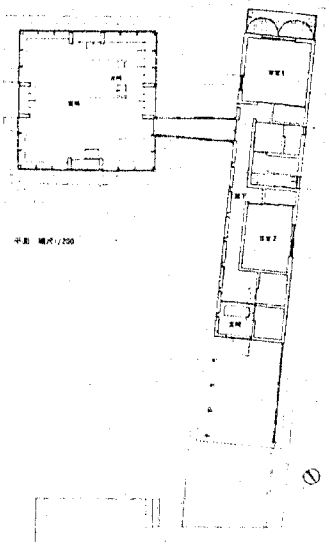


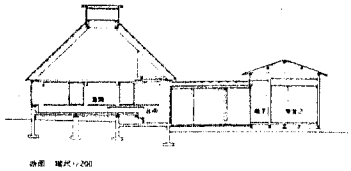




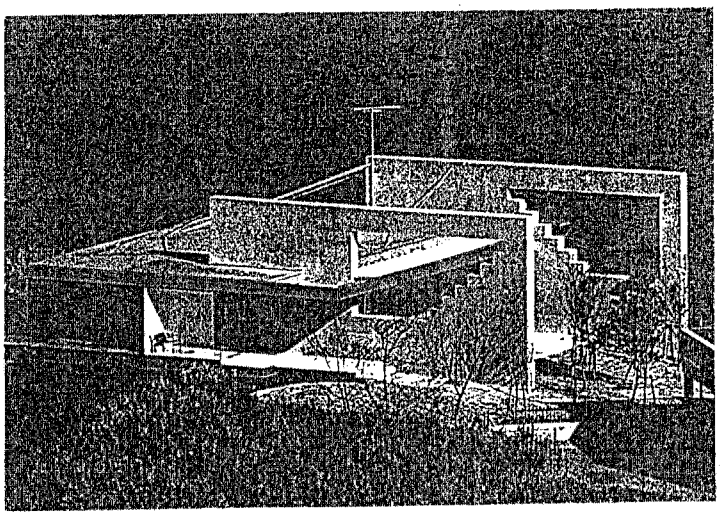
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
200	9110	四季が丘の家	村上　徹		78

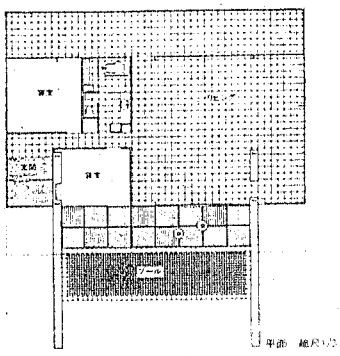




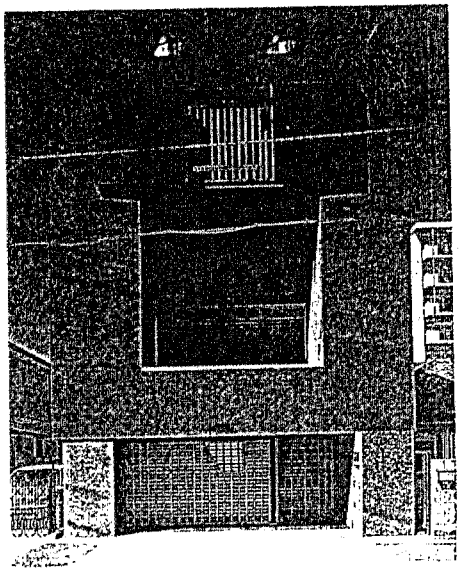


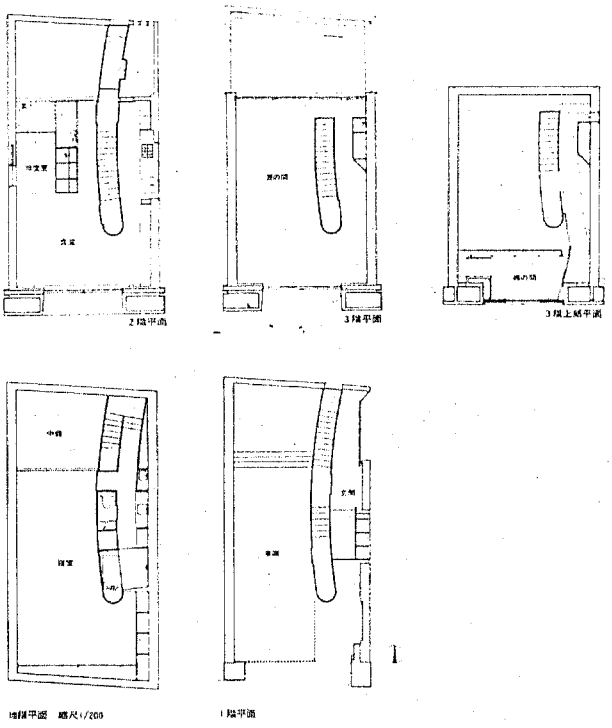
No.	発表号	作品名	建築家名
201	9110	唐松林の家	内藤　廣



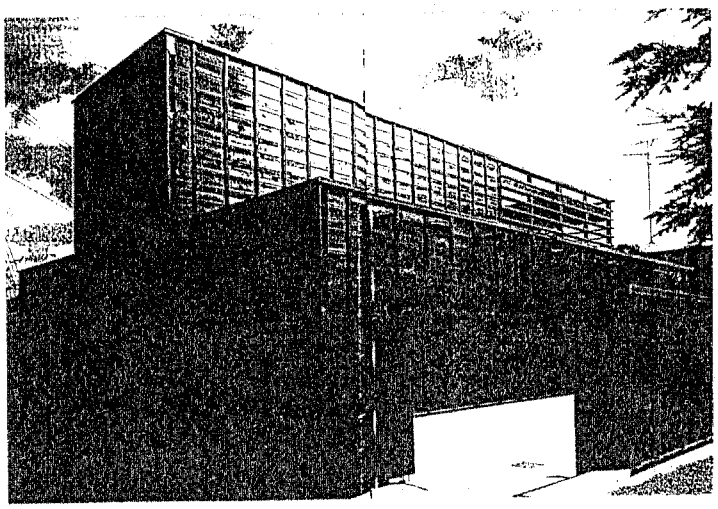


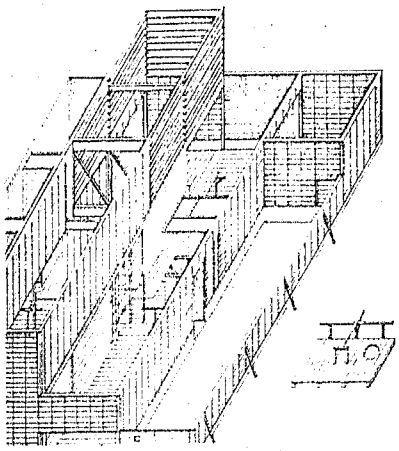
No.	発表号	作品名	建築家名
202	9202	もうひとつのｶﾞﾗｽの家	葉　祥栄

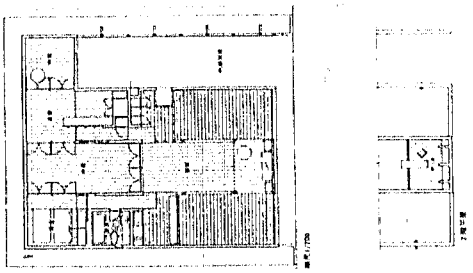




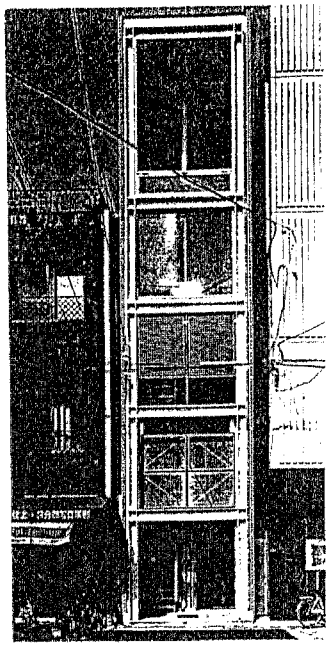
No.	発表号	作品名	建築家名
203	9202	好日居	斎藤　裕

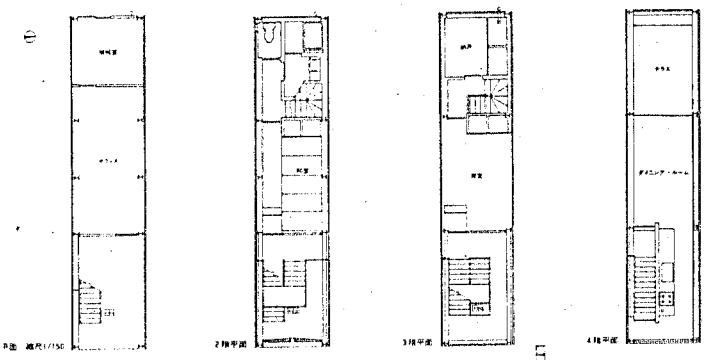




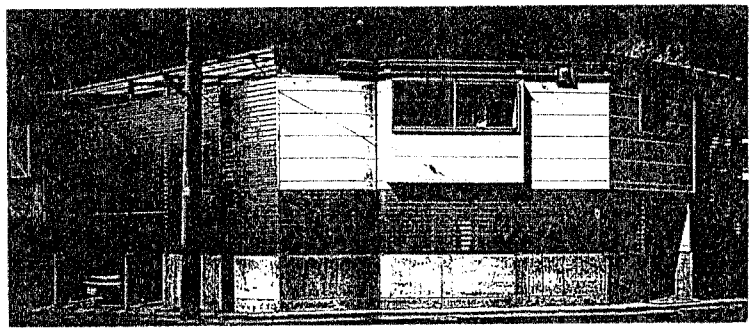


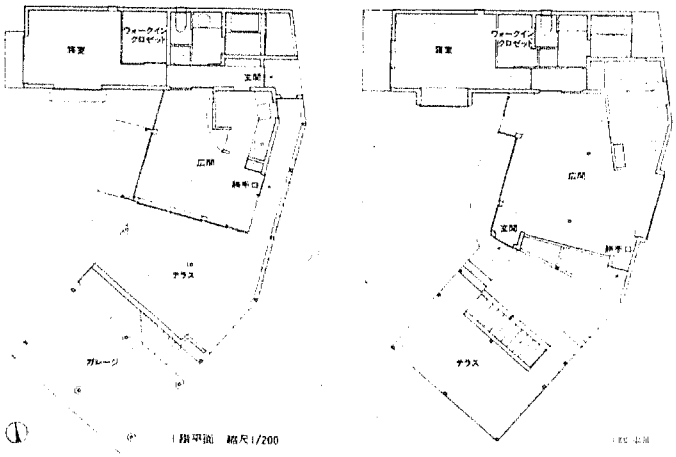
No.	発表号	作品名	建築家名
204	9203	週末住宅(暗箱と鳥籠)	中尾　寛



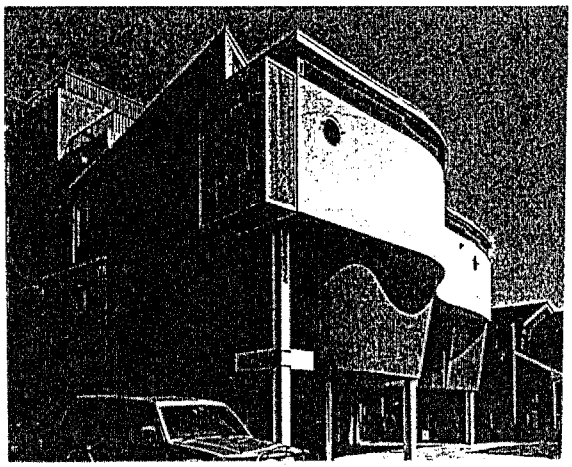


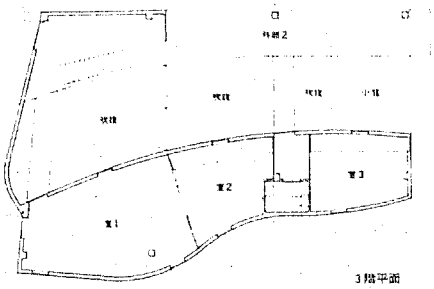
No.	発表号	作品名	建築家名
205	9206	日本橋の家	岸　和郎

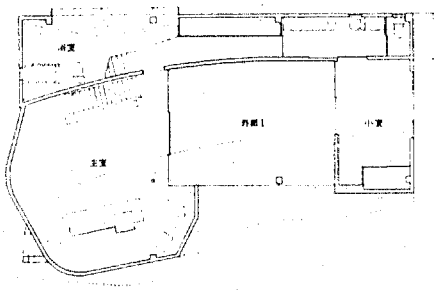


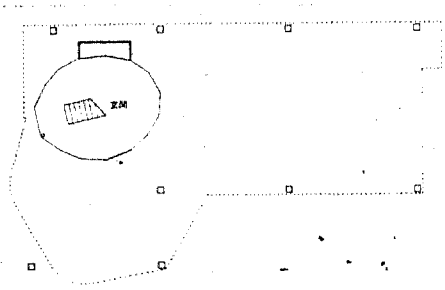


No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
206	9206	富岡の住宅	武田光史		79



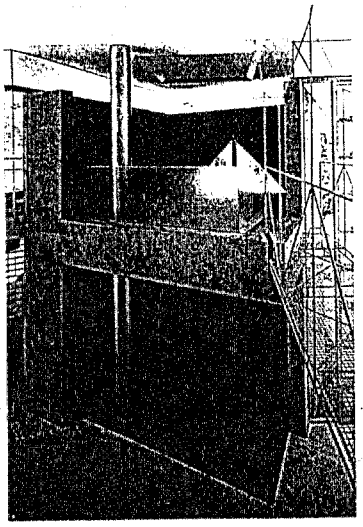


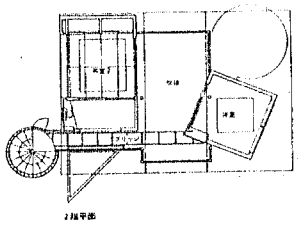


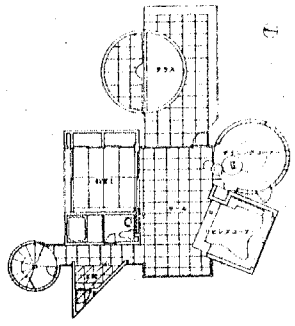


1階平面　縮尺1/200

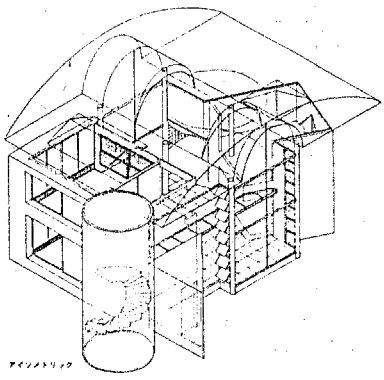
No.	発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
207	9208	BEAN HOUSE	入江経一		80



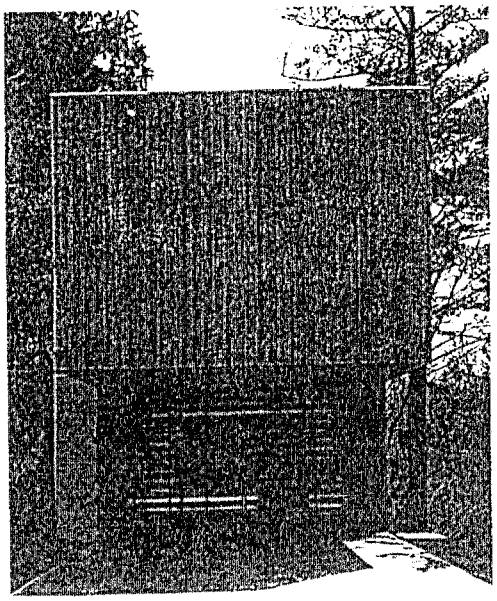


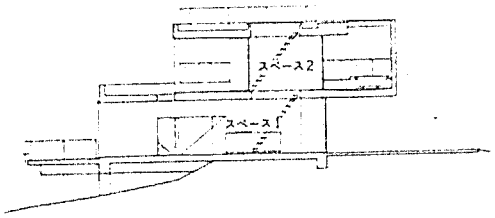


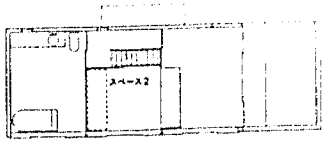
1階平面　縮尺1/200



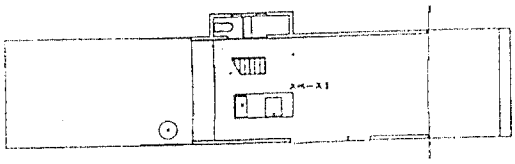
No.	発表号	作品名	建築家名
208	9208	ｼﾙｳﾞｧｰ・ﾑｰﾝ	吉田研介





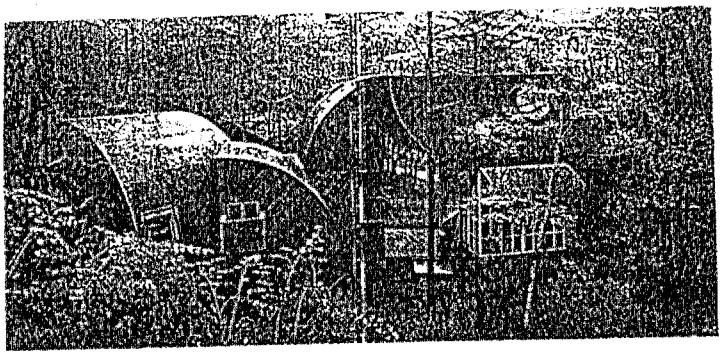


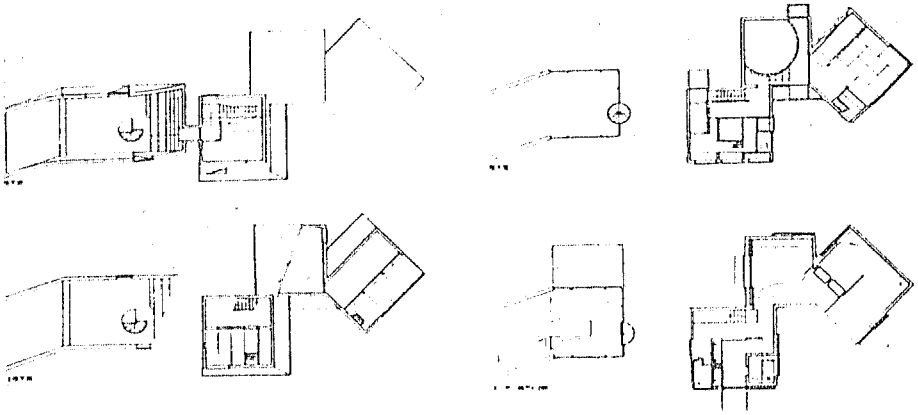
2階平面



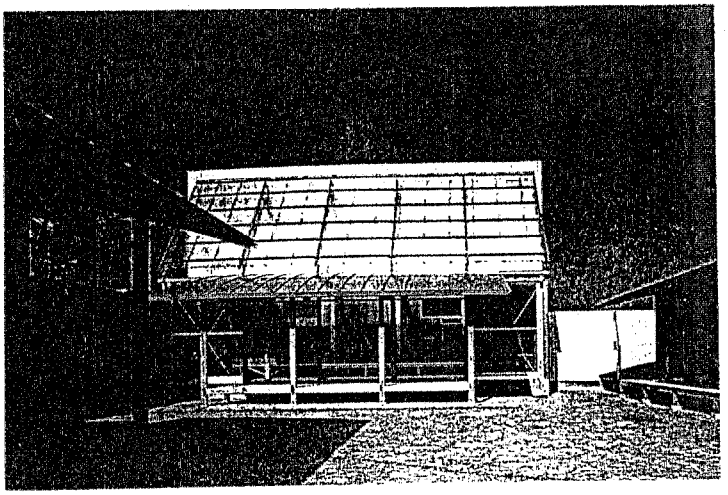
1階平面　縮尺1/200

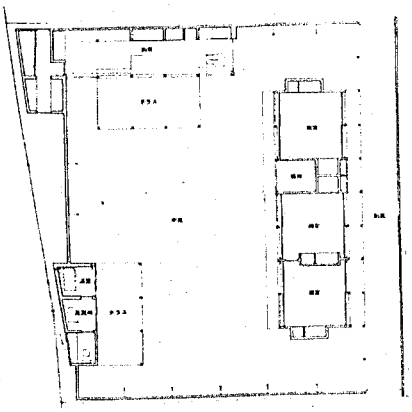
No.	発表号	作品名	建築家名
209	9208	富士裾野の山荘	石田敏明



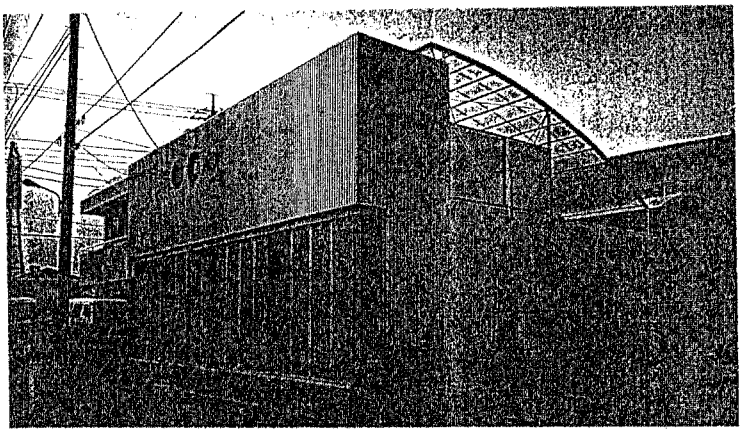


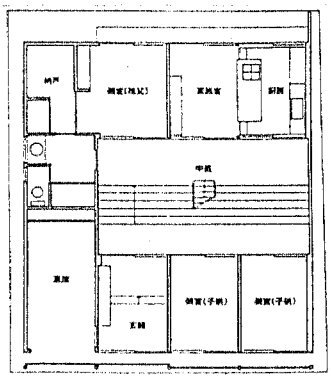
No.	発表号	作品名	建築家名
210	9209	好日山荘	斎藤　裕

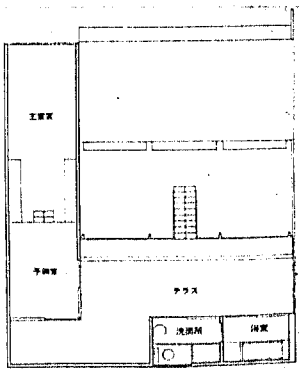




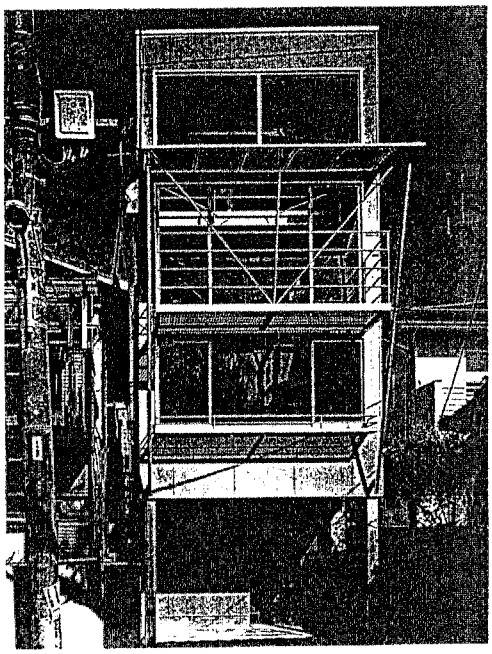
No.	発表号	作品名	建築家名
211	9301	岡山の住宅	山本理顕

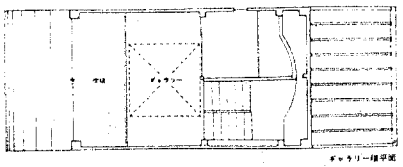


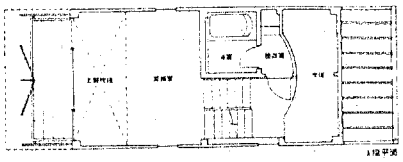


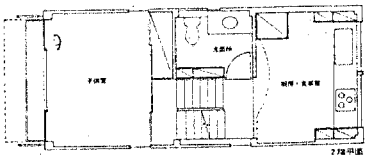


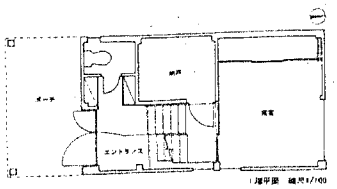
No.	発表号	作品名	建築家名
212	9301	葛飾の住宅	山本理顕



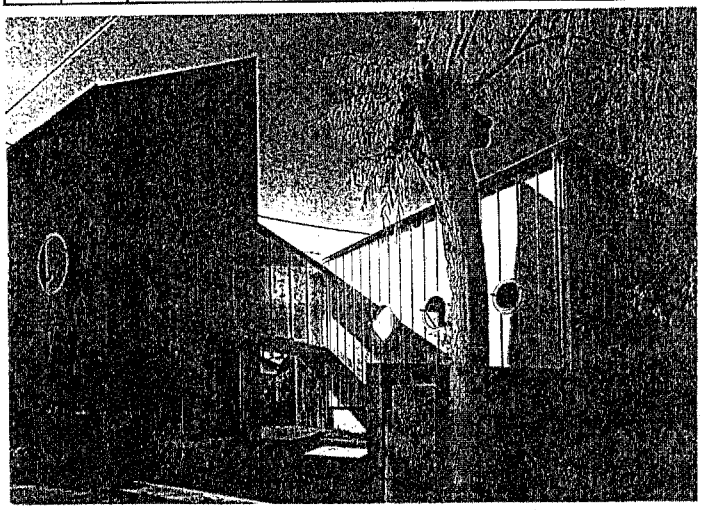


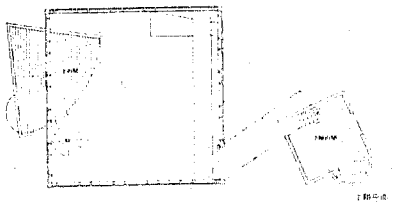


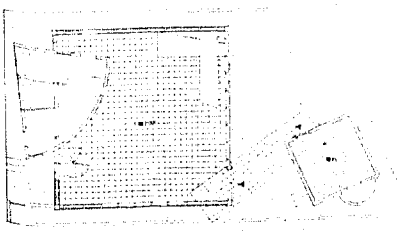


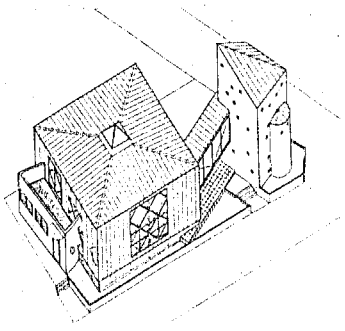


No.	発表号	作品名	建築家名
213	9301	星龍庵	ｽﾀｼﾞｵ建築計画

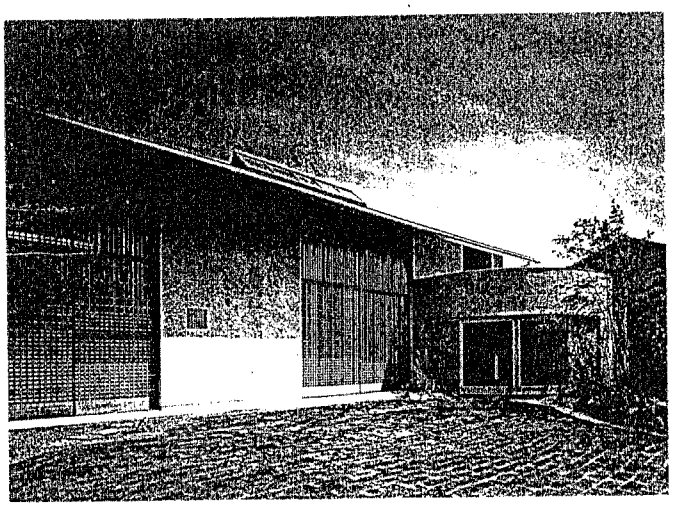


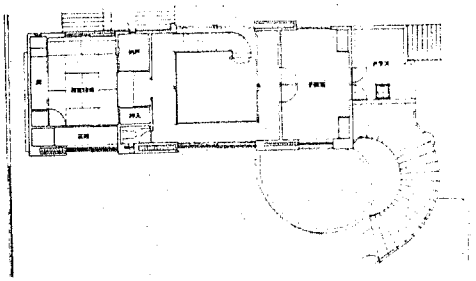


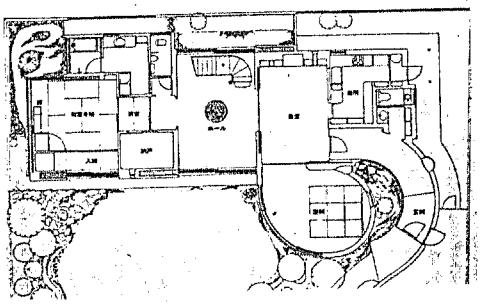




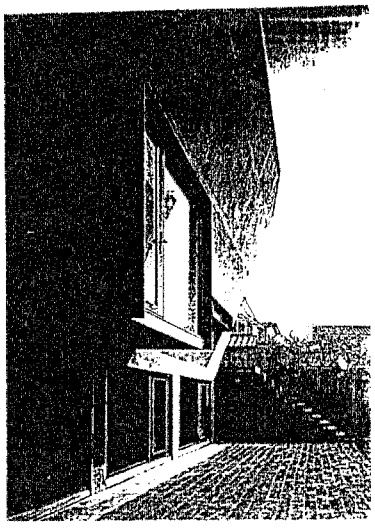
No.	発表号	作品名	建築家名
214	9301	角地の木箱	葛西　潔

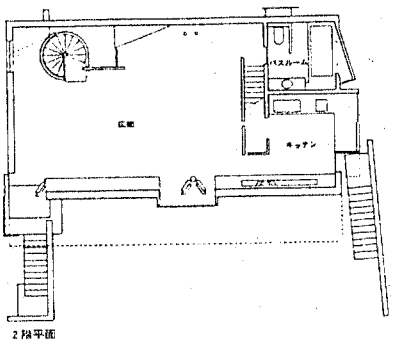




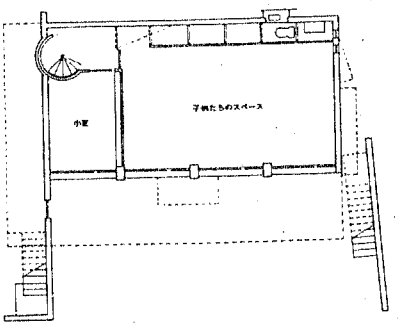


No.	発表号	作品名	建築家名
215	9307	懐風荘	木原千利



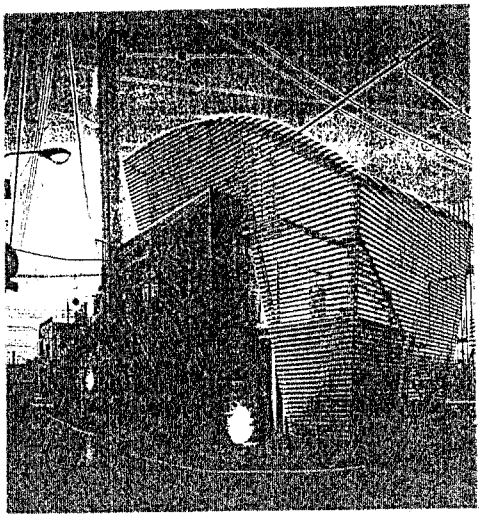


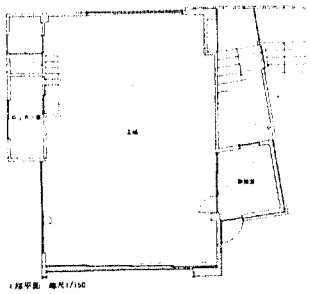
2階平面

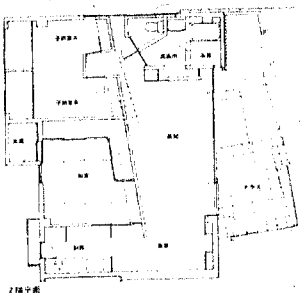


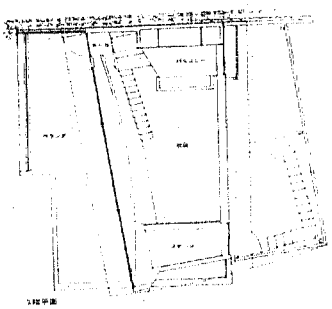
1階平面　縮尺1/200

No.	発表号	作品名	建築家名
216	9307	BLUE-SCREEN HOUSE	竹山　聖

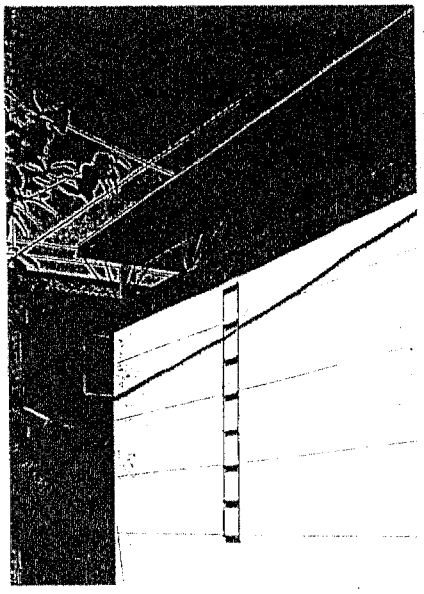


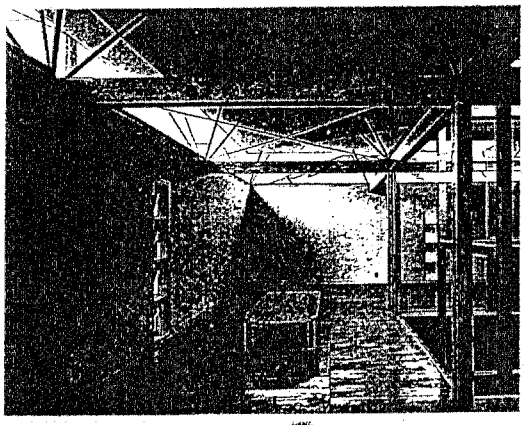


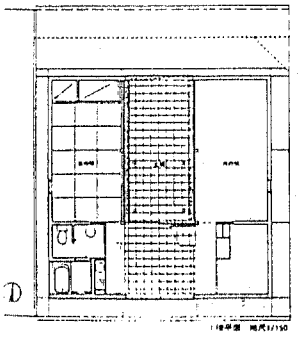


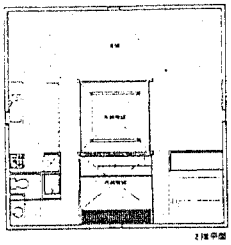


No.	発表号	作品名	建築家名
217	9309	甲 SHELL koura	徳井正樹

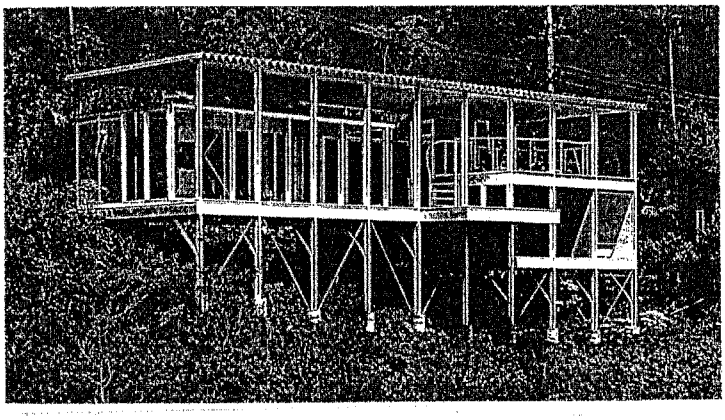


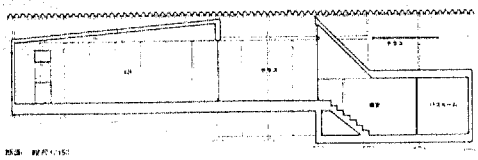


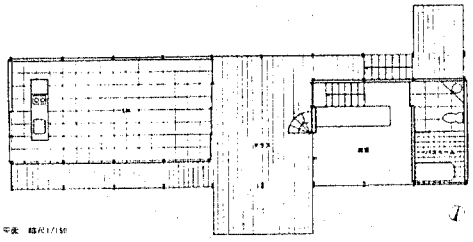




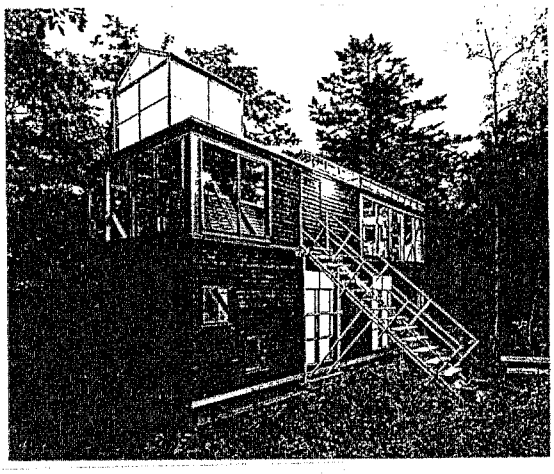
No.	発表号	作品名	建築家名
218	9310	立川の家	ワークショップ

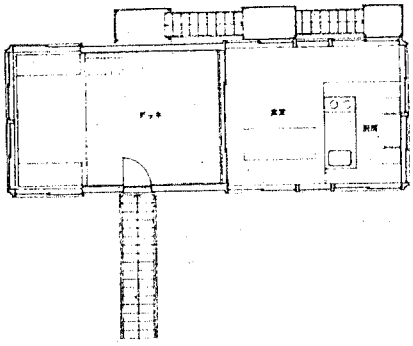




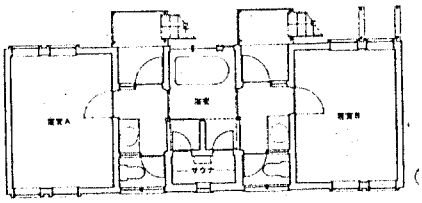


No.	発表号	作品名	建築家名
219	9310	ﾀﾞﾌﾞﾙﾙｰﾌの家	坂　茂

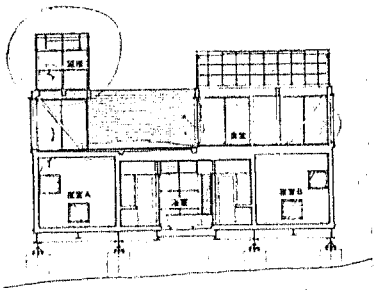




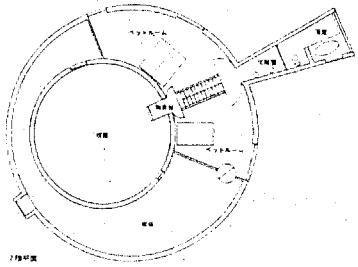
2階平面

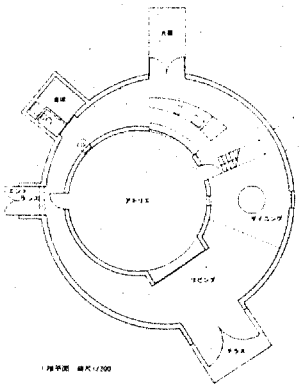


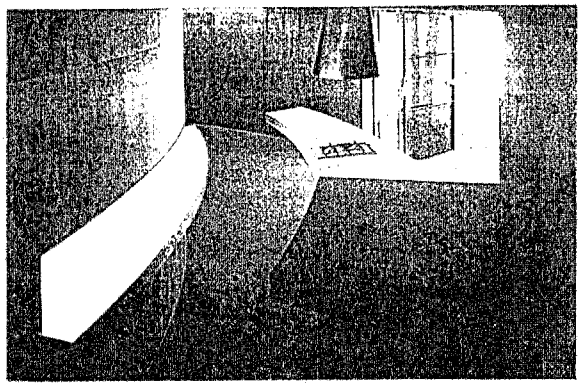
1階平面　縮尺1/150



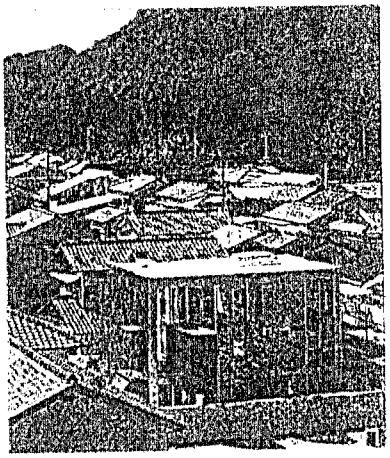
No.	発表号	作品名	建築家名
220	9311	山中湖のｶﾞﾗｽの家	室伏次郎

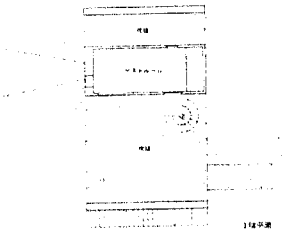


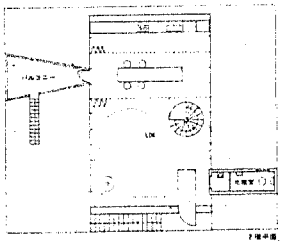


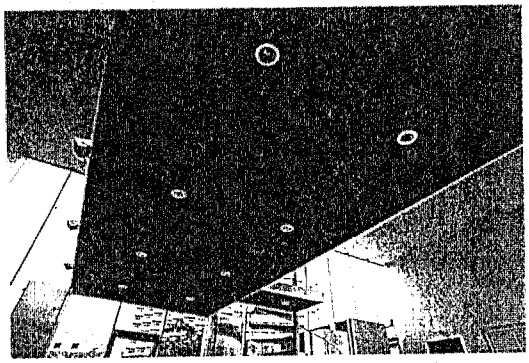


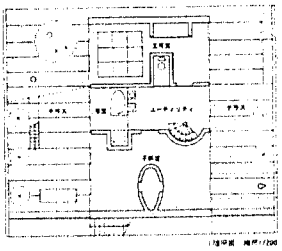
No.	発表号	作品名	建築家名
221	9405	森の別荘	妹島和世



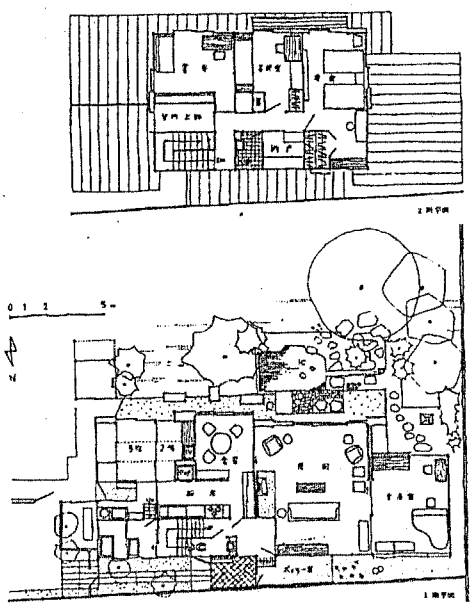


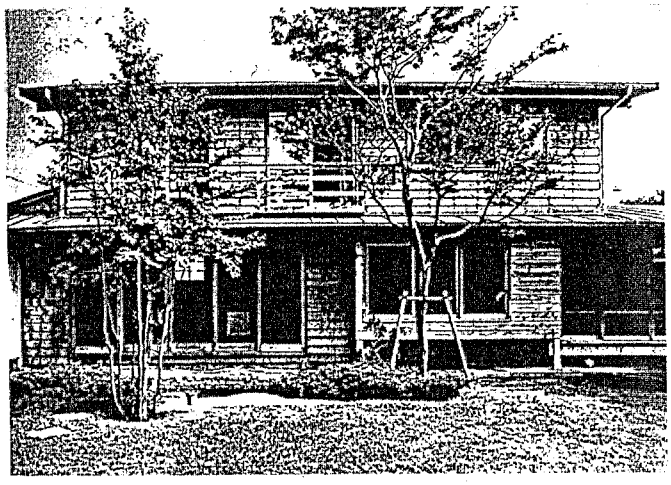




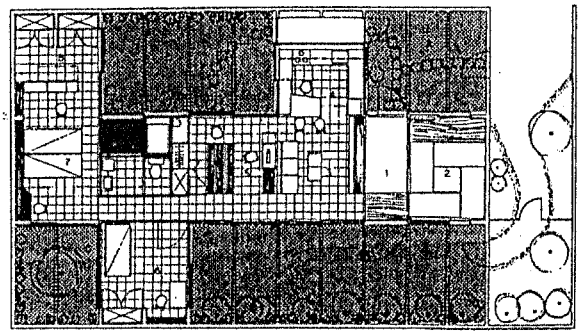


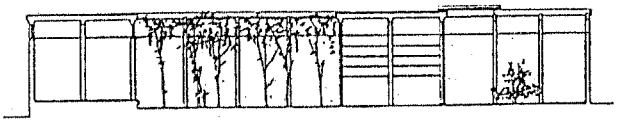
No.	発表号	作品名	建築家名
222	9405	Y-HOUSE	妹島和世

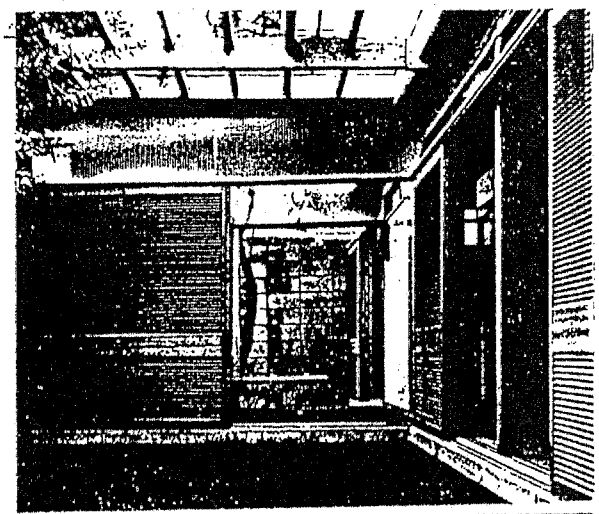




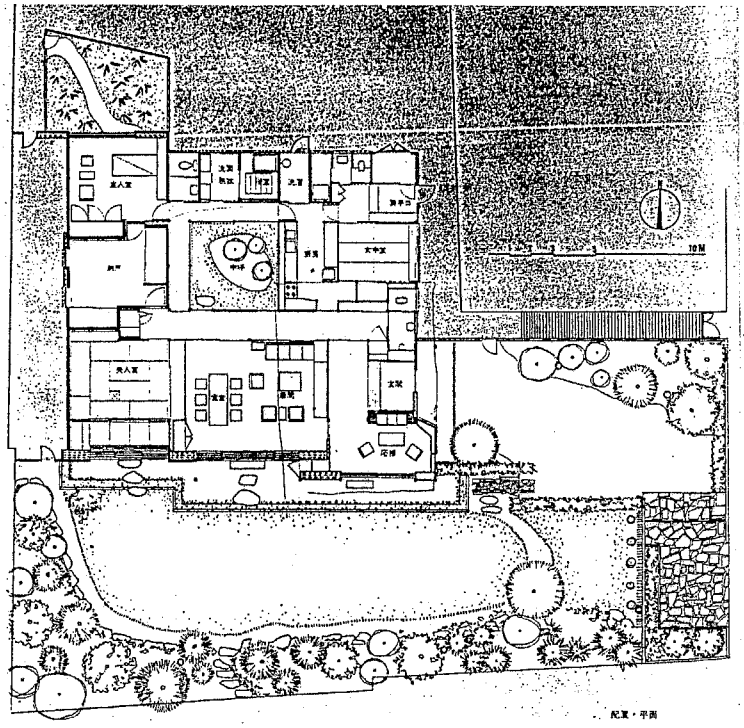
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
5910	50坪の木造住宅	吉村順三	30	

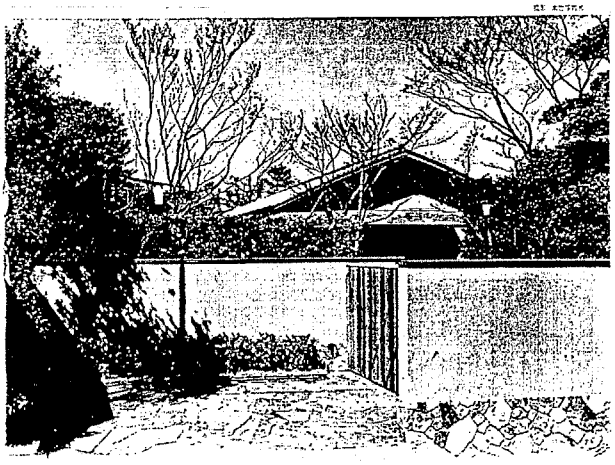


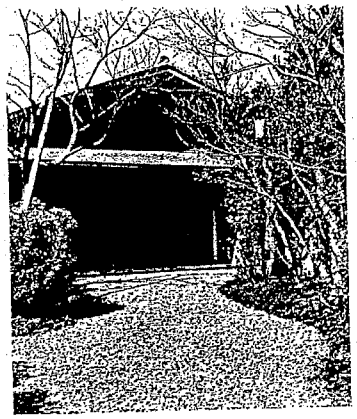




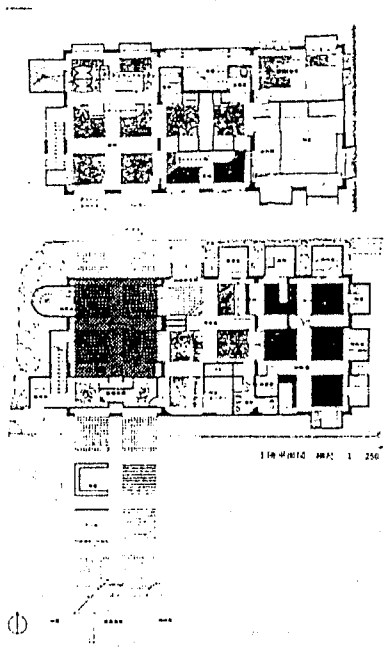
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
6101	正面のない住宅	坂倉大阪		10



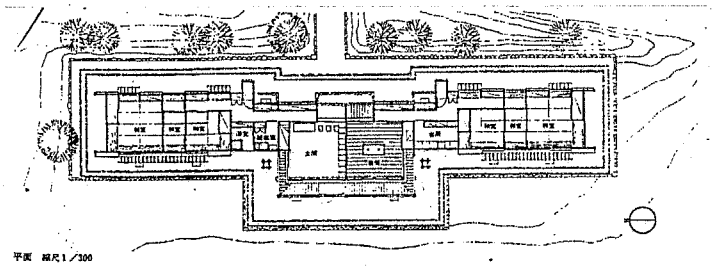




発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
6605	松岡邸	吉田五十八	51	

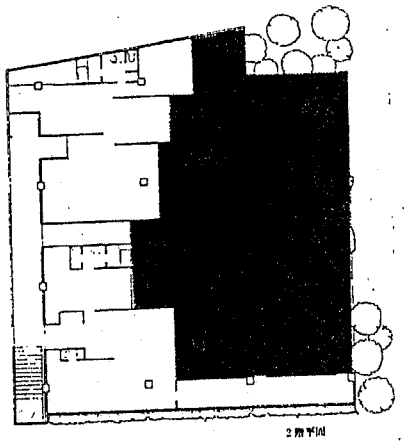


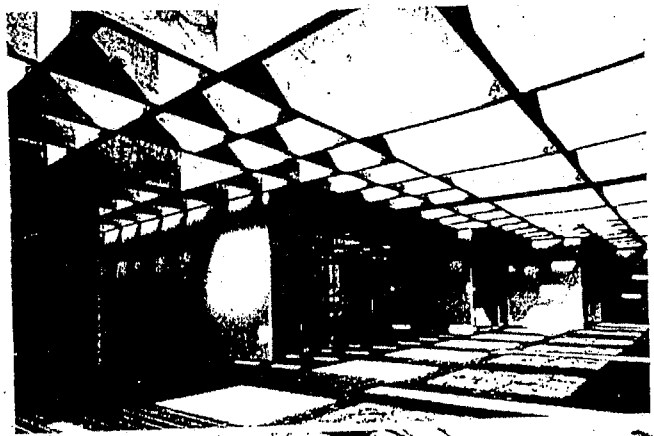
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
7502	54の窓・増谷医院	石井和紘	89	30

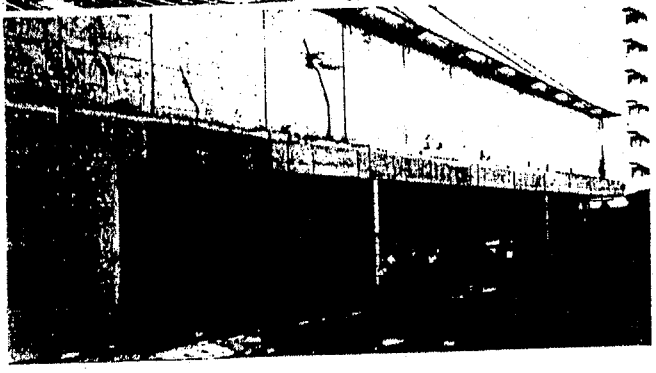


平面 縮尺1／200

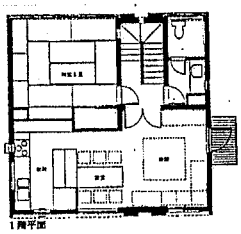
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
7602	畑山邸	高須賀晋	93	

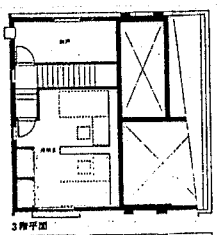


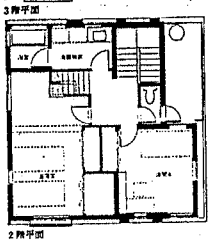


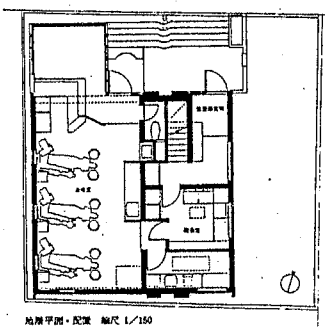


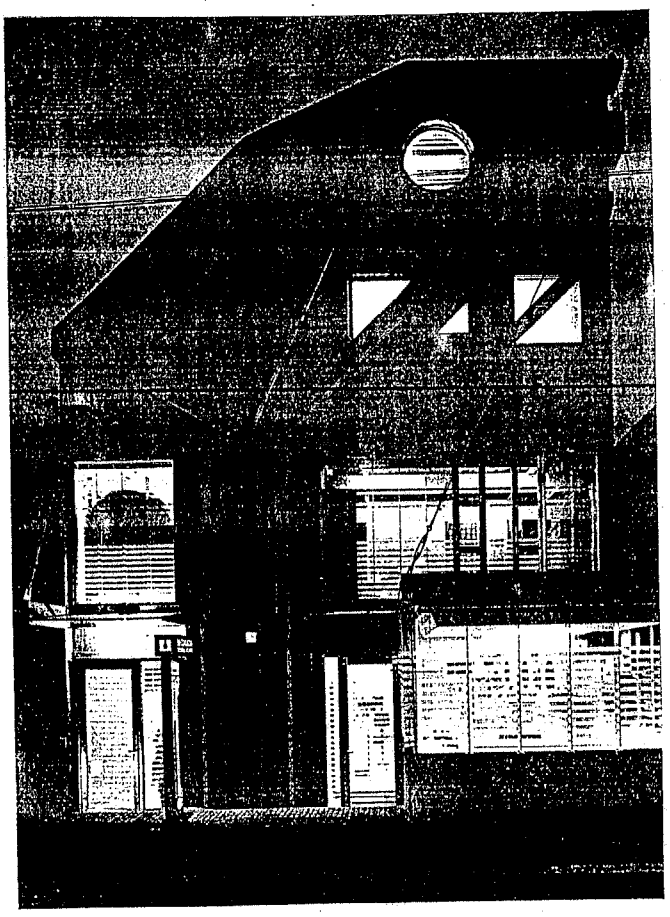
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8008	Yコートハウス	葉祥栄		46



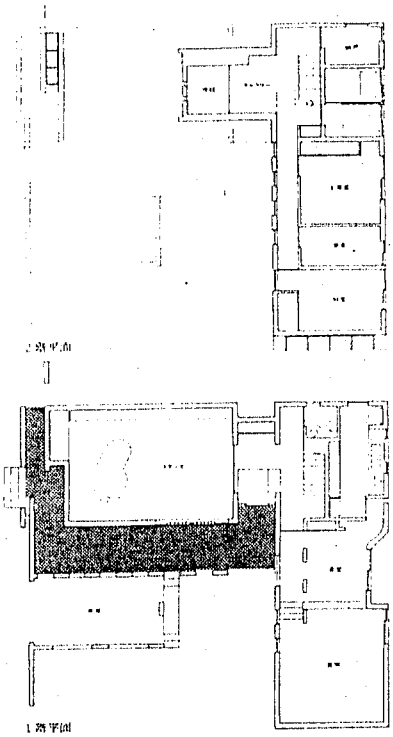


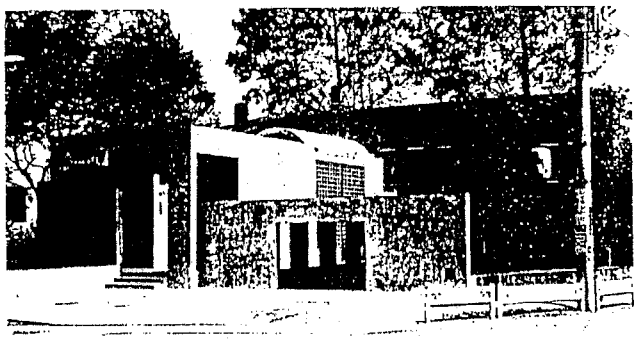


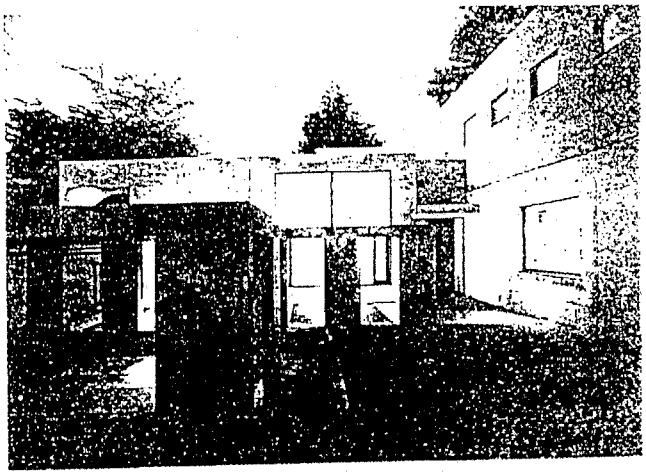




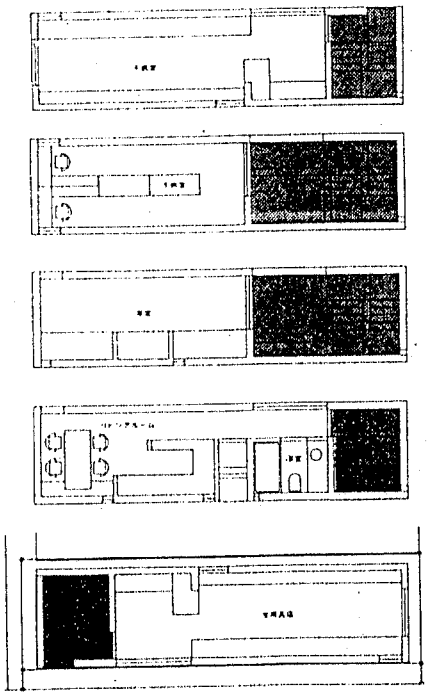
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8304	イエロー・テンションの家	石山修武	156	

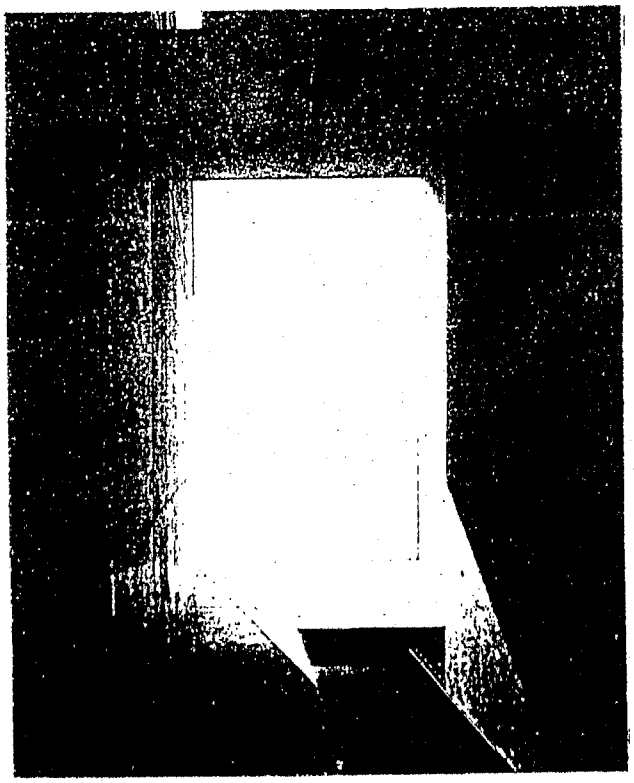




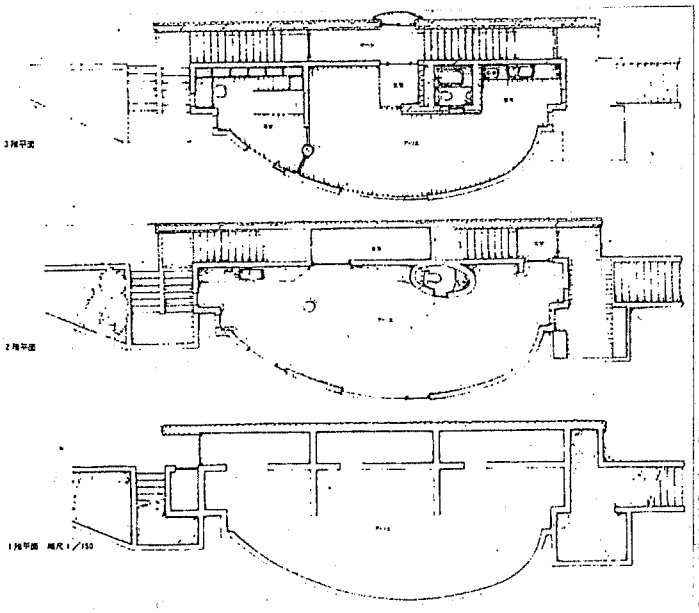


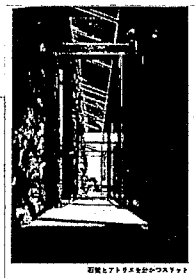
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8402	成城・交差点の家	早川邦彦	164	55

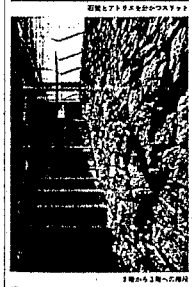


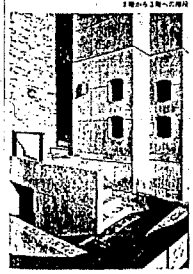


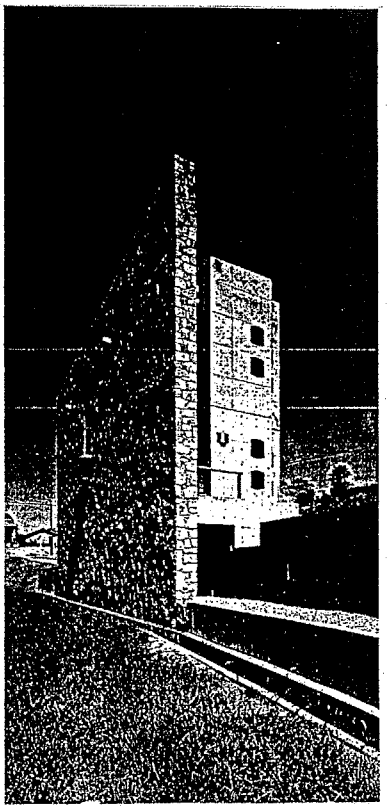
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8404	茂木邸	安藤忠雄	166	56



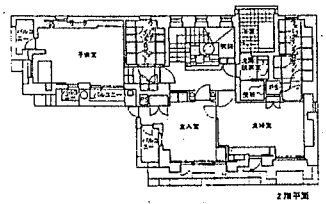


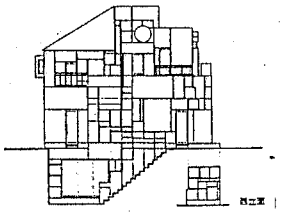


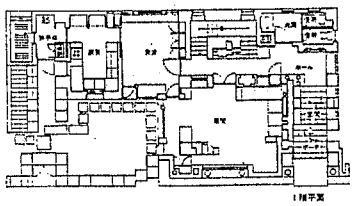


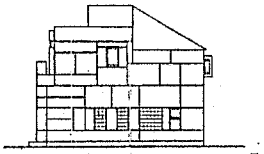


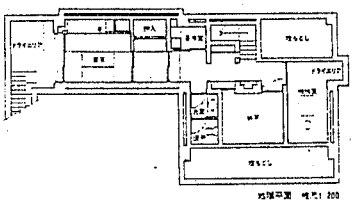
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8512	彫刻家のｽﾀｼﾞｵ	伊丹潤	171	

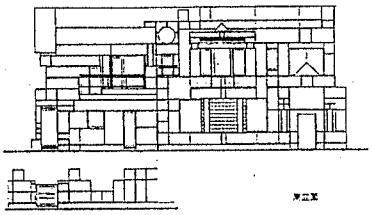


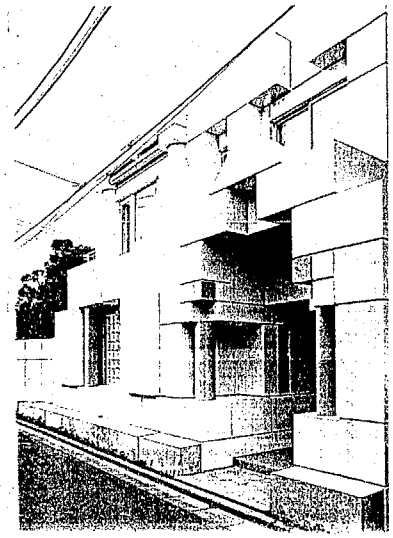




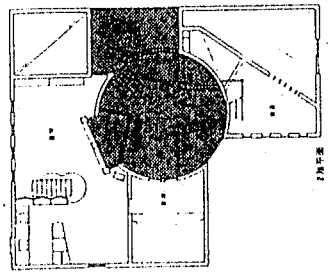


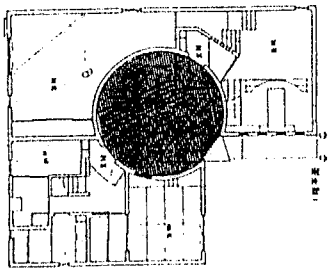


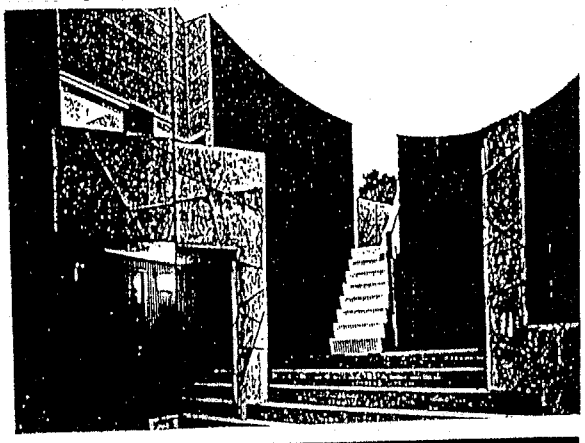


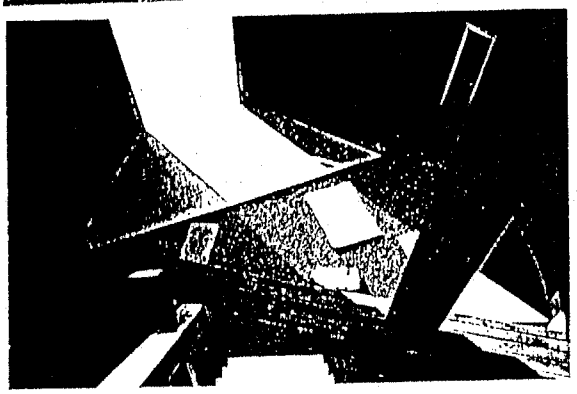


発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
85春	積木の家X	相田武文	173	

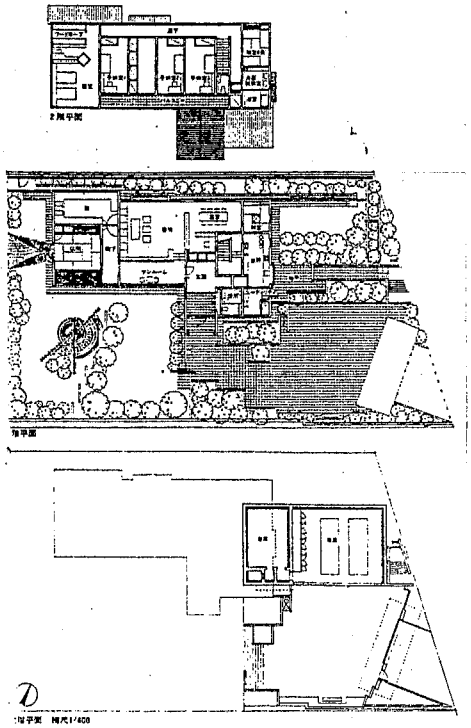




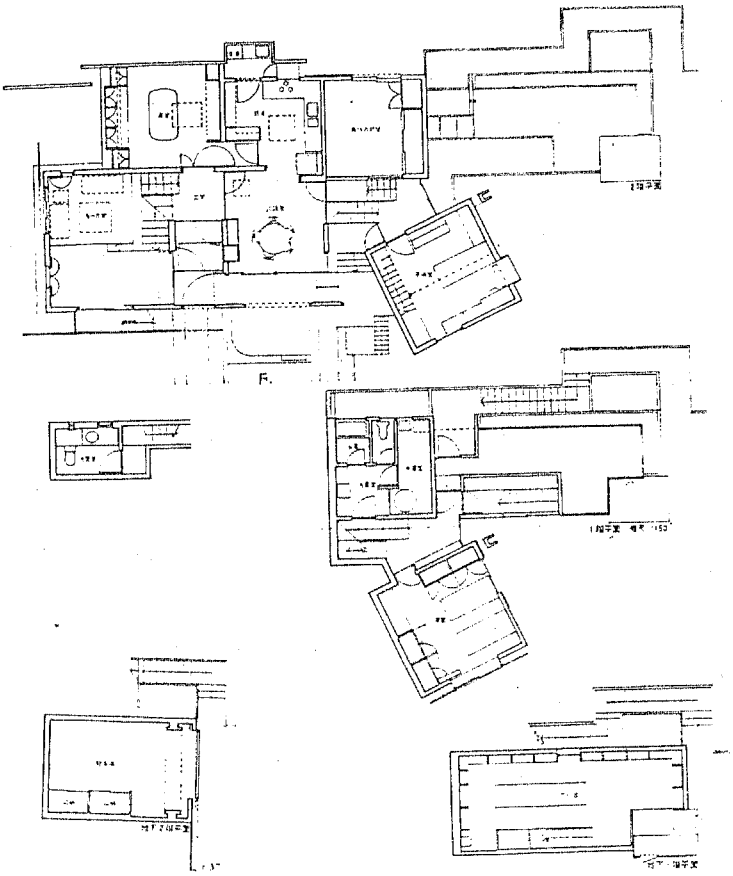


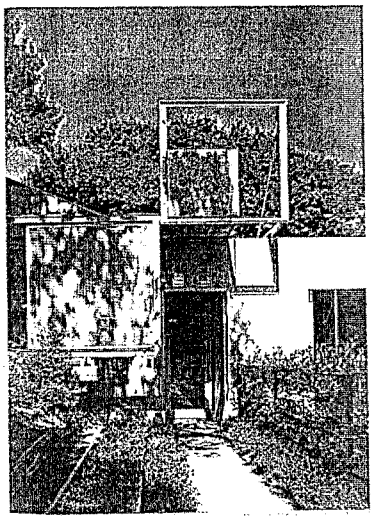


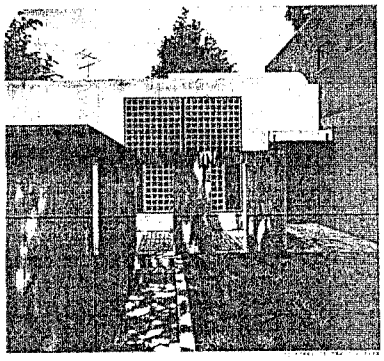
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
85秋	境界線の家	木下丈夫		60



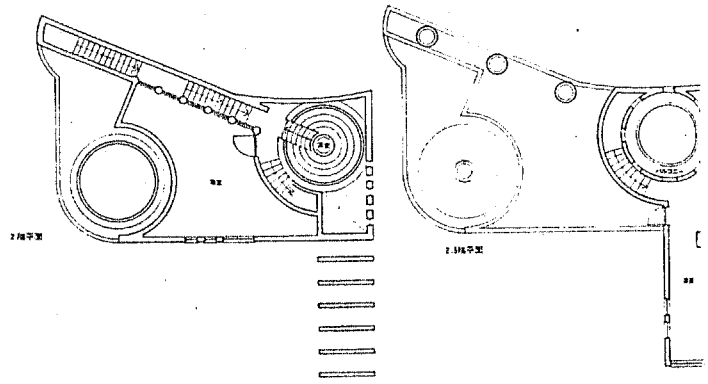
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8607	A型vsB型邸	出江寛	178	

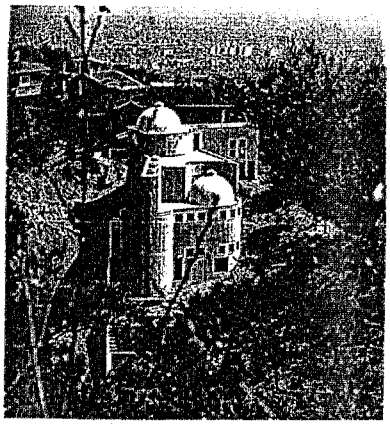


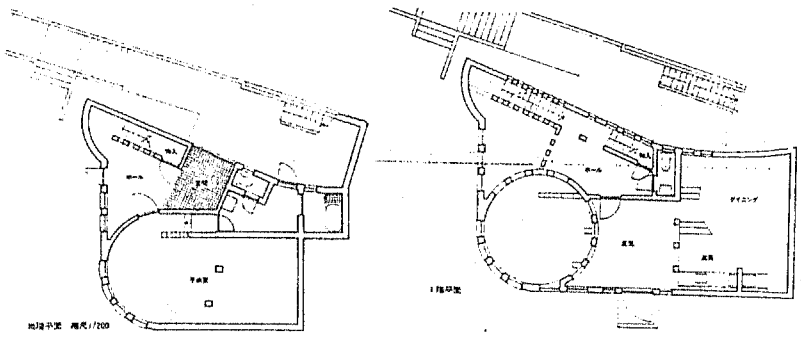




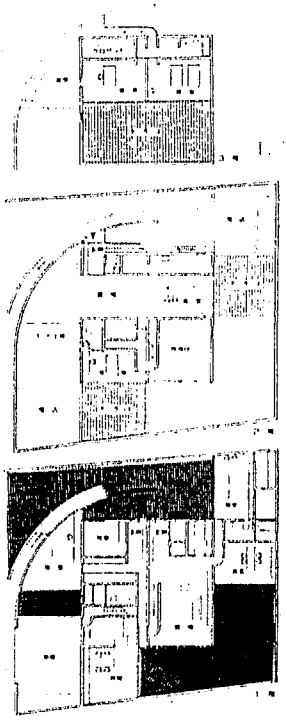
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8701	所沢の家	池原義郎	183	

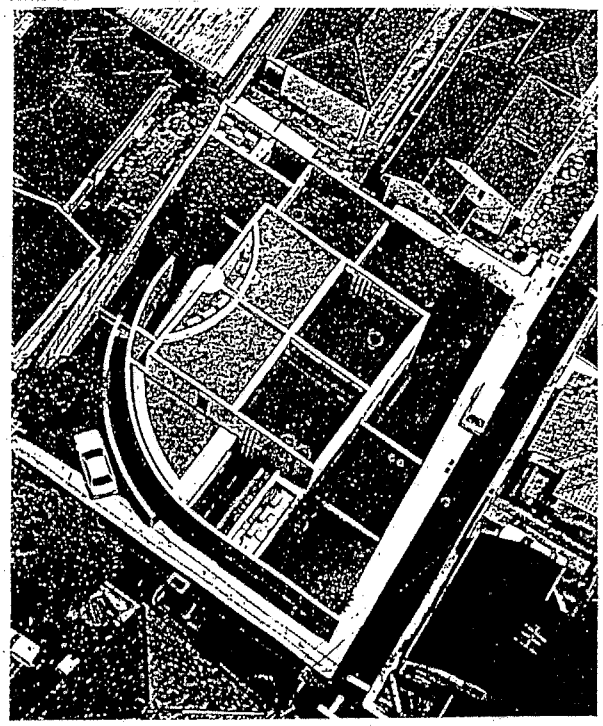




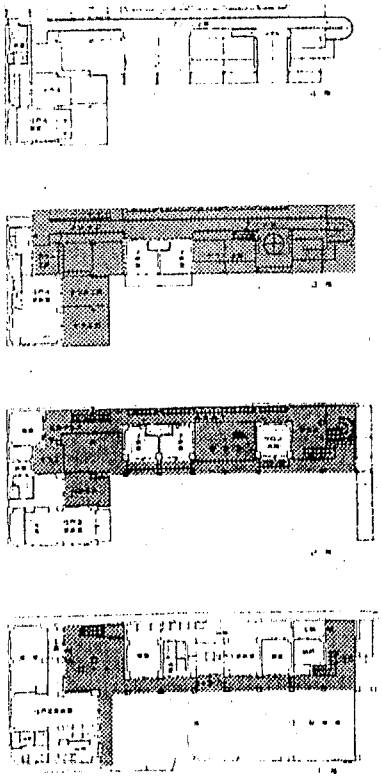


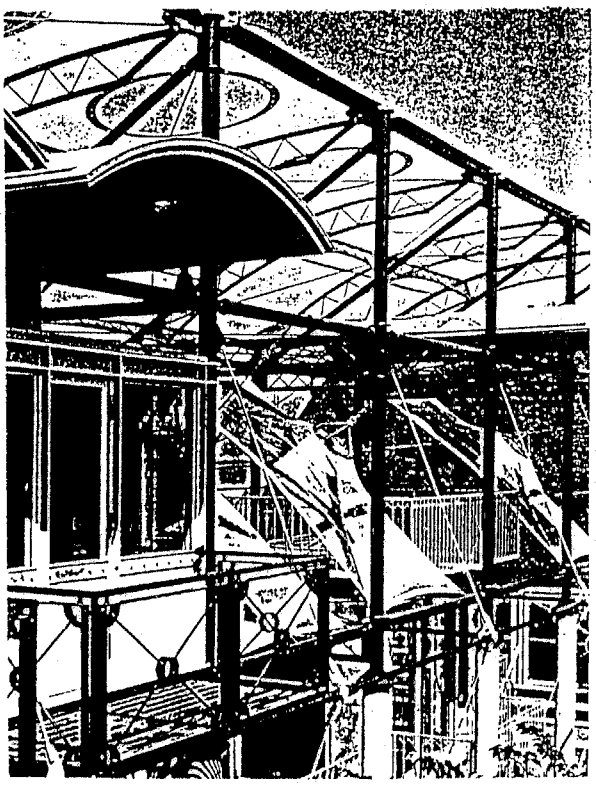
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8706	神殿住居・地球庵	渡辺豊和	187	



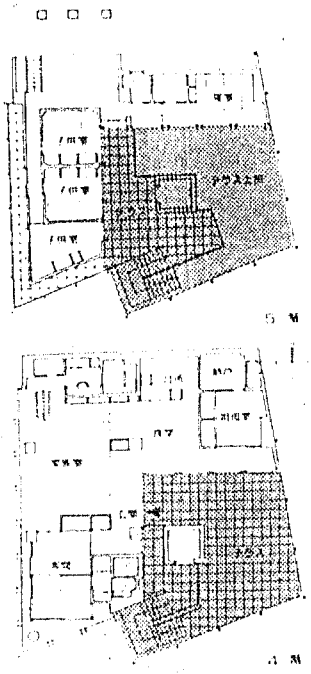


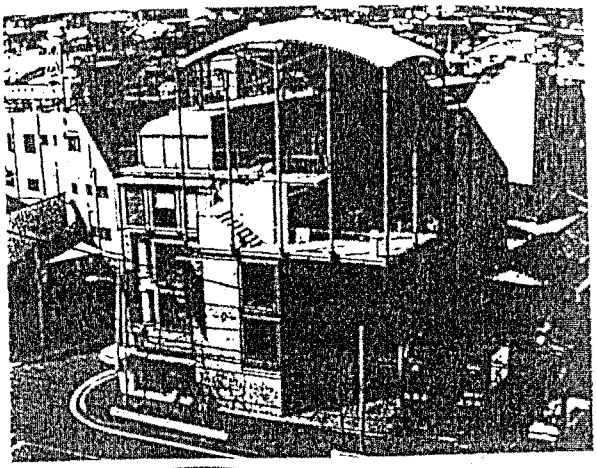
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8710	K邸	安藤忠雄		66

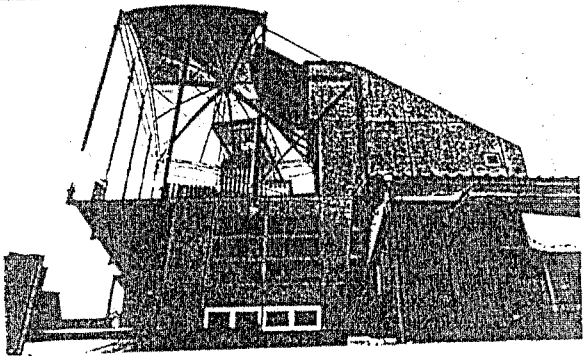




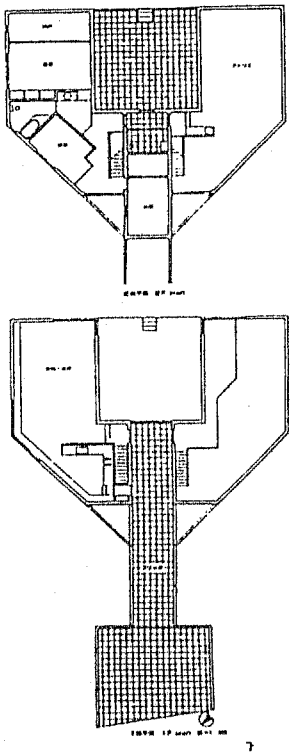
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8808	HAMLET	山本理顕		68

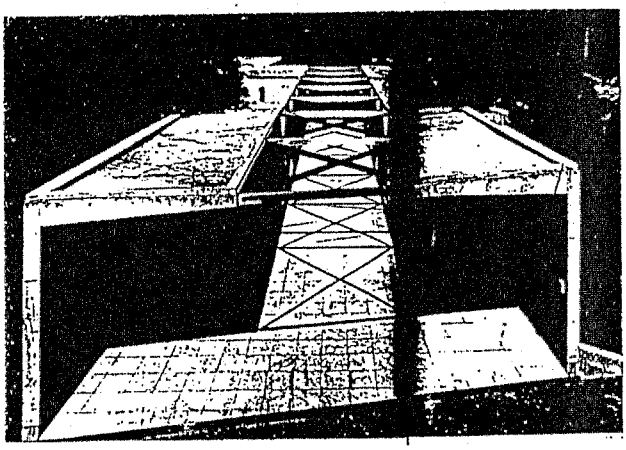


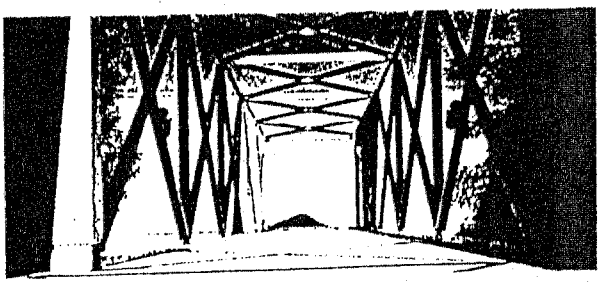




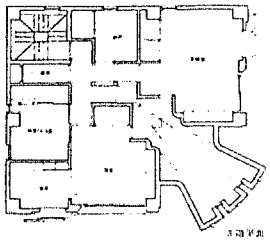
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8808	ROTUNDA	山本理顕	186	67

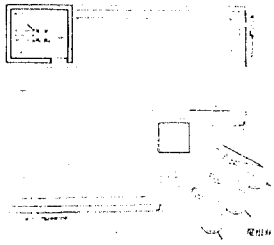


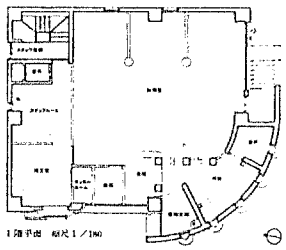


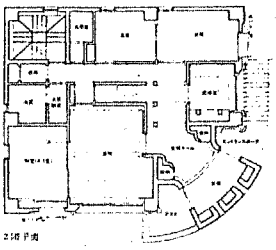


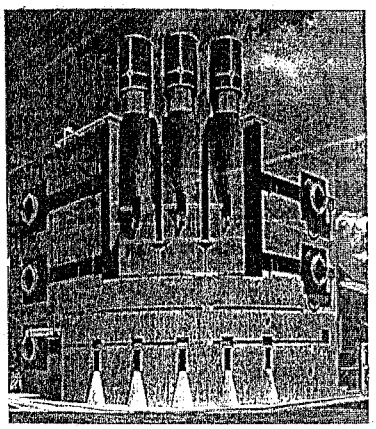
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8810	糸島の住宅	篠原一男	118	70

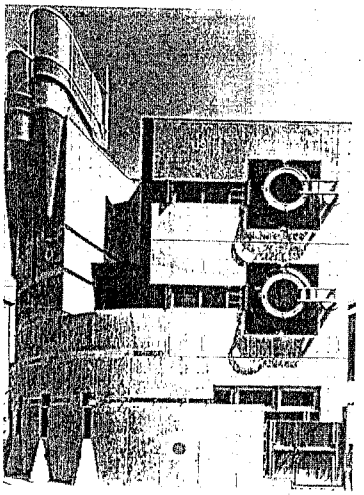




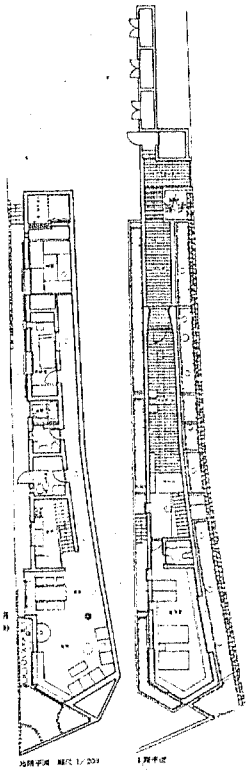


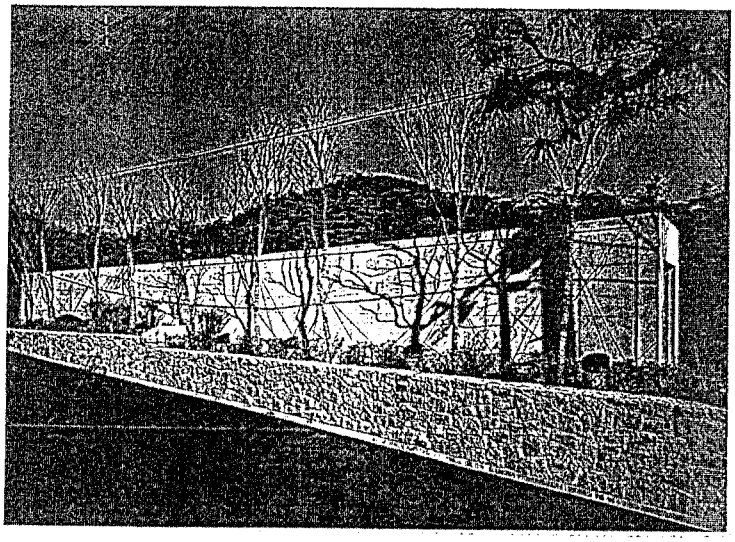




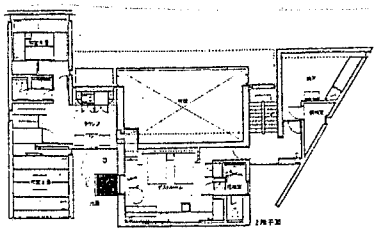


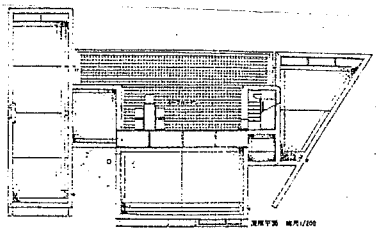
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8407	PHARAOH	高松伸	167	

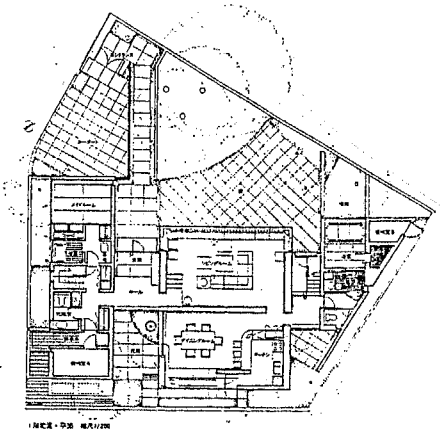




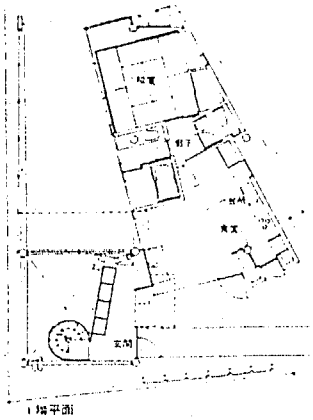
発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8409	目神山の家 8	石井修	165	

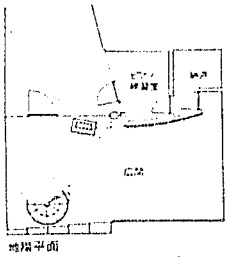


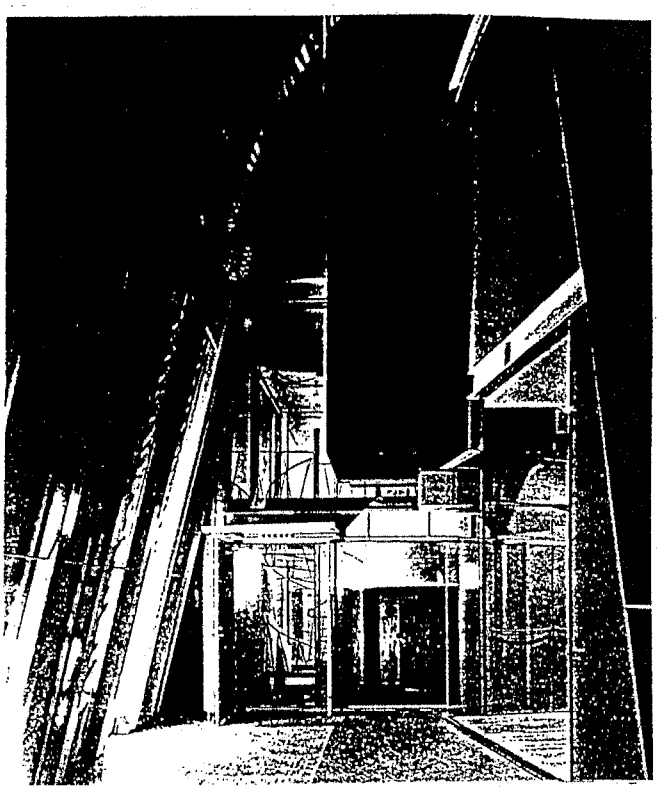




発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
8901	鎌倉のｹﾞｽﾄﾊｳｽ	竹中工務店	197	







発表号	作品名	建築家名	No. 室	No. 外部
9010	織田邸	北川原温		77